

一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2

古屋敷遺跡（D区）

2017年3月

国土交通省松江国道事務所
島根県教育委員会

一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2

古屋敷遺跡（D区）

2017年3月

国土交通省松江国道事務所
島根県教育委員会

序

現在、一般国道9号の大田市静間町～仁摩町間は、急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にあります。また一般国道9号の代替路線がなく、交通事故や災害等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしております。そのため、中国地方整備局松江国道事務所では、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、静間・仁摩道路を平成20年度から事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、静間・仁摩道路建設地内にある遺跡について、島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成26年度に実施した大田市仁摩町大国に所在する古屋敷遺跡（D区）の発掘調査をとりまとめたものです。今回の調査では全国的にも貴重な縄文時代の木棺墓や、西日本では類例の少ない水さらし場遺構などを、当時の生活の様子を考える上できわめて重要な資料を得ることができました。本報告書がふるさと島根県の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成29年3月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長 小林 寛

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所からの委託を受けて、平成25年度から一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う発掘調査を実施しています。本書は、このうち平成26年度に実施した古屋敷遺跡（D区）の成果をとりまとめたものです。

古屋敷遺跡（D区）は、縄文時代晩期を中心とする大田市仁摩町の遺跡で、中国地方で2遺跡目となる縄文晩期の保存状態のきわめて良好な木棺墓や、西日本地域ではめずらしい水さらし場遺構、県内では3例目となる彩文土器などの発見が相次ぎました。当県の縄文時代を研究するうえで貴重な資料を得ることができました。本書がこの地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用される事を願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、多くの地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

島根県教育委員会

教育長 鴨木 朗

例 言

1. 本書は、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成 26 年度に実施した一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、古屋敷遺跡（D 区）（大田市仁摩町大国 135 番地他）の成果をとりまとめたものである。
2. 調査組織は次の通りである。

調査主体 島根県教育委員会
平成 26 年度 現地調査
〔事務局〕 廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）
〔調査担当者〕 林 健亮（調査第二課長）、無川美和子（調査第二課臨時職員）、岩田剛（同）
平成 27 年度 報告書作成
〔事務局〕 廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）
〔調査担当者〕 林 健亮（調査第二課長）、福田市子（調査第二課臨時職員）
平成 28 年度 報告書作成
〔事務局〕 萩 雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）
〔調査担当者〕 林 健亮（調査第三課長）、秦 愛子（調査第三課臨時職員）、小川一樹（同）
3. 現地調査および整理作業において、以下の方々からご指導いただいた。（五十音順・肩書きは当時のもの）

会下和宏（島根大学ミュージアム准教授） 及川 稔（島根大学法文学部社会文化学科准教授）
千葉 豊（京都大学文化財総合研究センター准教授） 中村健二（公益財団法人滋賀県文化財保護協会企画調整課副主幹） 中村唯史（島根県立三瓶自然館主幹） 輓中光輔（出雲市市民文化部文化財課主任） 濱田竜彦（鳥取県立むきばんだ史跡公園調査整備担当係長） 平郡達哉（島根大学法文学部社会文化学科准教授） 松本直子（岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授）
山口雄治（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター助教） 山田昌久（首都大学東京大学院人文社会学研究科教授） 山田康弘（国立歴史民俗博物館研究部准教授） 山本悦代（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター教授） 米田克彦（岡山県古代吉備文化財センター調査第 1 課主任）
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、掘削、測量等）については、島根県教育委員会から大畑建設株式会社に委託した。
5. 掘図中の北は、測量法による第Ⅲ平面直角座標系 X 軸方向を指し、座標系の XY 座標は世界測地系による。また、レベル高は海拔高を示す。
6. 本書第 2 図は、国土地理院発行の 1/25,000 地図（仁万）を使用して作成したものである。
7. 本書に掲載した写真は各調査員のほか、株式会社ジェクトが撮影した。
8. 本書の執筆は第 1、2、3、5 章を林、第 4 章を渡辺正巳（文化財調査コンサルタント）、上山晶子（管理課臨時職員）が行った。また、本書の編集は林が行った。
9. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 遺物実測図の断面は、縄文土器・弥生土器を白ヌキ、石製品は斜線で示している。木製品については断面に年輪方向を模式的に記入している。

2. 本書で用いた土器の分類及び編年観は下記の論文・報告書に依拠している。

(1) 縄文土器

千葉 豊『西日本の縄文土器 後期』2010年

濱田竜彦「山陰地方における縄文時代晚期土器について」『縄文時代晚期の山陰地方』 第16回中四国縄文土器研究会鳥取実行委員会 2005年

(2) 弥生土器

『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』1992年

3. 土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修／(財)日本色彩研究所 色票監修)第37版 2014年に従った。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 古屋敷遺跡の位置と歴史的環境	4
1. 古屋敷遺跡の位置と地理的環境	4
2. 古屋敷遺跡周辺の歴史的環境	4
第3章 古屋敷遺跡（D区）の発掘調査	8
1. 調査区の設定	8
2. 古屋敷遺跡（D区）の土層堆積状況	11
3. 第1遺構面の遺構・遺物	18
4. 第2遺構面の遺構・遺物	28
5. 第3遺構面の遺構・遺物	47
6. 第4遺構面の遺構・遺物	54
7. 第5遺構面の遺構・遺物	68
8. 第6遺構面の遺構・遺物	89
9. 第7遺構面の遺構・遺物	97
10. 第8遺構面の遺構・遺物	104
11. 第8遺構面より下層の遺物	125
12. 遺構面に伴わない遺物	127
第4章 自然科学分析	100
1. 古屋敷遺跡D区発掘調査に係るAMS年代測定	129
2. 古屋敷遺跡で検出された「土坑墓（SK01）」の自然科学的検証	132
3. 古屋敷遺跡（D区）から出土した赤色顔料付着遺物について	138
第5章 総 括	143
1. 古屋敷遺跡（D区）の調査成果	143
2. 石製呪術具と考えられる石製品	143
3. 彩文土器について	144
4. 木棺墓について	144
5. 水さらし場遺構	146

挿図目次

第1図	古屋敷遺跡の位置	4
第2図	古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡	5
第3図	古屋敷遺跡調査区配置図	9
第4図	古屋敷遺跡(D区)グリッド・セクション配置図	10
第5図	調査区北壁土層堆積状況	12
第6図	調査区北壁土層堆積状況(1)	14
第7図	調査区北壁土層堆積状況(2)	15
第8図	7ライン土層堆積状況	16
第9図	9ライン土層堆積状況	17
第10図	第1遺構面遺構配置図	19
第11図	SD01実測図	20
第12図	SD01出土遺物実測図(1)	21
第13図	SD01出土遺物実測図(2)	22
第14図	SX01実測図	23
第15図	SX01出土遺物実測図	24
第16図	SX02実測図	25
第17図	SX02出土遺物実測図	26
第18図	第1遺構面のその他の遺構実測図	27
第19図	第1遺構面出土石器実測図	27
第20図	第1遺構面出土土器実測図	28
第21図	第2遺構面遺構配置図	29
第22図	SK02実測図	30
第23図	SK02出土土器・木製品実測図	31
第24図	SK01土層堆積状況(1)	32
第25図	SK01土層堆積状況(2)	33
第26図	SK01棺材配置図(1)	34
第27図	SK01棺材配置図(2)	35
第28図	SK01出土木製品実測図(1)	36
第29図	SK01出土木製品実測図(2)	37
第30図	SK01出土木製品実測図(3)	38
第31図	SK01出土木製品実測図(4)	39
第32図	SK01出土土器・玉実測図	39
第33図	地床炉11・24実測図	40
第34図	第2遺構面出土石器実測図	41
第35図	第2遺構面出土土器実測図(1)	42
第36図	第2遺構面出土土器実測図(2)	43

第37図 第2遺構面出土土器実測図(3)	44
第38図 第2遺構面出土土器実測図(4)	45
第39図 第3遺構面遺構配置図	46
第40図 第3遺構面上器だまり1実測図	47
第41図 土器だまり1出土遺物実測図	48
第42図 第3遺構面出土石器実測図(1)	49
第43図 第3遺構面出土石器・石製品実測図(2)	50
第44図 第3遺構面出土土器実測図(1)	51
第45図 第3遺構面出土土器実測図(2)	52
第46図 第3遺構面出土土器実測図(3)	53
第47図 第4遺構面遺構配置図	55
第48図 配石遺構1実測図	56
第49図 土器だまり3実測図	57
第50図 第4遺構面出土石器実測図(1)	58
第51図 第4遺構面出土石器実測図(2)	59
第52図 第4遺構面出土土器実測図(1)	61
第53図 第4遺構面出土土器実測図(2)	62
第54図 第4遺構面出土土器実測図(3)	63
第55図 第4遺構面出土土器実測図(4)	65
第56図 第4遺構面出土土器実測図(5)	66
第57図 第4遺構面出土土器実測図(6)	67
第58図 第5遺構面遺構配置図	68
第59図 炭だまり1実測図	70
第60図 炭だまり3実測図	71
第61図 炭だまり1・3出土遺物実測図	72
第62図 炭だまり4実測図	73
第63図 炭だまり4出土遺物実測図	74
第64図 地床炉 ³ 107・108・118実測図	75
第65図 袋状土坑(Pit68)・貯蔵穴実測図	76
第66図 F10付近Pit実測図	76
第67図 古屋敷遺跡(D区)南壁土層堆積状況	77
第68図 水さらし場遺構実測図(1)	78
第69図 水さらし場遺構実測図(2)	79
第70図 水さらし場遺構出土遺物実測図	80
第71図 配石遺構2実測図	82
第72図 第5遺構面出土石器・石製品実測図(1)	83
第73図 第5遺構面出土石器・石製品実測図(2)	84
第74図 第5遺構面出土土器実測図(1)	85

第 75 図 第 5 遺構面出土土器実測図(2)	86
第 76 図 第 6 遺構面遺構配置図	88
第 77 図 配石遺構 3 実測図	89
第 78 図 第 6 遺構面出土石器実測図(1)	90
第 79 図 第 6 遺構面出土石器実測図(2)	91
第 80 図 第 6 遺構面出土土器実測図(1)	93
第 81 図 第 6 遺構面出土土器実測図(2)	94
第 82 図 第 6 遺構面出土土器実測図(3)	95
第 83 図 第 6 遺構面出土土器実測図(4)	96
第 84 図 第 7 遺構面遺構配置図	98
第 85 図 第 7 遺構面土坑実測図	99
第 86 図 第 7 遺構面出土石器実測図(1)	100
第 87 図 第 7 遺構面出土石器実測図(2)	101
第 88 図 第 7 遺構面出土土器実測図(1)	102
第 89 図 第 7 遺構面出土土器実測図(2)	103
第 90 図 第 8 遺構面遺構配置図	105
第 91 図 第 8 遺構面 G9 付近実測図	106
第 92 図 第 8 遺構面柱根 1・2 実測図	107
第 93 図 第 8 遺構面出土木製品実測図	107
第 94 図 第 8 遺構面出土石器実測図	108
第 95 図 第 8 遺構面出土土器実測図(1)	109
第 96 図 第 8 遺構面出土土器実測図(2)	110
第 97 図 第 8 遺構面出土土器実測図(3)	111
第 98 図 第 8 遺構面出土土器実測図(4)	112
第 99 図 調査区東壁土層堆積状況	113
第 100 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土石器実測図	114
第 101 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(1)	115
第 102 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(2)	116
第 103 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(3)	117
第 104 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(4)	118
第 105 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(5)	119
第 106 図 第 8 遺構面 G10 土器だまり出土土器実測図(6)	120
第 107 図 9 ライントレンチ下層出土石器実測図	121
第 108 図 9 ライントレンチ下層出土土器実測図	122
第 109 図 各遺構面以外から出土した石器類実測図	124
第 110 図 各遺構面以外から出土した石製品・土製品・土器実測図	125
第 111 図 各遺構面以外から出土した土器実測図	126
第 112 図 調査区(D 区)平面図(試料採取地点)	129

第 113 図	曆年較正図	130
第 114 図	ウイグルマッチング結果	130
第 115 図	曆年較正年代の分布	131
第 116 図	調査区配置図及び資料採取地点	132
第 117 図	土坑（SK01）断面図及び分析試料位置	132
第 118 図	リン濃度分布	133
第 119 図	C/N 分布	134
第 120 図	C/N と P の相関図	135
第 121 図	C/N と P/C の相関図	135
第 122 図	顕微鏡写真	136
第 123 図	蛍光 X 線分析スペクトルビーク	140
第 124 図	蛍光 X 線分析スペクトル(1)	141
第 125 図	蛍光 X 線分析スペクトル(2)	142

表 目 次

第 1 表	水さらし場遺構他出土植物遺存体観察表	81
第 2 表	AMS 年代測定結果	130
第 3 表	PCN 測定結果	133
第 4 表	構成元素の割合と元素比	135
第 5 表	古屋敷遺跡 D 区出土赤色顔料付着遺物蛍光 X 線分析結果	139
第 6 表	古屋敷遺跡（D 区）出土石器観察表	149
第 7 表	古屋敷遺跡（D 区）出土木製品観察表	153
第 8 表	古屋敷遺跡（D 区）出土土器観察表	154

写真図版目次

- 図版 1 古屋敷遺跡全景（空撮：東から）
古屋敷遺跡全景（空撮：西から）
- 図版 2 古屋敷遺跡（D 区）表土掘削風景（北から）
- 図版 3 古屋敷遺跡（D 区）西壁第 3 遺構面より上層の土層堆積状況（東から）
古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南東から：耕作土直下に SR01 の砂礫が見える）
- 図版 4 古屋敷遺跡（D 区）西壁土層堆積状況（南東から：I ライン付近）
古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（北東から：G ライン付近）
- 図版 5 古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南東から：9 ライン付近）
古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南西から：8 ライン付近）
- 図版 6 古屋敷遺跡（D 区）7 ライン土層堆積状況（北東から：G ライン付近 4a～10a 層）
古屋敷遺跡（D 区）9 ライン土層堆積状況（南西から：I ライン付近 5a～10a 層）
- 図版 7 I7 付近 SD01 土層堆積状況（東から）
G8 付近 SD01 遺物出土状況（西から）
G8 付近 SD01 遺物出土状況（北東から）
G6～I8 付近第 1 遺構面完掘状況（西から）
- 図版 8 SD01 出土遺物（1）
- 図版 9 SD01 出土遺物（2）
- 図版 10 SX01 土層堆積状況（東から）
SX01 検出状況・遺物出土状況（南から）
SX01 完掘状況（南から）
- 図版 11 SX02 遺物出土状況（東から）
SX02 作業風景（東から）
SX02 完掘状況（東から）
- 図版 12 SX03 完掘状況（東から）
SX05 完掘状況（北から）
SX06 完掘状況（北から）
- 図版 13 SX07 土層堆積状況（東から）
SX09 完掘状況（北から）
- 図版 14 SX01 出土遺物
- 図版 15 SX02 出土遺物
- 図版 16 第 1 遺構面出土遺物（1）
- 図版 17 第 1 遺構面出土遺物（2）
- 図版 18 SK02 土層堆積状況（北から）
SK02 遺物出土状況（北西から）
SK02 完掘状況（北東から）
- 図版 19 SK02 出土遺物（1）

- 図版 20 SK02 出土遺物（2）
- 図版 21 SK01 検出状況（北東から）
- SK01 蓋板検出状況（東から）
- SK01 蓋板検出状況（北東から）
- SK01 木棺墓内完掘状況（南東から）
- 図版 22 SK01 棺内土層堆積状況（北から）
- SK01 蓋板が北側板を突き破る杭（東から）
- SK01 棺内完掘状況（東から）
- 図版 23 SK01 棺内完掘状況（北から）
- SK01 床板除去状況（南東から）
- 図版 24 木棺墓東小口板と側板の関係（北西から）
- 木棺墓西小口板と側板の関係（東から）
- 図版 25 棺外北側面の土層堆積状況（西から）
- 棺外東小口の土層堆積状況（北から）
- 図版 26 SK01 墓坑土層堆積状況（北から）
- SK01 墓坑土層堆積状況（東から）
- SK01 完掘状況（東から）
- 図版 27 SK01 出土木製品（1）
- 図版 28 SK01 出土木製品（2）
- 図版 29 SK01 出土木製品（3）
- 図版 30 SK01 出土木製品（4）・土器・玉
- 図版 31 地床炉 11 完掘状況（西から）
- 地床炉 24 検出状況（南から）
- SR01 検出状況（南から）
- 図版 32 第 2 遺構面出土石器
- 図版 33 第 2 遺構面出土土器（1）
- 図版 34 第 2 遺構面出土土器（2）
- 図版 35 第 2 遺構面出土土器（3）
- 図版 36 第 2 遺構面出土土器（4）
- 図版 37 土器だまり 1 検出状況（北西から）
- 地床炉 47 上層堆積状況（西から）
- 図版 38 土器だまり 1 出土遺物
- 図版 39 G6 付近第 3 遺構面完掘状況（西から）
- G10・H10 付近第 3 遺構面完掘状況（東から）
- H10・G10 付近第 3 遺構面完掘状況（南から）
- 図版 40 第 3 遺構面出土石器
- 図版 41 第 3 遺構面出土土器（1）
- 図版 42 第 3 遺構面出土土器（2）

- 図版 43 第3遺構面出土土器（3）
- 図版 44 配石遺構検出状況（西から）
配石遺構完掘後の下層の状況（東から）
- 図版 45 H7付近石製品（51-10）出土状況（東から）
H7付近土器（52-1）出土状況（北から）
土器だまり 3 検出状況（東から）
第4遺構面 7 ライン以西完掘状況（北から）
- 図版 46 9 ライン土層堆積状況（南西から：石の載る面が第4遺構面）
第4遺構面出土石器（1）
- 図版 47 第4遺構面出土石器（2）
- 図版 48 第4遺構面出土石器（3）
- 図版 49 第4遺構面出土土器（1）
- 図版 50 第4遺構面出土土器（2）
- 図版 51 第4遺構面出土土器（3）
- 図版 52 第4遺構面出土土器（4）
- 図版 53 第4遺構面出土土器（5）
- 図版 54 第4遺構面出土土器（6）
- 図版 55 第4遺構面出土土器（7）
- 図版 56 第4遺構面出土土器（8）
- 図版 57 炭だまり 1 検出状況（東から）
炭だまり 1 Pit24（東から）
炭だまり 1 獣歯牙検出状況（南から）
- 図版 58 炭だまり 1 東側土層堆積状況（南から）
炭だまり 1 西側土層堆積状況（南から）
- 図版 59 炭だまり 1 遺物出土状況（東から）
炭だまり 1 円礫検出状況（西から）
炭だまり 1 完掘状況（東から）
- 図版 60 炭だまり 3 東側土層堆積状況（南から）
炭だまり 3 西側土層堆積状況（南から）
- 図版 61 炭だまり 3 Pit94（南から）
炭だまり 3 遺物出土状況（東から）
炭だまり 3 完掘状況（東から）
- 図版 62 炭だまり 1 出土遺物
- 図版 63 炭だまり 3 出土遺物
- 図版 64 炭だまり 4 遺物出土状況（南西から）
炭だまり 4 完掘状況（北から）
- 図版 65 炭だまり 4 出土遺物
- 図版 66 地床炉 107 土層堆積状況（南から）

- 地床炉 107（左）・108（右）完掘状況（北から：奥は炭だまり 3）
- 図版 67 地床炉 108 土層堆積状況（南から）
- 地床炉 118 完掘状況（西から）
- 図版 68 袋状土坑（Pit68）土層堆積状況（南から）
- 袋状土坑（Pit68）完掘状況（南から）
- 図版 69 貯蔵穴検出状況（西から）
- 貯蔵穴堅果類出土状況（西から）
- 貯蔵穴完掘状況（西から）
- 図版 70 地床炉 99 完掘状況（東から）
- F 10 付近 Pit 全景（東から）
- 図版 71 古屋敷遺跡（D 区）南壁水さらし場遺構付近土層堆積状況（北から）
水さらし場遺構検出状況（北から）
- 図版 72 水さらし場遺構と SD04 検出状況（南から）
SX12 検出状況（東から）
水さらし場遺構堅果類出土状況（西から）
- 図版 73 水さらし場遺構土層堆積状況（東から）
水さらし場遺構内部の状況（北から）
SD04 遺物出土状況（北東から）
- 図版 74 水さらし場遺構内部の状況（東から）
水さらし場遺構埋土除去状況（北西から）
水さらし場遺構完掘状況（北から）
- 図版 75 水さらし場遺構出土遺物
- 図版 76 第 5 遺構面 7 ライン以西完掘状況（南西から）
第 5 遺構面 9 ライン以東完掘状況（北から）
- 図版 77 第 5 遺構面出土石器（1）
- 図版 78 第 5 遺構面出土石器（2）
- 図版 79 第 5 遺構面出土土器（1）
- 図版 80 第 5 遺構面出土土器（2）
- 図版 81 第 5 遺構面出土土器（3）
- 図版 82 配石遺構 3 検出状況（北から）
H8 磨石（79-1・3）出土状況（北から）
- 図版 83 H8 石斧（78-7・8）出土状況（北から）
第 6 遺構面 7 ~ 9 ライン間完掘状況（南東から）
- 図版 84 第 6 遺構面出土石器（1）
- 図版 85 第 6 遺構面出土石器（2）
- 図版 86 第 6 遺構面出土土器（1）
- 図版 87 第 6 遺構面出土土器（2）
- 図版 88 第 6 遺構面出土土器（3）

- 図版 89 第 6 遺構面出土土器（4）
図版 90 第 6 遺構面出土土器（5）
図版 91 SK13 土層堆積状況（9 ラインベルト：西から）
SK15 土層堆積状況（東から）
図版 92 SK17 土層堆積状況（北東から）
SX19 遺物出土状況（西から）
図版 93 SX21 遺物出土状況（東から）
第 7 遺構面 F8～G8 付近完掘状況（北東から）
第 7 遺構面 I8～H8 付近完掘状況（南東から）
図版 94 第 7 遺構面 9 ライン以東完掘状況（南東から）
第 7 遺構面出土石器（1）
図版 95 第 7 遺構面出土石器（2）
図版 96 第 7 遺構面出土石器（3）
図版 97 第 7 遺構面出土土器（1）
図版 98 第 7 遺構面出土土器（2）
図版 99 柱根 1・2 検出状況（南から）
柱根 2（南から）
柱根 1 取り上げ状況（南から）
図版 100 第 8 遺構面 7 ライン以西完掘状況（南西から）
第 8 遺構面 9 ライン以東完掘状況（南東から）
図版 101 第 8 遺構面出土木製品・石器
図版 102 第 8 遺構面出土土器（1）
図版 103 第 8 遺構面出土土器（2）
図版 104 第 8 遺構面出土土器（3）
図版 105 第 8 遺構面出土土器（4）
図版 106 第 8 遺構面出土土器（5）
図版 107 第 8 遺構面出土土器（6）
古窯敷遺跡（D 区）東壁土層堆積状況（南西から：最下面近くの黒い堆積が G10 土器
だまり）
図版 108 G10 土器だまり作業風景（南から）
G10 土器だまり遺物（102-13）出土状況（西から）
G10 土器だまり遺物出土状況（北から）
図版 109 G10 土器だまり出土石器・土器
図版 110 G10 土器だまり出土土器（1）
図版 111 G10 土器だまり出土土器（2）
図版 112 G10 土器だまり出土土器（3）
図版 113 G10 土器だまり出土土器（4）
図版 114 G10 土器だまり出土土器（5）

- 図版 115 G10 土器だまり出土土器（6）
- 図版 116 G10 土器だまり出土土器（7）・土製品
- 図版 117 G10 土器だまり出土土器（8）
- 図版 118 9 ライントレンチ下層（G ライン付近）の状況（北西から）
9 ライントレンチ下層（I ライン付近）の状況（南西から）
- 図版 119 第8 遺構面 9 ライン以東 G10 土器だまり完掘状況（北から）
第8 遺構面 G10 土器だまり完掘状況（北東から）
- 図版 120 9 ライン下層出土石器・土器
- 図版 121 9 ライン下層出土土器
- 図版 122 古屋敷遺跡（D 区）調査後全景（西から）
古屋敷遺跡（D 区）調査後全景（北西から）
- 図版 123 各遺構面以外からの出土石器
- 図版 124 各遺構面以外からの出土石器・土器（1）
- 図版 125 各遺構面以外からの出土土器（2）
- 図版 126 古屋敷遺跡（D 区）から出土した赤彩のある土器（1）
- 図版 127 古屋敷遺跡（D 区）から出土した赤彩のある土器（2）
- 図版 128 古屋敷遺跡（D 区）から出土した赤彩のある土器（3）

第1章 調査に至る経緯と経過

一般国道9号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約750kmで、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。このうち、静間～仁摩間の現道は急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にある。また、この区間では、国際規格コンテナの通行支障トンネルや、事故・災害発生時の通行止めが発生し、大幅な迂回が必要となるなど、社会経済活動に大きな支障をきたしている。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から大田市仁摩町大國に至る延長7.9kmを結ぶ自動車専用道路が計画され、平成20年度から「静間仁摩道路」として事業着手されている。

この計画に先立ち、国土交通省から島根県教育委員会に対して計画地内の埋蔵文化財についての照会があり、平成16・17年度に最初の分布調査を実施した。その後、平成18年2月、平成22年2月にも分布調査を実施した。島根県教育委員会では、平成22年5月25日付け島教文財第233号で、本線予定地内に所在する8遺跡と4力所の要注意箇所を回答している。平成23年度末には工事用道路の分布調査を行い、これについては、平成24年4月9日付け島教文財第49号で回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で、予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、平成25年3月26日付け国中整松一官第248号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知が国土交通省から文化庁長官あてに提出された。それに対し、平成25年3月26日付け島教文財第11号の62で、島根県教育委員会教育長から10遺跡について記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

この間の平成21年5月には、静間仁摩道路の計画線に近い大田市五十石町に所在する鳴滝山鉛鉱山跡について、世界遺産である石見銀山の操業に関わる鉛鉱山である可能性があることから、同年7月に現地協議を行った。平成23年3月に再度分布調査を行った結果、坑道そのものは事業地内に含まれていないことを確認したが、坑道に至る古道、及びそこから枝分かれする通称「御大師山古道」の取り扱いについては、平成25年8月19日付け国中整松調設第50号で文化財保護法第94条第1項の通知があり、平成25年8月20日付け島教文財第15の35で発掘調査の実施が勧告された。鳴滝山鉛鉱山古道と御大師山古道については、平成25年9月に周辺の測量と発掘調査を行った。

静間仁摩道路と仁摩温泉津道路の接点で仁摩・石見銀山インターチェンジに隣接する大田市仁摩町大國地内には庵寺石塔と呼ばれる岩窟があり、宝筐印塔などが納められている。この遺跡は、平成14年3月の分布調査で確認されていたが、平成15年7月に仁摩温泉津道路に關係して島根県教育委員会教育長から国土交通省へ回答した際には、仁摩温泉津道路建設予定地内には含まれていないと認識されていた。その後、平成19年7月には『石見銀山遺跡とその文化的景観』が世界遺産に登録されると、この付近は世界遺産のバッファゾーンとなった。岩窟内に安置される宝筐印塔は、元禄二(1688)年銘がある福光石製石塔で、保存状態がよく、紀年銘があることから石見銀山にある同型式の石塔類研究の基準資料となるもので、貴重なものとされた。この石塔と周囲の遺跡の保存について、平成22年10月の取り扱い協議で、「静間仁摩道路」に事業地内に含まれることが判明したため、島根県教育委員会から国土交通省に対し重要性を説明。同月、大田市石見銀山課

が国土交通省に対し、「石見銀山景観保全条例」との調整について協議を行った。それを受け、国土交通省では工法変更により岩窟付近を保存することになったが、工事の影響を受ける岩窟前面のテラス部分については遺構の広がりを確認する必要が生じた。

静間仁摩道路建設予定地内の試掘確認調査は、平成24年度の古屋敷遺跡を最初に、平成25年10月に大田市五十猛町地内で、平成26年7月から12月には大国地頭所遺跡など6カ所で実施、平成27年度は静間町及び仁摩町地内で7カ所の試掘確認調査を実施した。その結果、垂水遺跡・松林寺遺跡・大国地頭所遺跡・庵寺石塔群（テラス部分）の発掘調査を実施することとなった。

平成25年度には古屋敷遺跡（A・B区）を、平成26年度には古屋敷遺跡（C・D・E・F区）を、平成27年度には古屋敷遺跡の残された部分（G・H・I区）、大国地頭所遺跡の発掘調査を行った。なお、平成25年度には、工事用道路に関連する大田市仁摩町宅野の城ノ内遺跡の発掘調査を行う予定であったが、工事の都合により延期された。この年の6月10日には、城ノ内遺跡周辺の石塔類について、立正大学文学部教授の池上悟氏、元鳥根県文化財保護審議会委員の田中義昭氏の調査指導を受けた。

平成27年度には大国地頭所遺跡約3,500m²及び古屋敷遺跡の残り約2,500m²について発掘調査を行うとともに、本報告書に関わる部分及び、古屋敷遺跡（A・E区）の遺物整理作業を行った。翌平成28年度に本報告の執筆・編集・印刷を行った。

古屋敷遺跡 古屋敷遺跡は大田市仁摩町大国に所在し、以前から遺物散布地として知られていた。県道仁摩端穂線改良工事に伴い、圃場整備事業が計画されたことから、当時の仁摩町教育委員会が平成7・8年度に発掘調査を実施している。この時の調査は、現市道沿いの約600m²について行われ、青磁や青花などの中世の遺跡に伴う遺物が出土したほか、弥生前期の壺や土坑を検出している。

その後に計画された静間仁摩道路では、古屋敷遺跡付近にインターチェンジや橋梁に関わる大きな橋台が造成されることとなった。平成23年度までの分布調査結果では、10,000m²以上の広大な範囲が調査対象地となっていたが、島根県教育委員会では、平成24年5月と11～12月に試掘確認調査を実施し、調査対象範囲を約9,000m²としたが、複数の遺構面が重なり、地表下3m近くまで続く遺物包含層の存在が明らかになり、調査の難航が予想された。

古屋敷遺跡の発掘調査は、平成25年5月から2班体制で着手した。調査区南端のA区700m²と調査区北側にあるB区1,400m²について実施することになったが、A区の調査範囲を930m²まで拡張した。しかし、調査は予想以上に難航したため、終了予定だった12月末からはさらに1班を増援し、翌年2月末まで調査を行った。

古屋敷遺跡A区の調査では縄文晩期の木棺墓と考えられる土坑を検出し、それを受けて平成25年11月9日に現地説明会を行い、80名が参加した。平成25年9月21日には「第62回にしえ俱楽部親子で発掘体験in仁摩」を開催し、46名が発掘調査を体験した。また、平成25年10月22日には及川穰准氏、10月24日には中村健二氏、11月20日には山田康弘氏と濱田竜彦氏、平成26年1月20日には中村唯史氏の調査指導を受けた。また、平成25年12月10日に土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏・松下真実氏の調査指導を受け、木棺墓出土の人骨と思われる遺存体の取り上げ、鑑定を依頼した。

平成26年度は、3パーティーを投入し、調査区中程のC区約1,800m²、D区約1,800m²、県道沿いで橋脚が計画されているE区約100m²、北西側のF区約400m²について調査を実施した。D

区では棺材が良好に残る木棺墓（SK01）を検出したため、6月30日に及川穣・平郡達哉両氏、7月7日に会下和宏氏、7月20日に山田康准教授に調査指導を受けた。また、10月にはD区で水さらし場遺構が発見されたことから、11月5日に及川穣・平郡達哉両氏に再び調査指導を受けるとともに、12月8日に山田昌久氏の指導を得た。11月4日には、自然科学の立場から中村唯史氏の指導を受けている。この間、10月20日には千葉豊氏史、11月19日には山本悦代・山口雄治両氏、12月11日には松本直子氏が来訪し、指導を得た。

11月8日には現地説明会を開催し、約80名が水さらし場遺構を中心に見学した。平成26年8月7日は埋蔵文化財調査センター主催で『教員のための文化財活用講座』が仁万まちづくりセンターで行われ、参加者が古屋敷遺跡を見学した。平成26年度も調査期間を延長し、翌年1月末まで現地調査を行った。

調査にあたっては平成25年度の調査開始当初から各年度・調査区とも共通した1辺10mのグリッドを設定し、各グリッドは調査対象地の北西側を起点として、南北方向にアルファベットを、東西方向に数字を割り振って、A1、A2・・・などと呼んだ。耕作土の除去はバケットに平爪を装着したバックフォーを使用し、遺物包含層の掘削は、主にスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所は草削り・移植ゴテで掘り下げた。

平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。必要に応じて手測りで平面図を作成し、その他報告書掲載が見込まれる遺物は遺跡調査システムで出土位置を記録した上で取り上げた。遺構の写真は、原則として35mmデジタルカメラで撮影し、必要に応じて記録保存のため6×7判フィルムカメラによる撮影も行った。

古屋敷遺跡（D区）の遺物整理作業は、現地作業の合間に縫って平成27年4月から始めたが、平成27年5月には静間仁摩道路予定地内の試掘調査のため一時中断し、その後も朝山大田道路関係の報告書作成業務と平行しながら実施した。平成28年度には、朝山大田道路関連の発掘調査の合間に作業を進め、平成28年9月13日には中村唯史氏に再度石材の鑑定を依頼している。なお、本報告は、平成26年度に実施した古屋敷遺跡（D区）についての報告で、本来なら、調査順に平成25年度調査分から報告すべきであるが、他事業と調整の結果、変則的な刊行順となった。

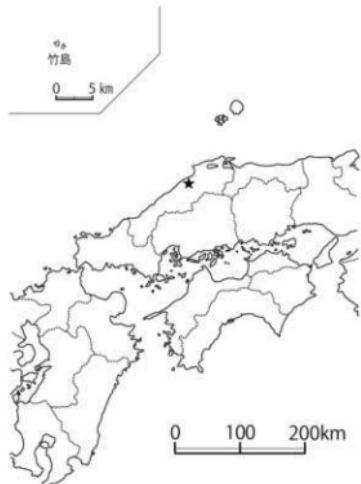
報告書作成はDTP方式を採用し、遺物図面は実測図を、遺構図面は平面図・断面図等をレイアウトした下図をデジタルトレースした。デジタルトレースや図の加工などはAdobe社製Illustrator CS5・Photoshop CS5を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Photoshop CS5を用いてコントラスト調整しEPSデータ化した。最終的な原稿執筆、編集作業はAdobe社製InDesign CS5を用いて行った。

第2章 古屋敷遺跡の位置と歴史的環境

1. 古屋敷遺跡の位置と地理的環境

かつて石見国であった島根県西部は中国山地から北に伸びる丘陵が日本海に迫り、深い入り江となつたリアス海岸と、その間に開けた平野や砂丘が交錯する変化に富んだ地形となっている。このうち、古屋敷遺跡の位置する大田市仁摩町は、石見東部に当たり、北に大田市五十石町、南に大田市温泉津町、東には世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の中心部である大田市大森町に接している。遺跡のある大田市仁摩町大國地区は、大田市仁摩町冠方面から大きく蛇行して日本海に注ぐ潮川の下流部に位置し、狭い山間を抜けた潮川が仁万平野で、急に開ける場所に当たる。古屋敷遺跡は、西流する潮川が運んだ堆砂によって形成された平野の最奥部に位置しており、周囲の標高は約9m、日本海からは東へ約2.2kmの位置にある。大田市仁摩町付近では、海岸線が南北方向に伸びており、西に日本海が広がっている。よって、国道9号線・JR山陰本線は北へ向かうと出雲・松江方面へ、南に向かうと江津・浜田方面に向かうことになる。

遺跡の南側にある丘陵尾根上には平成24年までに発掘調査が行われた庵寺古墳群^(註1)があつたが、現在では仁摩温泉津道路の石見銀山・仁摩インターチェンジとなっている。また、遺跡に接して、元禄二(1688)年銘のある宝筐印塔などを納めた岩窟があり、岩窟とその周辺は庵寺石塔群と呼ばれる遺跡となっている。遺跡の北東には標高153mの竜嵐山があり、その山頂付近は平坦面や土塁等が残っている。この竜嵐山の山頂周辺は、石見城跡として世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の構成資産に含まれている。遺跡の北側には潮川が西流し、潮川北岸は斜面が迫っている。潮川右岸には大国地頭所遺跡、松林寺遺跡など弥生時代から中世に至る遺跡が知られている。



第1図 古屋敷遺跡の位置

2. 古屋敷遺跡周辺の歴史的環境

旧石器・縄文時代 大田市仁摩町周辺では旧石器時代の遺跡は知られていない。

久根ヶ曾根遺跡(52)、鳥居原遺跡(55)、仁万大橋遺跡(24)などで縄文前期にさかのぼる土器が出土している。中期・後期になると川向遺跡(26)や坂灘遺跡(29)のほか、古屋敷遺跡にも近い五丁遺跡(8)など、次第に遺跡数が増加する。縄文晚期の突帯文土器の時期になると庵寺遺跡(6)、千後田遺跡(14)などで土器の出土が知られるようになる。これらの遺跡は、いずれも仁万平野縁辺の低湿地や海岸近くの砂丘にあり、当時、入り込んでいた入海の周囲に縄文人の生活環境が広がっていたことが想像される。古屋敷遺跡から南東に約20kmに位置する三瓶山北麓では三



1	古屋敷遺跡	2	大国地頭所遺跡	3	松林寺遺跡	4	庵寺石塔群
5	庵寺古墳群	6	庵寺遺跡	7	於才迫遺跡	8	五丁遺跡
9	孫四田遺跡	10	大月遺跡	11	コヲスミ遺跡	12	ヒヨトリケ市遺跡
13	京内原遺跡	14	千後田遺跡	15	入石遺跡	16	清石遺跡
17	白石遺跡	18	千人塚遺跡	19	榆ノ木谷横穴群	20	榆ノ木遺跡
21	安養寺古墳群	22	飯田遺跡	23	善興寺橋遺跡	24	仁万大橋遺跡
25	中配前遺跡	26	川向遺跡	27	毘沙門塚古墳	28	毘沙門遺跡
29	坂瀬遺跡	30	坂瀬古墳	31	矢迫屋横穴群	32	田尻遺跡
33	萩田遺跡	34	大井手遺跡	35	大寺遺跡	36	高浜遺跡
37	明神古墳	38	墓原遺跡	39	打落し遺跡	40	立平浜遺跡
41	赤崎山横穴群	42	宝隆寺裏古墳群	43	石見城跡	44	志源寺遺跡
45	大国城跡	46	天垣内城跡	47	横屋前遺跡	48	白石上屋敷遺跡
49	半城跡	50	ナメラ迫遺跡	51	狐城跡	52	久根ヶ曾根遺跡
53	琴ヶ浜遺跡	54	鳥居原古墳	55	鳥居原遺跡	56	虹ヶ谷城跡
57	茶臼山城跡	58	駒岩遺跡				

第2図 古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡（1:25,000）

瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について 4310 ± 80 yrsBP の年代が測定^(注2)され、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定される。三瓶山の東側に当たる飯南町の志津見ダム関連の発掘調査では厚い火山噴出物層が確認されているが、仁摩町周辺は三瓶山の北西に当たるため三瓶山の噴火の伴う噴出物等はほとんど見られない。

弥生時代 園場整備に伴って旧仁摩町が発掘調査を行った古屋敷遺跡^(注3)からは、多量の弥生時代前期の土器とともに複数の土坑が検出されている。古屋敷遺跡に隣接する五丁遺跡(8)や庵寺遺跡(6)でも、縄文晩期から弥生前期に流れていたと見られる自然流路が見られ、庵寺遺跡では34点もの田下駄をはじめ木製品が出土している。川向遺跡(26)では円形に配された杭列遺構をはじめ、前・中期の土器・石器・木製品など多くの遺物が出土している。

庵寺古墳群(5)では、仁万平野を見下ろす丘陵上で弥生後期の短期間に営まれた加工段が発見され、いわゆる高地性集落として注目される。榎ノ木遺跡(20)からは後期の竪穴建物跡が検出された。このほか、同時期の遺跡としては大寺遺跡(35)、孫四田遺跡(9)などがあり、仁万平野周辺の丘陵部に遺跡が点在している。

古墳時代 仁万平野を望む位置に築かれた安養寺1号墳は 12×8 m の方墳で、箱式石棺をはじめ、4基の主体部を持つ。安養寺古墳群(21)や坂灘遺跡(29)からは壺棺と見られる大型の土師器壺が出土している。坂灘古墳(30)では、石を2~3段に積み上げた床面に石敷きの箱式石棺が明らかになっており、人骨や鹿角装刀子が出土している。また、古屋敷遺跡を見下ろす庵寺古墳群(5)でも、八禽鏡を出土した1B号墳など複数の古墳が前期に遡ることが確認された。

古墳時代後期になると、明神古墳(37)、島居原古墳(54)をはじめ、五十猛の赤井穴ヶ迫古墳など、小平野毎に有力な古墳が築かれるようになる。庵寺古墳群でも、横穴式石室を持つ1A号墳が築かれるなど各地で横穴式石室が見られるようになる。この内、明神古墳は全長10.1mの巨大な横穴式石室に家形石棺を納め、金銅装円頭大刀や銅碗など優れた副葬品を持っていましたことが知られ、島居原古墳でも双龍環頭大刀など優れた遺物が出土した。五十猛町の赤井穴ヶ迫古墳は石見地方では唯一の切石製横穴式石室を持つ古墳で、海上交通を介した出雲地方などの交流をうかがわせる。また、榎ノ木谷横穴群(19)、矢追屋横穴群(31)、赤崎山横穴群(41)など横穴墓も非常に多く知られる地域となっている。一方、大寺遺跡(35)・薮田遺跡(33)など古墳時代の遺物を出土する遺跡は少なくないが、住居跡を伴う集落遺跡の発見は少ない。

古代 この付近は、『和名類從抄』では邇摩郡大國郷に含まれると思われ、近隣には託農郷がある。また、『延喜式』に見える石見国には波祢、託濃、楠道、江東、江西、伊甘の6驛家があったとされている。古代山陰道の位置は判明していないが、託農駅が現在の大田市仁摩町宅野付近であれば、比較的近くを山陰道が通っていた可能性がある。近隣での古代の遺跡の様相は明らかでないが、大田市温泉津町の中祖遺跡では古代の瓦を葺かれた建物跡が発見された。また、大田市水上町の白坏遺跡からは「延喜九(909)年」と記された木簡が出土し、末端官衙の可能性が指摘されている。近隣では、五丁遺跡(8)で条里制の畦畔が検出されている。

中世・近世 平安時代末~鎌倉時代の遺跡には白石遺跡(17)などがある。多数の掘立柱建物跡のほか、白磁・青磁などの貿易陶磁が出土した。

大永七年、石見銀山が再発見され、銀鉱山開発が活発すると、戦国大名の争奪の場となる。大田地区においても世界遺産に含まれる石見城跡(43)があり、銀山開発初期に銀鉱石を運んだとされ

る石見銀山街道鞆ヶ浦道が近くを通っている。

天正十五(1587)年、九州攻め中の豊臣秀吉の元に陣中見舞いに向かう細川幽斎は、その行程を『九州道の記』に残している。丹後から日本海沿いに西に進む幽斎は石見銀山にも立ち寄っており、それによると、大浦に泊まり、大浦から仁万まで海路で移動し、仁万から石見銀山へ向かったとされていることから、仁万から銀山へ向かう、つまり、潮川沿いに古屋敷遺跡の対岸を石見銀山へ向かう道が当時のルートの一つであったと考えられる。

古屋敷遺跡南側の岩盤に穿たれた岩窟には元禄二(1688)年の銘を持つ大型の宝筐印塔や正徳五(1715)年銘の方柱状石塔などが納められ、その周辺を含め庵寺石塔群(4)と呼ばれている。特に宝筐印塔は石見銀山最盛期に当たる17世紀代のもので、組み合わせ式でありながら、すべての部材が良好にそろい、保存状態も良いことから、きわめて貴重な資料となっている。

〈註〉

- (1) 『庵寺古墳群II・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』 島根県教育委員会 2014年
- (2) 『三瓶埋没林調査報告書』 島根県環境生活部景観自然課 2000年
- (3) 『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』 仁摩町教育委員会 1996年

〈参考文献〉

- 『増補改訂島根県遺跡地図II(石見編)』 島根県教育委員会 2002年
『島根県生産遺跡分布調査報告書II 石見郡製鉄遺跡』 島根県教育委員会 1984年
『島根県中近世城館分布調査報告書〈第1集〉石見の城館』 島根県教育委員会 1997年
『三瓶川流域遺跡他詳細分布調査II』 大田市教育委員会 1984年
『日本歴史地名体系第33巻 島根県の地名』 平凡社 1995年
『角川日本地名大辞典32 島根県』 角川書店

第3章 古屋敷遺跡（D区）の発掘調査

1. 調査区の設定

周知の埋蔵文化財包蔵地としての古屋敷遺跡は、14,000m²にも及ぶ広大な遺跡である。工事計画や平成24年度に実施した試掘調査により、調査対象面積を約9,000m²まで絞ったが、地表下約3mまでの間に多数の遺構面が存在することが判っていたため、単年度での調査は不可能だった。このため調査区を分割し、3年度に分けて調査を実施（第3図）した。

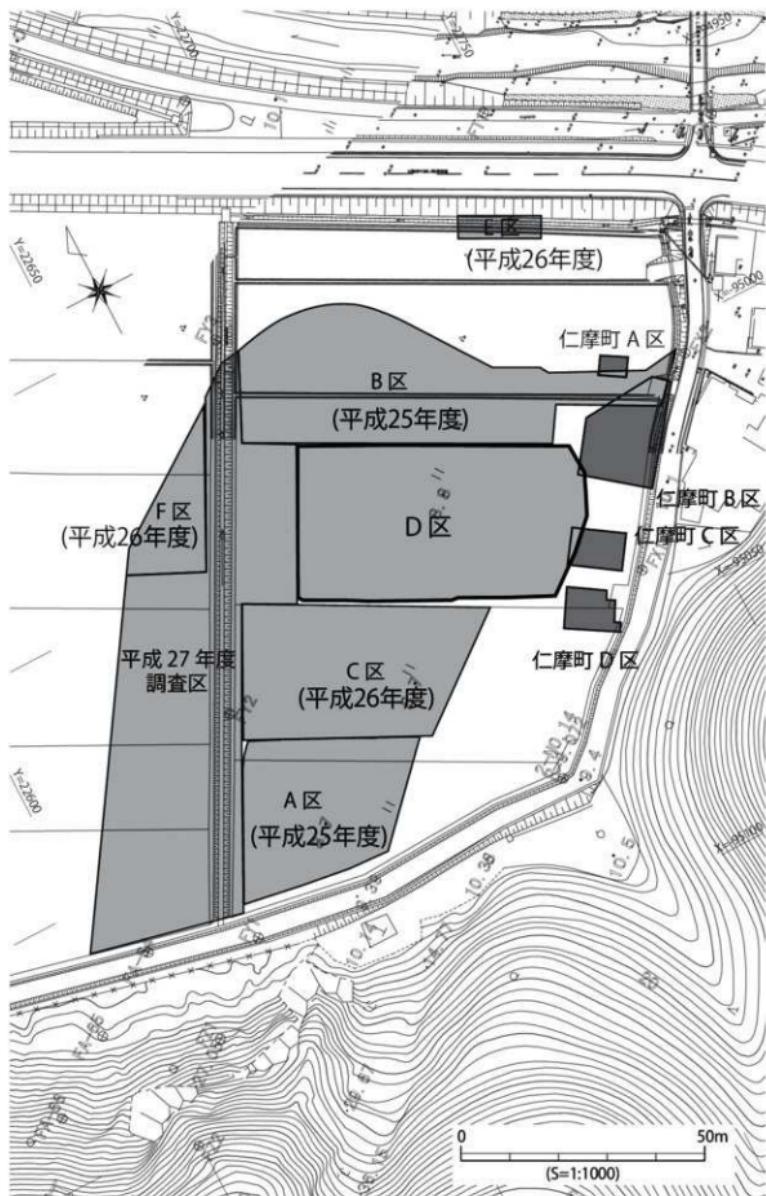
調査対象地は、道路の橋台が計画されている約8,900m²と、潮川を渡る橋脚部分約100m²からなる。古屋敷遺跡の周辺は平成8年に圃場整備が行われ、現状では水田となっているほか、遺跡西側に南北方向の水路が設置されている。遺跡南側は庵寺古墳群^(注1)のあった丘陵が迫り、丘陵との間には市道と用水路が通っている。調査初年度となる平成25年度には、高速道路の橋台部分の南北両側に当たるA・B区について実施し、平成26年度には、その間のC・D区、潮川を渡る橋脚部分に当たるE区、西側の水路を挟んだF区について調査を行った。また、西側の水路周辺に残る約2,500m²については、平成27年度に調査を行っている。本書で報告するD区は調査対象地の中程に当たり、面積は約1,800m²。調査前の標高は約8.7mだった。

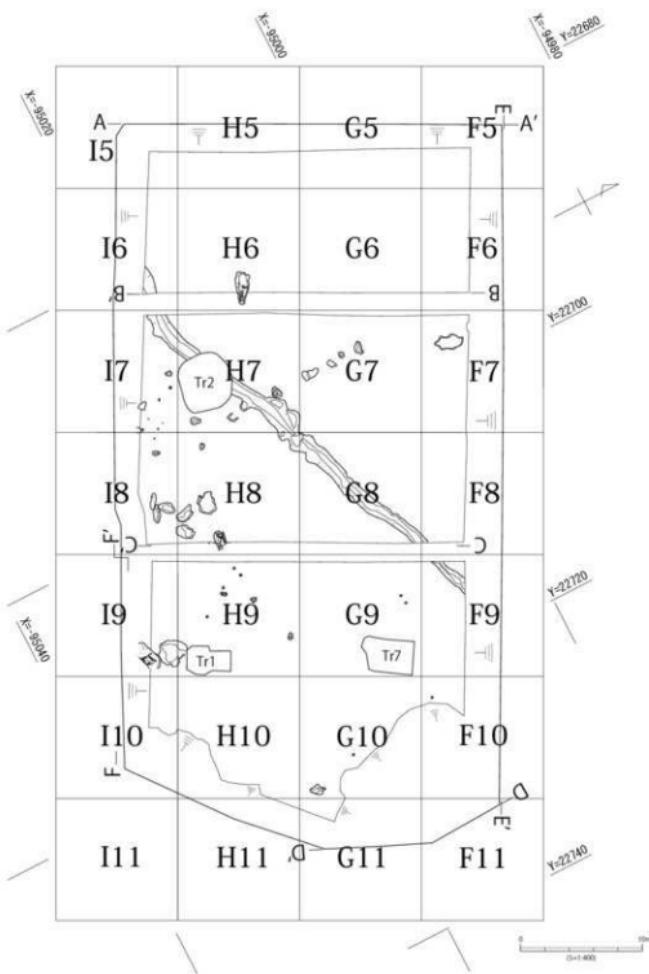
古屋敷遺跡は、平成7・8年度に圃場整備事業に伴って、当時の仁摩町教育委員会が約600m²の発掘調査^(注2)を行っている。仁摩町教育委員会が行った発掘調査地は、今回の調査地の東側に当たり、現在の市道沿いに4つの調査区（第3図右側の仁摩町A～D区）を設けて行われた。この時の調査では、弥生前期の遺構面、中世・近世の遺構面を検出しているが、仁摩町教育委員会が実施した調査地は東側の山際に位置し、今回の調査地よりかなり標高が高い。掘立柱建物跡を検出し、白磁・青磁などが出土した中世の遺構面（第5層）が標高約9.2m、弥生前期とされる遺構面（第9層）でも標高約8.8mとなっており、本書で報告するD区では、調査前の地表面に近い高さで弥生前期の遺構が検出されることになる。

島根県埋蔵文化財調査センターが平成25年度から行っている古屋敷遺跡の調査に際しては、測量法の第III座標系X=94913.4586、Y=22659.14076を基点とし、周辺の地形に合わせ、X軸方向から27.284度東に振った軸を基準に、1辺10mのグリッドを設定した。各グリッドは、南北方向に北からアルファベットを、東西方向に西から数字を振り、D区においては、F7・F8・・・I9・I10と呼んだ（第4図）。このグリッド名は、平成25年度から平成27年度まで共通して使用している。

D区の調査では、排水や土層観察のために、7ライン・9ラインにセクションベルトとトレンチを設定し、調査区を三分割（第4図）した。それぞれのトレンチやセクションベルトは、7ライントレンチ・9ラインセクションなどと呼んでいる。一方、調査区の周囲には土層観察を兼ねた排水溝を掘削した。排水溝は、崩壊を防ぐための勾配を確保した上で、その時点での調査面から50cm程度低くなるように掘削し、調査面が下がるのに従い随時先行して掘り下げを行っている。セクションベルトについては、調査面が低くなる毎に実測・写真撮影を行い、極端に高く残さないように上部を除去していく。調査面が下がっていくと、周囲の法面の傾斜を確保するため、各調査面は狭くなっていくが、セクションベルトはそれに伴って面上逆台形となつた。

古屋敷遺跡D区の発掘調査では、重機を使用して耕作土を除去し、標高8.2m付近より下層を人





第4図 古屋敷遺跡（D区）グリッド・セクション配置図(1:400)

力で掘削した。7・9ラインのセクションベルトは耕作土除去後に設定し、それぞれの西側に、幅約1mのトレンチを人力で掘削した。D区とした調査範囲には、平成24年度に行った試掘調査のトレンチ1・2・7を含み、北壁にはトレンチ4の断面がかかっている（第7図）。

<註>

(1)『梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡Ⅱ』島根県教育委員会 2010年

『庵寺古墳群II・大迫ツツリ遺跡・小釜野遺跡』鳥根県教育委員会 2014年

(2)『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』仁摩町教育委員会 1999年

2. 古屋敷遺跡（D区）の土層堆積状況

第5～9図には古屋敷遺跡（D区）での土層堆積状況を示している。遺跡全体が東から西へ傾斜していることから、北壁では、土層全体が西へ傾斜しており、西壁は比較的水平に近い堆積となっている。

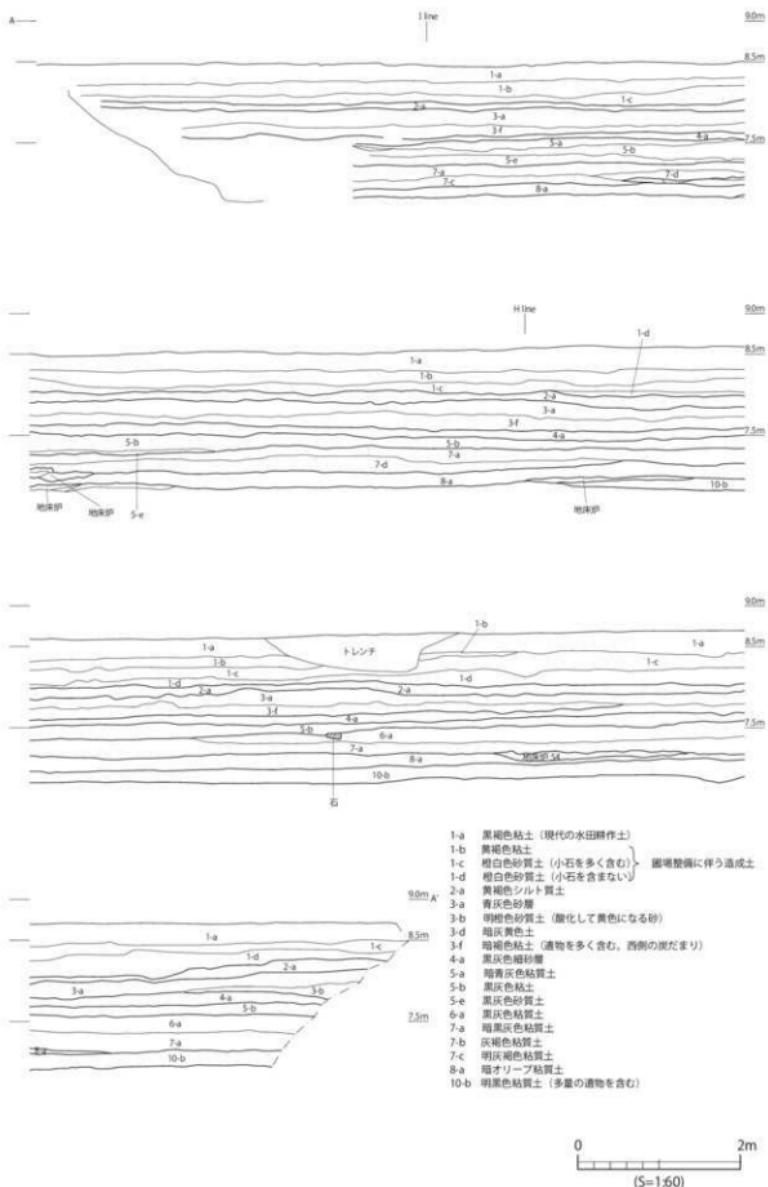
D区の地表面は、調査区西端で標高8.5m、東端では標高8.7mとなっており、北西方向に向けて緩やかに傾斜している。地表から約20cm程の厚さで水田耕作土(1-a)とその床土(1-b)があり、その下には10cm程の厚さで、橙白色の砂質土(1-c・d)が見られる。これらは圃場整備によって運ばれた客土と考えられる。

耕作土・圃場整備に伴う客土（第1層）を除去すると、空気に触れると酸化して色が変わる砂質土層(2-a・c・d)・灰色粘質土(2-b)が現れる。灰色粘質土(2-b)は、弥生土器を含む遺物包含層で、この粘質土はSX01・02など弥生土器を含む遺構（第1遺構面）を埋めている。第1遺構面は明褐色砂質土(3-b)や灰色粘土層(3-c)の上面である。第1遺構面付近の堆積は、東へ向かうに従って砂礫の割合が高まり、東側では黄白色砂質土に変わる。調査区中程で東西方向に横断する溝(SD01)を検出している。SD01の内部には酸化して明褐色になる砂礫が詰まっており、流水があったことが判る。9ラインセクション（第9図）ではSD01の南側に砂質土の堆積が見え、何度もあふれ出して砂が堆積した様子（明褐色砂礫層など）が観察される。SD01は、北壁では9ラインの東側に続くはずだが、SR01に近づき、砂質土が複雑に堆積を繰り返す場所のため、認識できなかった。第1遺構面では、H9周辺では不定形の土坑や木質が残る柱穴などが見られる。

調査区北壁（第7図）の東端には、砂礫層の厚い堆積が見られる。この砂礫は鉄分を含み、空気に触れると急速に変色し、常に湧水がある。中程の上面ではプラスチック片などを含んでいるが、縁辺部では弥生土器片のみを含んでおり、長期間にわたる自然流路と思われる。発見当初はSD02としていたが、調査途中でSR01に名称を変更している。この流路の影響であろうか、北壁の上層の内、東端近くは、砂質土層が交互に重なっており、たびたび浸食と堆積を繰り返していた様子がうかがわれる。この流路は、平成25年度B区から南に流れしており、D区付近で南東から南西へ蛇行してC区の東側をかすめ、平成25年度A区で大きくUターンし、西に流れを変えていることが判っている。

第1遺構面より下層には、西側で灰色粘土層(3-c)、東側では青灰色砂層(3-a)などが広がっており、弥生土器と突帶文土器を含んでいる。その下面を第2遺構面とした。第3層の堆積は南東側で厚く、西へ向かうと薄くなる。H8付近では木棺墓(SK01)を、H6付近で土坑(SK02)を検出しているが、SK02の検出位置は、砂を含んだ灰色粘土層(3-c)の上面に当たり、SK01などよりやや新しい可能性がある。7ライントレンチ南側でも炭を含んだ明褐色砂層の落ち込みがあり、遺構と思われる。

その下層は黒灰色細砂層(4-a)、灰色細砂層(4-b)が堆積しており、その下面を第3遺構面とした。黒灰色細砂層(4-a)、灰色細砂層(4-b)は、H8・I8より西には見られるが、東側では次第に薄くなる。この面では多くの地床炉と考えられる焼土面や少量のピット、炭だまりなどが見られ、北壁の西側では地床炉と考えられる炭を含んだ焼土面が見えている。また、9ライントレンチでは大きな石が



第5図 調査区西壁土層堆積状況 (A-A')(1:60)

見えており、周囲の状況から人為的に置かれたものと思われる。

第4遺構面は、明灰色粘質土(5-c)の下面である。この面では突帯文土器を中心とした大量の土器が出土しているほか、G7付近を中心に、複数の焼土面が重なり合う状況が見られた。この面ではH9付近で配石遺構を検出している。9ラインレンチで石が置かれた面は1枚上層に当たるが、配石遺構や第2遺構面のSK01とも近接しており、この周辺の機能が、長期にわたって継続していた可能性もうかがわれる。

第4遺構面の下層には、空気に触ると急速に酸化して灰褐色になる黒灰色粘質土(6-a)と、暗黒灰色粘質土(6-b)が堆積しており、その下面を第5遺構面としている。暗黒灰色粘質土(6-b)には非常に多くの遺物を含んでいる。この面では、ピット・土坑が点々と見られるが、第5遺構面の上面には、砂の流れ込みが多く見られ、たびたび浸水していたことがうかがえる。また、面として捉えることはできなかったが、北壁8ライン近くなどでは6層中に炭を含んだ落ち込みが見えている。G8・G9・H9付近には、炭を含んだ黒灰色粘質土(6-c)の堆積が見られ、多くの遺物を含んでいる。また、西壁では地床炉54とした被熱部分の断面が見えている。

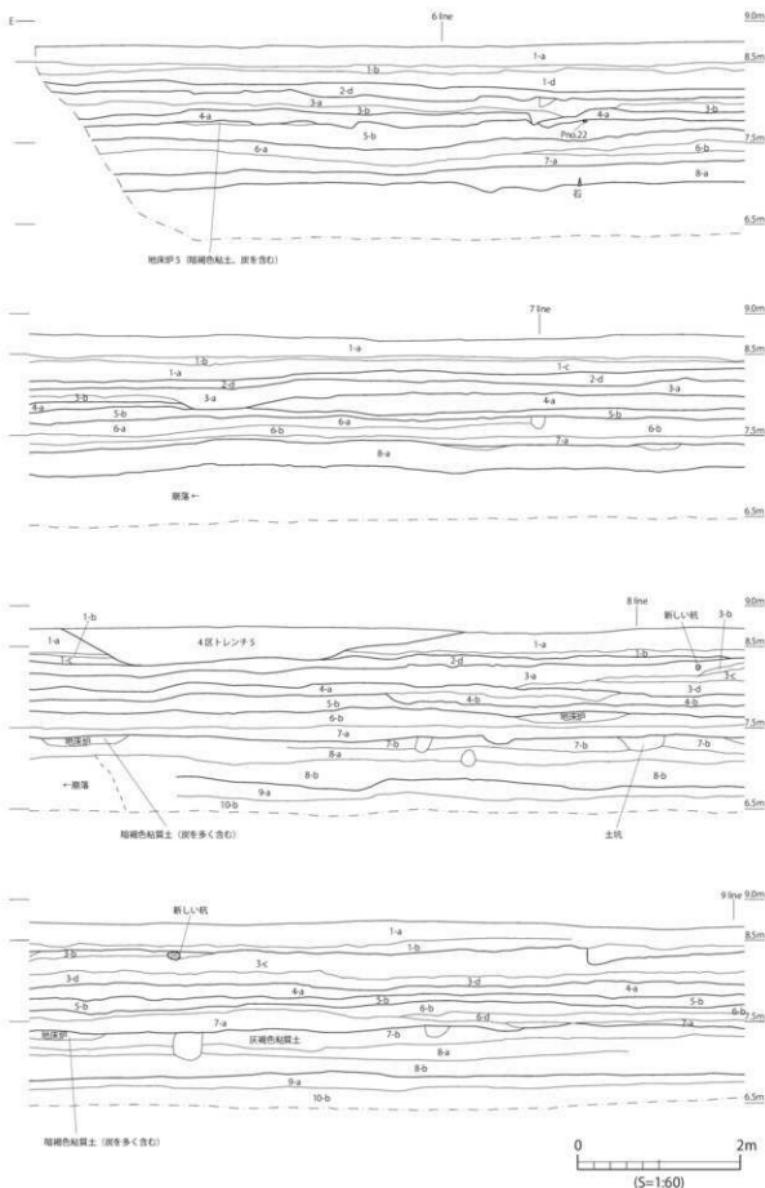
第1遺構面などで調査区北東隅をかすめていた河川流路跡(SD02・SR01)は、調査区外東に抜けた後、大きく蛇行してH10・H10付近で再び調査区内に入り込んできている。この流路の右岸で、I9南壁に接する付近からは水さらし場遺構を検出している。水さらし場遺構周辺の土層堆積状況は、第36図に示した。

第6遺構面とした部分は、標高7～7.5m付近に遺跡全体で見られる暗黒灰色粘質土(7-a)を除去した下面である。この層には、比較的多くの遺物を含んでいる上、何面かの黒色土層が入り込む部分があることから、この間にも数面の生活面があったと考えられる。第6遺構面では、遺跡全面で小さなピットを多数検出しており、9ラインレンチなどでも粘質土を含んだ落ち込みを検出している。第3～5遺構面で多く見られた焼土面は少なくなり、変わってピットが急増する。また、標高の低い西側での遺物出土量が減少する。

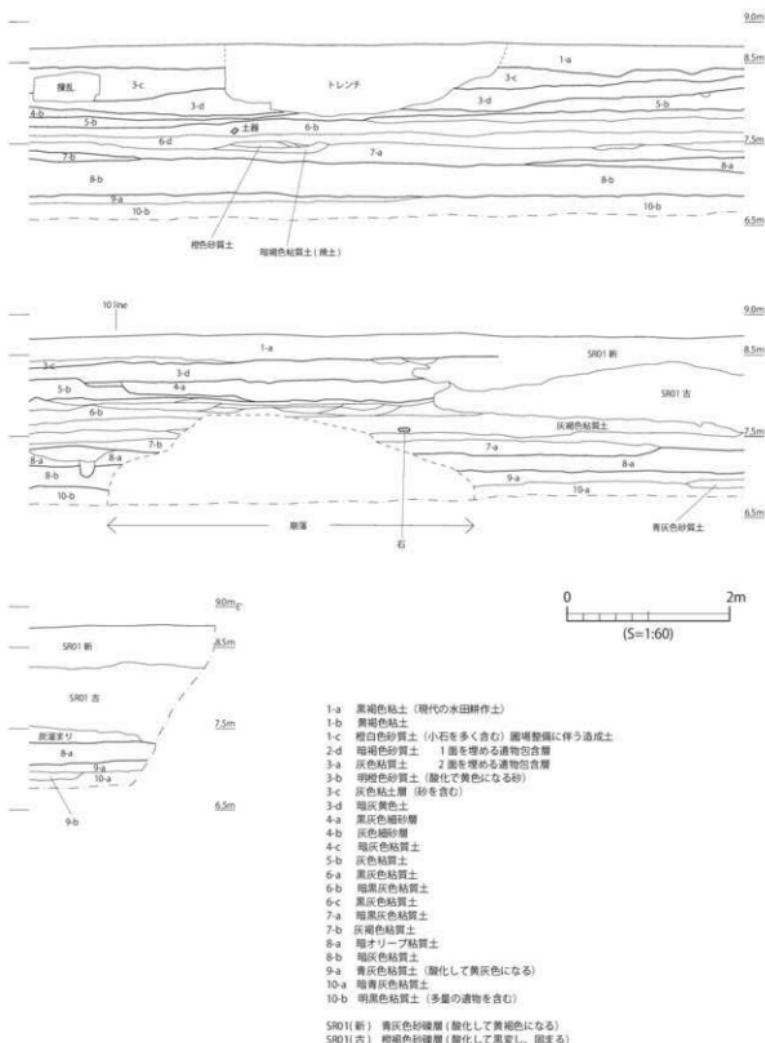
第6遺構面より下層には、細かい砂質土(8-a・b)が堆積しているが、この砂質土は、空気に触ると変色し始める層で、西側では黄灰色に見え、場所によっては暗青灰色に見える。西側では比較的の遺物が少なく、標高の高い東側に向かうと遺物量が多くなる。この包含層を除去した面を第7遺構面とした。この面では、焼土面はほとんど確認できなくなり、浅いピットや小さな土坑が多く見られるようになる。7ラインレンチの中程では、幅4m近くにわたって暗黒灰色粘質土が落ち込む部分があり、遺構と思われる。第8層は透水層で、湧水があるため、この層から壁面の崩壊が激しくなり、調査区西側では土層図が取れなくなる部分が出はじめた。

第8遺構面は、青灰色粘質土(9-a)を掘り下げた下面で、9ライン付近では標高約6.6mである。G10・H10付近では、暗青灰色砂質土(9-b)が厚く堆積(第12図)しており、この中からは大量的の遺物が出土している。この土は、東壁では標高約6.9m付近から堆積しており、西側に向けて大きく傾斜している。暗青灰色砂質土(9-b)が堆積している部分を除いた第8遺構面では、少數のピットが見られる。なお、この面のG6付近で柱根2点を検出しているが、後の検討で、上面(第7遺構面か)からの打ち込みと判断した。

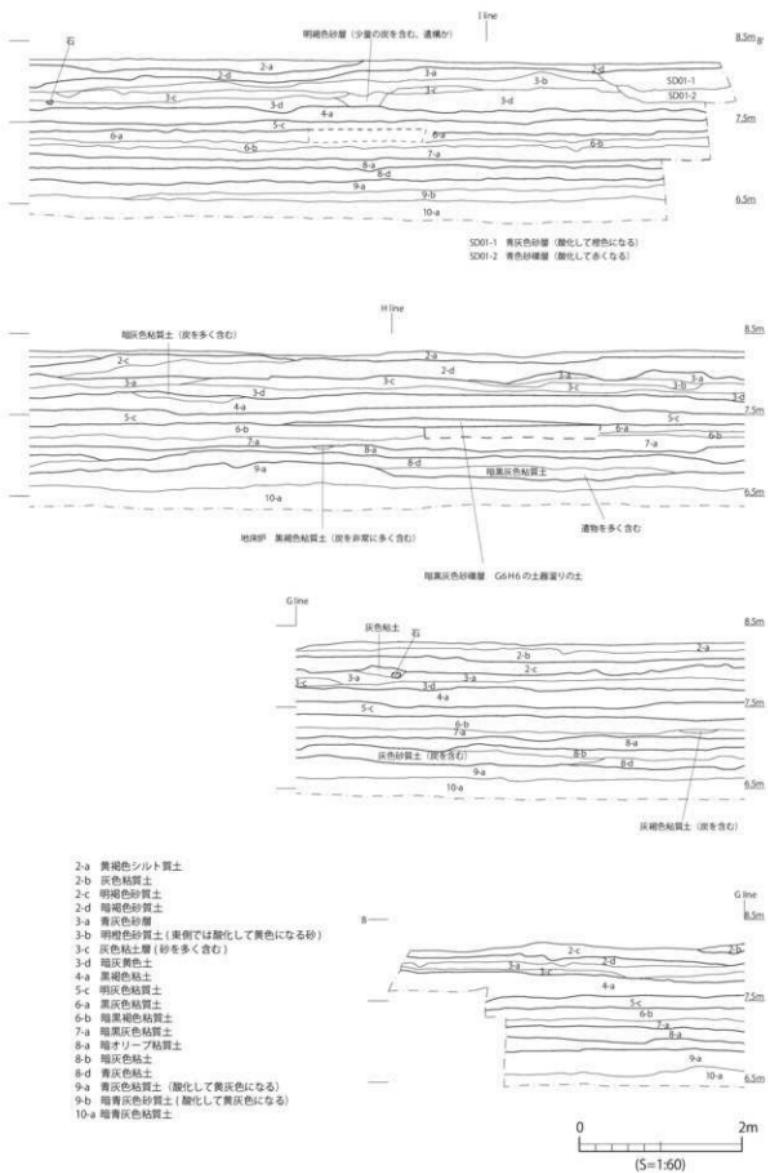
9ラインレンチでは、第8遺構面に当たる明黒色粘質土(10-b)より下層を掘り下げ、標高約6.2m付近で青灰色砂礫層(12)に当たることを確認している。砂礫層には遺物を含んでおらず、



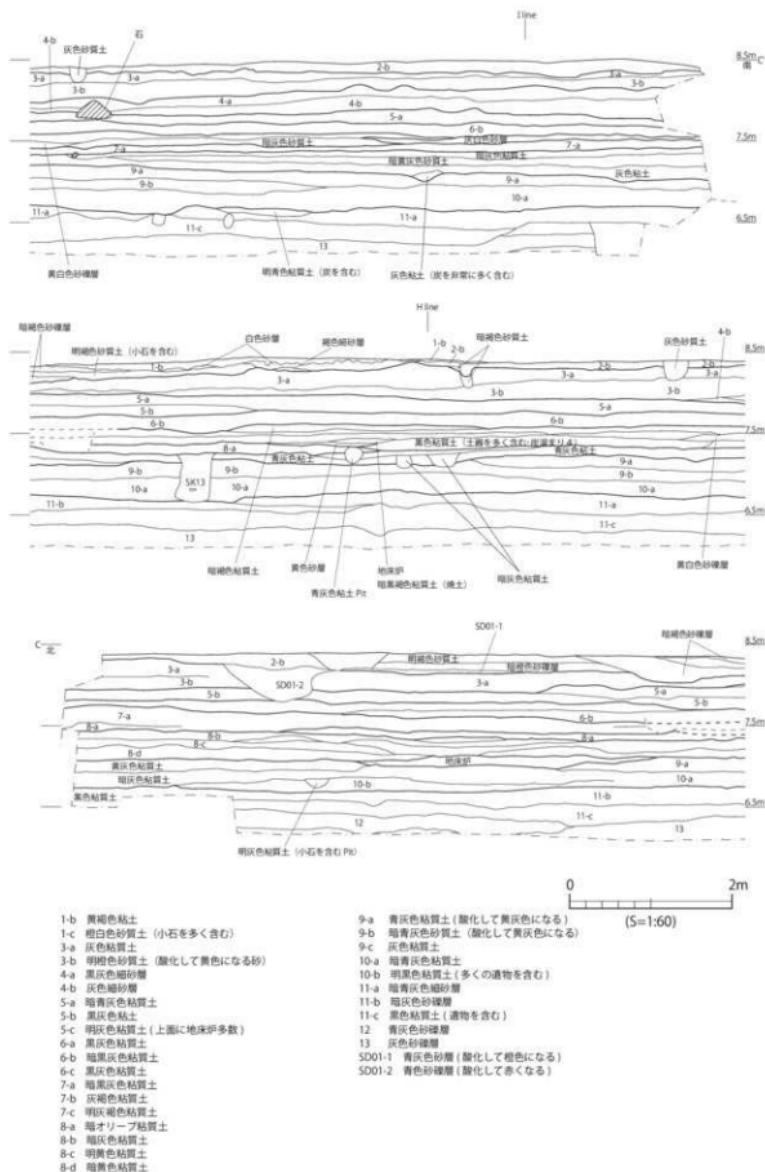
第6図 調査区北壁土層堆積状況 (E-E')(1)(1:60)



第7図 調査区北壁土層堆積状況(E-E')(2)(1:60)



第8図 7 ライン土層堆積状況 (B-B')(1:60)



第9図 9 ライン土層堆積状況 (C-C')(1:60)

湧水が多いことから潮川の川底と思われる。砂礫層上面には、部分的に暗灰色砂礫層(11-b)が見られ、遺物を含んでいる。この土層は、南側でやや上がり、明黒色粘質土(10-b)中で見えなくなることから、南側に広がっていた可能性がある。トレント北側には砂礫の堆積が斜めに入り込んでおり、潮川の堆積によるものか。

3. 第1遺構面の遺構・遺物

第1遺構面は、耕作土・造成土とその下層にある遺物包含層である黄褐色シルト質土・灰褐色粘質土を除去した面で、西側で標高約7.9m、東側では標高約8.5mを測る。ピットや性格不明の土坑のほか、遺跡を東西に貫流する溝(SD01)を検出している。また、北東隅には河川による自然流路(SR01)が見られた。遺物包含層は、西側では比較的厚く見られたが、東側では薄く、近年に行われた圃場整備に伴う改良土が遺構面近くまで達している。このため、9ライン付近から東では、耕作土直下に遺構が見える状況であった。

調査区西側のF5～F6付近では北に延びる凹凸が見られ、平成25年度B区で検出された水田遺構に関わる可能性も考えられたが、明瞭ではない。また、調査区東側のH10からG10にかかる場所と、F10の自然流路にかかる場所で炭や土器片の詰まった長方形の土坑を検出し、SX01・02と呼んだ。この他、H9付近を中心に、炭化物の入った複数の不定形な土坑(SX03・05～09)が見られる。

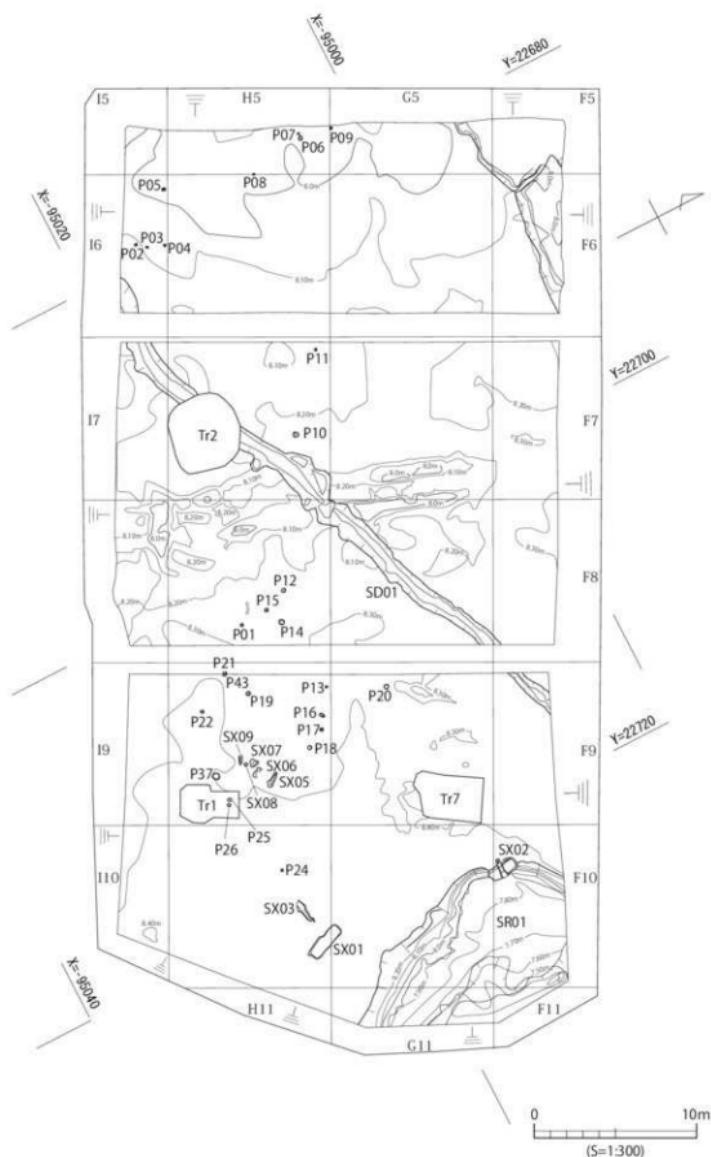
自然流路(SR01)は、調査区北東隅をかすめており、東岸は調査区外となる。東壁で確認できる深さは1.4m以上あるが、厚さ50～60cm程の単位で、ほぼ均質な砂利層であることから、深い川が一気に埋まった訳ではなく、細い流路が時間をかけて埋まっていたものであろう。流路の内部には鉄分が多く含んだ砂利層が厚く堆積しており、空気に触ると酸化して黒変し、時間が経つと固まってしまう。流路内の遺物はきわめて少なく、摩滅した土器の小片がわずかに見られるのみであった。長方形の土坑(SX02)は、この流路を埋める砂利層を掘って造られていた。

第1遺構面では、調査区を斜めに横断するSD01を挟み、南側には点々と遺構が見られる一方、北側には明確な遺構が少ない状況が見られる。

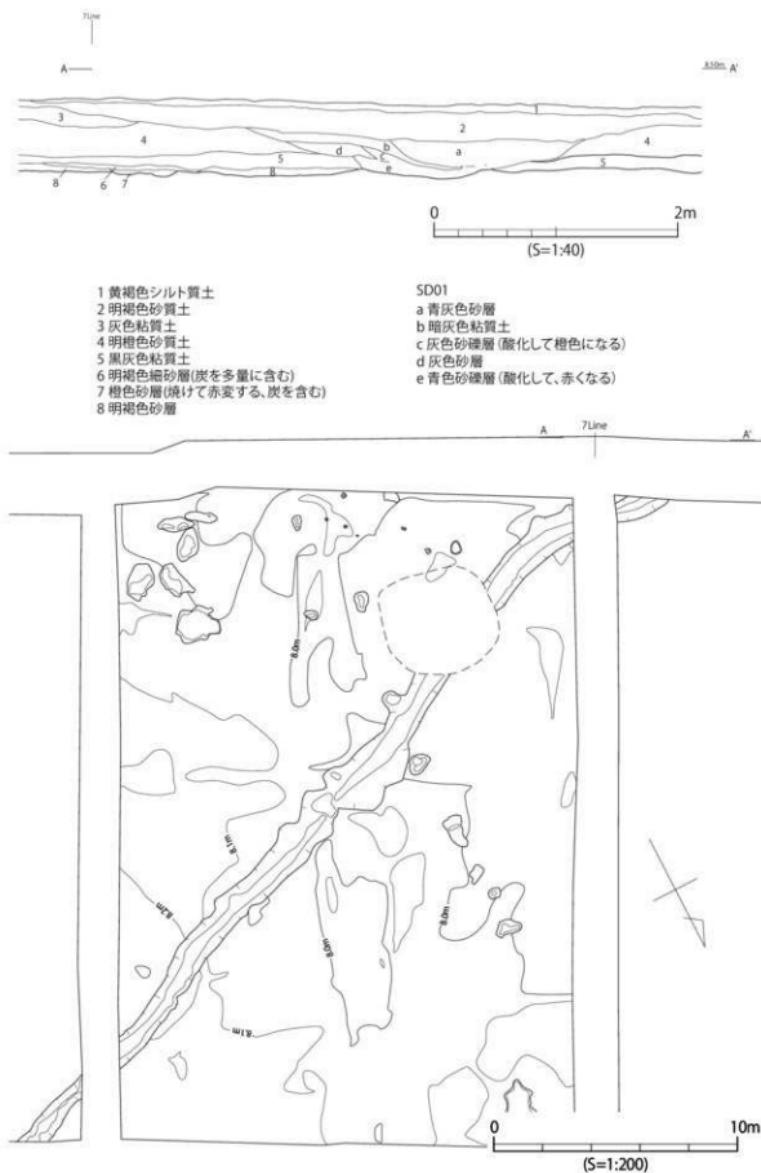
SD01(第11図) 調査区中央には、ほぼ東西方向に幅約120cm、深さ約50cmで、断面V字形の溝(SD01)が直線的に延びている。この溝は、東から西に向けて流れていると思われ、床面の標高は、東側のG9付近で約7.8m、西側のI7付近で約7.7mを測る。この溝は、D区内ではほぼ直線的に延びているが、西側のI6付近でわずかに南へ屈曲している。SD01は、平成25年度B区から平成26年度C区、平成27年度H区にも続いていることが確認されており、少なくとも東西120m以上連続して古屋敷遺跡全体を貫流している。

SD01には空気に触ると酸化して赤褐色になる青灰色砂質土や砂礫が堆積しており、流水があったことが判る。また、9ライントレント沿いに設定した畦(第9図下段)では、SD01の周囲にも砂質土の堆積が見られ、あふれ出した様子が見られる。土層堆積状況では、砂の堆積が4層以上に分かれているように見え、長期間にわたって使用され、少しづつ埋まっていた様子が観察される。

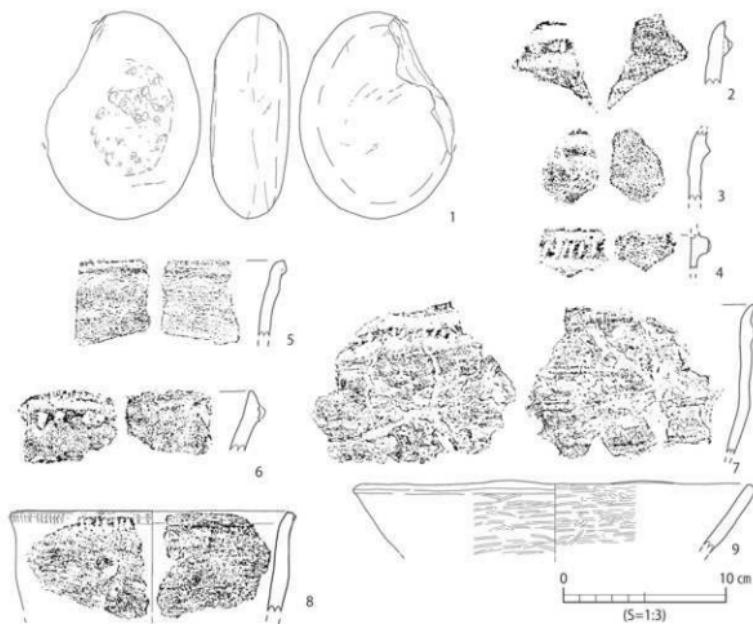
SD01の内部を掘削していくと、溝底から中程の中央付近には遺物はほとんど入っていないが、SD01の両肩近くに堆積した砂礫層からは遺物が出土しており、これらには突帯文土器と弥生土器



第10図 第1遺構面遺構配置図(1:300)



第11図 SD01 実測図 (1:200、土層図は 1:40)



第12図 SD01出土遺物実測図(1)(1:3)

の両者を含んでいる。

SD01は、D区内では素掘りの溝であったが、平成27年度H区では、蛇行する流路の攻撃面に杭を連続的に打った場所が見られることが判っている。また、出土遺物や位置関係から、平成25年度B区で検出された水田遺構^(註1)に関わる可能性もあり、東の山際を流れる河川から取水した、人工的な灌漑水路であろうか。

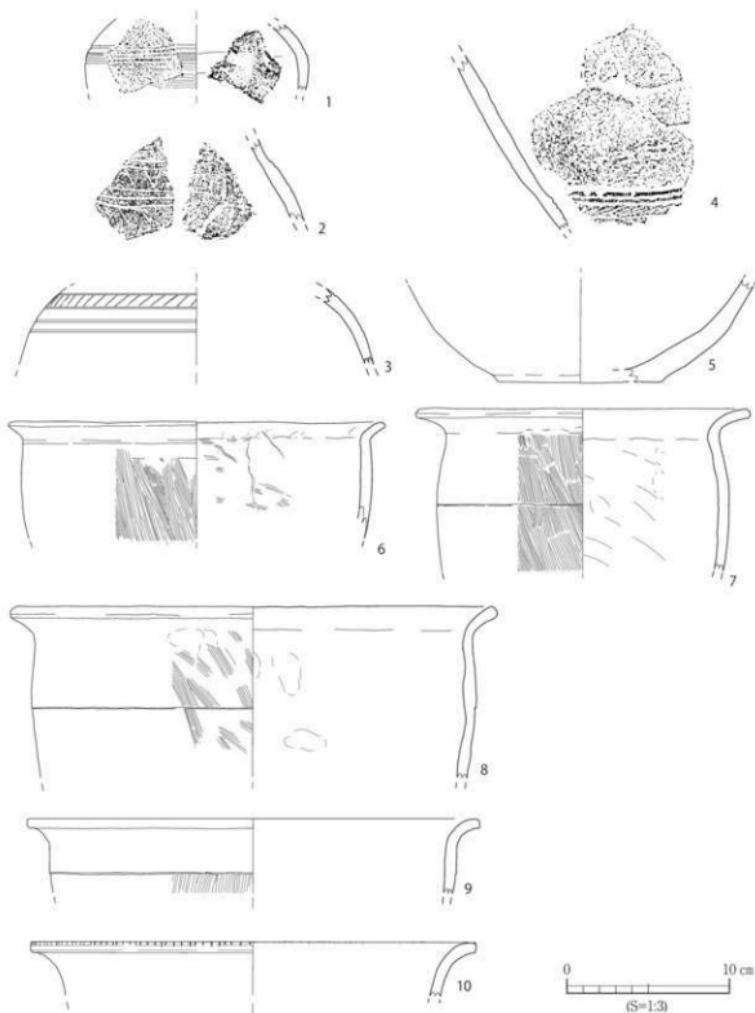
SD01出土遺物 第12・13図にはSD01から出土した遺物を示した。

12-1は磨石・敲石である。長径12.7cm、短径9.6cmの楕円形で、厚さ4.8cm、重量は715gを測る。片面に打痕が集中し、側縁には磨痕が多く残る。側縁の一部を欠いている。

12-2～8は突帯文土器深鉢である。12-2・7は口縁端部より一段下がった位置に刻み目突帯を貼り付ける。12-2は、棒状工具の側部による刻目。12-4・7はヘラ状工具による。12-5は口縁端部を外側に折り曲げ低い突帯にしたもの。12-6は口縁よりやや下がった位置に突帯を貼り付け、竹管の先を加工した工具を刺突したもの。12-8は口縁端部外面に低い突帯をめぐらし、ヘラ状工具による浅い刻目を入れたもの。

12-9は浅鉢である。口径約24cmで、器壁が厚く、口縁端部に面を持つ。体部は直線的に伸びる。内外面とも横方向のヘラミガキを密に施している。

13-1～4は弥生土器壺の肩部である。13-1は小型の壺で、胴部最大径近くに3条のヘラ描き直線文を引き、その上位に木葉文を描く。13-2は2条ずつの直線文の下位にヘラ描き鋸歯文を描い



第13図 SD01 出土遺物実測図(2)(1:3)

ている。13-3・4は、斜行線を連続して引いているが、有軸羽状文の半分を欠くものか。13-3はヘラを、13-4は二枚貝の腹縁を使用している。

13-5は、弥生土器壺の底部と考えられるものである。平坦な底面から体部が内湾気味に立ち上がる。摩滅しており調整は判らない。

13-6～10は弥生土器甕である。13-6～9は口縁部を外側に折り曲げる甕で、体部外面をハケ

メ調整する。13-8・9は、頸部と体部の境目に段があり、13-8は段より上にもハケメが残り、頸部内外面に指頭圧痕が見られる。13-10は口縁部外面に面を持ち、口縁端部上面にヘラ状工具による浅い刻目を施している。

SX01(第14図)

SX01は、H10で検出した長さ約2.3m、幅約70cm、深さ約15cmを測る、長方形の浅い土坑である。床面は平らで壁面が直立

し、西壁のうち、北半

はわずかにオーバーハンプする。検出面の直上まで耕作土が及んでおり、上面は大きく削平を受けていると思われ、本来の深さは判らない。土坑の床面には炭を含んで硬く締まった黒色粘質土が充満しており、床面・壁面は被熱し赤変している。

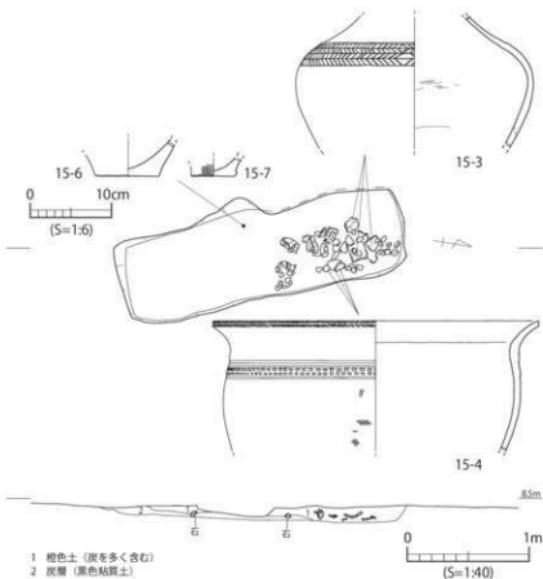
土坑の南半は、上層の耕作が及んで破壊されている可能性があるが、北半部では、炭を含んだ黒色粘質土の上層に堆積した橙色土から多量の土器片が出土した。SX01の用途は判らないが、火を焚いた形跡がある上、土坑の内部にはほとんど空間を残していないことから、墓ではないと思われる。

SX01出土遺物

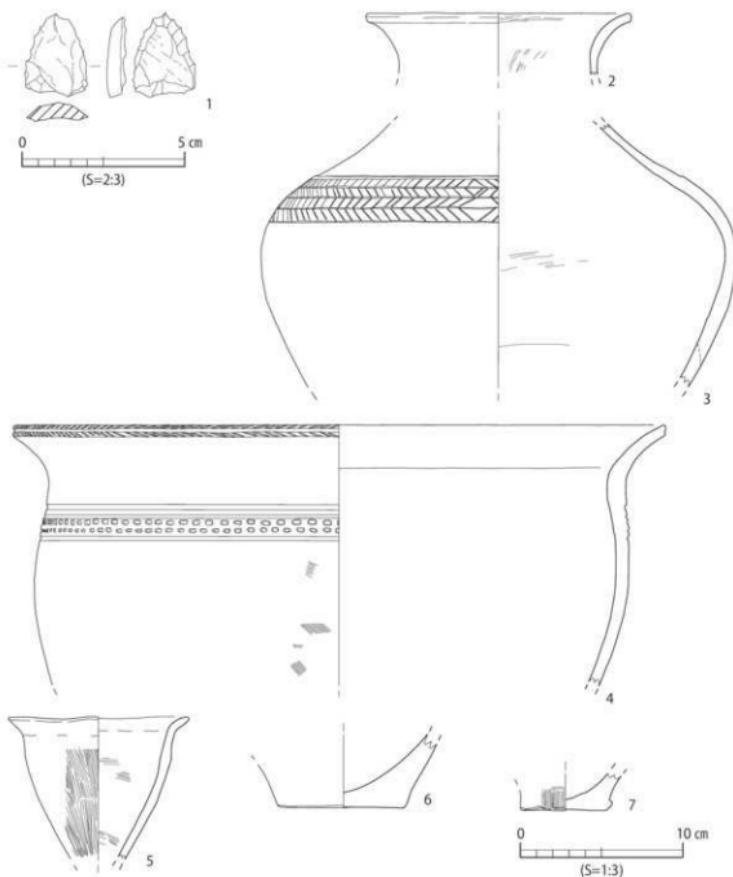
第15図にはSX01から出土した遺物を示した。
15-1はガラス質安山岩の石錐である。先端近くまで厚みを残しており、鋭利さを欠く。未製品か。
15-2は、弥生土器壺の口縁部で、外面は風化が進んでいるが、内面側にはわずかにハケメを残している。15-3は弥生土器壺の体部である。肩部に線描きの有軸羽状文を2段施し、内面にはハケメを残す。15-4・5は弥生土器壺である。15-4は復元口径は約40cmにもなる大型の壺で、口縁部、肩部に装飾を施すものである。口縁部外面に面を作り、沈線を挟んでヘラ描きの羽状文を描く。頸部には、ヘラ描き沈線間に梢円形の刺突を2段重ねてめぐらしている。内面調整はナデか。
15-5は小型の壺で、復元口径は約11cmである。内外面にハケメを残している。

15-6・7は弥生土器底部で、いずれも壺か。15-7は、外面に縱方向のハケメを残す。ゆがみが大きく、左右非対称。SX01から出土した土器類は、弥生土器I-2様式と思われる。

SX02(第16図) SX02もSX01と同様の土坑で、G10付近の自然流路(SRO1)の肩部で検出した。長さ1.6m、幅約70cm、深さ約20cmを測り、不整形となっているが、東側の肩は自然流路によつて壊されているため、SX01と同様に長方形を呈していたか。遺構の半分がSRO1にかかり、床面



第14図 SX01 実測図 (1:40、遺物は1:6)



第15図 SX01出土遺物実測図(1:3、1のみ2:3)

は平らでない。内部にはよく締まった灰褐色土が流入しており、土器片と石を多く含んでいた。床面直上には炭層が見られ、壁面も部分的に赤変している部分が見られることから、火を焚いた遺構であろう。SRO1に堆積した砂礫層を掘り込んで造られており、この砂礫部分も酸化して黒く変色している。SX01と同様に上面が大きく削平されていると考えられ、本来の深さは判らない。

SX02出土遺物 第17図には、SX02から出土した遺物を示した。

17-1は、大型石包丁である。残存長8.8cm、残存幅8.2cm、厚さ0.5cmで、重量は43gを測る。上方に穿孔が1ヶ所施される。原形の半分程度を失っていると思われる。緩やかに湾曲する刃部は片刃。背面に筋切り痕を残している。

17-2は磨製石斧である。基部の片面と刃部を欠き、風化により摩滅している。17-3も泥質片岩

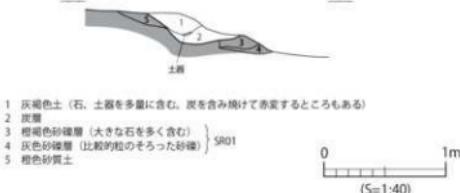
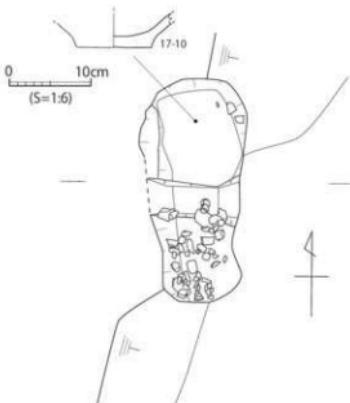
製の磨製石斧で、各面ともよく研磨されている。刃部近くに使用痕が見られる。

17-4・5は弥生土器壺の口縁部である。頸部外面にわずかに段を残す。

17-6は小型の弥生土器壺である。頸部に段ではなく、浅い直線文をめぐらす。17-7は壺の口縁部で、強く火を受けた痕跡がある。17-8～11は底部である。

第1遺構面のその他の遺構 (第18図)

H9付近には、炭化物を含む不定形の小さな土坑(SX03・05～09)が集中して見られる。いずれも灰や焼土ブロックを含む硬い土壤で、土器片を含んでいるものが多い。これらは、SX01・02と同様の遺構の下部のみが残存したものとも考えられるが、本来の形状や機能は



第16図 SX02実測図(1:40、遺物は1:6)

判らない。周囲には、柱穴状の小さな落ち込みもいくつか見られたが、建物となるような並びは確認できなかった。

第1遺構面のその他の出土遺物 第19図には第1遺構面出土の石器・石製品を図示した。

19-1は縦長の剥片である。断面三角形を呈し、両側縁に細かい加工はない。未製品か。

19-2は玉髓製の剥片である。19-3はガラス質安山岩の剥片でスクレーパーか。

19-4は扁平片刃石斧である。刃部の一端と基部を欠く。

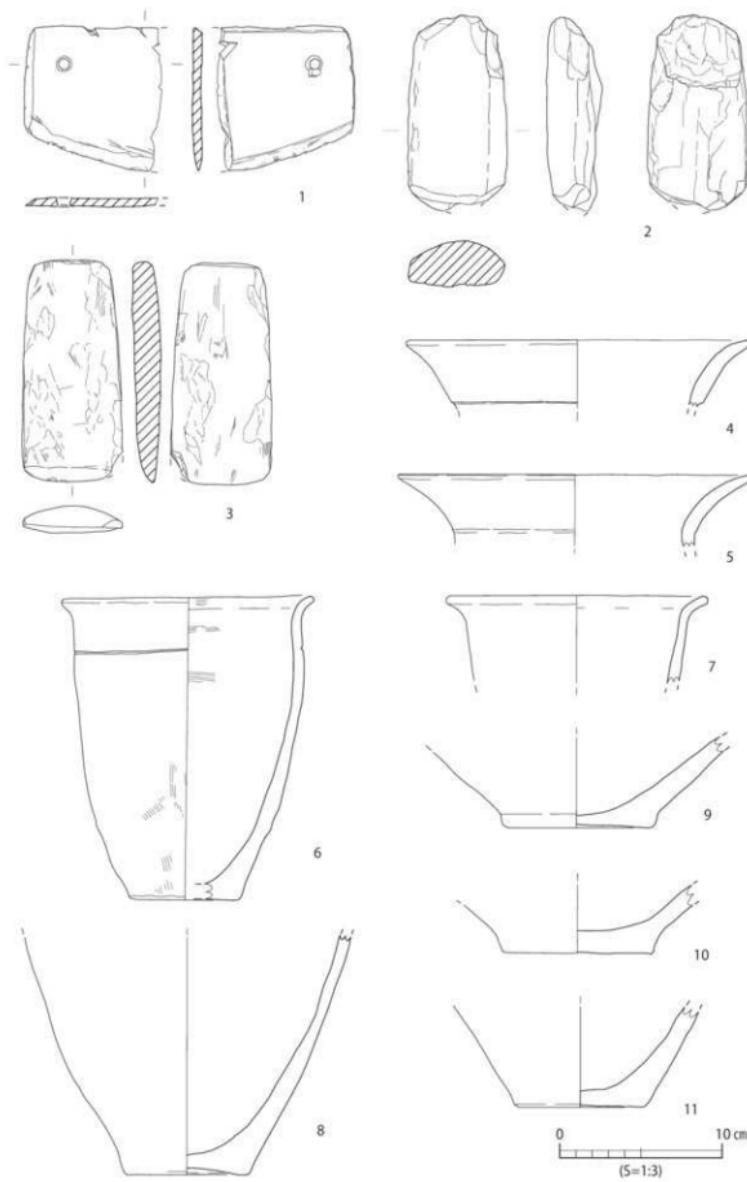
19-5はよく研磨された板状の石で、砥石か。両面に研磨痕が見られる。

19-6は敲石である。各面に打痕があるが、磨痕はほとんど見られない。およそ半分程度を欠いている。

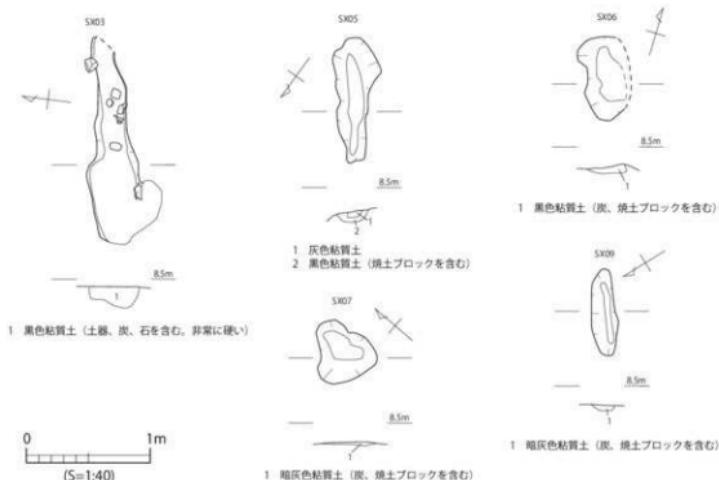
第20図には第1遺構面から出土した土器類を図示した。

20-1～6は突帯文土器である。20-1・2はヘラ状工具による、20-3・4は先を加工した竹管状の工具による刻目を施す。20-4は波状口縁になるか。20-6の突帯は無刻で、薄い口縁端部を外側に折り曲げる。20-7は口縁端部を外側に折り曲げ、わずかに垂下させるもの。頸部にハケメ状の痕跡をわずかに残すが、刻目等は見えない。

20-8は胴部最大径近くに断面三角形の突帯をめぐらすもので、縄文土器壺の胴部か。径に対し



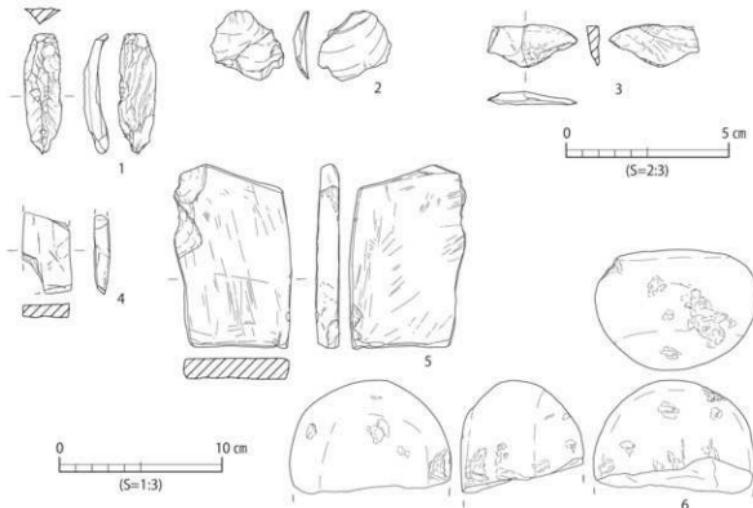
第17図 SX02出土遺物実測図(1:3)



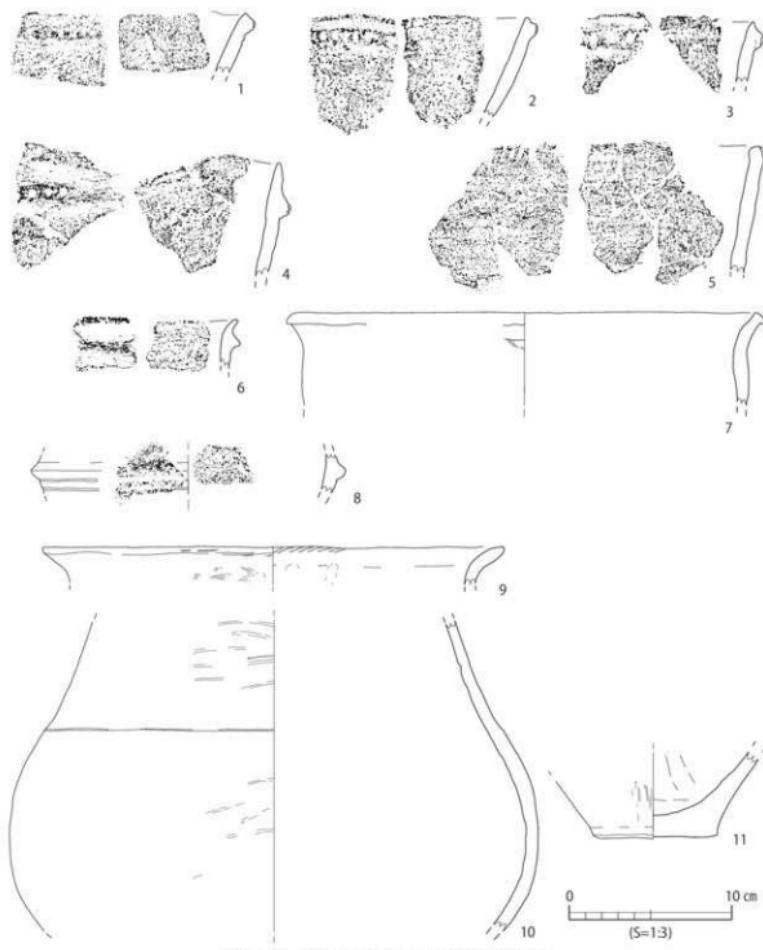
第18図 第1遺構面のその他の遺構実測図 (1:40)

て器壁が厚い。

20-9～11は弥生土器と考えられるもので、20-9は弥生土器裏の口縁部である。口縁端部上面側にハケメ原体による刺突状の痕跡が残る。20-10は壺の胴部で、肩部にわずかに段を残し、胴部最大径が下位にある。外面調整は横方向のハケメがわずかに残る。20-11は底部で、外面にハケメ



第19図 第1遺構面出土石器実測図 (1:3)



第20図 第1遺構面出土土器実測図 (1:3)

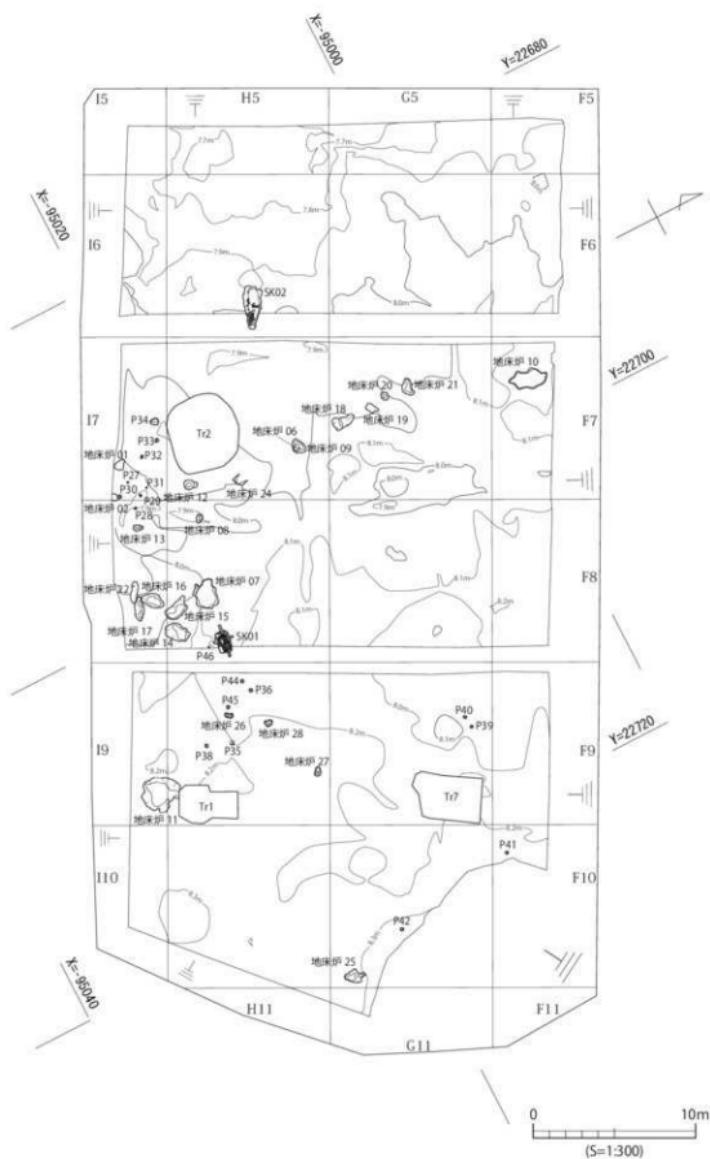
を残す。

〈註〉

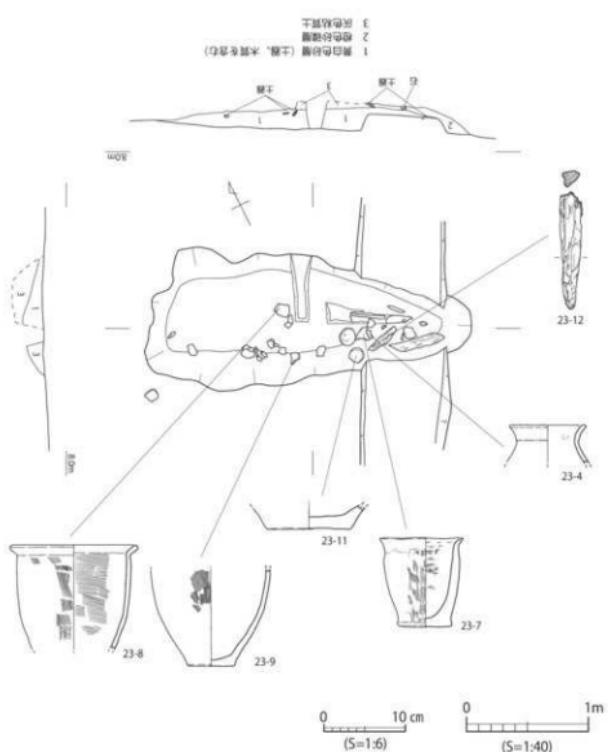
- (1) 平成25年度に調査を実施した古屋敷遺跡(B区)では、弥生前期の水田のと考えられる畦畔を検出している。古屋敷遺跡(B区)の発掘調査報告については、平成29年度に刊行予定。

4. 第2遺構面の遺構・遺物

灰色粘質土を除去した西側の標高約7.8m、東側の標高約8.1m付近で、地床炉や土坑を面的に



第21図 第2遺構面遺構配置図(1:300)



第22図 SK02実測図(1:40)、遺物は1:16)

器類を含んだ土坑があり、SK02としている。SK02は、暗灰黄色土(3-d)上面あたりから掘り込まれており、厳密に言えば、第2遺構面よりも少し高い位置の遺構である。

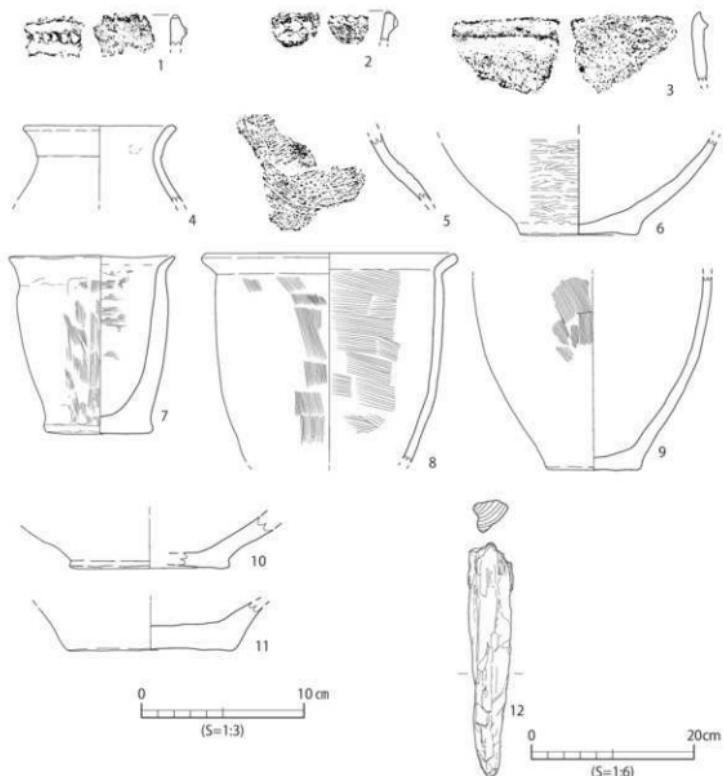
SK02(第22図) SK02は、H6東側の標高約7.8mで検出した土坑である。長さ約2.6m、幅1.2mの平面柳葉形で、検出できた深さは約20cm。砂地に掘られており、床面は明瞭ではない。埋土中には、突帯文土器・弥生土器のほか、少量の木片が見られた。突帯文土器はいずれも小片で混入品と思われるが、弥生土器と考えられる個体には比較的大きな破片や底部が含まれており、土坑内に置かれていた可能性が高い。埋土中に炭などは含まれておらず、火を受けた形跡もない。また、残存状態が悪く、形状を保って取り上げることができなかったが、23-12以外にも複数の木製品が入っていたようである。

SK02出土遺物 第23図にはSK02から出土した土器、木製品を図示した。

23-1～3は、突帯文土器の小片である。23-1・2は口縁端部を刻み、外面に刻目突帯を貼り付けたものである。23-3は無刻の突帯を口縁部からわずかに下がった位置に貼り付けている。

23-4は、弥生土器の壺である。頸部にハケメ原体を使用した段があるが、摩滅により体部のハ

検出し、第2遺構面(第21図)と呼んだ。第2遺構面では、H8付近を中心、地床炉や小規模な柱穴状の落ち込みが点々と見られる一方、調査区西側では遺構が少ない。また、第1遺構面検出作業中に9ライントレンチで板状木製品を検出したことから、先行して周囲を掘削し、木棺墓の可能性がある遺構(SK01)を発見した。同様に、7ライントレンチに掛かるH6東側でも土



第23図 SK02出土土器・木製品実測図 (1:3, 12のみ1:6)

ケメは見えない。23-5は、弥生土器壺の肩部と思われる。SK02内から出土した破片に包含層から出土した破片が接合した。3条の平行する曲線が、水平方向から上に向けて屈曲し、その両側に細かい直線が連続的に延びている。3条の曲線は、頸部を水平にめぐる方向にはなっておらず、一般的な文様ではない。線刻による絵の可能性があるか。

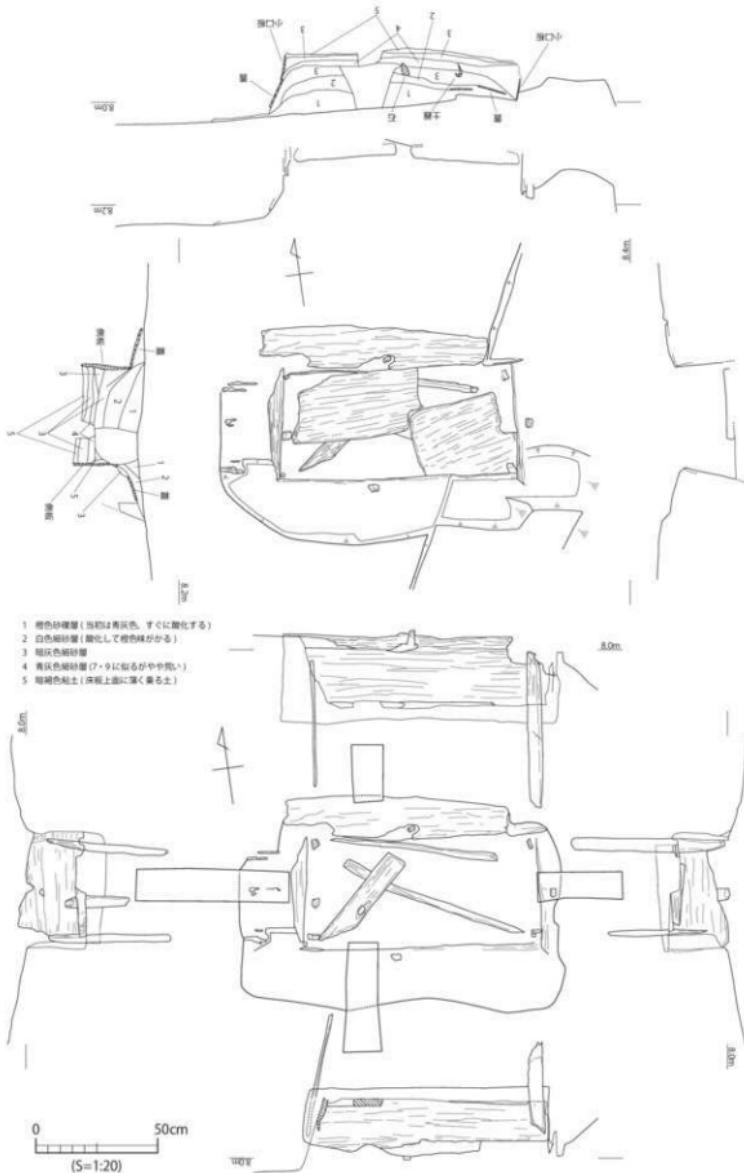
23-6は、弥生土器壺の底部である。外面は横方向のミガキ、内面はナデ調整される。

23-7～9は、弥生土器壺である。体部は内外面ともハケメ。23-10・11は弥生土器壺の底部と思われる。SK02から出土した弥生土器は、いずれもI-2様式に含まれると思われる。

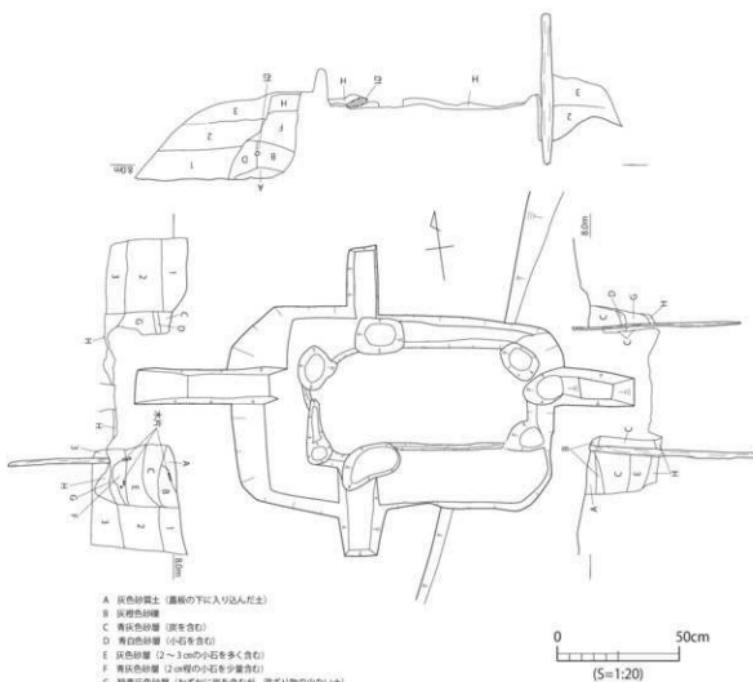
23-12は、SK02から出土した杭状の木製品である。針葉樹の丸太を1/4程度に割ったもので、残存長約30cm、太さ4.5cmで、下端を尖らせようとしている。

SK01(第24～27図) H8東側の9ライントレンチ掘削中に木製の板・杭を検出し、周辺を精査したところ、木棺墓と考えられる土坑(SK01)を検出した。

SK01は長さ135cmの土坑の中に針葉樹の板材を箱形に組んだもので、木棺とした部分は、長



第24図 SK01 土層堆積状況(1)(1:20)

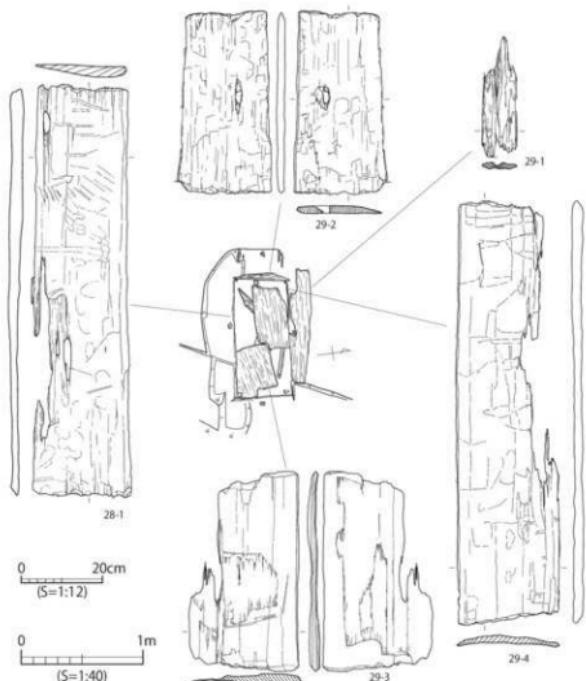


第25図 SKO1 土層堆積状況(2)(1:20)

辺98cm、短辺40cm、深さ20cmを測る。側板・小口板とそれらを支えた杭、床板のほか、床板の下に組まれた棧がほぼ完全な状態で残されていた。

検出面では、東西123cm、南北72cmにわたって、薄い木片の広がりが見られ、中央部が内部に大きく落ち込んでいる。これは木棺の蓋と思われるが、このうち、残存状態の良好な北側の材は、側板と明確に分離できず、側板の上部が外側に倒れたように見える。この材の西側の端部が、小口板西側に残る蓋板の長さに達していない点も注意される。蓋の材は、残存状況が非常に悪く、形状を保って取り上げることがほとんどできなかった。

側板と小口板は、西側では、側板の外から小口板が置かれているが、北東側では、側板が外側に出ており、側板と小口板の関係は左右対称になっていない。内側の四隅と、北側・南側・東側の外側中央に杭が打たれ、それぞれ側板・小口板を固定している。また、西小口板の内側中央にはやや太く短い杭が打たれている。この杭の上部の形状は判らないが、打ち込まれた深さが他の杭に比べ極端に浅いことから、墓標のような役割をしたものだろうか。ただし、蓋板の残存状況が非常に



第26図 SK01 棺材配置図(1)(1:40、棺材は1:12)

悪かったため、蓋側がどうなっていたかは確認できない。

上面から流れ込んだ白色細砂と内部に落ち込んだ蓋の材を除去すると、還元された細かい砂が入り込んでおり、最下層には暗褐色を呈した粘性の強い粘土が見られた。この粘土の下面に2枚の底板が置かれている。西側の底板がやや大きく、角が切り欠かれ、この切り欠きにかけて、互い違いに置かれている。2枚

の床板の下には棒

状の材3点が置かれており、床板を墓坑底面から持ち上げるための棧だと思われる。

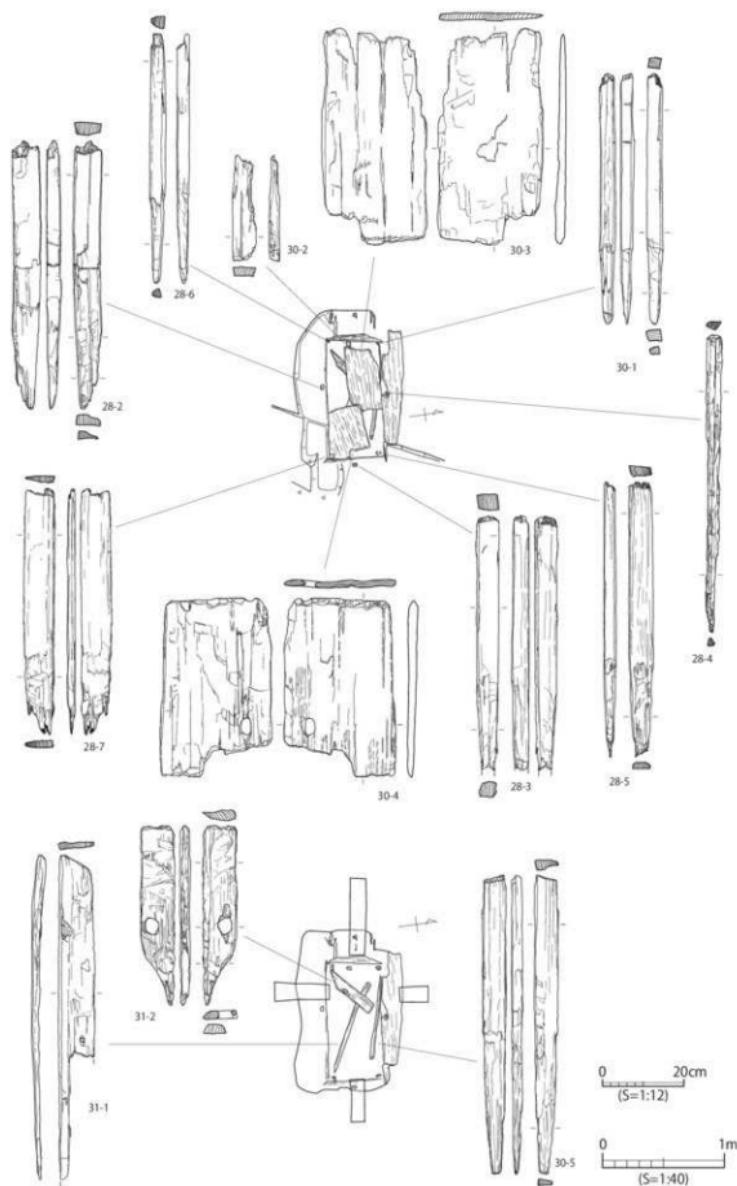
土坑の底部は平らではなく、棺底に当たる部分がやや高く、西小口と側部が深い。東小口は、小口板のすぐ外側には第2遺構面の地山が迫っており、土坑の東側に寄せて棺が組まれたことが判る。D～F・Hの砂には、小石が含まれており、周囲の土とは明らかに異なることから、この木棺墓を埋め戻した土砂であろう。一方、A～Cの砂は周囲の土と同質で、流れ込んだ土と思われる。棺内の1・2の砂も同質に見え、流れ込んだものか。Cの堆積は、場所によっては10cm以上の厚さがあることから、土坑内は完全に埋め戻されてはおらず、かなり大きな隙間があったと想像される。

人骨は残っていないが、土坑の中に板が組まれた構造や自然化学分析の結果^(註1)から、木棺墓と考えられる。また、木棺の全長が約1mと小型であることから、小児墓だったと思われる。

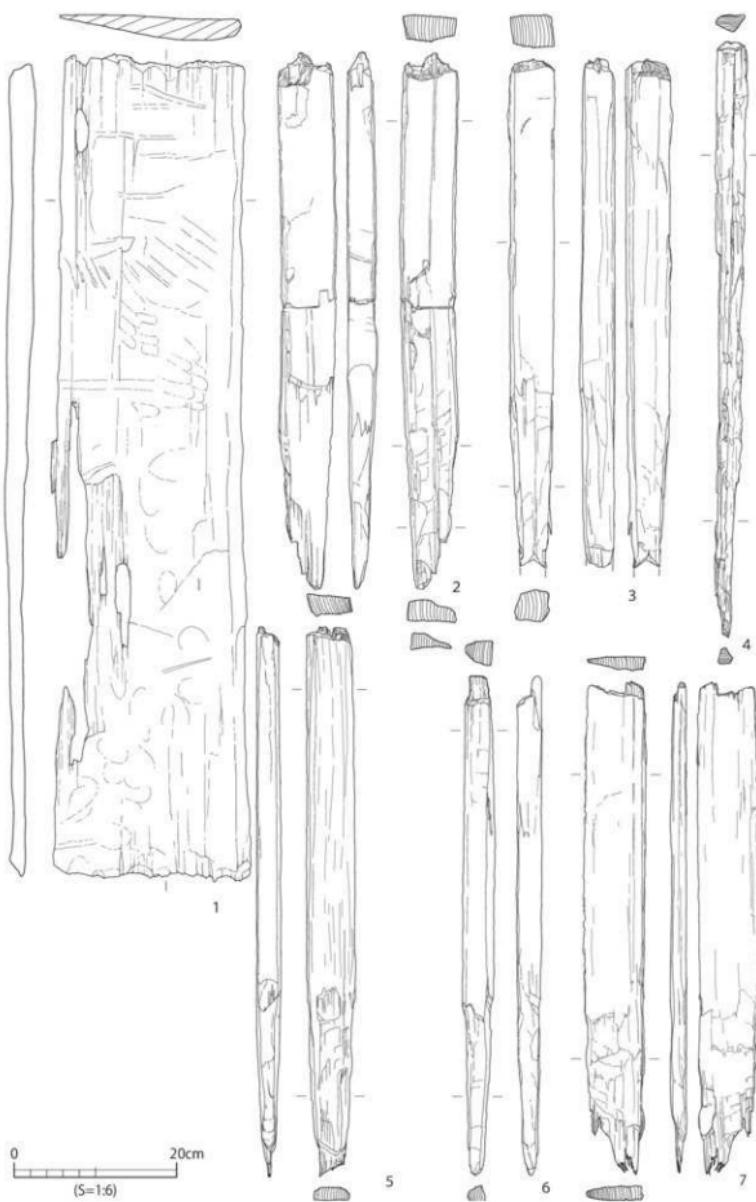
棺内に副葬品は見られなかったが、棺外から小さな管玉(32-3)1点が出土している。棺蓋上に置かれたものが、棺外へ落ちたか。また、棺外の埋土からは突帯文土器の破片(32-1・2)2点が出土している。

SK01に使用された棺材 第28～31図には、SK01に使用された木製部材を示し、その配置状況を第26・27図に示した。

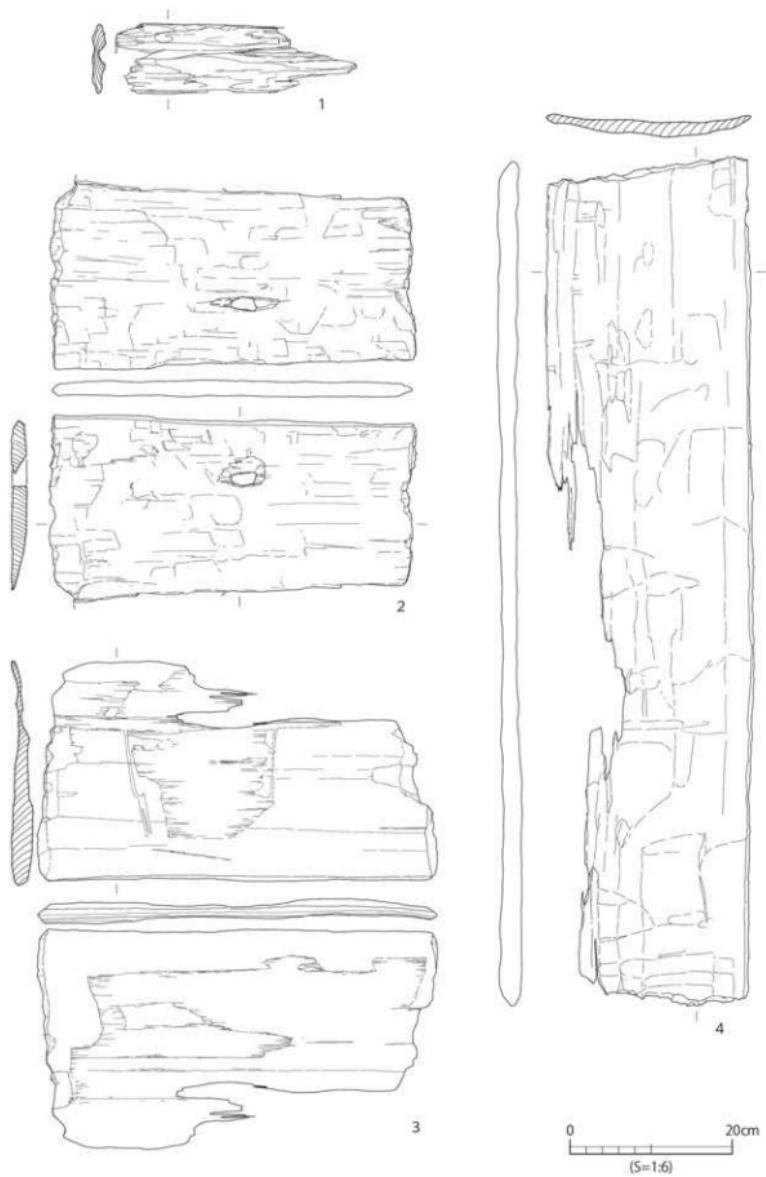
蓋と思われる材は、いずれも薄く、保存状態の悪いものが多かったため、原形を保って取り上



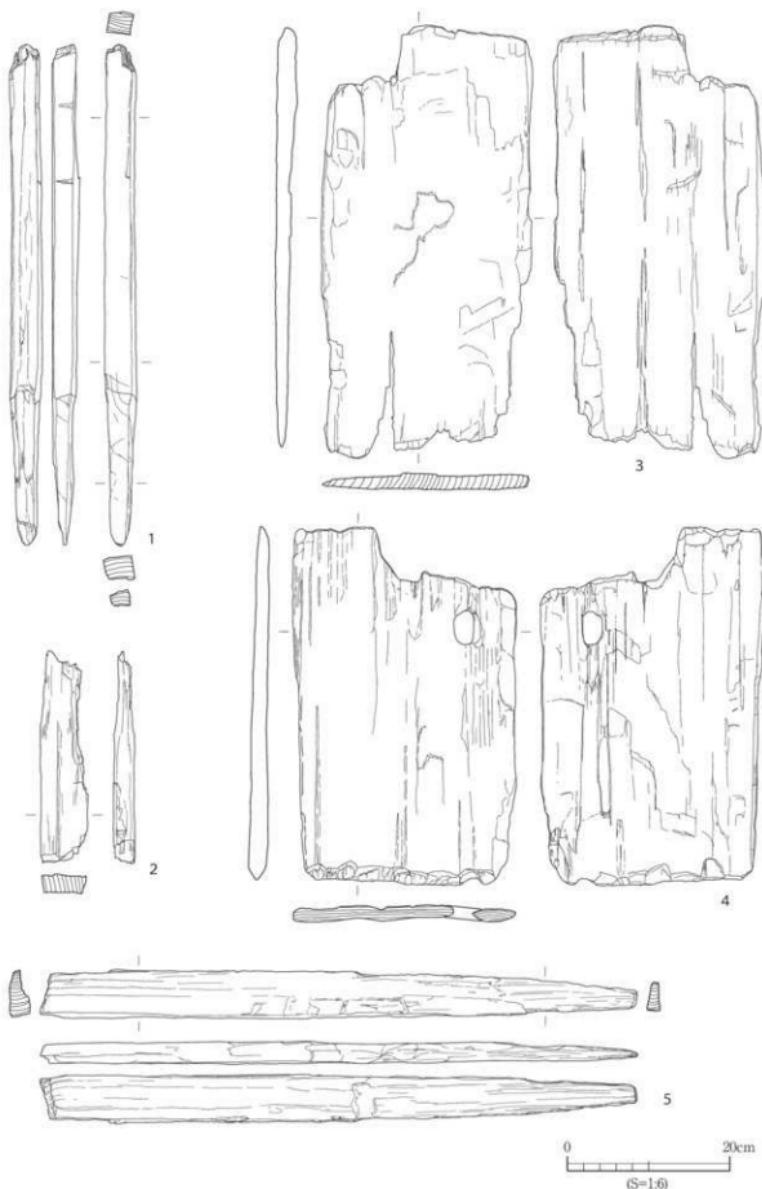
第27図 SK01 棺材配置図(2)(1:40、棺材は1:12)



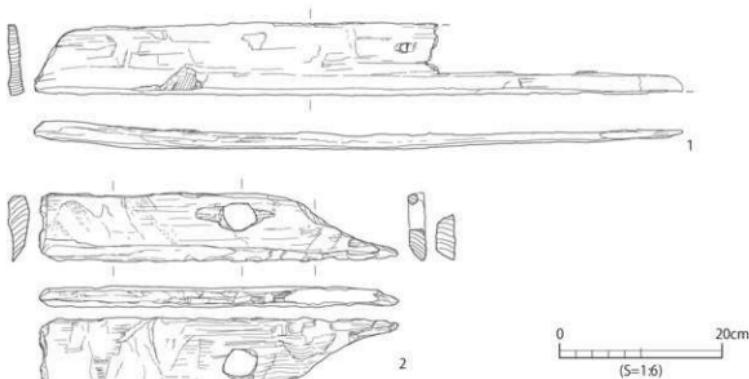
第28図 SKO1出土木製品実測図(1)(1:6)



第29図 SK01 出土木製品実測図(2)(1:6)



第30図 SK01 出土木製品実測図 (3)(1:6)



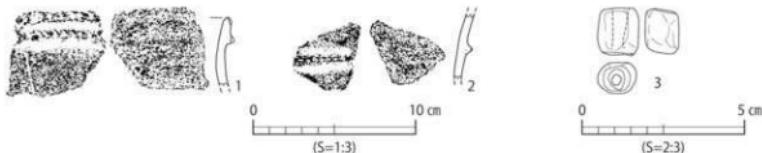
第31図 SK01出土木製品実測図(4)(1:6)

げることができなかつたが、29-1はSK01の西側で取り上げた蓋の一部の可能性がある。ただし、前述したように、他の蓋の材に比べてやや厚く、西小口側の蓋の残存部に達しない長さで終わつており、現場では側板(29-4)の続きで、外側に折れた可能性を考えている。残存長29.6cm、残存幅8.7cm、厚さ1.8cmである。

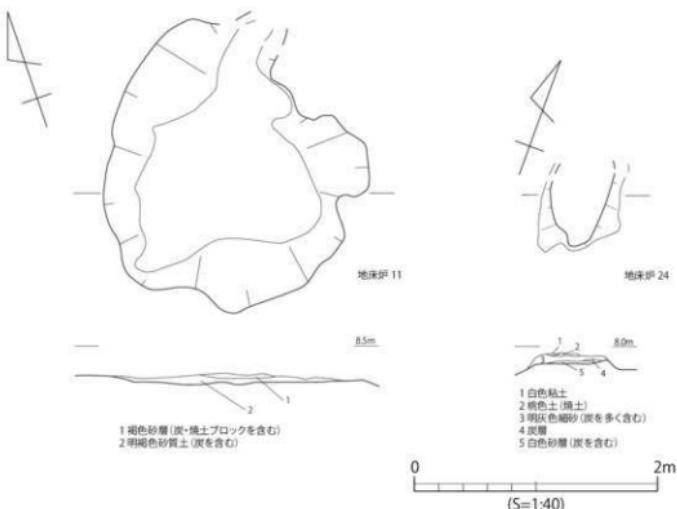
28-1は南側の側板で、長さ101cm、幅22cm、厚さ3cmである。29-4は北側の側板で、長さ104cm、幅25cm、厚さ2.8cmである。29-3は東側の小口板で、長さ49cm、幅27cm、厚さ2.6cmである。29-2は西側の小口板で、長さ45cm、幅23cm、厚さ1.8cmである。28-5～7・30-1は、棺の内側に打たれた杭で、長さ60～67cmを測る。28-2～4は、棺外側に打たれた杭。28-3は先端を欠くが、28-2・4は長さ66～73cmあり、28-3も同程度だったと思われる。30-2は西側の小口途中に打たれた杭で、残存長26cm、太さ6cmである。30-3・4は、底板である。30-3は、長さ52cm、幅26cm、厚さ2.5cm、30-4は長さ44cm、幅27cm、厚さ2.3cmである。30-5・31-1・2は、底板下面に置かれていた棧と思われる材である。30-5は長さ74cm、幅6cm、厚さ2.5cm、31-1は先端を欠き、残存長80cm、幅8cm、厚さ1.9cm、31-2は、長さ44cm、幅8cm、厚さ2.6cm。いずれも杉材と思われる。

SK01出土遺物 32-1・2は、SK01の墓坑内から出土した土器片である。32-1は、口縁端部に刻みを入れ、口縁からやや下がった位置に刻目突帯を張る深鉢。32-2は、2条突帯の深鉢の2段目側と考えられる突帯付近の破片である。

32-3は、SK01の棺外から出土した管玉である。茶色く見える滑石を使用し、中央部がわずかに膨らんだ、弥生時代以降にはあまり見られない形状の管玉で、長さ1.4cm、太さ1.3cmで、両



第32図 SK01出土土器・玉実測図(1:3、玉は2:3)



第33図 地床炉 11・24 実測図 (1:40)

面から穿孔されている。各面の研磨は荒く、荒割りの際の面をわずかに残している。

第2遺構面のその他の遺構 (第33図) 第2遺構面では、SKO1の西側から標高8mラインに沿うように、多くの地床炉を検出した。いずれも不定形で幅50cm程の赤変している範囲が見られるだけのものから、2m近い範囲をわずかに掘りくぼめ、炭が入り込んだものなどが見られる。土器類などの遺物は含まない。

地床炉11はI9の標高8.1m付近で検出した大きな地床炉で、幅約2mを測る。わずかに掘りくぼめ、内部に炭・焼土ブロックが入り込んでいる。広範囲が焼けていることから、繰り返し使用されたか。一方、地床炉24はH7の標高7.9m付近で検出しており、落ち込んだ遺構ではなく、被熱して硬化した部分が盛り上がった状態で検出した。掘りくぼめず、地表面で直接火を焚いたものか。

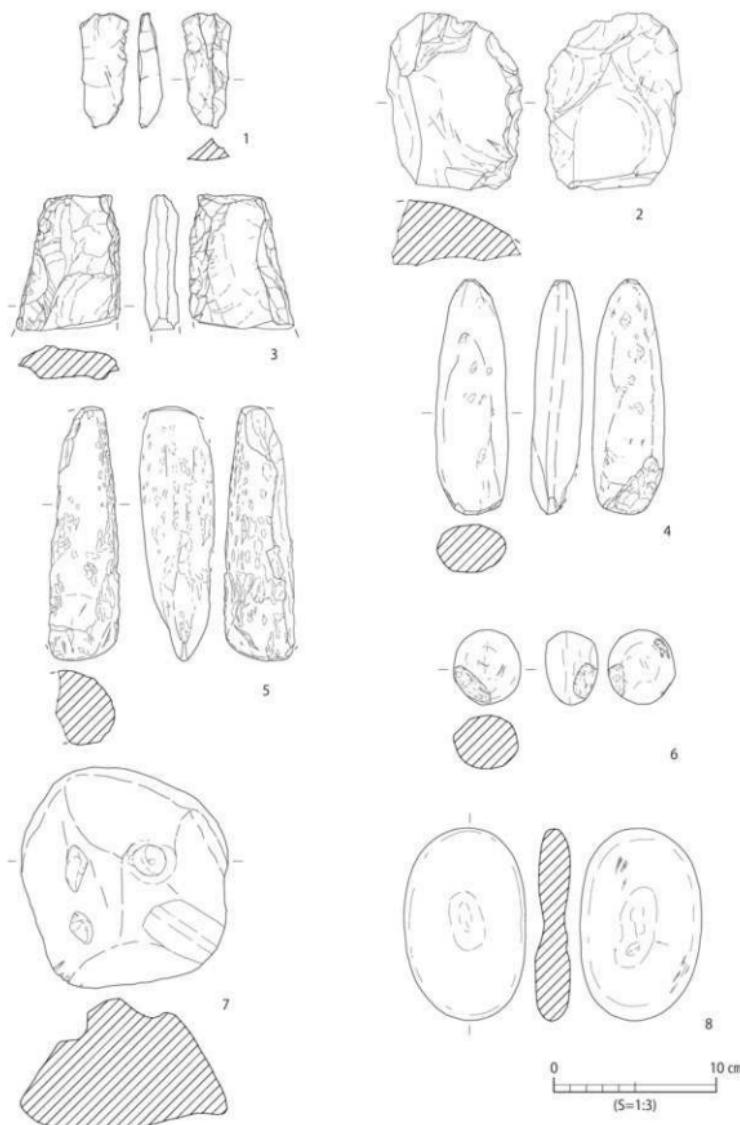
第2遺構面の出土遺物 第34図には、第2遺構面で出土した石器・石製品を示した。34-1は、縱長の剥片で、スクレーパーとして使用したものか。34-2はデイサイトの石核。一部に自然風化面を残している。

34-3は打製石斧の基部。34-4・5は、磨製石斧である。いずれも刃部が完全につぶれ、欠損している。

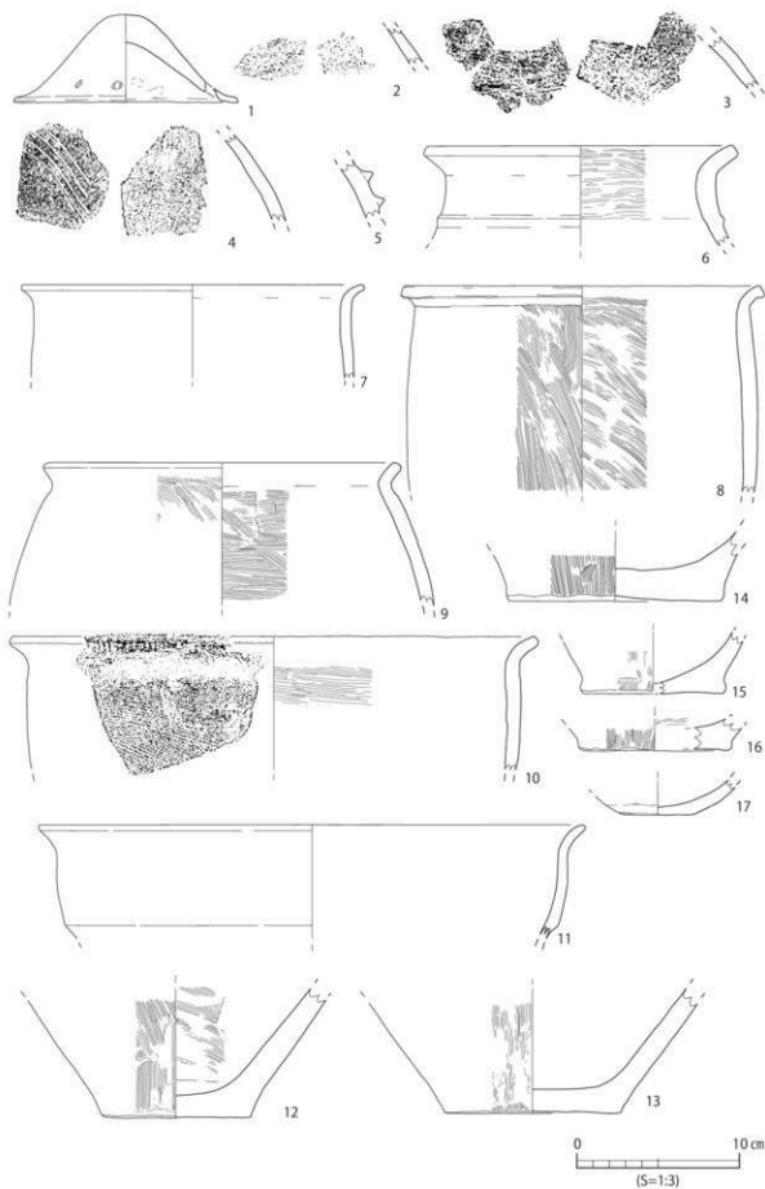
34-6は小型の磨石・敲石か。鉄石英を使用し、一面だけに集中して打痕が見られる。他の面には加工は見えず、呪術的な意図もあるか。

34-7は長さ15cm、厚さ8cm程の断面三角形を呈す石。人工的に掘られたとみられる円形のくぼみが3カ所、直線的な溝状のくぼみが1条見える。使用方法は判らず、呪術具を想像させる。

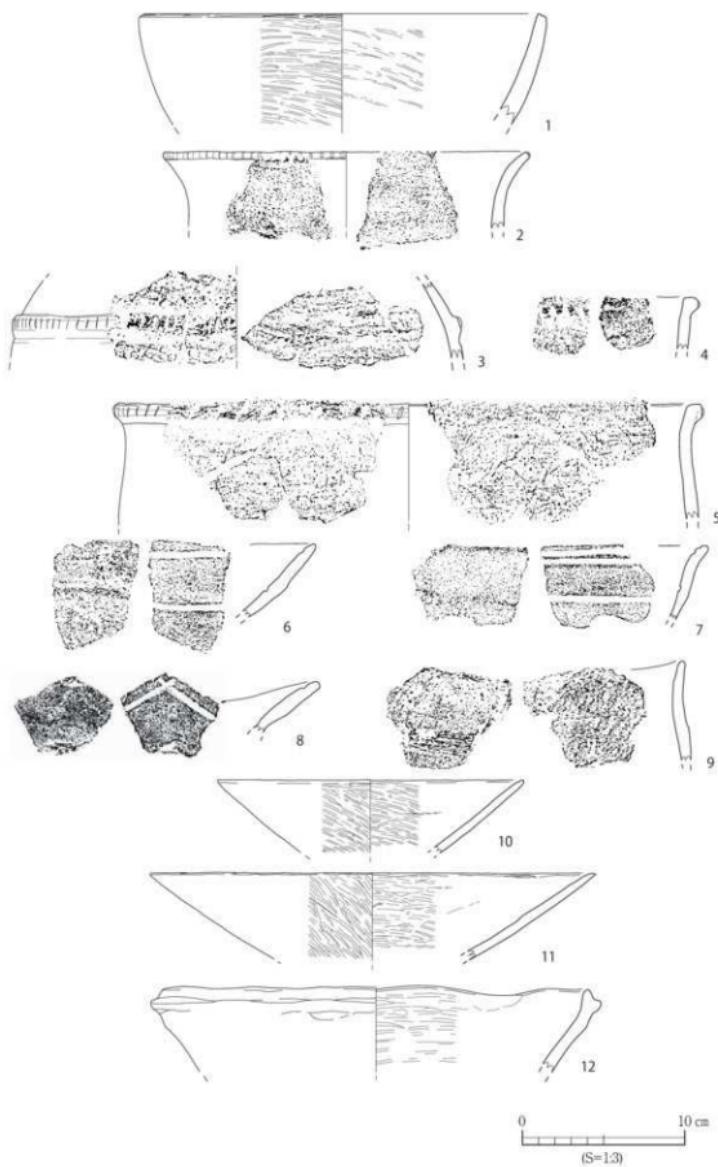
34-8は扁平な凝灰岩の石材の両面に楕円形のくぼみを入れたもの。片面にはわずかに磨痕が見られる。くぼみは両面とも中心近くにあり、火きり杵のハンドピースのような使い方が想像される。



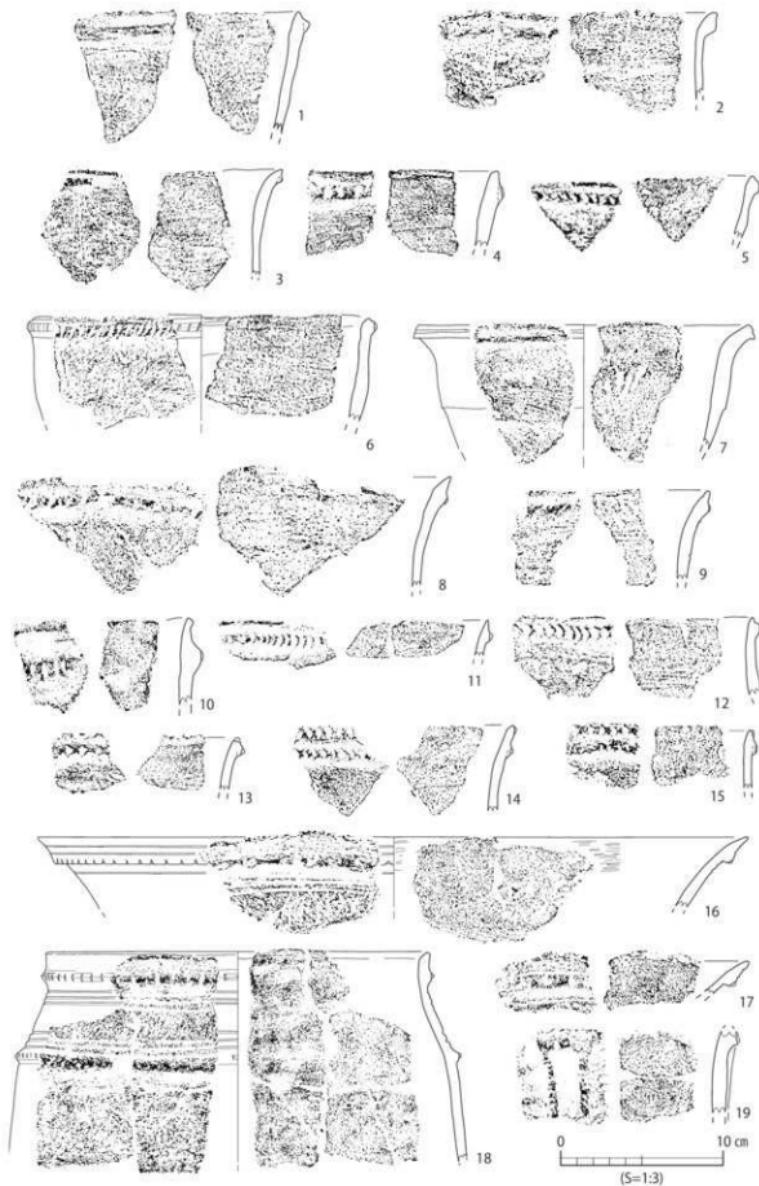
第34図 第2遺構面出土石器実測図 (1:3)



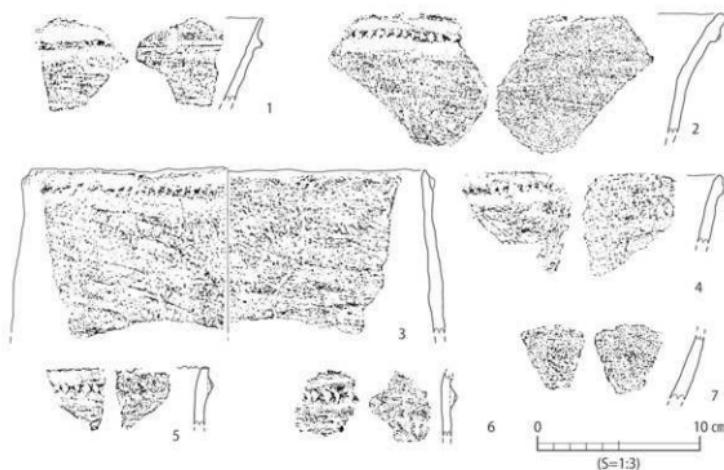
第35図 第2遺構面出土土器実測図(1)(1:3)



第36図 第2遺構面出土土器実測図(2)(1:3)



第37図 第2遺構面出土土器実測図(3)(1:3)



第38図 第2遺構面出土土器実測図(4:1:3)

第35図には第2遺構面で出土した弥生土器と考えられるものを示した。

35-1は頂部が丸く、薄い器壁の体部が大きく開く器種で、蓋か。口径約14cmで、口縁部近くに穴が2つ開けられている。風化により調整は見えない。

35-2・3は壺の肩部と思われる小片。外面側にヘラ描きが見える。35-4は4重の凹線で重弧文を描く壺の肩部。内面調整はナデ。35-5は壺の肩部と思われる小片。無刻の断面三角形の突帯2条をめぐらす。35-6は壺の口縁から頸部。断面三角形を呈す低い突帯をめぐらす。突帯に刻目は見えない。内面調整は横方向のミガキを密に施す。

35-7～11は甕。35-8は口縁端部をナデ、面を作るもの。35-10は、内外面ともハケメ調整する。口縁端部下面に浅い刻みに見える部分があるが、ハケメ原体が当たったもので刻みではない。頸部は横方向のナデ。35-11は肩に段が付く。摩滅により調整は不明。

35-12～17は、弥生土器底部と思われるもの。35-12～16は底部が厚く、外面に縦方向のハケメを残すことから甕か。35-17は体部が内湾気味に立ち上がるもので、器壁が薄い。

第36～38図には、第2遺構面で出土した縄文土器と思われるものを示した。

36-1はボウル形の浅鉢。内外面とも横方向のミガキで丁寧に調整され、口縁端部に面を作る。

36-2は口縁端部を浅く刻む壺か。36-3も壺の肩部と思われる破片で、刻目突帯を貼り付ける。

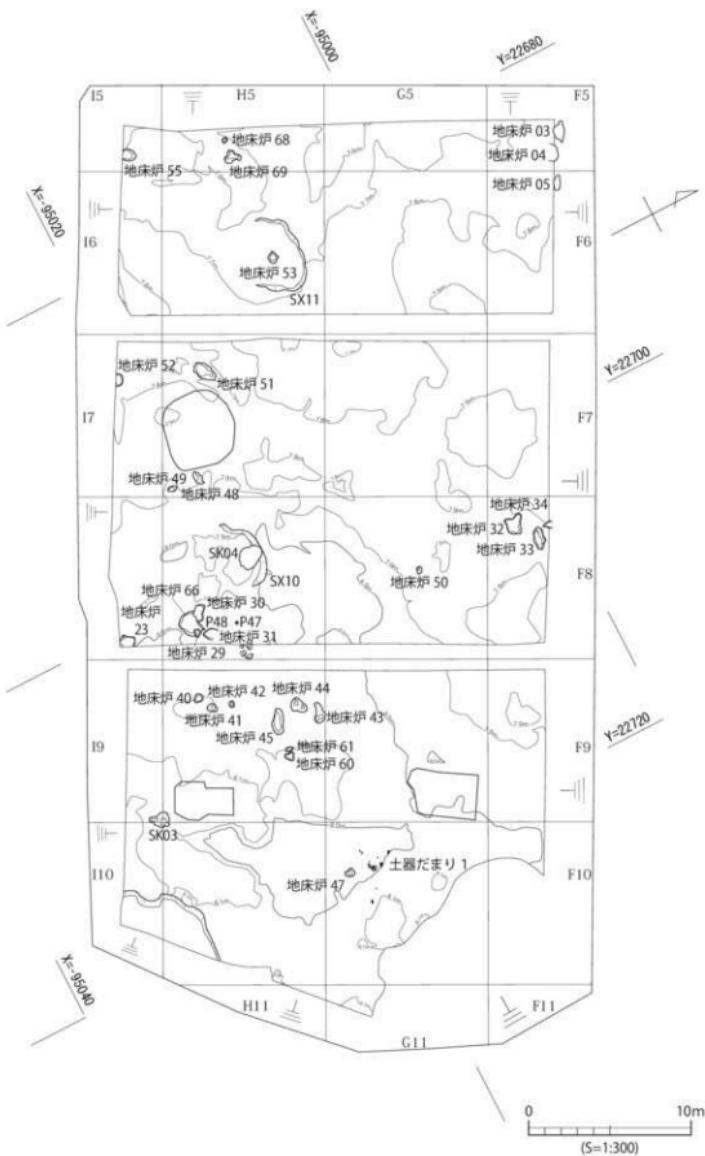
36-4・5は口縁部外面に刻目突帯を貼り付ける深鉢である。

36-6～8は口縁部内面に沈線を入れる浅鉢。いずれも内外面は丁寧なヘラミガキを施す。36-8は方形浅鉢。

37-1～15は突帯文の深鉢。37-3は口縁部外面に浅い刻目を施した突帯を貼り付ける。頭部外面に浅いヘラ描きが見える。2条の線を併行させて十字を描き、斜めの曲線を重ねている。

37-13～15は口縁部刻みを入れ、その外面直下に刻目突帯を張る深鉢。

37-16～18は口縁部よりやや下がった位置に、浅い刻みを施す突帯を貼り、その下位に直線文



第39図 第3遺構面遺構配置図(1:300)

をめぐらすもので、中山B式。

37-19は、深鉢の外面に隆帯による文様を施したもの。口縁部の先端をわずかに欠く。深鉢か。内面調整は丁寧なナデ。

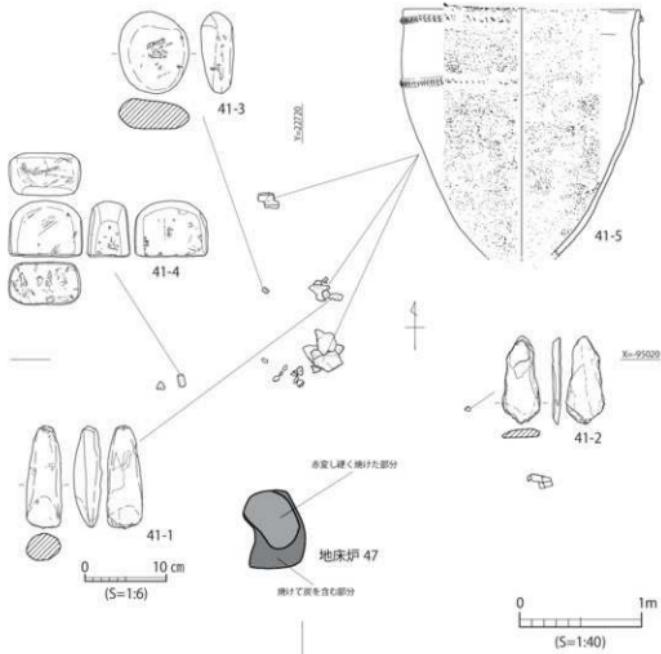
38-1は器壁の薄い深鉢で、口縁部外面のやや下がった位置に、斜め方向に浅く刻んだ突帯を貼り付ける。突帯の上下には強いナデが見える。

38-5は口縁端部を刻み、外面に刻目突帯を貼り付ける深鉢。38-6は口縁端部を欠くが、口縁部を大きく外反させる深鉢。頸部にD字の刻目突帯を貼り付けている。

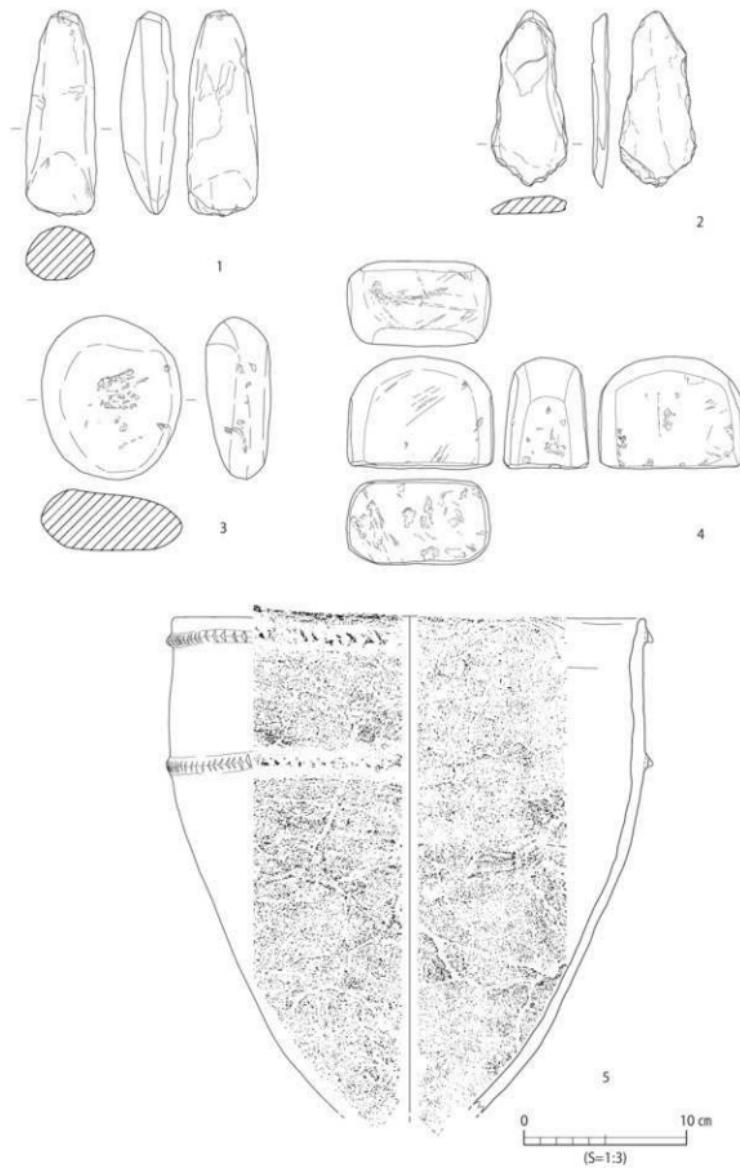
5. 第3遺構面の遺構・遺物

耕作土を除去した西側の標高7.6m、東側の標高8.1m付近で、被熱して赤褐色に焼け、炭を含んだ浅いくぼみが多く検出され、第3遺構面と呼んだ。これらにくぼみは地床炉と判断し、発見順に番号を振っている。一方、この面では、柱穴と思われる落ち込みは少ない。この他、G10付近では、地床炉に近接して土器・石器が集中して出土する部分があり、土器だまり1と呼んだ。

地床炉 F5北側のトレンチ内で、非常によく焼けた部分が連続して見られた（地床炉03～05）ほか、H8～09付近に多くの地床炉が見られた。いずれも不定形で、大きく落ち込むようなくぼみではなく、平らな地面で連続して火を焚いたように見える。石囲いなどは見られない。たびたび火

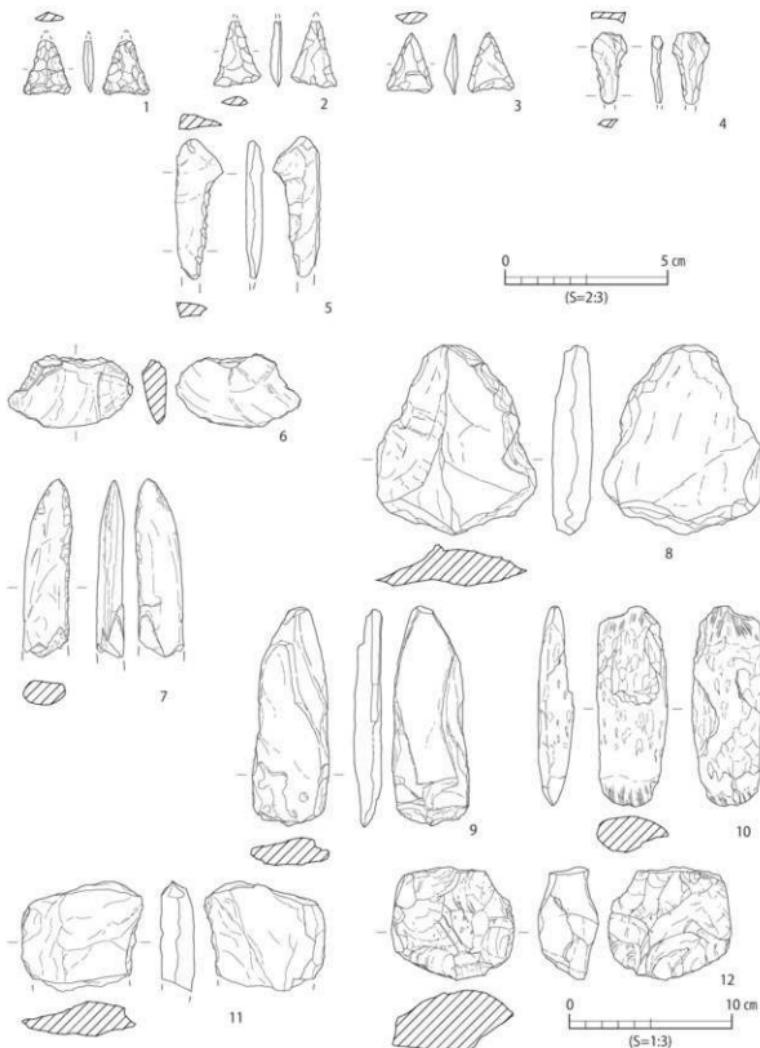


第40図 第3遺構面土器だまり1実測図(1:40、遺物は1:6)

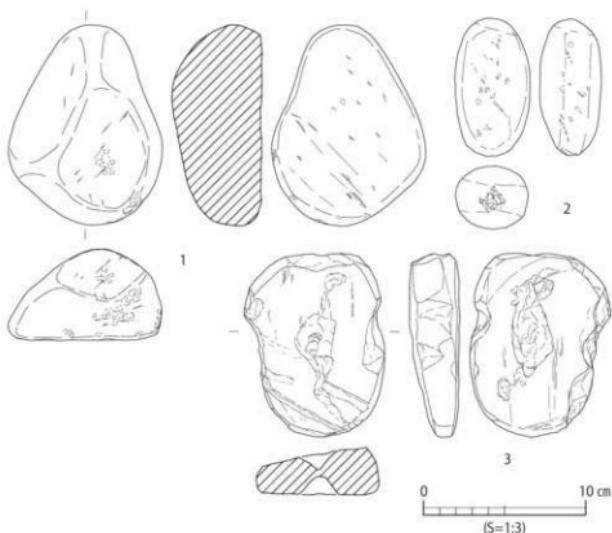


第41図 土器だまり1出土遺物実測図 (1:3)

を焚いている様子が見られることから、当時は低湿地ではなく、乾燥した土地だったと考えられる。
土器だまり1 G10で検出した地床炉47の周囲からは、土器片と石器類が集中して出土した（第40図）。土器片に関してほぼ1個体で、2条突帯の深鉢（41-5）に復元できた。石器類は、石斧2点（41-1・2）、敲石1点（41-3）と磨石状の用途不明の石製品（41-4）である。地床炉47は、40cm



第42図 第3遺構面出土石器実測図 (1)(2:3、6～11は1:3)



第43図 第3遺構面出土石器・石製品実測図(2)(1:3)

に重なって出土した。41-2は泥質片岩製の打製石斧。使用によるものか、刃部を少し欠く。41-3は敲石である。各面に打痕があり、わずかに磨痕が見られる。

41-4は磨痕を残す磨石に見える石製品。安山岩を使用し、全面を研磨される。半円形を呈しており、底面を特に平らに研磨する。実用品とは思えず、石冠^(註1)と呼ばれるもの一種か。

41-5は縄文土器深鉢で復元口径約29cmを測る大型品である。口縁部外面と肩部に2条の刻目突帯をめぐらし、他の部分は条痕である。内面の条痕が摩滅しており、使用によるものか。

第3遺構面出土石器 42-1～3は石鎚である。42-1・2は先端を欠く。42-3は長さ1.8cm、重さ1g。42-4・5はガラス質安山岩製の石錐である。いずれも先端を欠く。42-6は流紋岩の剥片で、スクレーパーとして使用されたものか。

42-7は磨製石斧に見られるものと同様の塩基性片岩を研磨し、先端を尖らせたもの。1側片に剥離が連続するが、鋭利ではない。石棒の一種と思われ、石刀か。

42-8は泥質片岩を使用し、両側片を尖らせ刃部としたスクレーパー状のものだが、打製石斧の再利用品か。42-9は打製石斧の欠損品。刃部を欠く。42-10は緑色片岩を使用した磨製石斧。42-12は流紋岩の石核でスクレーパーの未製品か。

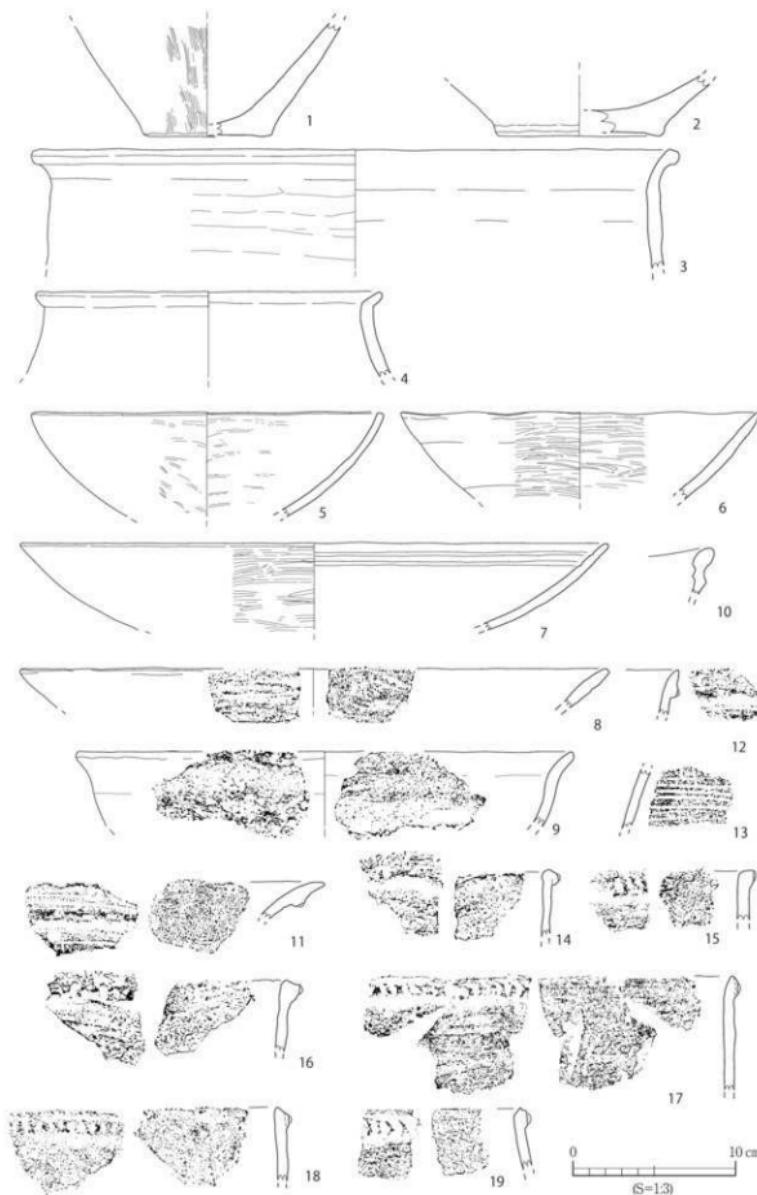
43-1は安山岩の磨石・敲石。平らな面には磨痕も残る。43-2は槌状に使用された小型の敲石。凝灰岩製でやや柔らかい石材を使用している。

43-3は扁平な石の両面に深いくぼみを入れたもの。粒子の粗い凝灰岩を使用している。扁平に剥離した石材の中程に直線的な溝になるように敲打によって溝を掘ったもの。くぼみの内側に磨痕は見られず、火切りの際のハンドピースではない。片面に磨痕が残る。

程の範囲が強く被熱、赤変しており、その部分の周間に炭混じりの土が広がっている。繰り返して火を焚かれたと推定される。

土器だまり1 出土遺物

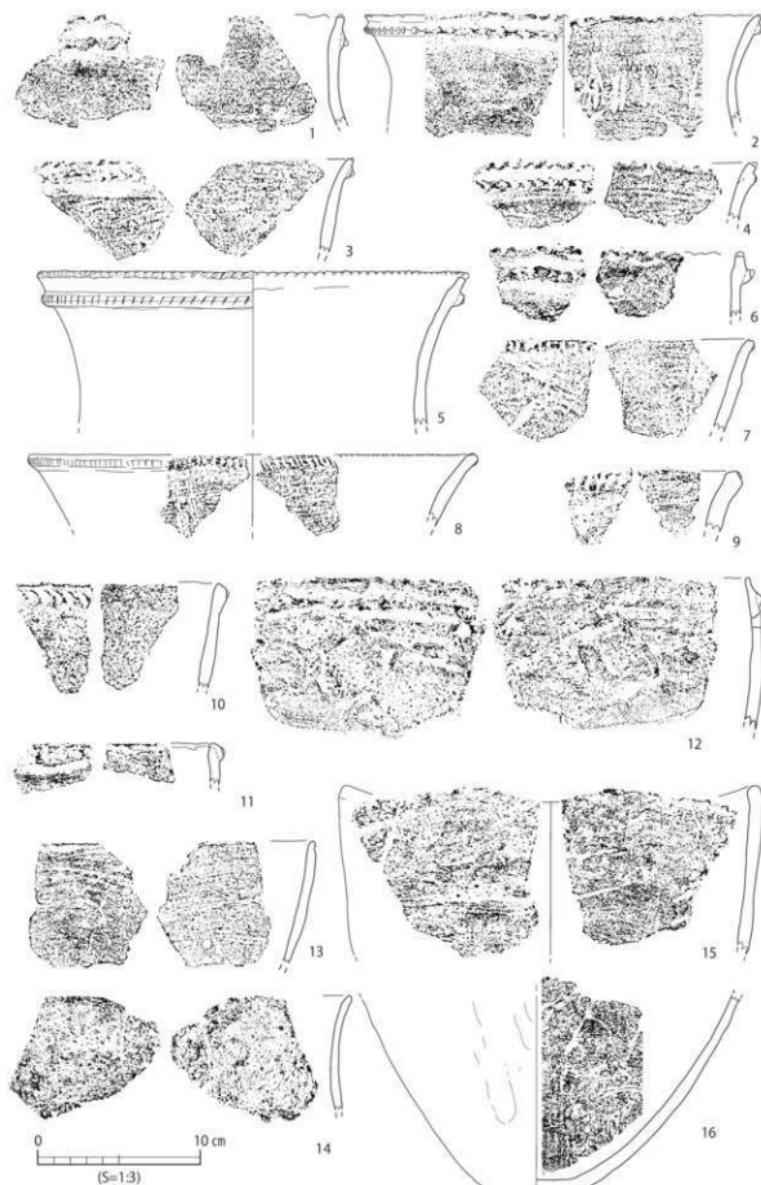
41-1は緑色片岩を使用した磨製石斧である。刃部に使用痕を残し、ほぼ完形。深鉢(41-5)の破片



第44図 第3遺構面出土土器実測図(1)(1:3)



第45図 第3遺構面出土土器実測図(2)(1:3)



第46図 第3遺構面出土土器実測図(3)(1:3)

第3遺構面出土土器 第44～46図には、第3遺構面から出土した土器類を図示した。

44-1・2は、弥生土器底部と考えられるもの。44-1は外面に縱方向のハケメを密に残す。44-2は摩滅により調整不明。

44-3・4は口縁部を外側に折り曲げる無文の深鉢。44-3は外面にススが付着している。

44-5・6は無文の浅鉢。内外面に横方向のミガキを施す。44-7は浅鉢の口縁内面側に2条の凹線文を施すもので、沢田式頃のものか。44-8は被熟し黒変している。44-10は浅鉢の口縁部。

44-11～13は口縁部外面の刻目突帯の下位に直線文を施すもので、中山B式。44-12・13は出土位置が近く、同一個体であろう。

44-14・15・45-15・18は口縁部を外側に折り曲げるよう肥厚させ、刻目を施すもの。44-17～19は口縁部外面に刻目突帯を貼り付けるもので、44-16も同様のものか。44-18の外面にはススが付着している。

45-1～14は、口縁部外面の刻目突帯を、口縁端部よりわずかに下がった位置に貼り付けるもの。45-12は地床炉11から出土した。45-14はH8のSX10から出土している。45-15は口縁端部を尖り気味にし、突帯は非常に浅い刻みを入れる。45-19は口縁部を外面に強く外反させるもので、頸部に刻目突帯を貼り付ける。

46-1～9は、口縁端部を刻むもので、46-1～6はやや下がった位置に刻目突帯を貼り付けている。

46-7・9は口縁部の外面側を刻むもの。46-8は、口縁端部の内外面を別々に浅く刻んでいるもの。内外面とも横方向の条痕。外面に2条以上のヘラ描き沈線を縱方向に入れる。

46-11は口縁部外面に刻目突帯を貼り付けたもの。突帯の接合痕が明瞭で、内面側に接合による段を残している。地床炉52から出土した。

46-12は、口縁部よりやや下がった位置に無刻の突帯を貼り付けたもので、口縁部はつまみ出すように薄く作られる。器壁の調整は荒い条痕。突帯の下部に外面から開けられた補修孔が見られる。

46-13～15は条痕地の深鉢。46-13は口縁部外面に浅いくぼみをめぐらすもので内外面ともに丁寧な条痕。46-14は口縁部を緩やかに外反させるもので、器壁が薄い。46-15は雑な波状口縁か。46-16は深鉢の底部。内面調整は条痕で、外面はナデか。底部は明瞭でない。

〈註〉

(1) 石冠とされるものは、県内では下西海岸遺跡・三田谷遺跡・沖ノ原遺跡での出土が知られているが、これらはいずれも球形の把手状のものが付く形状で、全体に半円形を呈しているだけものは知られていない。

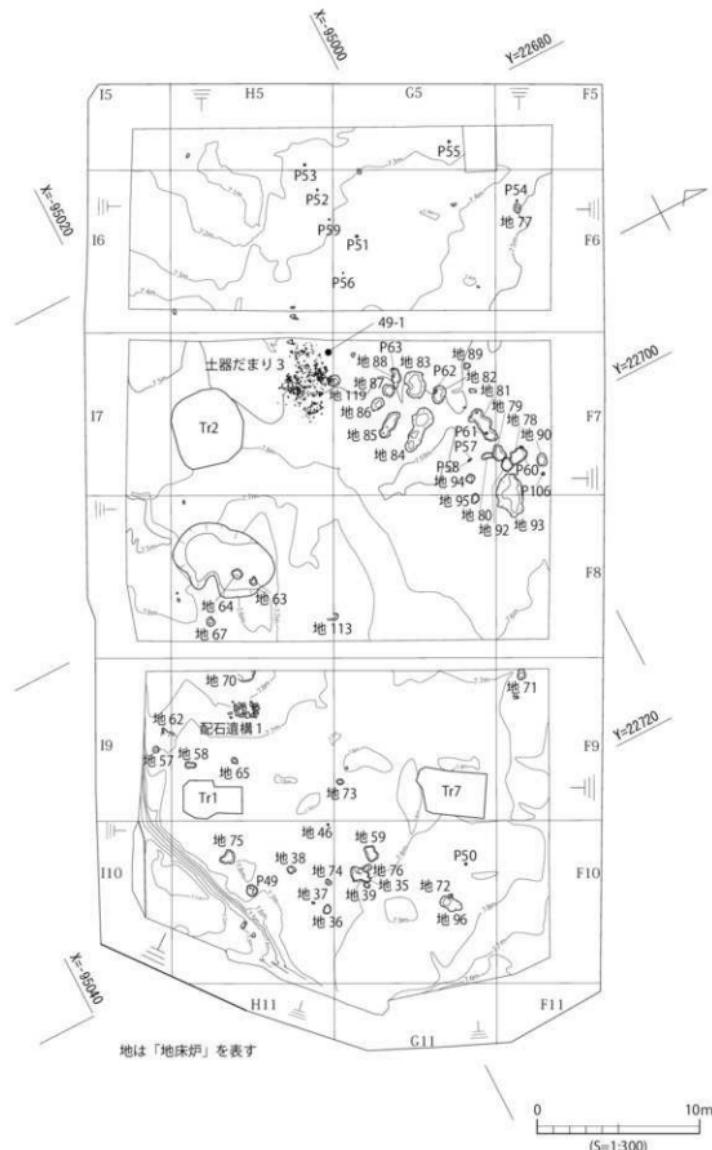
『隱岐』関西大学・島根大学共同隠岐調査会 1968年

『三田谷I遺跡 Vol.3』島根県地区委員会 2000年

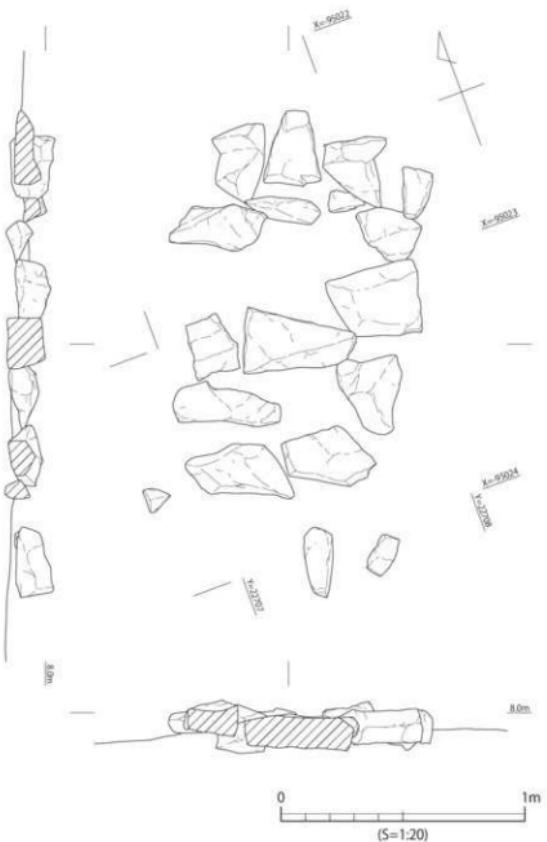
『匹見町I遺跡詳細分布調査報告書XV』匹見町教育委員会 2003年

6. 第4遺構面の遺構・遺物

耕作土を除去した西側で標高7.1m、東側で標高7.8m付近の面で、G7付近を中心に非常に多くの地床炉を検出し、その連続面を第4遺構面と呼んだ。この面では、G10～H10付近にも地床炉が集中する部分が見られるほか、地床炉63・64のあるH8付近は長径5mほどの楕円形に大きくくぼむ部分があり、この部分も大きな遺構だった可能性がある。地床炉は、7ライン以東に見ら



第47図 第4遺構面遺構配置図(1:300)



第48図 配石遺構 1 実測図 (1:20)

地床炉 地床炉はF7～G7と、G10～H10に集中してみられる。いずれも焼土面が広がった状態で検出しており、明確に掘りくぼめたようには見えない。F7～G7の地床炉は、最大3mも広がる場合があり、多くの地床炉が重なり、連続して使用された可能性が高い。一方、G10～H10で見られる地床炉は、いずれも1m未満の広がりしかなく、焼土の厚みも少ない。

配石遺構 1 H9の標高7.9m付近で、40～50cmから拳大の石が集中して出土し、配石遺構 1とした。周間に大きな石が見られないことから、意図的に石を集め置いたものと判断できる。

配石は、南北約2m、東西約1.1mの長方形の範囲に18個の角礫を置いたもの。多くの石は断面長方形で、板状の石を選んで並べているように見える。この内、南端の1石だけは、立てて置かれているように見え、標石のような役割を果たしたものか。使用されている石材は、黄白色を呈す凝灰岩で、近隣で産出されるもの。

配石遺構 1の下面にサブトレーンチを設定し、土層断面を観察したが、土坑等は見られなかった。

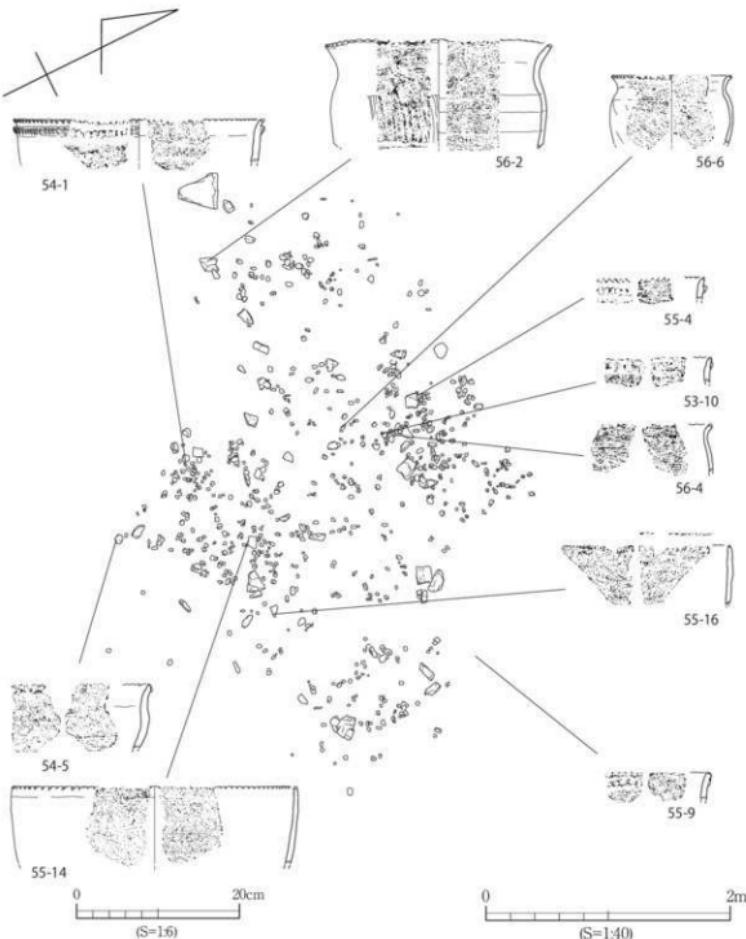
れ、7ラインより西側は少量のピットのほか、地床炉はほとんど見られず、標高7.5mを境に、それ以下では地床炉がなくなるように見える。また、H7周辺では土器が集中して出土する部分があり、土器だまり3と呼んだ。また、第4遺構面での特徴的な遺構としては、H9で配石遺構1を検出している。

土器だまり3の北側に隣接するH7北辺で、底部が広く平らな土器(52-1)を検出した。サブトレーンチを入れるなどして確認したが、周囲に土坑などは見られず、地面に直接置かれていたと考えられる。土器の内側には炭が含まれており、また、内面が火を受けているようにも見えることから、土器の内側で火を焚いた土器炉だろうか。

また、配石遺構1からは遺物は出土しなかった。なお、配石遺構1は、第2遺構面のSK01を検出した位置から南西に4m程と、近接した位置にある。

土器だまり3 H7付近で、多数の土器片が集中する部分があり、土器だまり3とした。土器だまり3は、平面的に土器片や石が集中して出土したもので、明確なくぼみはない。また、埋土も通常の土で、他で検出した炭だまりのような、炭を含んだ土ではなかった。

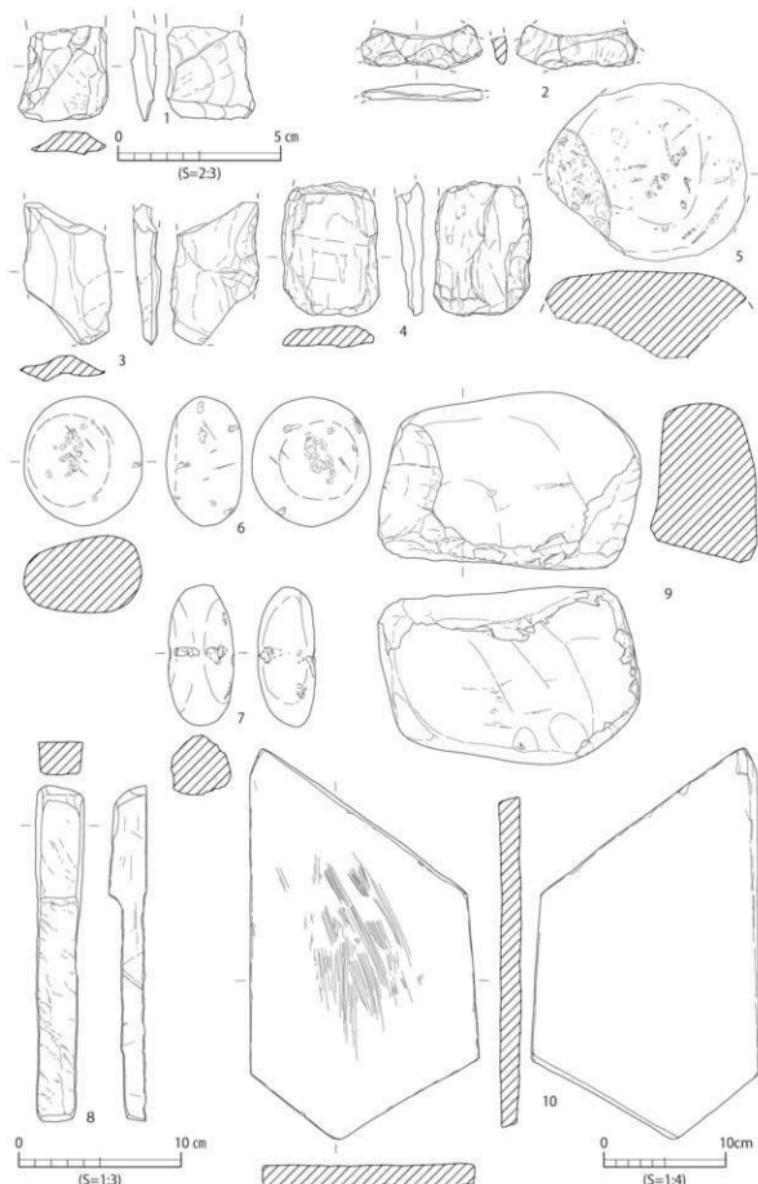
土器だまり3は、H7を中心に東西約5m、南北約4mにわたって土器片が出土した部分で、所々に石が見えるが、石器はほとんど含んでいない。土器だまり3の西側に見える大きな石も自然石で、石皿の可能性はあるが、使用痕は明瞭でない。含まれている土器類はほとんどが深鉢で、浅鉢



第49図 土器だまり3実測図(1:40、遺物は1:6)



第50図 第4遺構面出土石器実測図(1)(1:3)



第51図 第4遺構面出土石器実測図 (2)(1:3、1は2:3、9・10は1:4)

が少ない。少量の突帯文を含むが、多くは、口縁部を刻むもの。また、土器だまり3の北に接して、土器炉と推定した52-1が出土しているほか、東側のG7付近では、地床炉が集中して検出されている。

第4 遺構面出土の石器・石製品 50-1は塩基性片岩を使用した打製石斧と考えられるが、刃部が鋭利に整えられてはいない。未製品と考えているが、欠損の可能性もある。50-2は流紋岩製の石斧の基部側を残す破損品。非常に薄い。50-3は泥質片岩製の打製石斧であるが、破損品の再利用であろう。50-4も同様のもので、大きく破損した後に再利用されており、非常に小さい。

50-5は石斧の基部のような形状をした凝灰岩に、直線を掘り込んだもので、呪術具だろうか。片面は擦痕のみで、反対面に斜めに線が引かれ、同じ線を何度もなぞっているように見える。

50-6は板状の塩基性片岩で、石斧の破損品と思われる。50-7は塩基性片岩製の磨製石斧で、刃部を欠く。50-8は緑色片岩の磨製石斧。刃部がつぶれ、使用痕が残る。

50-9は塩基性片岩を使用した棒状のもので、一見すると磨製石斧に見えるが、かなりの太さがある。一端を欠くが、刃部が付くとは思えない。全面的に研磨されており、石棒の一種か。

50-10・11は扁平な川原石に打痕のあるもの。いずれも凝灰岩で、軟質の石材。50-10は僅かに打痕が入るだけだが、一端に火を受けた痕跡がありスカスカ付着している。50-11は中程に打痕が集中するもので両面とも僅かにくぼむ。軟質で、敲石としては実用的でない。いずれも呪術具か。

50-12は板状剥離した安山岩に何力所かの小さなくぼみを入れ、周縁に2力所以上のくぼみを付けたもの。大きく欠損している。粒子が粗く多孔質で、非常に軽い石材を使用している。呪術具だろうか。

51-1・2はガラス質安山岩の剥片で、スクレーバーの破損品か。

51-3・4はいずれも小型の石斧の破損品と思われる。51-3は泥質片岩、51-4は緑色片岩を使用している。

51-5・6はデイサイト製の擦石・敲石。51-5は大きく破損し、火を受けた痕跡も見られる。使用後に故意に割られたものか。

51-7は129gの凝灰岩の長細い石を使用し、中程に敲打を施してくぼませたもので、石鍾。

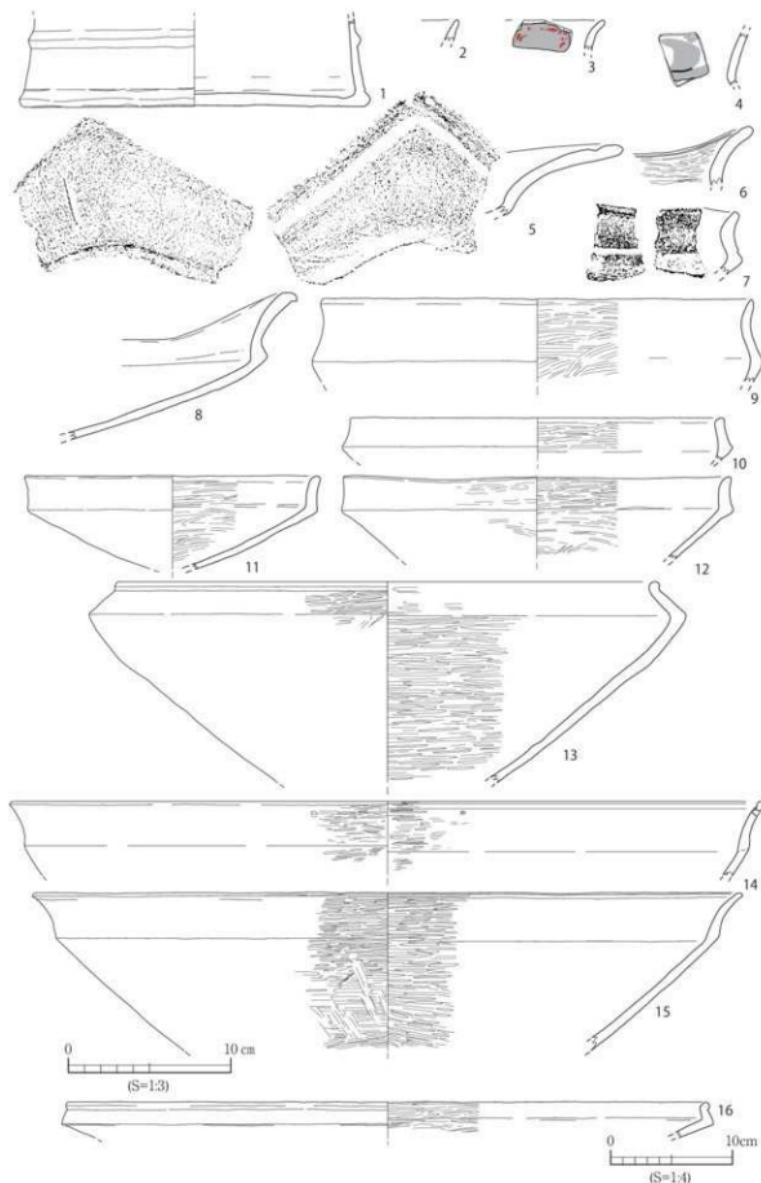
51-8は板状剥離した凝灰岩の石材をさらに短冊状に割り取り、頭部を残したもので、石棒の一種だろうか。頭部と側面にはわずかに磨痕が見える。石材は凝灰岩。

51-9は、大きく硬質の安山岩を使用し、周縁部を打ち欠いて、両面にわずかに磨痕を残すもの。石皿か。

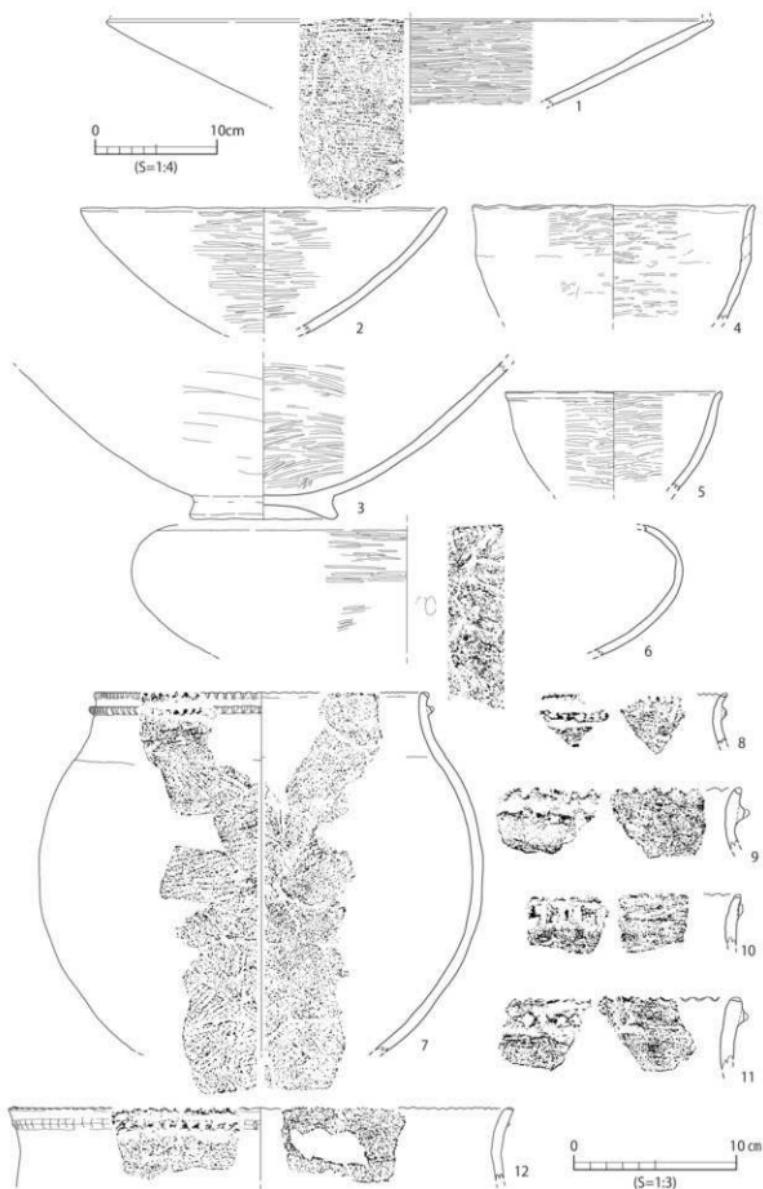
51-10はH7で出土した厚さ1cmほどの五角形を呈した石。扁平で、両面は非常に平滑。一面にわずかに磨痕が見えるが、板状剥離した石を研磨したものと思われ、周縁にも磨痕が見える。打痕はなく、石皿や磨石のような実用的なものとは思えない。出土時に下側を向いていた面には、鉄分が多く付着しているため、調整不明。

第4 遺構面出土の土器・土製品 52-1はH7付近で出土した、土器炉と思われる鉢の底部である。底径約21cmの底部は平らで、わずかに内傾させて体部が立ち上がる。底部と体部の縫ぎ目部分と4cm程の上の部分にたがを回すように無刻みの突帯をめぐらせている。上部は欠損しており、口縁部の形状は判らない。摩滅しており、明瞭ではないが、内外面ともナデか。

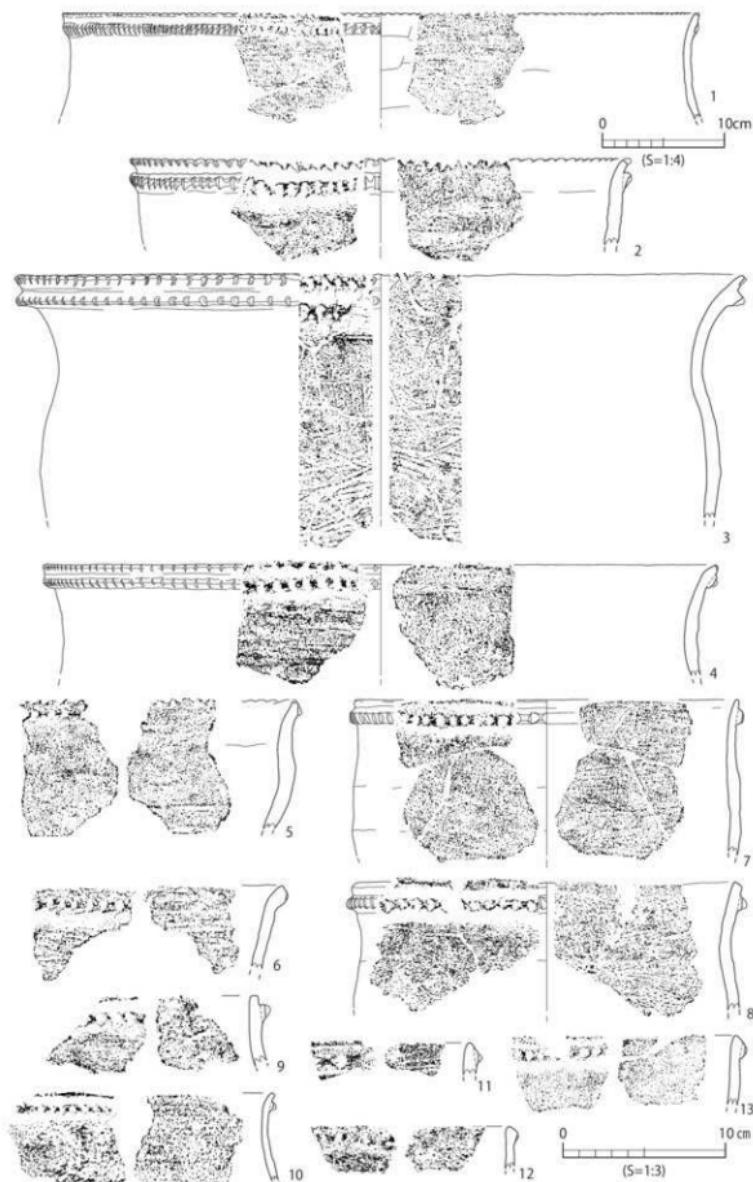
52-2・3は赤彩の浅鉢口縁部である。52-2は両面に、52-3は外側の全面に漆状の樹脂を使用



第52図 第4遺構面出土土器実測図 (1)(1:3、16のみ1:4)



第53図 第4遺構面出土土器実測図(2)(1:3、1のみ1:4)



第54図 第4遺構面出土土器実測図(3)(1:3、1のみ1:4)

して赤色顔料が塗布されている。52-4は、彩文土器の浅鉢の頸部。樹脂を使用して、顔料が塗布されているが、鮮やかな赤ではなく、暗黄褐色を呈している。肩部に太い直線をめぐらし、その上に逆C字を描く。平成25年度A区で出土した彩文土器と同様のものか。

52-5～8は波状口縁を持つ方形浅鉢の口縁部。いずれも内外面とも丁寧にミガキが施される。52-5は、口縁部の内面に凹線が施され、波状になった稜の上面に小さな刺突が2点打たれている。52-7・8の外面肩部以下は条痕。

52-9～53-2は浅鉢である。52-9～16は、肩部から口縁部を屈曲させて面を持つもので、53-1も同様のものか。53-2は体部が直線的に延びるものである。いずれも内外面にミガキを施すが、53-1の外面は条痕。

53-3は、やや荒い作りの浅鉢。内外面ともミガキが施されるが、口縁はゆがんでおり、肩部附近には、輪積みした粘土の継ぎ目を残す。器高があり、深鉢に近い器形で、53-4も同様のものか。

53-5は、直線的に開く浅鉢の肩部以下の体部。内面には横方向のミガキが密に施されるが、外面は条痕。

53-6は体部の丸い浅鉢。外面は横方向のミガキが見えるが、内面はナデで、指頭圧痕を残す。

53-7～12、54-1～5、55-1～5・8・9は口縁部外面のやや下がった位置に刻目突帯を貼り付け、口縁端部を刻む深鉢。53-9は口縁部の刻みが大きいもので、棒状工具の側面を使用したものか。55-1は肩部にも刺突が施される。刺突は、竹管の先端を加工した工具が使用される。55-3は小型のもので、口径は11cmしかない。55-5は、刻目突帯の位置が口縁部より大きく下がったもの。突帯の上下は横方向の強いナデ。

54-7～13、55-6・7・10・11は、口縁端部に刻みがなく、口縁部よりやや下に刻目突帯を張るもの。小片が多く数は少ない。55-11はごく浅い刻みを入れている。

55-12・13は無刻の突帯を貼り付けるもので、突帯が高く、突帯の上下を強くなる。

55-14～16は内湾気味に緩やかに立ち上がる体部を持ち、口縁端部を刻むもの。いずれも口縁端部の刻みは浅い。

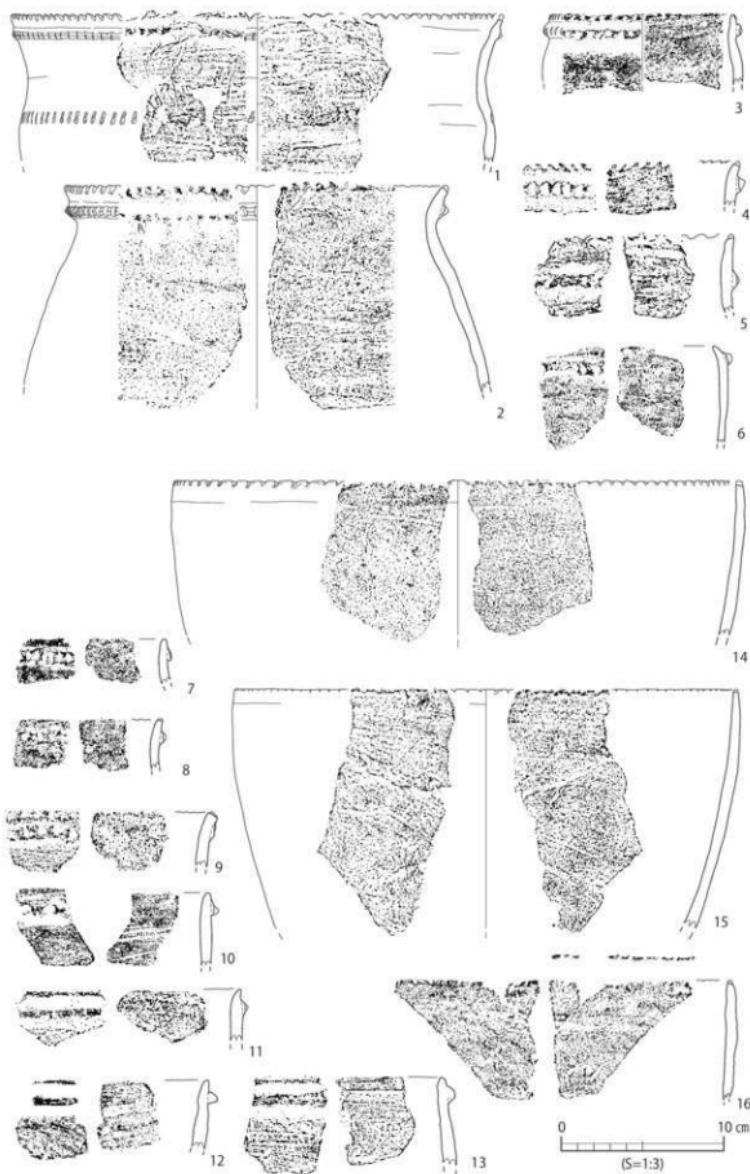
56-1～6・8・9は、口縁部を刻む深鉢の内、頸部がくびれ、口縁部が外反するもの。56-2・3は体部外面に縦方向の条痕を規則的に施す。体部断面の接合痕を明瞭に残しており、下端の破損部分は剥離面。

57-5はポール形の鉢。口縁端部を粗く刻み、体部の調整は内外面とも荒いナデで、横方向のナデの跡を強く残している。

57-6～9は、肩部が鋭く折れ曲がる深鉢。いずれも肩部に刺突が施される。57-6・7は竹管の先端を加工した工具で、57-7の口縁部外面にも同じ工具による刺突がめぐらされる。57-8はヘラ状工具による。57-9は細い棒状の工具による。57-7～9は内外面とも横方向の条痕を強く残している。

57-10・11は無文の鉢。57-10はポール形を呈し、口縁部上面に面を作り、外面側に浅いくぼみがめぐる。内外面ともナデ。57-11も同様の口縁部を持つもので、器高が高いもの。内外とも横方向の条痕。器壁に接合痕を多く残す。

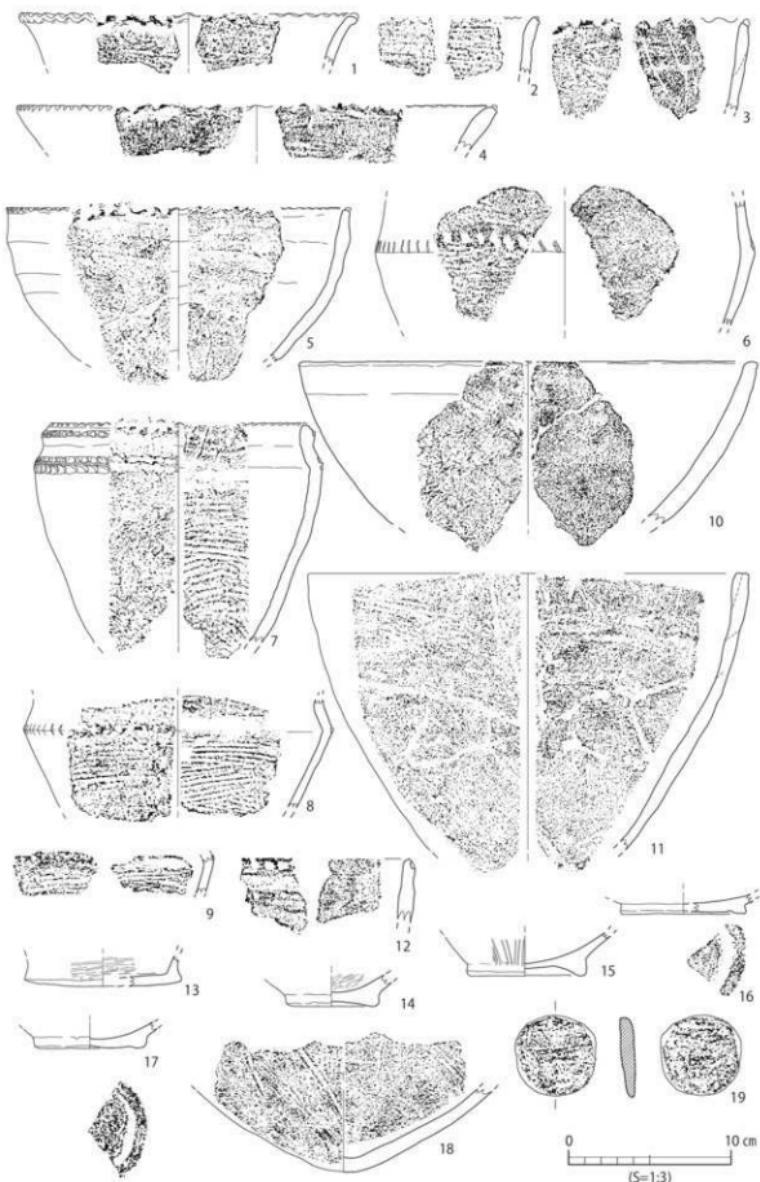
57-12は、口縁部外面に刺突を施すもの。刺突は、竹管の先端を加工した工具を使用し、押し引き気味に施される。内外面とも横方向の条痕。



第55図 第4遺構面出土土器実測図(4)(1:3)



第56図 第4遺構面出土土器実測図(5)(1:3)



第57図 第4遺構面出土土器実測図(6)(1:3)

57-13は扁平な底部から体部が斜めに延びる浅鉢。内外面とも横方向のミガキ。57-14～17は高台状になった底部。57-14は内面にミガキが見え、浅鉢。57-15は、外面に縦方向の条痕を残す。57-18は底部のうち、尖底のもの。内外面とも斜め方向の条痕。

57-19は深鉢体部を使用した土製円盤。直径4.8cmで、打ち欠いて作られたはずの周縁は摩耗しているように見える。

7. 第5遺構面の遺構・遺物

耕作土を除去した西側で標高7.2m、東側で標高7.5m付近では土器を多く含む遺物包含層があり、炭を含んだ広がりや少數のピットを面的に検出し、第5遺構面とした。第5遺構面では標高7.3mより高い、8ラインよりも東側で多数の遺構を検出した一方、西側では遺構が少なく、遺物の出土も東側に集中している。

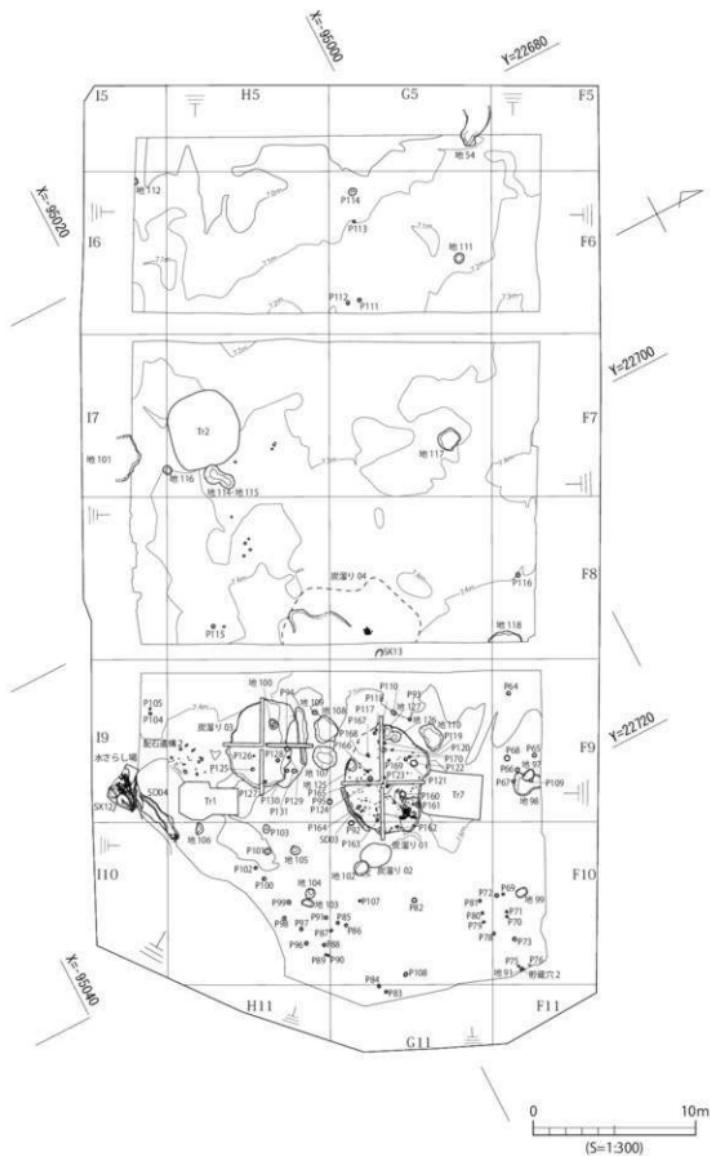
第5遺構面で検出した土器と炭を含むまとまりは、炭だまり1～4と呼んだほか、貯蔵穴と思われる木の実を含んだ土坑や、湧水地点に木を組み、大量の木の実を含んだ水さらし場遺構など、調査区東側を中心に、非常に遺構の多い面となった。また、炭だまりなどが連続する東側以外にも地床炉がいくつか見られるが、この面で検出した地床炉としたものは、いずれも明らかに掘りくぼめられており、大型のものが多い。

炭だまり1・3は規模が等しい上に近接して検出しており、その間に見られる地床炉107・108とともに関係が深い遺構だと思われる。また、水さらし場遺構も、内容物などからPit68や貯蔵穴とした遺構に関係があるだろう。これらの周囲には建物跡の可能性もあるピットも集中しており、注意される。

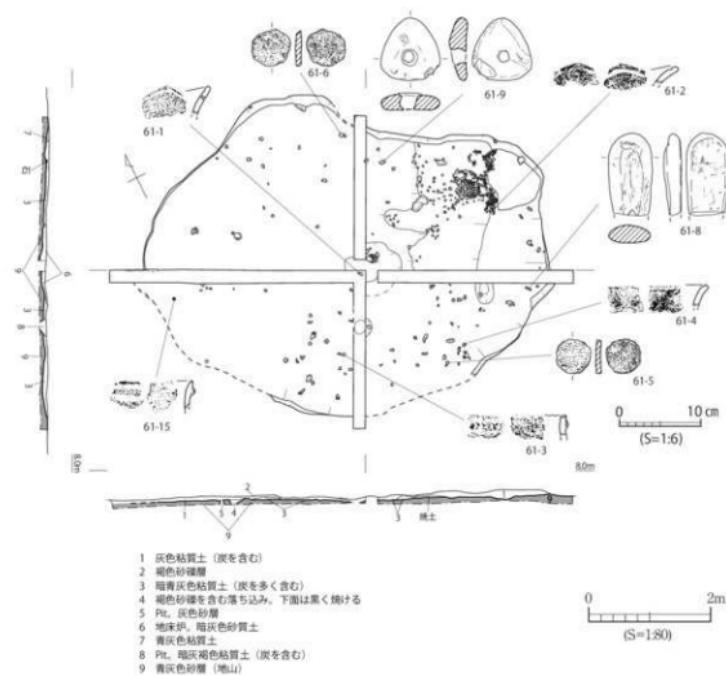
炭だまり1 G9を中心長径約7m、短径約4.8mの炭を含んだくぼみがあり、炭だまり1(第59図)とした。深さはなく、周囲の壁は明瞭ではないが、縁辺部が溝状にわずかにくぼみ、中央部に長径約80cmほどの浅いくぼみがある。ピット状の落ち込みは2基しか見られず、建物が建つような並びは見られない。内部には、黒色の粘質土が堆積し、土器片や石製品含んでいる。北東側の一角に1m四方ほどの範囲に5cm以下の小さな円碟を敷き詰めた部分が見られる。炭だまり1から出土する遺物には有孔石製品や線刻巖、土製円盤など、実用品とは思えない遺物の出土が目立つ。埋土からは少量の骨片が出土している。

炭だまり2 炭だまり1の東側で、G10西側に長径約2mの黒色土が充満したくぼみがあり、炭だまり2とした。他の炭だまりと同様に浅くくぼみ、埋土に炭を含んでいる。床面は明確には焼けていないが、大きな炉か。

炭だまり3 炭だまり1の南側に当たるH9に、炭だまり1と同様のくぼみがあり、炭だまり3(第60図)とした。炭だまり3は、長径約5m、短径約4m、深さ約10cmで、床面は凹凸があり平らではない。埋土には、土器片や石器類を含んでいる。西半部には、拳大から人頭大の石が入っており、投げ込まれたものか。床面からは獸骨と思われる白化した骨が少量見られたが、小片のため同定できなかった。炭だまり3の北側にも長さ約3m、幅約50cm、深さ10cm程の溝状のくぼみが見られるが、炭だまり3を埋めた炭を含む灰褐色粘質土は、北側の溝状のくぼみまではかかっておらず、別の遺構か。東側を中心、いくつかピットが見られるが、建物が建つような並びは見られなかった。



第58図 第5遺構面遺構配置図(1:300)



第59図 炭だまり1実測図(1:80)、遺物は1:6

炭だまり1と3の間には、非常によく焼けた地床炉107と地床炉108が並んで見られた。

炭だまり1・3・4は、壁穴建物跡を思わせる大きさと形状であるが、いずれの炭だまりからも建物が建つような並びのある柱穴は見られなかった。また、多くの土器片が出土しており、その接合を試みたが、接合できる破片は意外に少ない。

炭だまり1・3出土遺物 61-1～9は炭だまり1から出土した。炭だまり1出土遺物には、実用品とは思えないものが多く含まれるほか、土器は小片ばかりで、大きく接合できる個体がない。

61-1・2は口縁部内面に沈線を入れる方形浅鉢の小片。いずれも丁寧にミガキを施されている。

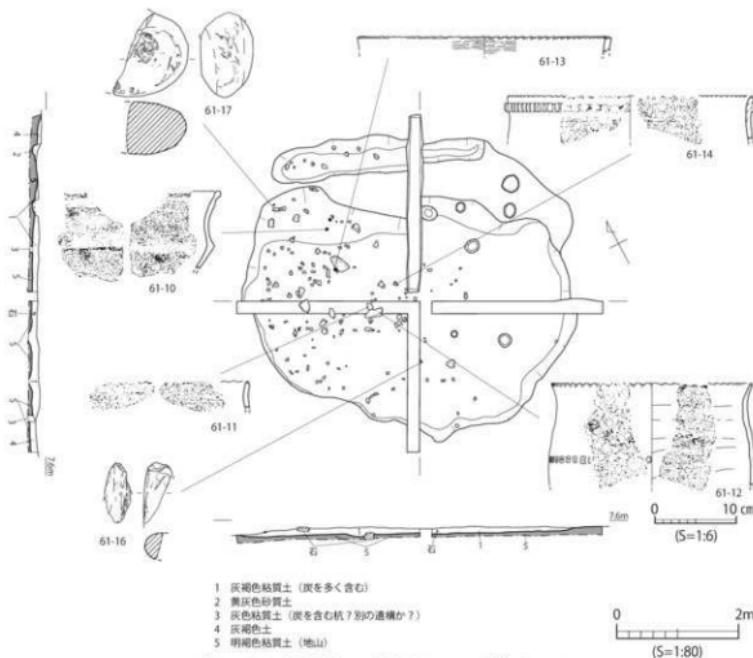
61-1は稜の下に穿孔がある。61-4も丁寧に磨かれた浅鉢の口縁部。外面調整はナデ。

61-3は刻目突帯の深鉢。口縁端部にも刻みが施される。内面は条痕。

61-5・6は土製円盤。61-5は周囲が摩滅しており、使用によるものか。条痕が見え、深鉢の体部を転用したもの。61-6はミガキが見え、浅鉢か。

61-7は擦石・敲石。砂岩を使用し、周縁の敲打痕が目立つ。

61-8は、小型の磨石に見える石製品だが、石材は凝灰岩で非常に柔らかい石材を使用しており、強い磨痕が入っている。実用品ではなく線刻碟の一種か。61-9は三角形を呈する安山岩で、中央に直径1cm程の穴が開いている。穴そのものは穿孔貝による自然現象と思われるが、穴の周囲に擦痕が見られ、紐を掛けて吊していた可能性がある。



第60図 炭だまり3実測図(1:80、遺物は1:6)

61-10～17は炭だまり4から出土した。

61-10は浅鉢の口縁部。口縁端部は玉線状に丸く收められ、その下位にくぼみがある。肩部以上は内外面とも丁寧なミガキ。外面の肩部以下には横方向の条痕を残す。

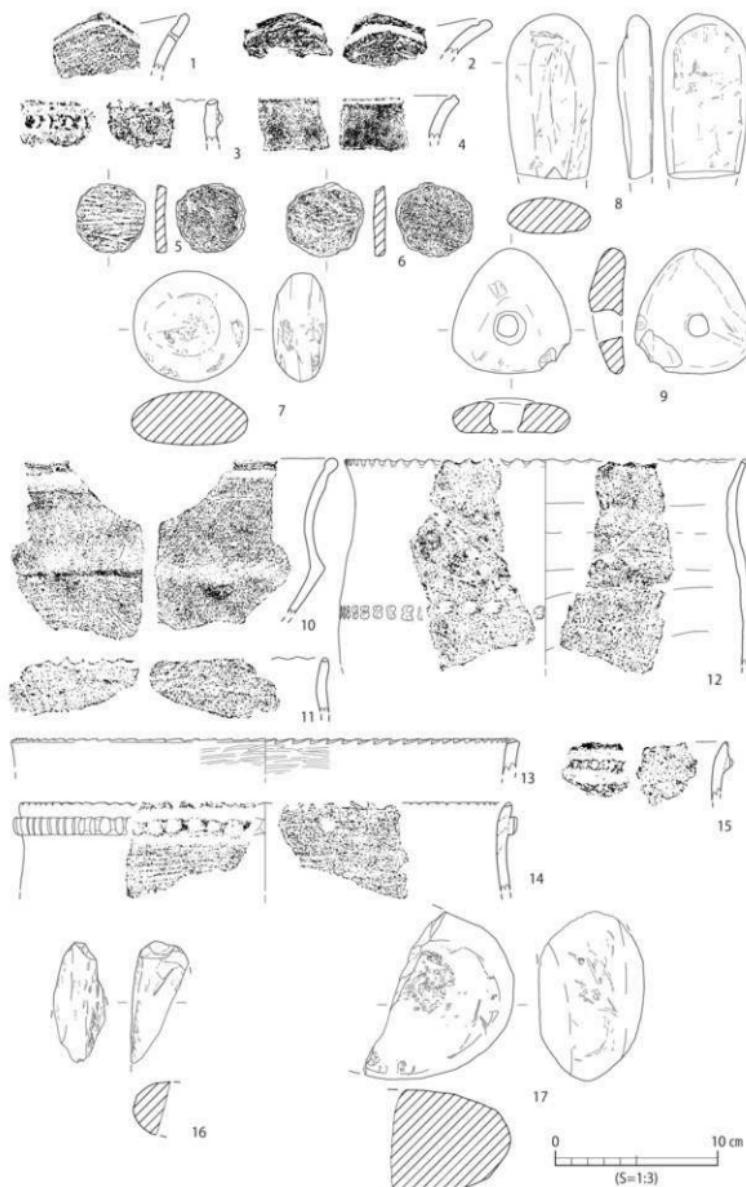
61-11～13は口縁端部を刻む深鉢。61-12は胴部最大径近くに、竹管の先端を加工した工具による刺突をめぐらせている。内面はヨコ方向の強い条痕。61-13は内外面ともミガキに見える。

61-14・15は口縁部外面のやや下に刻目突起を貼り付けるもの。口縁端部を刻む。

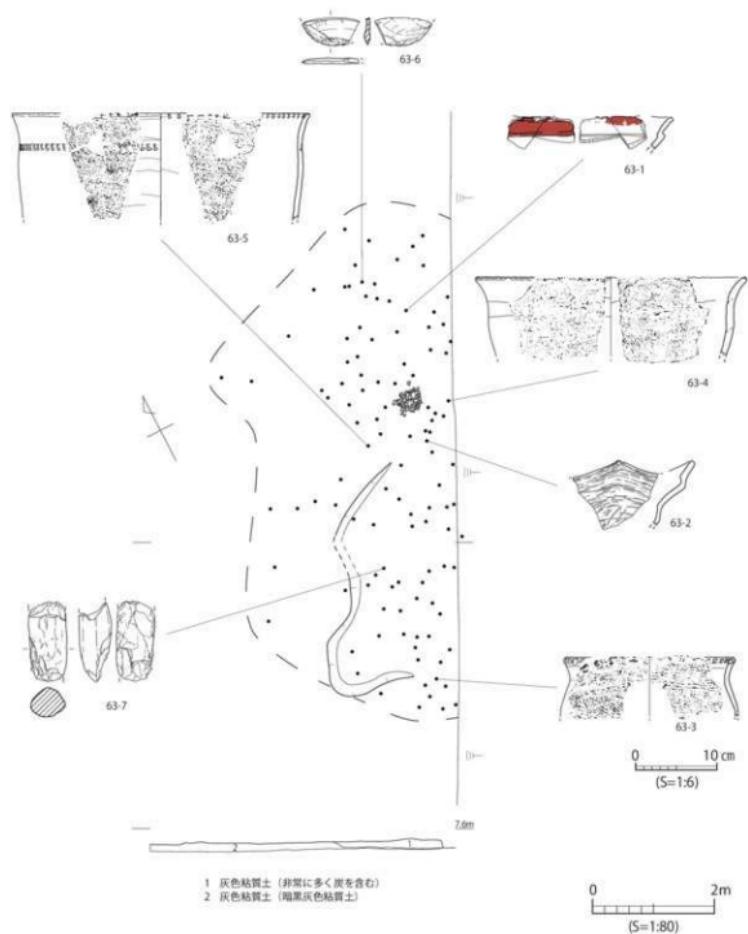
61-16は緑色片岩を使用した磨製石斧の基部と思われる。刃部側を大きく欠く。

61-17はディサイト製の敲石。半分程度を欠いていると思われる。一点に敲打痕が集中し、周縁には磨痕が目立つ。使用後に故意に割られたものか。

炭だまり4 炭だまり1から9ライントレーナーを挟んだ西側で、直径約6mの範囲で黒色土の堆積が見られ、炭だまり4(第61図)とした。この炭だまりは、9ラインの畦にもかかっているが、明確なくぼみは見られない。南東側にわずかに落ち込む部分が見られ、炭を多く含む灰色粘質土が堆積しているが、遺物の広がる範囲には、表面的に炭が見られるのみで、断面でも全く厚さがない。炭だまり4の出土遺物には、赤彩を施された浅鉢が見られるが、炭だまり1のように呪術具の出土が目立つという印象はない。また、炭だまり4の中程で、炭だまり1と同様に小石を集めた部分が見られた。約50×40cmの範囲に小さな円礫が集められており、この周囲からは、土器片が集中して出土している。



第61図 炭だまり1・3出土遺物実測図(1:3)



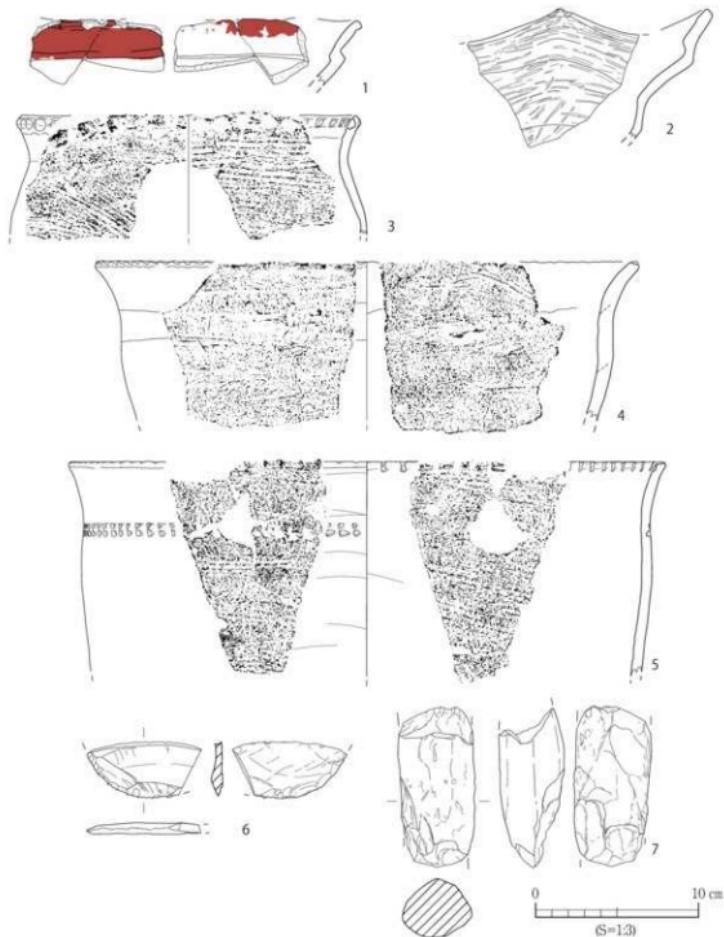
第63図 炭だまり4実測図(1:80)、遺物は1:6)

炭だまり4出土遺物 63-1は肩部に段が付き口縁部が直線的に開く浅鉢。口縁端部を小さく外側に折り曲げる。頸部から口縁端部直下面の内外面には赤彩が施されている。内外面ともミガキで、体部の外面には条痕を残す。

63-2は波状口縁の浅鉢。波状口縁の稜の両側に棒状工具によって付けられた小さなくぼみがある。内面調整はミガキ。

63-3は小型の深鉢。口縁部内面に、竹管の先端を加工した工具による刺突をめぐらし、外側は刺突によって盛り上がっている。内外面とも条痕を明瞭に残す。

63-4は口縁端部を刻む深鉢。口縁部外側にはススが付着し、内面側には粘土帯の継ぎ目が見える。

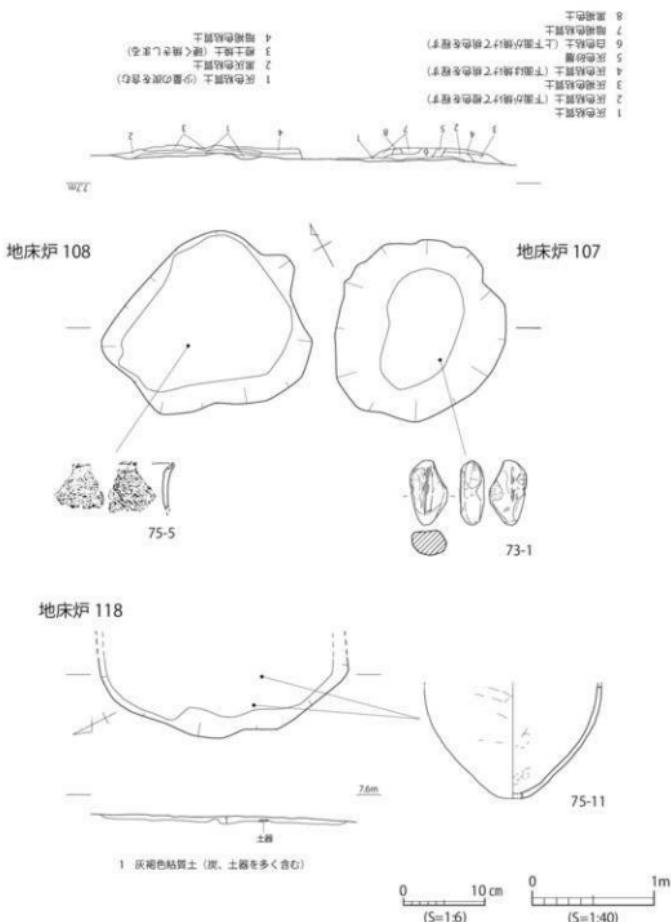


第63図 炭だまり4出土遺物実測図(1:3)

63-5は、竹管の先端を加工した工具で、口縁部の内面側に刺突を施すもので、外面は刺突によつて盛り上がっている。63-3と異なり、口縁端部に接して刺突されており、刻みに近い意識か。口縁部の刺突と同じ工具で、胴部最大径近くにも刺突をめぐらせている。内外面とも条痕。

63-6はガラス質安山岩製のスクレーパー。弧状刃部を持つもので、刃部の1/3程度と基部を欠いている。

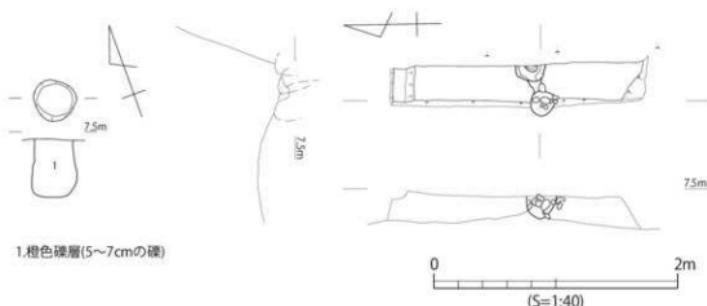
63-7は緑色片岩製の石斧。全面に敲打痕があり、丁寧に整形されている。基部を欠き、刃部も大きく欠損している。



第64図 地床炉 107・108・118 実測図 (1:40、遺物は 1:6)

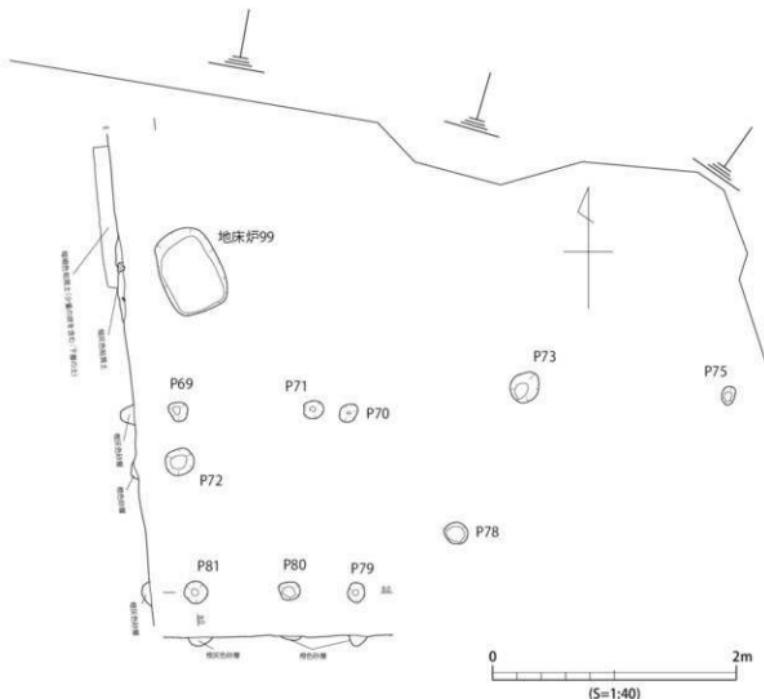
地床炉 107・108・118 地床炉 107・108 は、炭だまり 1 と炭だまり 3 の間で 2 基並んで検出した。地床炉 107 は直徑約 1.5m の不整円形で、10cm 程掘りくぼめられている。内部からは、線刻鑿 73-1 が出土している。地床炉 108 は 1 辺約 1.5m の方形に近い形状で、地床炉 107 と同様に、わずかに掘りくぼめられている。口縁部内面に刺突のある深鉢 75-5 が入り込んでいた。2 基とも床面が非常によく焼け、暗赤褐色を呈し、床面が硬化している。位置関係から炭だまり 1・3 と無関係に存在したとは思えず、同時期に機能したものか。

地床炉 118 は、G8 東側の 9 ライントレンチに掛かる部分で検出した地床炉で、検出幅 2m を越える大きな地床炉である。わずかにくぼむ。埋土から深鉢底部 (75-11) が出土している。



第65図 袋状土坑(Pit68)・貯蔵穴実測図(1:40)

袋状土坑 (Pit68)・貯蔵穴 ピット68(第65図左)はF8で検出した大きな柱穴状の落ち込みである。直徑約30cm、深さ約45cmで、底近くに最大径のあるフラスコ形となっている。この落ち込みの特徴的な点は、内部に土が入っておらず、拳大の石が充満されていた点にある。古屋敷遺跡で見られる落ち込みに、他に石の充満したものではなく、周囲にも石の堆積は見られないことから、

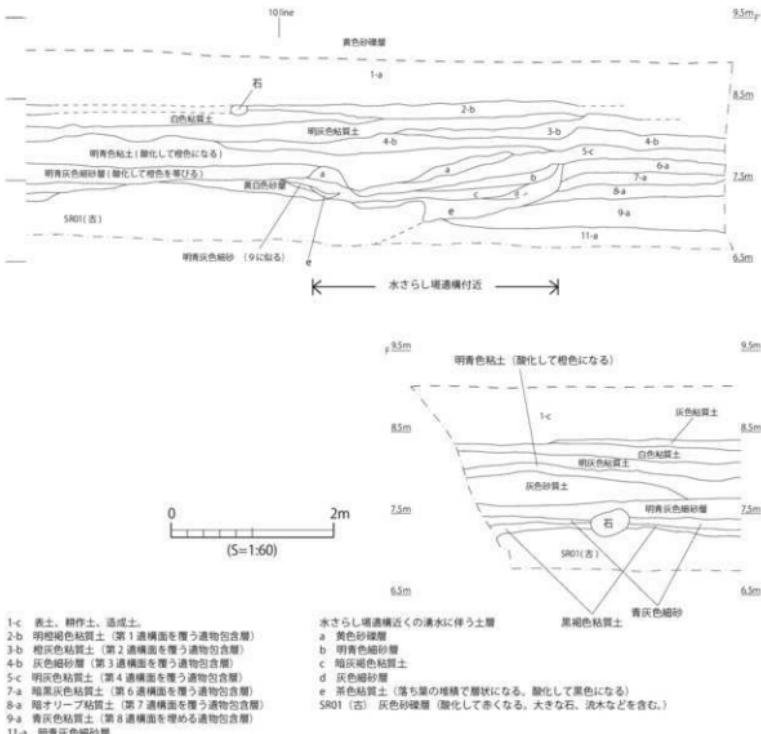


第66図 F10付近 Pit 実測図(1:40)

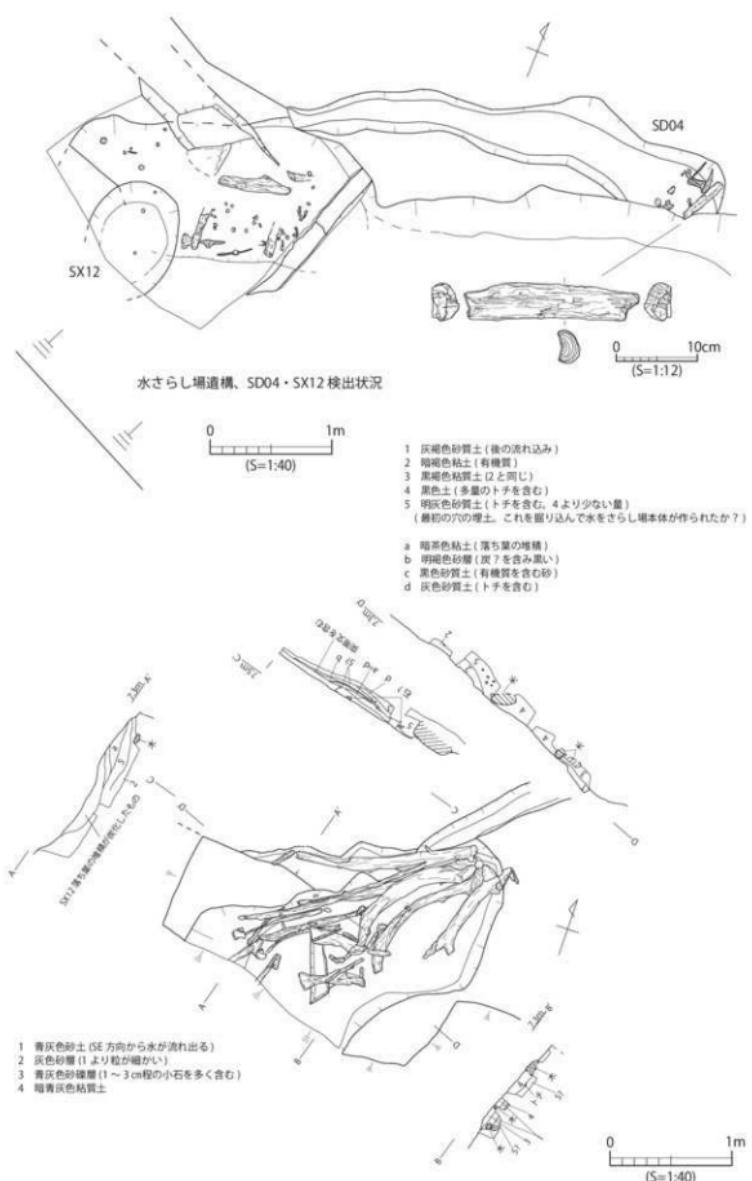
人為的に石を詰めたものと思われる。この土坑は、使用時には空間があり、放棄する際に石を詰めたものと想像される。内部には、石以外の遺物はなかった。

第65図右はF10で見られた穴で、内部には外果皮を取り除いたトチの実が充満していたことから貯蔵穴とした。標高約7.5m付近の、自然流路（SR01）に接する位置で検出したもので、垂直に掘られた穴ではなく、SR01から西方向へ向けて斜めに掘られたものと思われ、平面的に検出することができなかった。下層に掘り進めようとする際に、穴の底近くを横から掘り抜いたもので、SR01側の開口部を後で検出している。開口部は直径約20cmで、西へ向けて斜め45°近い角度で掘られ、検出できた深さは約20cm。中程は直径15cm程にすぼまり、底面近くで再び20cm以上の広さとなる。土は、少量しか入っておらず、外果皮を除去したトチの実と少量のクルミが充満していた。貯蔵穴に近い調査区東壁の北寄りに部分の標高7.5m付近は、土層断面（第99図）では、SR01の堆積土の中に当たり、貯蔵穴は、SR01の堆積土中から掘り込まれていた可能性が高い。貯蔵穴内に水を引き込んでいると考えられ、トチ等の堅果類を水漬けするための施設か。

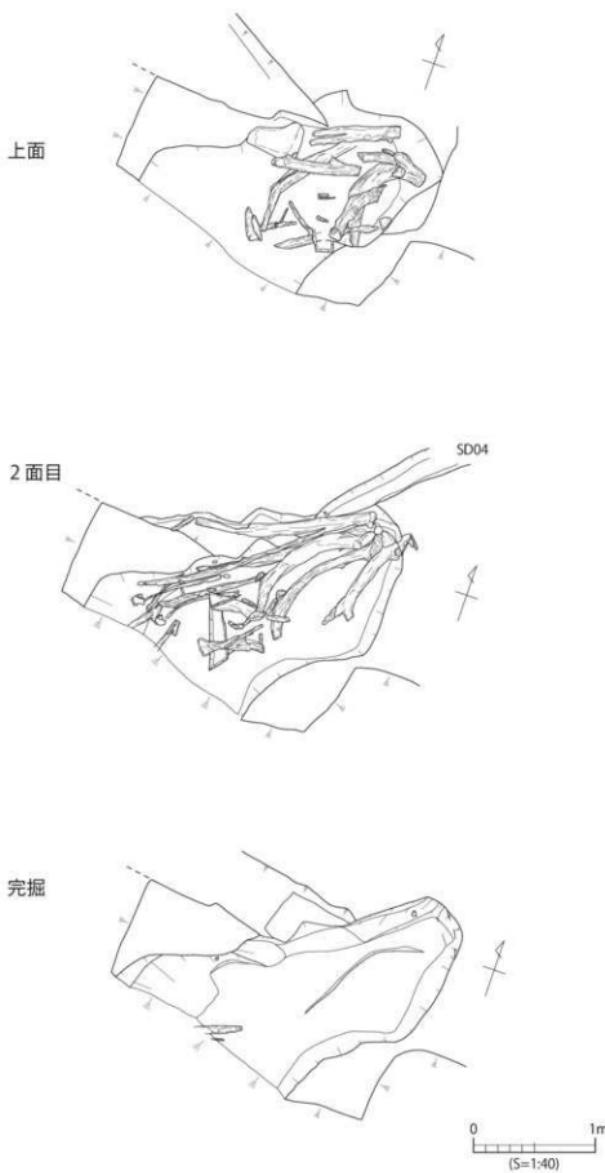
F10付近のピット・土坑 第5遺構面F10付近には、貯蔵穴に隣接するように、ピットが集中する部分（第66図）が見られる。F10の東側にはSR01が流れていると見られ、近接して10基ほ



第67図 古屋敷遺跡（D区）南壁土層堆積状況（1:60）



第68図 水さらし場遺構実測図(1)(1:40、遺物は1:12)



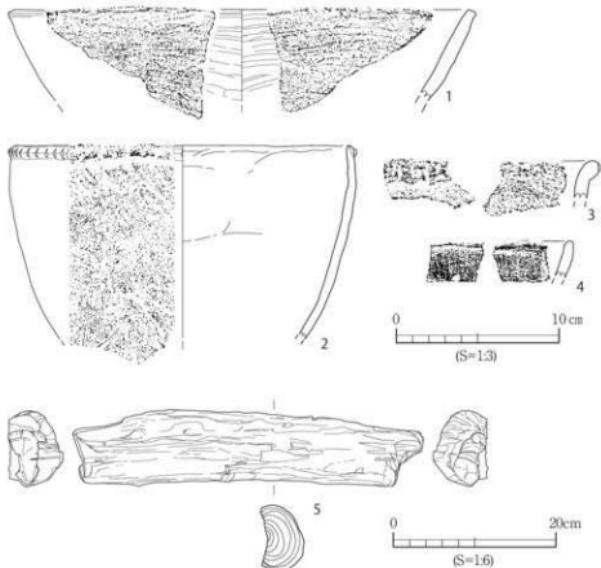
第69図 水さらし場遺構実測図(2)(1:40)

ビットと地床炉がまとまっている。ビットは直径10～25cm、深さ6～20cmの小さなもので、柱根などが見えるビットはない。北側に地床炉99が隣接している。

水さらし場遺構 I9南側の調査区端で排水路を兼ねたトレンチを掘削中に、外果皮を取り除いたトチの実などが大量に出土し、棒状の木が組まれたような状況が見られたことから、水さらし場遺構（第67図）とした。この部分は、中程が落ち込み、調査時にもきれいな水が湧き出しており、自然の湧水点を利用した施設と思われる。

第67図には水さらし場遺構に隣接する調査区南壁の土層断面図を示した。水さらし場遺構のある部分は、自然流路（SR01）の岸に当たり、水さらし場遺構よりも東側は流路内の砂礫層となる。当時の流路がどの程度の川幅だったかは判らないが、砂礫が均質であることから、徐々に埋まって行ったと考えられ、数メートル幅の少ない水量で流れていたものと推定される。よって、水さらし場遺構自体は流路からは離れていた可能性が高い。水さらし場遺構付近は、埋没後もある程度の湧水があった可能性があり、上面の土層がくぼんでいる。また、水さらし場遺構の南西には、水さらし場遺構の堆積を切って、落ち葉だけが厚く堆積した落ち込み（SX12）があり、この部分も後の湧水点だったと思われる。

水さらし場遺構は、検出時には、自然木が1辺約60cmの方形に組まれた遺構と認識していたが、それぞれの材は、全長2mを越えるものまで含まれており、その材を含んだ土坑を検出できない。水さらし場を構成する材を取り上げ、下層の材を追っていくと、自然流路（SR01）の堆積中に埋没していくことから、自然の流水等を利用して湧水点を保護し、その内側を利用して木の実の水さらしを行うなどに利用したものと判断した。



水さらし場遺構に隣接して長さ約4mの溝があり、SD04と呼んだ。SD04（第67図上）は、北側で幅約50cm、水さらし場遺構に接する南側では幅約20cmを検出し、深さは10cm程度である。わずかに南側が下がっており、自然流路（SR01）から水さらし場遺構へ向けて導水しているよ

第70図 水さらし場遺構出土遺物実測図 (1:3、木製品は 1:6)

うに見える。内部には、砂質土が堆積しており、水が流れていることを示す。また、SD04 北端の SR01 に接する位置からは切断された棒状の木製品(69-5)が出土している。SD04 に直交する方向で置かれていた。水をせき止めたかのように見える。

また、水さらし場遺構の南側では、落ち葉の詰まった土坑(SX12)を検出した。南側を検出していないが、長径 90cm 以上の梢円形で、深さ約 20cm。内部には、落ち葉だけが堆積しており、検出直後には青々とした葉脈まで見える状態の葉が折り重なって堆積していたが、数秒で褐色に変色し、翌日には褐色の粘質土に変わっていた。SX12 は、水さらし場遺構の上面の堆積を切っており、水さらし場遺構本体が埋没した後の湧水点だったと思われる。

水さらし場遺構出土遺物 70-1 はポール形の深鉢か。口縁部に面を持ち、刻目等は施さない。内外面とも荒い条痕。70-2 は口縁部外面に刻目突帯を貼り付ける深鉢。70-3 は口縁部を外側に折り曲げるようにして、端部を刻んだ深鉢。

場所	トチ	トチの大きさ					クルミ				その他の木の実					計	
		実用	割れている	ほぼ	1/2	1/4	トチの中の皮	実用	1/2	1/4	1/8 以下	実用	割れている	1/2	1/4	皮・小片	
水さらし場遺構 A	1	27	127	多量				3	1	少量	7	18	少量				184
水さらし場遺構 B	1	17	154	257	多量	2	3	少量	3	4	少量	12	15	少量			468
水さらし場遺構 C	3	9	168	317	多量	3	6	1	16	6	18	37	61	22			667
水さらし場遺構 D		49	138	多量	1			5	2	少量	8	58	120	少量			381
水さらし場遺構 E	3	19	35	91	1	4	8	20	26	19	33	10	39	8	少量	2	318
水さらし場遺構 F	11	23	74	多量	1	2	2		1	少量	6	24	7	少量	1		162
水さらし場遺構 G	2	36	91	6	4				3	2	1						145
水さらし場遺構 H	1	12	23	多量	2	2		18	9	少量	4		2	3			76
水さらし場遺構 I		3	7	少量								1	1				12
水さらし場遺構 J		1	3	少量								1					5
SX12		2	20	23	少量				3	6	少量						54
水さらし場遺構(その他)	2	13	86	多量		2	1		10	2	少量	3					119
第5道構面 断続穴	4	3			少量			1			4	5	少量				17
第2道構面 地床 炉 14																少量	0
第3道構面 地床 炉 60																少量	0
第6道構面 地床 炉 63							少量										0
第6道構面 地床 炉 64																少量	0
第3道構面 地床 炉 65																少量	0
第4道構面 地床 炉 71																少量	0
第4道構面 地床 炉 85																少量	0
第4道構面 地床 炉 95												2	20	1	少量		23
第4道構面 地床 炉 96														1		1	
第5道構面 地床 炉 98												16	63	34			113
第5道構面 地床 炉 110												1					1
第5道構面 地床 炉 134												1					1
雨蓋排水溝		1	5	少量				1									7
青灰色粘質土		1	2	少量		1											4
無色粘質土	1	3	4	7	少量												15
計	8	71	560	1,251	7	15	24	26	1	85	50	54	71	287	232	25	6 2,773

第1表 水さらし場遺構他出土植物遺存体観察表



第71図 配石遺構2実測図(1:20)

70-4は浅鉢の口縁部。口縁部内面側にアクセントがある。両面とも丁寧にヘラミガキされる。

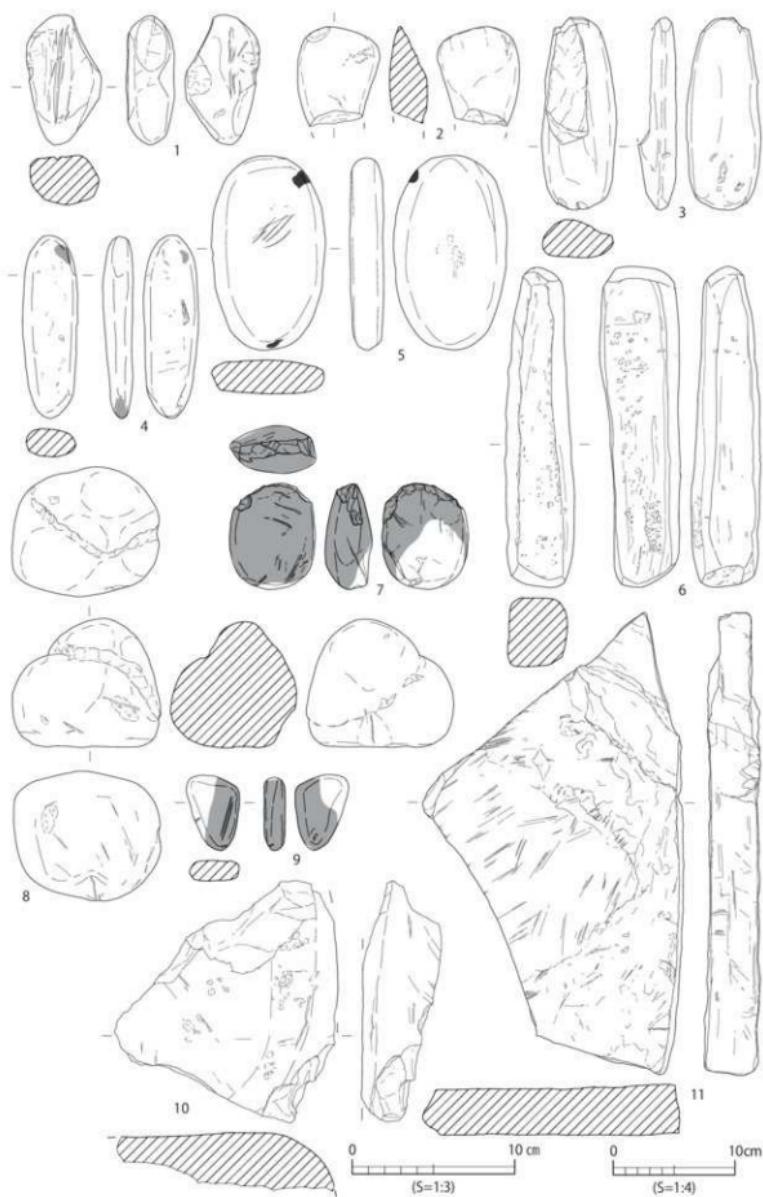
70-5はSD04の東端近くで出土した木製品。杉と思われる皮剥きした針葉樹の枝を半裁し、両端を切断した材で、長さ43cm、太さ9cmである。水路に対して直行して出土している。

水さらし場遺構で出土した植物遺存体 第1表には水さらし場遺構をはじめ、古屋敷遺跡D区から出土した種子等を一覧表にした。出土した種子類はトチが圧倒的に多く、外果皮の残るものはないかった。また、他の遺構面などで検出した地床炉からはトチやクルミは出土していない。唯一第3遺構面の地床炉63でトチと思われる小片があるが、特定は困難。南側排水溝他でもトチとクルミが出土しているが、水さらし場遺構から流出したものである可能性が高い。

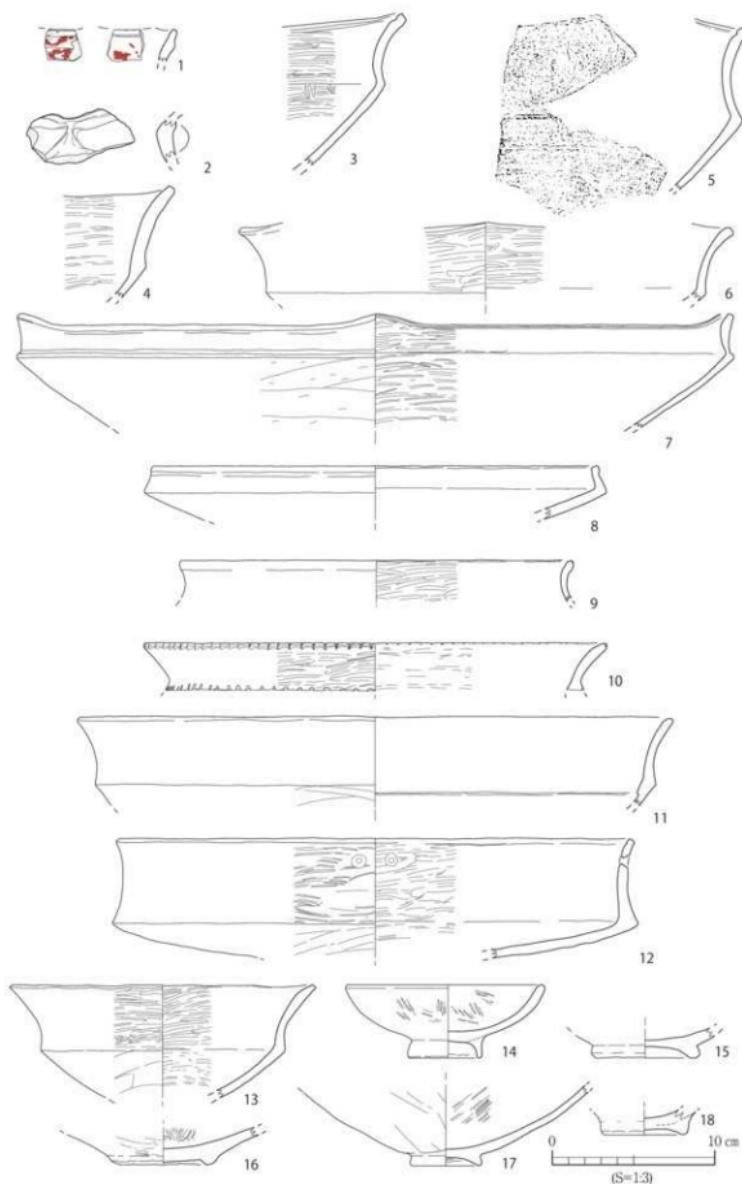
水さらし場遺構は、木が集中している部分について、第68図下のB-B'線とD-D'線で4分割し



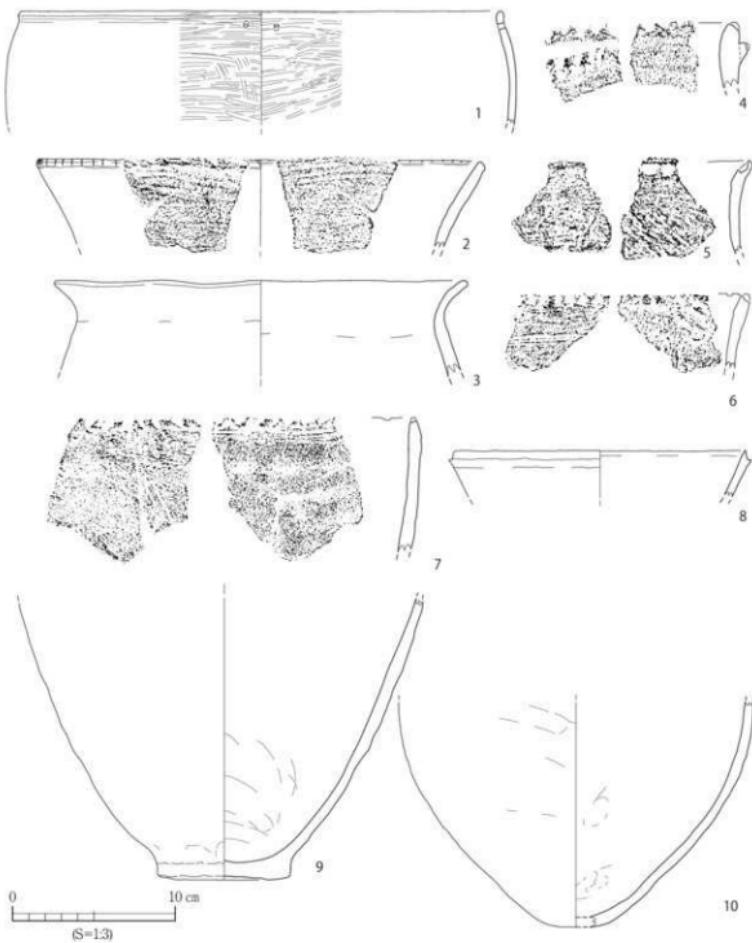
第72図 第5遺構面出土石器・石製品実測図(1)(1:3)



第73図 第5遺構面出土石器・石製品実測図(2)(1:3、11のみ1:4)



第74図 第5遺構面出土土器実測図(1)(1:3)



第75図 第5遺構面出土土器実測図(2)(1:3)

た南東をAとし、時計回りにB～D、西側で、A-A'線とC-C'線で4分割した南東側をEとし、同じく時計回りにF～Hに分け、さらに西側を南側をI、北側をJとして取り上げた。最も多く入っていたものは外果皮を取り除いたトチで、少量のオニグルミを含んでいる。本体と考えられるA～Dに多く、西に離れるほど減っていく。トチ・クルミ以外にも少量のドングル類を含んでいる。

水さらし場遺構と同時期に機能した可能性のあるG10の貯蔵穴でも外果皮を取り除いたトチが出土し、クルミなどを含む傾向は変わらなかった。

配石遺構2 H9では、長さ20cm程の角礫8個と小石がまとめて出土するところがあり、配石遺構2(第71図)とした。標高約7.5mの平らな場所に大小の石が間隔を開けて配されており、東西約1.4m、南北約2mに範囲に広がっている。配石遺構1と比べると、隙間が大きく並べられたような状況ではない。配石遺構1と同様に土坑等は見られず、遺物も伴っていない。配石遺構2の検出位置は、層位は異なるが、第3層の配石遺構1や第2層の木棺墓(SK01)などと平面的には近接した位置にあり、場所の機能を考える上で注意される。

第5遺構面出土石器・石製品 72-1はガラス質安山岩製のスクレーパー。側縁にえぐりが入る。

72-2・4は泥質片岩製の石斧。72-2は刃部を欠くが、刃部近くの面に研磨痕を残す。72-4は規模のみの小片。

72-3は凝灰岩を使用した石斧の基部に見える石製品であるが、非常に軟質の石材で、石斧ではない。両面に磨痕を残し、側縁にえぐりを入れる。全面に火を受け黒変しているほか、ひび割れも見え、高熱にさらされたことが判る。呪術具か。

72-5は切目石錘。凝灰岩の小石の両端を打ち欠き、切り目を入れたもの。元の石自体には穿孔貝によると思われる穴がいくつか開いており、海で拾ってきた石であることが判る。切り目を入れる石錘は、古屋敷遺跡D区では、この1点しか確認できていない。

72-8～10は擦石・敲石。72-7はやや軟質の凝灰岩を使用しているが、打痕と長い擦痕が明瞭に残る。72-9は、2条の摺理が一周回っている。

73-1～9は呪術具と思われる石製品。73-1は地床炉107から出土した線刻礫。凝灰岩の石を研磨し、線を何度もなぞっている。73-9も同様のものと思われ、火を受け、黒変している。73-3～5は扁平な凝灰岩で、いずれも僅かに打痕・磨痕が見られる。73-4・5には火を受けた形跡がある。

73-6は石棒の一種か。一面に自然面を残しているが、他の面には、小さな敲打痕があり、形を整えている。僅かに擦痕を残す。凝灰岩。

73-8は拳大の安山岩で、摺理があり、その部分を敲打しなぞったもの。また、下面是平らに整えられ、磨痕を残す。

73-10・11は石皿。73-10はデイサイト。全体によく研磨され、一部に敲打痕を残す。大きく破損しており、使用後に破碎されたものか。火を受けた痕跡は見えない。73-11は板状剥離した凝灰岩を使用したもの。下面是ほぼ自然面。

第5遺構面出土土器・土製品 74-1は浅鉢か。器壁が厚く、口縁部をつまみ出す形状で、内面側に小さな段がある。両面に赤色顔料残っている。文様等は判らない。

74-2は壺の肩部。指でつまみだした装飾が施される。注口土器か。

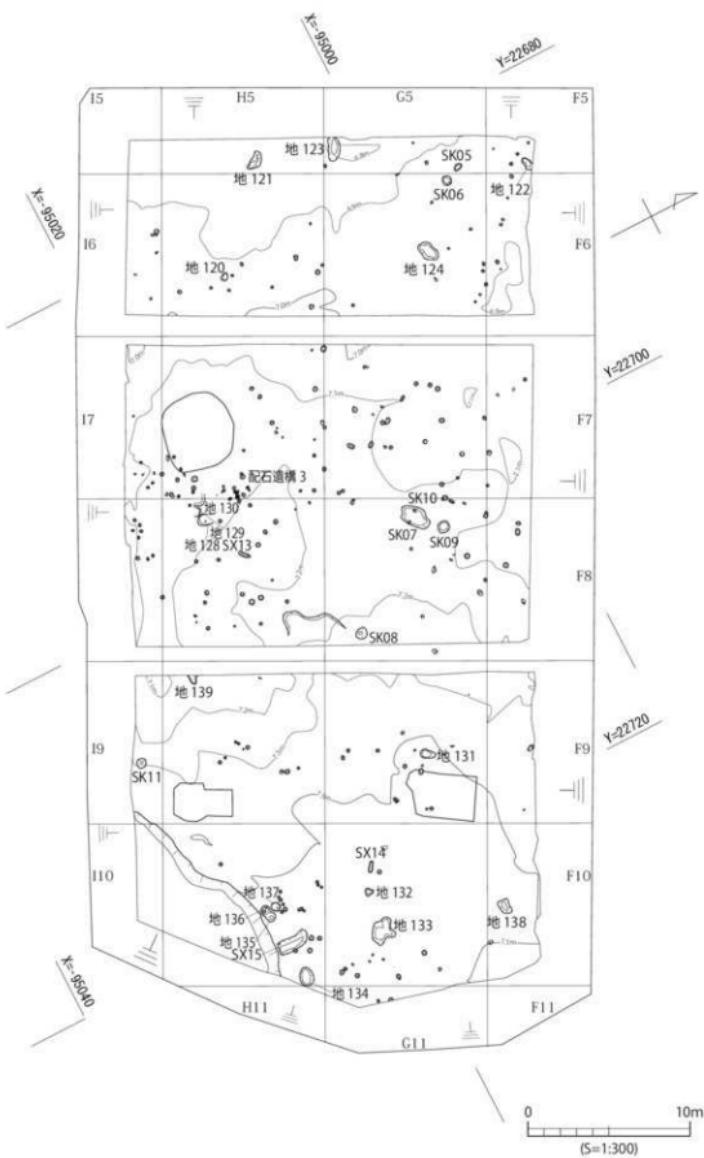
74-3～6は波状口縁の浅鉢。74-3・5は口縁部内面側に浅い沈線を引く。頸部から口縁部は内外面ともミガキが施され、74-4・5の体部外表面は横方向の条痕。

74-7は波状口縁の浅鉢。体部は直線的に大きく開き、口縁部は直立する。口縁部内面に凹線を入れている。口縁部外面はナデで、体部外面は条痕を残す。内面はミガキ。74-8も同様のもの。

74-9は口縁部を緩やかに外反させ、口縁部を玉縁状にするもの。内面はミガキ。

74-10は緩やかに外反する口縁部の破片で、浅鉢か。口縁端部を刻み、同じ原体で高部にも刻みを施す。肩部の破断面は剥離痕で、この位置で継いでいることが判る。内外面ともヨコ方向のミガキ。

74-11は大型の浅鉢。口縁部外面はナデで体部は条痕を残す。内面調整はミガキ。肩部の内面側



第76図 第6遺構面遺構配置図 (1:300)

に段を作っている。74-12は口縁部が直立気味に立ち上がる浅鉢。外側から補修孔を開けている。74-13は小型のもの。

74-14は高い高台状の底部を持つ碗形の浅鉢。体部は内外面ともミガキ。底部はナデ。高台状になった部分は、貼付けられている。

74-15～17は浅鉢の底部。いずれも体部が直線的に開く器形だと思われ、底部は高台状になっている。

74-18も底部の片断で、浅鉢か。高台状になった部分は貼付。

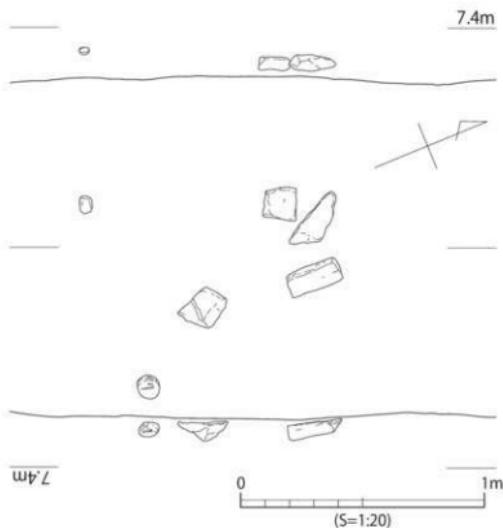
75-1はボール形の鉢。

内外面とも丁寧にミガキが施され、口縁端部は丸く收める。補修孔が開けられている。

75-2は頸部から直線的に延びる口縁の端部に面を作り、浅い刻目を施す深鉢。内外面とも横方向の条痕を残している。75-3は口縁部が大きく外反する深鉢。内外面ともナデ。75-4は口縁端部を刻み、口縁部外面に刻目突帯を貼り付ける深鉢。75-5は地床炉 108 から出土した深鉢。口縁部を緩やかに外反させ、内面側に刺突を施すもの。いわゆる孔列文土器と異なり、貫通していない。刺突工具は竹管の先を加工したものを押し引き状に連続するように程される。内外面とも条痕。75-6・7は口縁部を刻む深鉢。

75-8は、浅鉢か。やや厚い器壁を持ち、口縁端部は、指で押さえ受け口風に加工している。内外面ともナデ。

75-9は底部。外面調整はナデ。内面には僅かに条痕を残す。75-10は丸底の底部。内面側には指頭圧痕が残る。

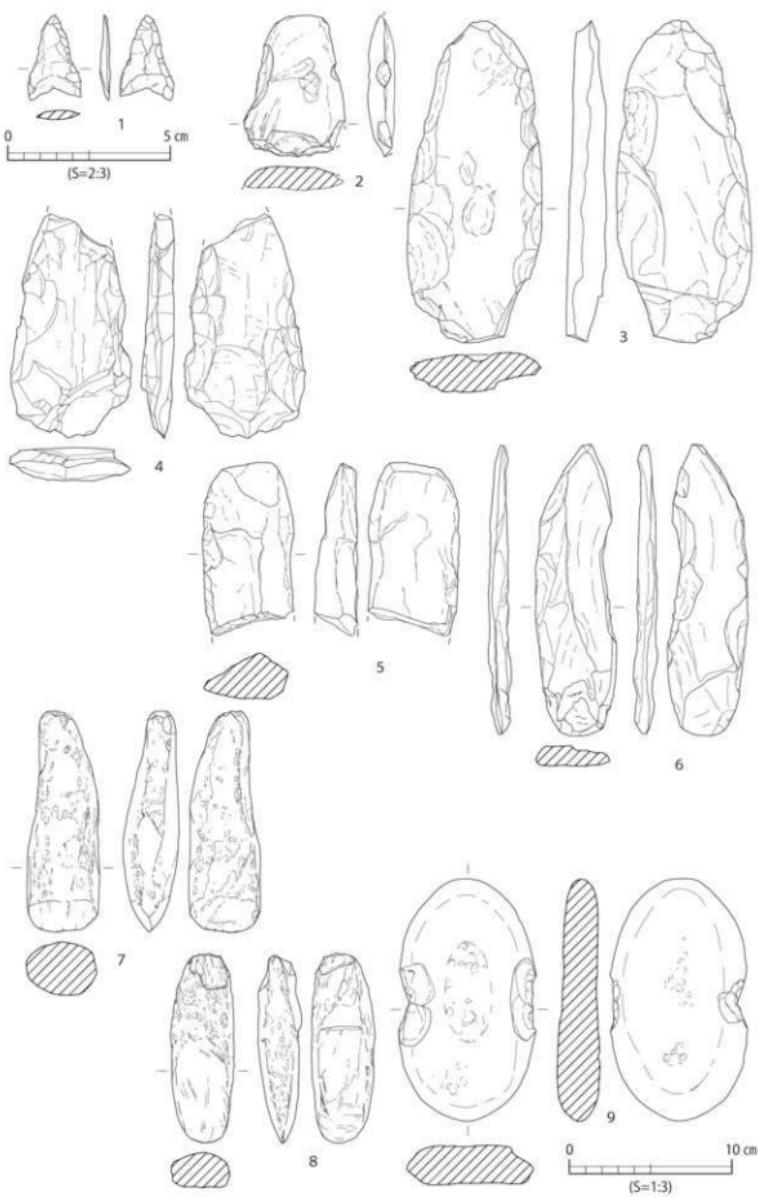


第77図 配石構造3実測図(1:20)

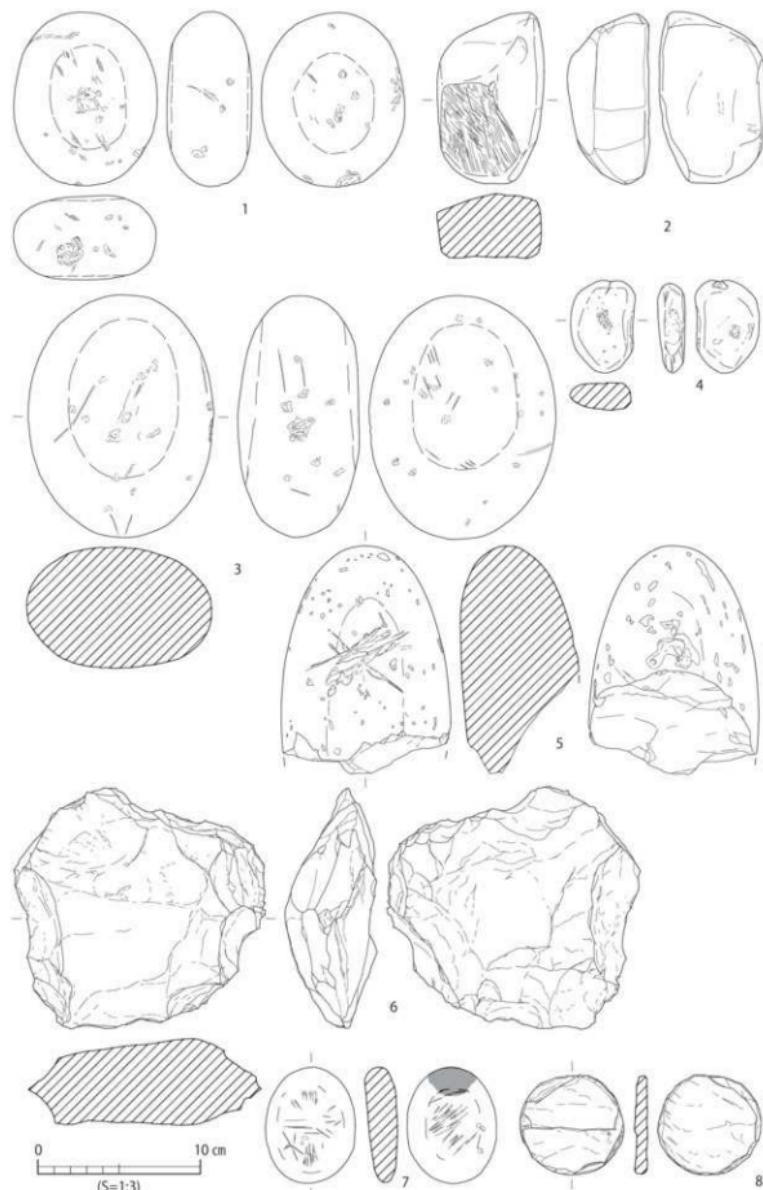
8. 第6遺構面の遺構・遺物

暗黒色粘質土・暗黒灰色粘質土等を除去した西側で標高 6.8m、東側で標高 7.5m 付近で地床炉やピット・土坑を面的に検出し、第6遺構面と呼んだ。

第6遺構面の遺構 第6遺構面からは地床炉・ピット・土坑を検出しているが、この面では、地床炉や土坑の割合が減り、調査区の全面で多くのピットを検出している。特に調査区中程のF7～I8付近を中心約130基を検出した。断面を確認できるものはほとんど1層で、柱根を確認できるピットはない。また、建物となるようなまとまりを確認することはできなかったが、H7～8にかけては、地床炉を囲むように多数のピットがあることから、平地式住居などの存在も想像される。



第78図 第6遺構面出土石器実測図(1)(1:3、1のみ2:3)



第79図 第6遺構面出土石器実測図(2)(1:3)

なお、G8～9付近にピットが少ない部分が広がるのは、上層の炭だまり1・4(第5遺構面)に重なるためで、この部分にも、多くのピットがあったものと思われる。また、H7～8では、石が集中して見られる部分があり、配石遺構3とした。

第6遺構面 H8では、石斧(78-7・8)と磨石(79-1・3)がそれぞれ2点が接して出土する状況(図版82・83)が見られた。建物跡などとの関係は判らないが、ピットが集中する部分に近く、意識して置かれていたものか。

配石遺構3 H7～8付近に集石が認められ配石遺構3(第77図)とした。配石遺構3は標高7.2m付近に、長さ20～30cmの角礫を6個を並べて置いたもので、南北1.2m、東西48cm程の範囲に広がっている。南端の1点のみ、やや丸みのある石材を使用しているが、他の石は角張った面のある石である。他の面の配石遺構と同様に土坑などは見られず、遺物も伴っていない。

第6遺構面出土石器 第78～79図には、第6遺構面から出土した石器・石製品を示している。

78-1は、サヌカイト製の石鎌である。長さ2.5cm。やや風化しており、稜がはっきりしない。78-2～6は打製石斧。78-2は刃部を大きく欠損した後にさらに再利用したものか。78-3・5は刃部を、78-4は基部側を欠いたもの。78-7・8は塩基性片岩を用いた磨製石斧。

78-9は扁平な凝灰岩の両側縁を打ち欠いてくぼみを入れたもので、石錘と思われるが、わずかに打痕が見られ、磨っているように見える部分がある。79-1～5は、叩石・磨石と思われるが、79-2は一面だけが極端に磨られているもの。79-4は長さ5.8cm、重さ61g しかない小さなものに打痕が見えるもので、叩石として機能するか疑問である。周囲には、強い磨痕が見える。79-5は、大きな擦石・叩石であるが、大きく欠損し、また、×印のように傷つけた痕跡が見られる。使用を終えた後に、故意に破碎されたものか。

79-6は、玉髓製の石核。非常に硬い石で、周囲を打ち欠いた状態で放棄されている。

79-7は凝灰岩の小さな円盤に磨痕が付いたもので一部が被熱している。呪術具だろうか。79-8は硬質の片岩を使用した石製円盤。

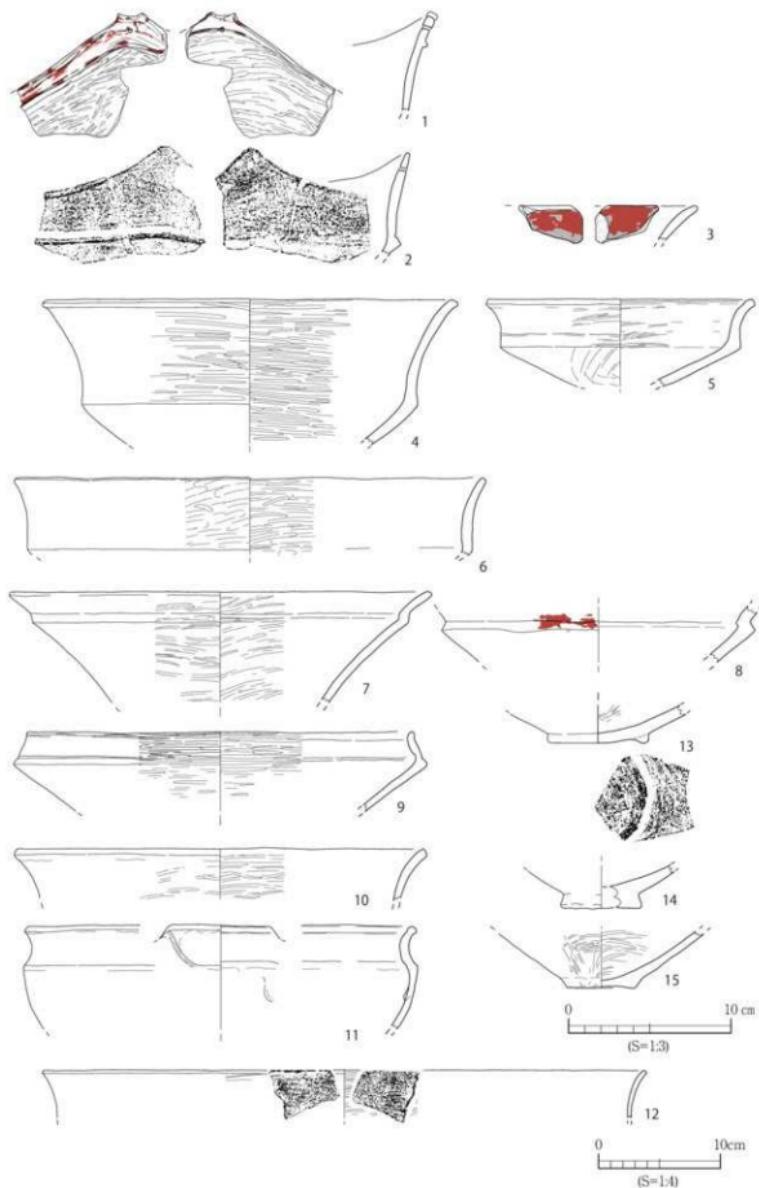
第80～83図には第6遺構面から出土した土器類を示している。

80-1は方形浅鉢の口縁部で、波状の先端に三角形の突起を2基設け、外面側に口縁と併行する隆帯をめぐらす。波状になった先端部近くには小さな穴が開けられる。外面の口縁部から隆帯の間には赤彩が施されたと思われ、わずかに赤色顔料を残している。原田式併行か。80-2も大きな波状口縁を呈す方形浅鉢。外面の肩部以下は条痕。80-1と同様に波状になった先端下側の位置に小さな穿孔がある。また、外面肩部の直上に沈線が入れられ、肩部は鋭い。

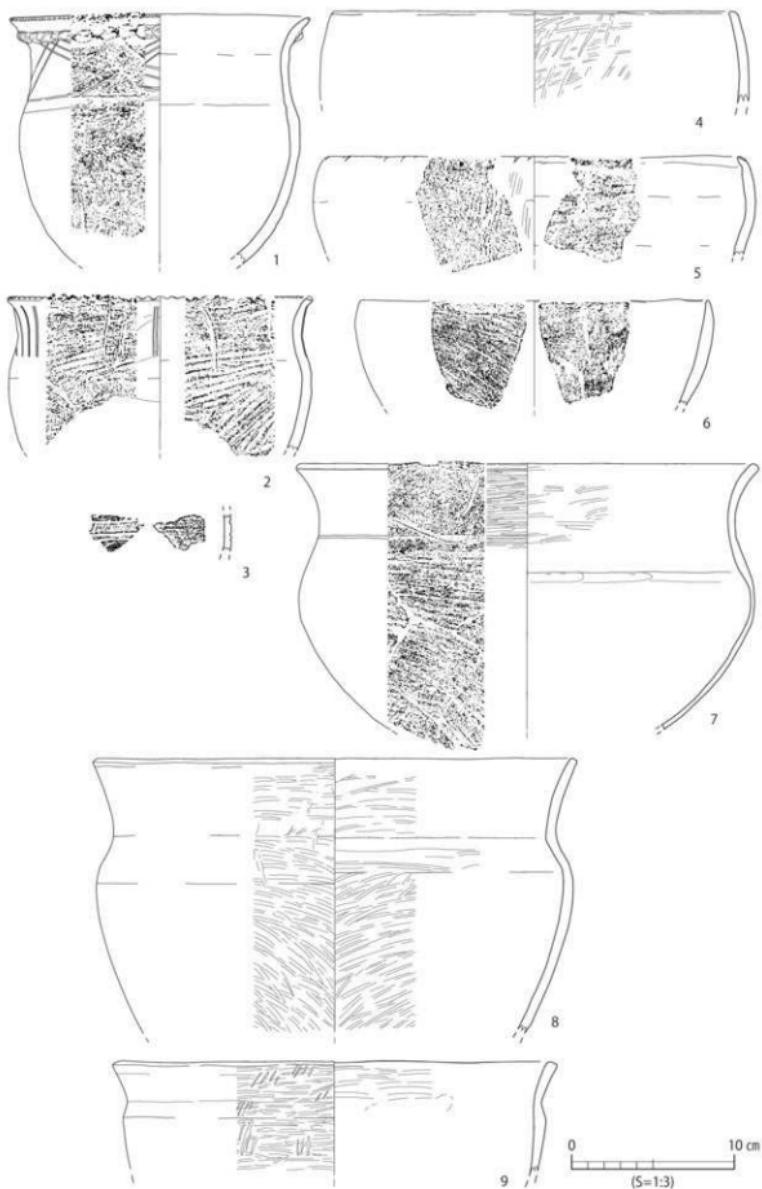
80-3は口縁部が緩やかに外反する浅鉢。内外ともに赤色顔料が施されている。濃淡はあるが、文様は不明。80-4～6は、肩部から口縁部が緩やかに外反する浅鉢。外面肩部以下は条痕で仕上げ、外面頸部、内面は横方向の丁寧なミガキを施す。80-10・12も同様のものか。80-7・8は直線的に開く体部と口縁部の間に大きな段を作るもの。80-8は、頸部外面に赤色顔料を残している。80-9は肩部を強く屈曲させ、口縁部を内傾させるもので口縁部をつまみ出し、肩部にも強いアクセントを入れる。内外面ともに横方向のミガキ。

80-11は、肩部から口縁部が緩やかに外反する浅鉢であるが、片口風の注ぎ口を持ち、その外面に隆帯による文様を施すもの。

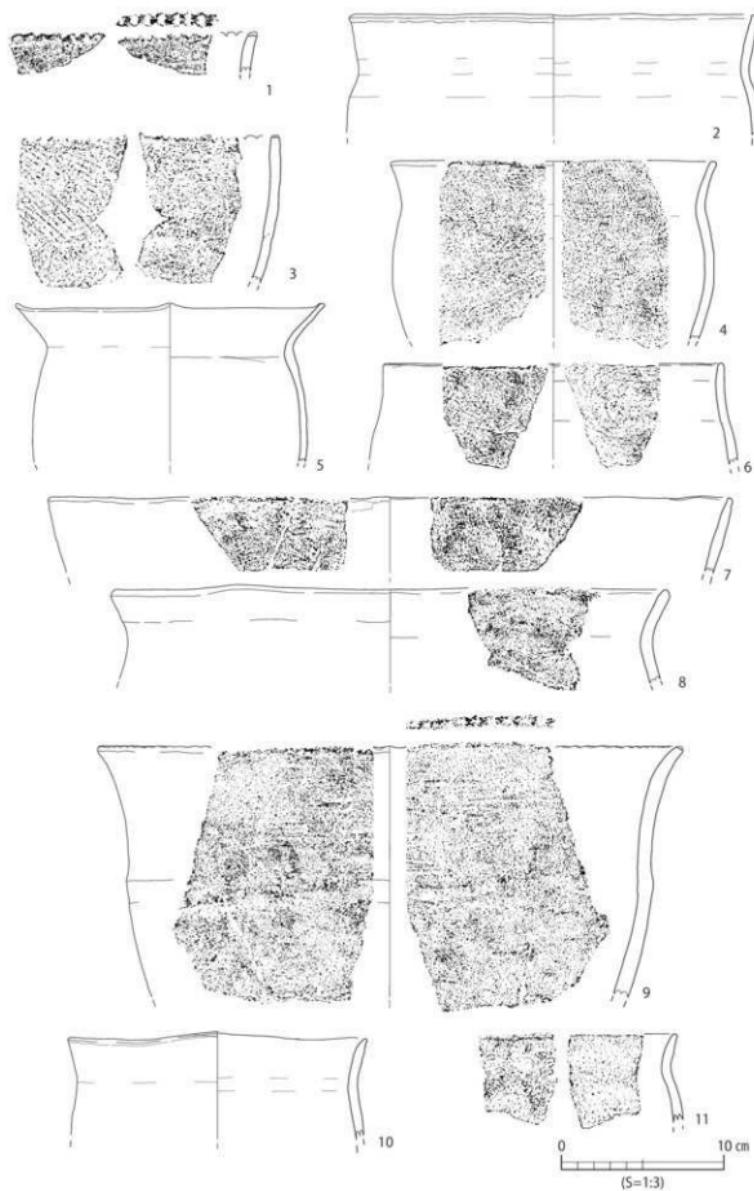
80-13～15は底部の破片で、いずれも浅鉢か。80-13は高台状の輪を貼り付け、内面調整はミ



第80図 第6遺構面出土土器実測図(1)(1:3、12のみ1:4)



第81図 第6遺構出土土器実測図(2)(1:3)



第82図 第6遺構面出土土器実測図(3)(1:3)



第83図 第6遺構面出土土器実測図(4)(1:3)

ガキ。80-14は、円盤状高台を持つもの。80-15は内外面ともにミガキが見える。

81-1・2は丸みのある脇部から肩が張り、頸部から口縁部を緩やかに外反させる深鉢。81-1は口縁端部に細かい刻みを入れ、そのやや下に刻目突帯をめぐらす。緩やかに外反する頸部にヘラ描きで2条の平行線による斜格子を描いている。刻目突帯は竹管の先端を斜めに切り落としたような工具を使用している。81-2は刻目突帯のないもの。頸部外面にはヘラ描きの直線文を縦方向に入れる。直線文は、一定の間隔で連続するものではなく、2～3本単位で、不等間隔。肩部以下の内面には斜め方向の条痕を残す。いずれも外面にススが付着している。

81-3は深鉢の肩部だろうか。横方向に引かれた併行沈線の間を細かい斜線で埋める。

81-4～6はポール形の深鉢。81-4は内面ミガキ。81-5は口縁端部に鋭い刻みをやや広い間隔で入れる。内面はナデで、外面は縦方向の条痕。

81-7～9・82-2・4は肩が張り、頸部から口縁部を緩やかに外反させる深鉢のうち無文のもの。81-7の口縁部は横方向の丁寧な磨き。肩部以下は内外面ともに条痕。

82-1・3・9は口縁端部を刻むもの。82-3の外面には、斜め方向の条痕が強く残る。

82-2～8・10・11は、素文の深鉢で、82-2・4・5・8・11は、頸部が強く屈曲するもの。82-5は口縁部に三角形の小さな突起が付く。82-10は緩やかな波状口縁。

83-1は口縁端部の上面に竹管を加工した工具による押し引き文を施した深鉢。押し引きにより口縁部が外側につぶれた状態か。83-2は口縁部に環状の飾りを貼り付けたもの。

83-3～7は口縁部の内面側に刺突を施すもの。83-3は棒状工具によって押し引き状に連続して刺突を施し、口縁部正面に83-2と同様の丸い飾りを貼り付けている。83-4・5は爪形の工具による刺突。83-7は刺突により外面側が盛り上がっている。

83-8～11は口縁端部を刻み、外面のやや下がった位置に刻目突帯を貼り付けるもの。83-10は、口縁部内面側にも竹管を加工した刺突を施している。

83-12・13・15・16は、口縁端部を刻むもの。83-13は、口縁部内面側から口縁端部にかけて刺突状の刻み。83-14は口縁部外面に高い刻目突帯を貼り付けるもので、突帯貼り付けの際に、内面側に爪痕による条線が付いたもの。

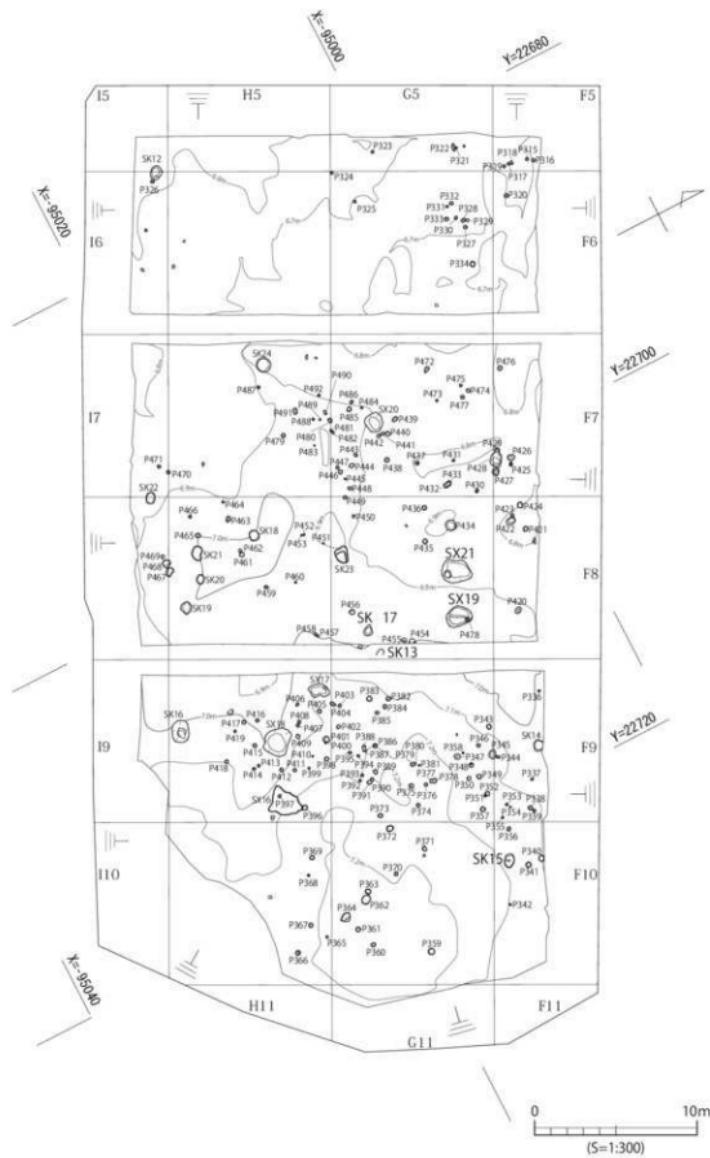
83-17～19は底部。このうち、83-17・18は高台状になり、底面をわずかに持ち上げる。

9. 第7遺構面の遺構・遺物

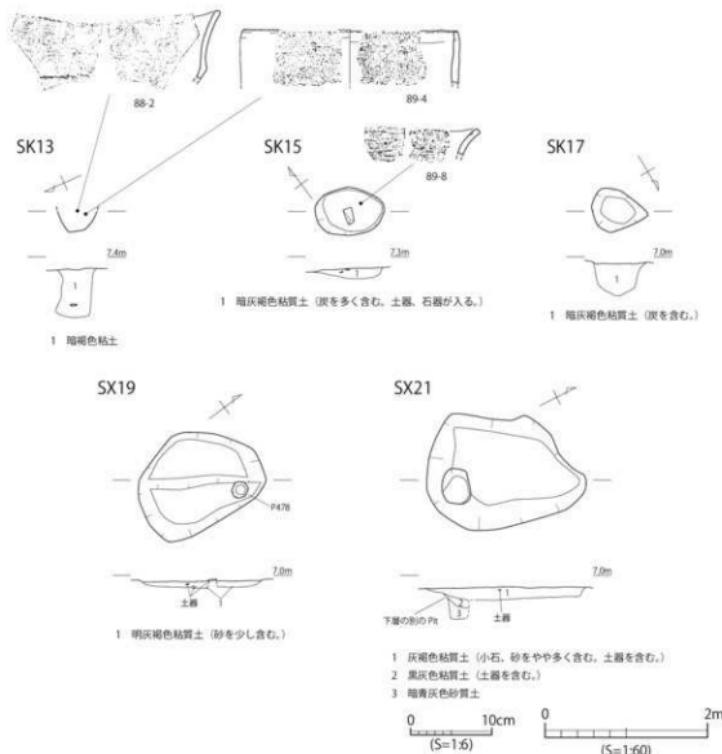
第7遺構面は、暗オリーブ粘質土を中心とした粘質土層を除去した面。西側で標高6.6m、東側で標高7.2m付近で、大量のピットを面的に検出している。標高6.8m以下の南西側では遺構・遺物供に少なく、標高6.8mより高いところで遺構を多く検出している（第84図）。

第7遺構面の遺構 第7遺構面では南西側の一画を除いて多量のピット・土坑を検出し、SK13・15・17では遺物も出土している。また、壁のはっきりしない不定形の土坑SX19からは、多くの遺物が出土している。

SK13は、9ライントレチ内の中坑で、9ラインセクションで断面を確認できているが、平面的には底部形状しか判らない。底面の直径が約40cmあるが、開口部がやや小さく断面フラスコ形となっている。底面近くから波状口縁の浅鉢（88-2）と、口縁部に刻み目を持つ深鉢（89-4）の小片が出土した。SK17はSK13に近いG8東側で検出した小さな土坑で、直径約50cm、深さ約40cm



第 84 図 第 7 遺構面遺構配置図 (1:300)



第85図 第7遺構面土坑実測図(1:60、遺物は1:6)

で、内部には炭を含んだ暗灰褐色土が充溝していた。

SK15は、F10にある浅いくぼみで長径約85cm、短径約55cmで、深さは10cm程しかない。口縁部内面に貫通しない孔列を持つ深鉢(89-8)が出土した。

SX19はG8で検出した長径約150cm、短径約115cmの楕円形の土坑で、ごく浅い。西半は掘りすぎた。ピット479が重なっており、ピットの方が古い。内部には砂を含んだ明灰褐色粘質土が入っており、土器片(89-6・9・12)を含んでいる。

SX21は、SX19の西隣で検出した長さ約190cm、幅140cmの不整長方形の土坑で、SX19と同様にごく浅い。内部には小石や砂を含んだ灰褐色粘質土が入る。埋土から88-7が出土した。

第7遺構面出土石器 第86・87図には、第7遺構面から出土した石器・石製品を示した。

86-1 は五角形石鐵である。ガラス質安山岩を使用しており、0.5 g と軽く小型のもの。

86-2・3はガラス質安山岩製スクレーパーの破損品か。86-3は、板状剥離した素材の自然面を多く残すもの。

86-4 は凝灰岩製の擦石・叩石と見られ、上下両端部は欠損と考えられる。片面にわずかに打痕

があり、反対面に擦痕が残る。柔らかい石材のため、あまり使用されていないか。

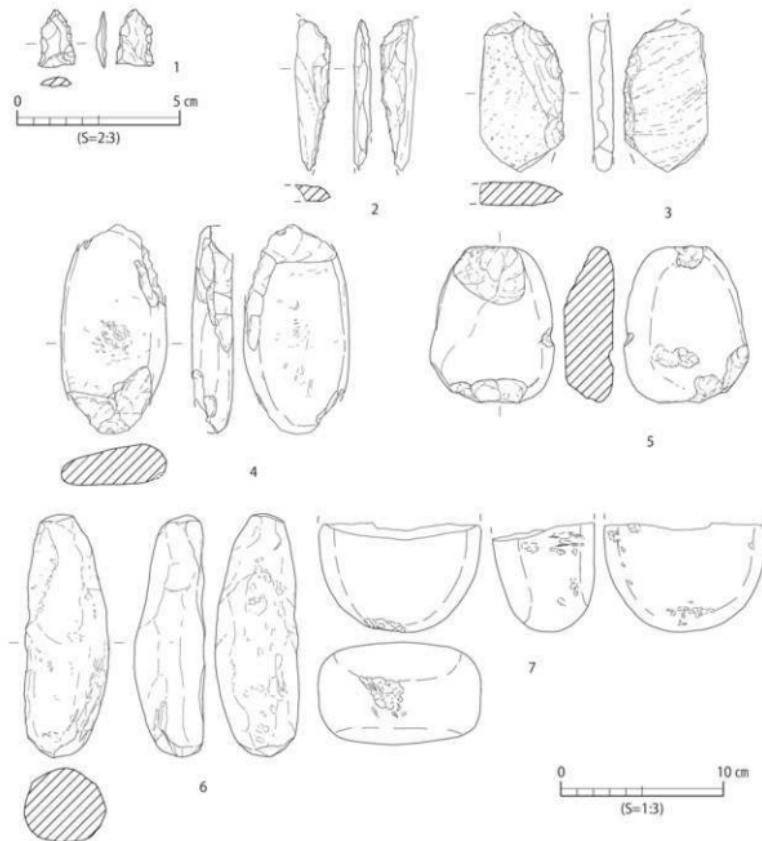
86-5は石錐か。扁平な石の上下に打ち欠きが見られる。

86-6は塩基性片岩を使用した、長さ15cm程の棒状の石材。磨製石斧の基部に似ているが、刃部が作られた形跡はなく、一部に敲打痕が見られる。叩石と考えているが、石棒の一種か。

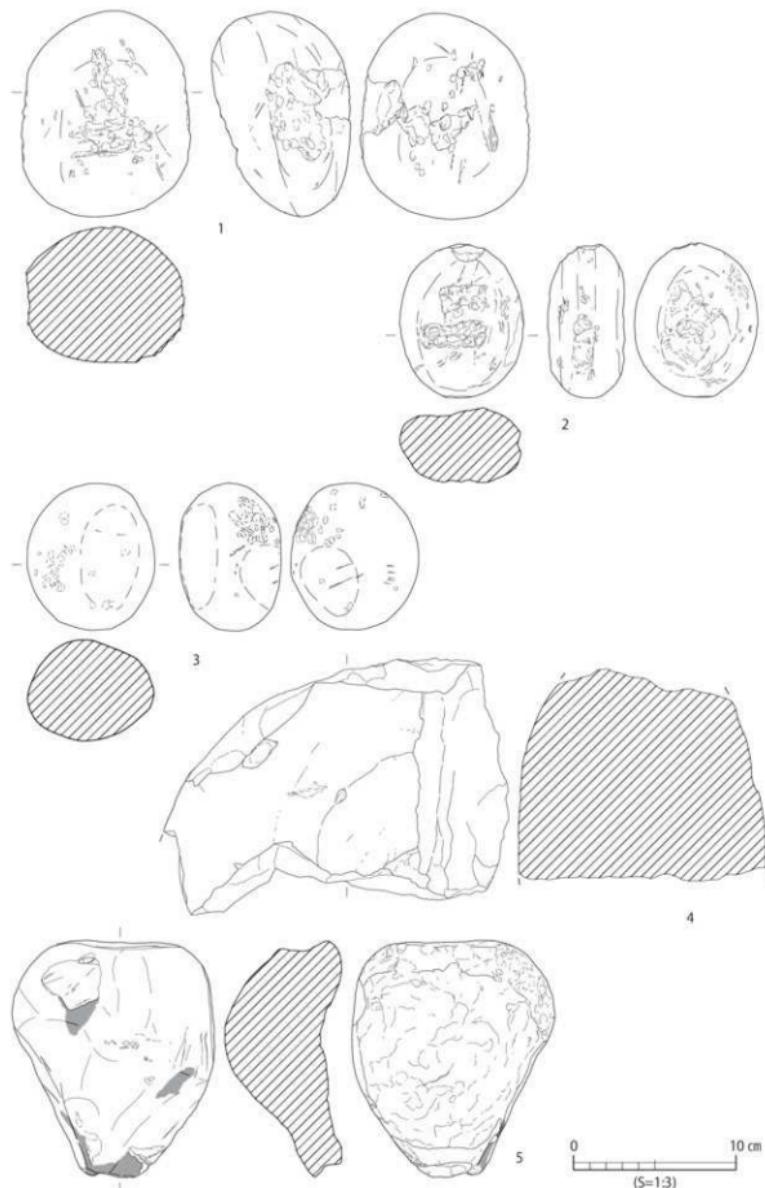
86-7、87-1～3は叩石・擦石。86-7は使用後に故意に叩き割られている可能性がある。縁辺部に打痕がある一方、擦痕はほとんど残っていない。87-1には、打面に直線的な傷が多く入っており、線を刻もうとしているか。

87-4は大型の石皿。上面と思われる面に、わずかに打痕・擦痕が見られる。大きく欠損しており、元の1/4程度の大きさか。

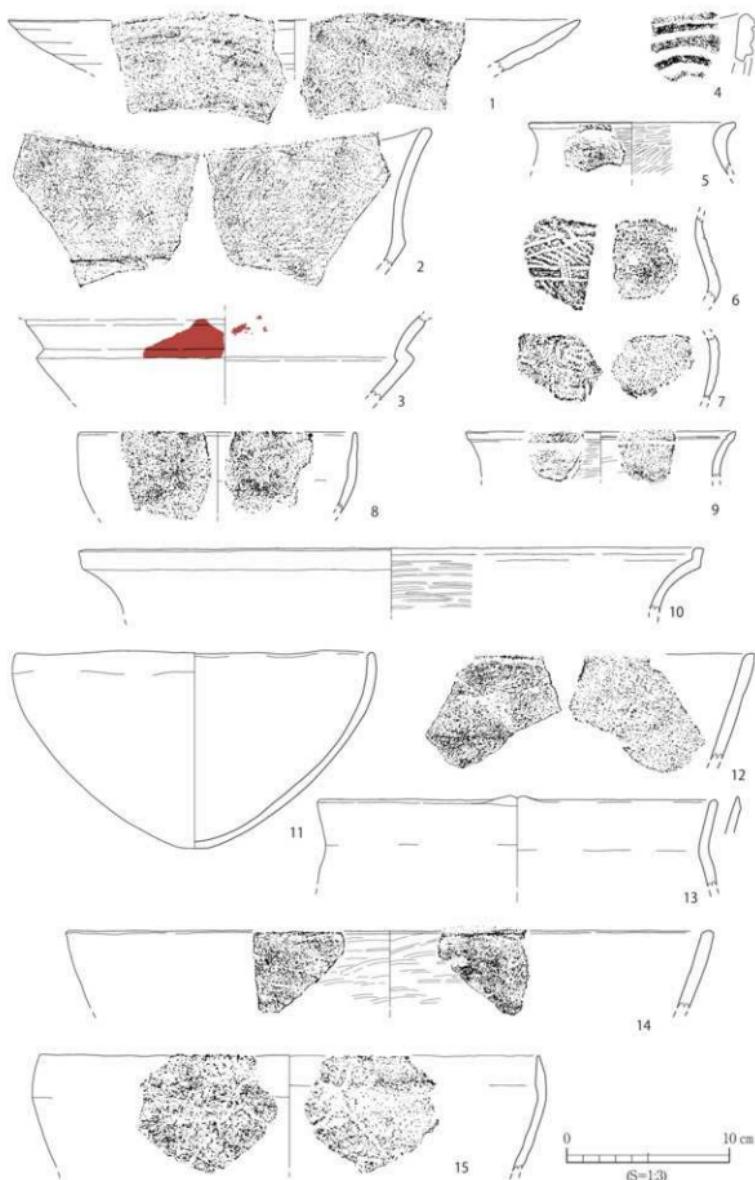
87-5は、ほぼ加工の見られない自然石だが、頂部にわずかに打痕があり、トーンを張った部分



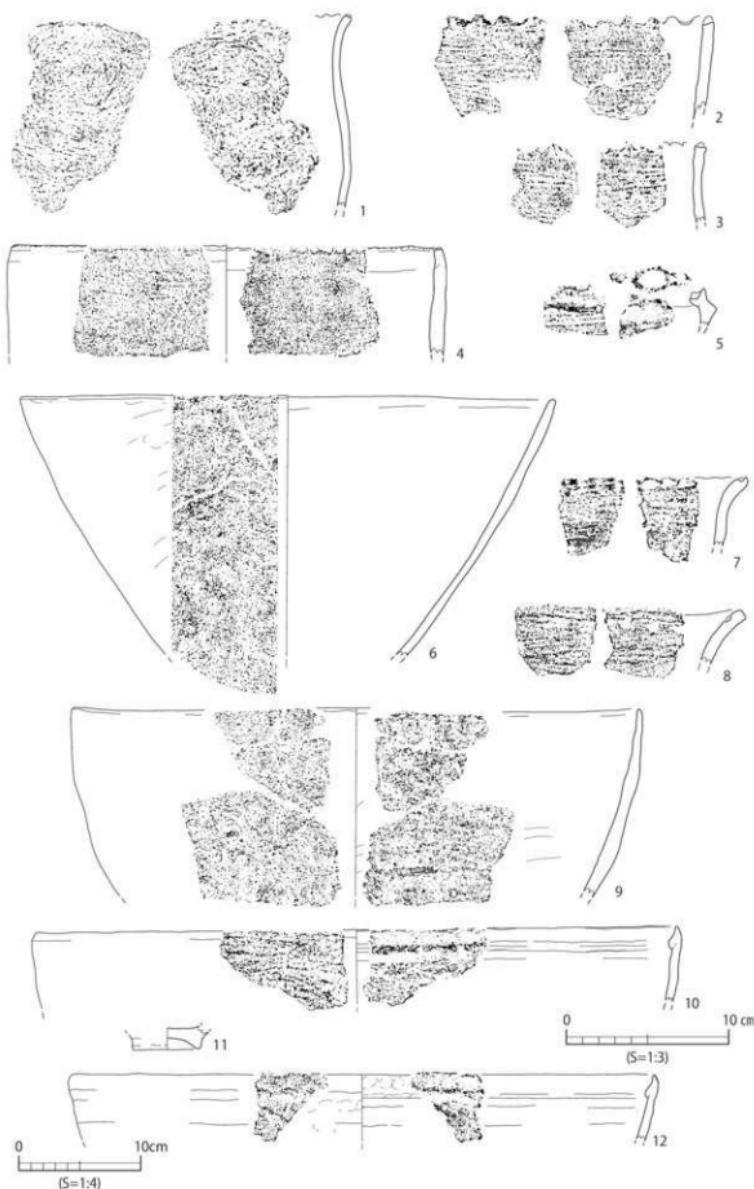
第86図 第7遺構面出土石器実測図(1)(1:3、1のみ2:3)



第87図 第7遺構面出土石器実測図(2)(1:3)



第88図 第7遺構面出土土器実測図(1)(1:3)



第89図 第7遺構面出土土器実測図(2)(1:3、12のみ1:4)

は火を受けている。地床炉などで使用した石製の支脚のような使用方法が想像される。

第7遺構面出土土器 第88～89図には、第7遺構面から出土した土器を示した。

88-1は口縁部が大きく開く浅鉢。88-2はSK13から出土した緩やかな波状口縁の浅鉢で、頸部以上はミガキ。外面の肩部以下は条痕である。

88-3は肩部に大きな段を持つ浅鉢。頸部外面に赤色顔料が塗られるほか、内面側にもわずかに赤色顔料が残る。第6遺構面で出土した80-8に似る。

88-4は、四線文の口縁部で、円形の貫通孔が開くもの。

88-5～7は、壺と考えられるもの。88-5は小型のもので、内外面とも丁寧にミガキが施され、口縁端部の外面には繩文が見える。88-6は、肩部の小片で、繩文を沈線で区画しており、下側は磨消か。88-7も肩部の小片。摩滅しているが、外面に渦文が見える。

88-8はボール形の浅鉢だが、調整はナデ。外面にはススが付着している。88-9は小型の浅鉢か。口縁部外面には繩文を施し、内面側に浅い沈線をめぐらす。

88-10は口縁部を折り曲げて直立させる浅鉢。内面は横方向のミガキ。

88-11・14はボール形の浅鉢で、88-12も同様のものか。88-14の外面にはススが付着。

88-13は無文の深鉢だが、口縁部の一部をつまみ出し三角形の小さな突起を付ける。内面の頸部以下は条痕。

89-1～4は口縁部を刻む深鉢。89-2は丸みを持った刻目で、棒状工具の側面を押しつけたものか。89-2・3は内外面に横方向の条痕を明瞭に残す。89-4は両面にススに付着している。

89-5は、口縁部を内側に強く屈曲させ、環状の飾りを貼り付けたもの。外面の肩部以下には強く条痕を残す。

89-7・8は口縁部の内面側に刺突をめぐらすもの。89-7の刺突は竹管を斜めに切ったような工具を使用し、刺突に伴って外面側に凹凸が現れる。89-8は口縁部がわずかに波状を呈す。外面にススの付着が見られる。いずれも内外面に条痕を残す。

89-6・9は素文の深鉢。89-6の内面は摩滅しているが、外面は斜め方向の条痕。

89-7・8は、口縁部内面側に刺突のある深鉢。89-7は棒状工具により押し引き状に連続して刺突される。89-8は緩い波状口縁。尖った工具で間隔を開けて刺突される。

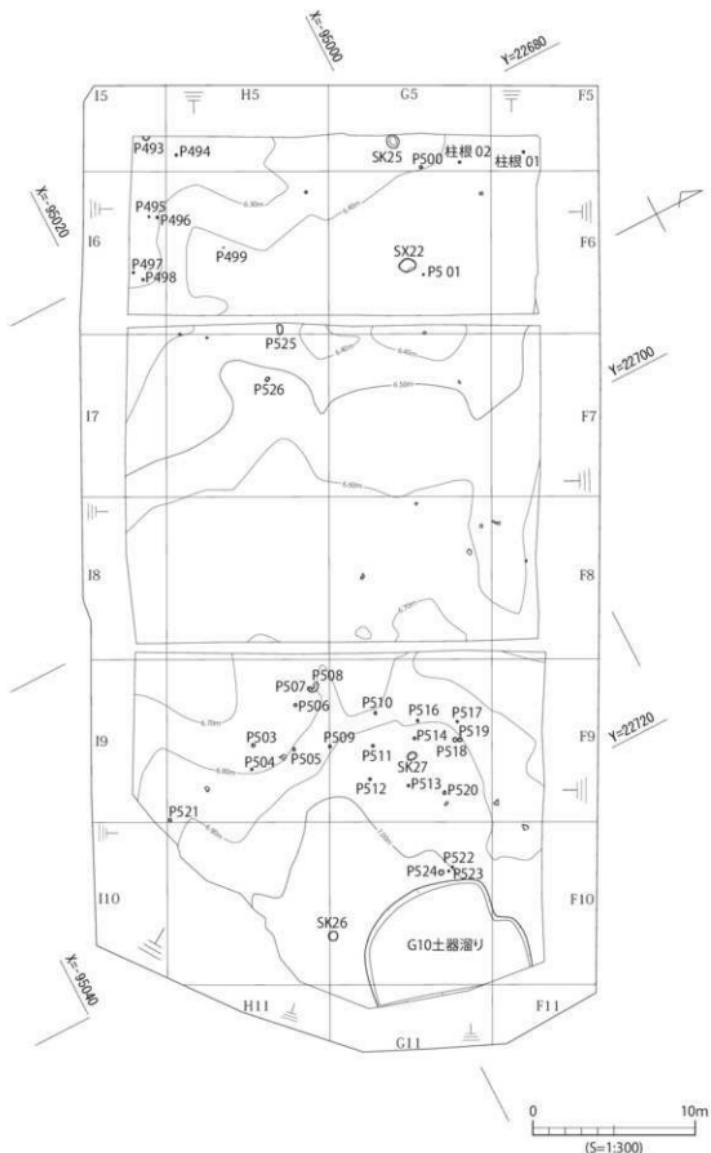
89-10・11は口縁部内面を肥厚させ指頭圧痕を強く残す深鉢。肥厚させる部分の断面には粘土の接合痕を明瞭に残し、口縁部の内面側を強く押さえ、指頭圧痕を連続させる。外面は条痕。88-15も同様のものだが、内面を肥厚させる部分の維ぎ目が見えない。

89-12は非常に小さな底部で、底径は3.8cmしかない。断面三角形の高台状を呈する。

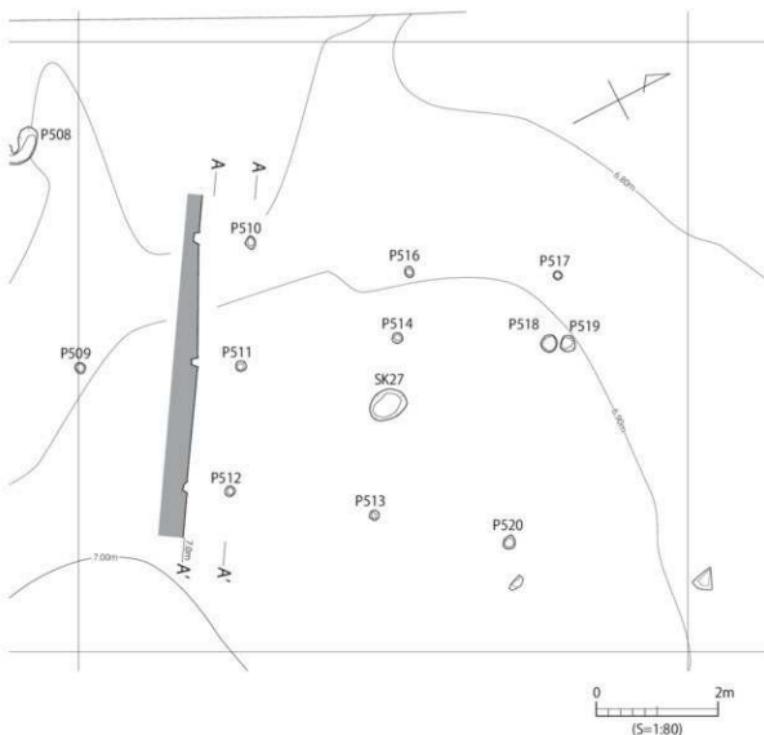
10. 第8遺構面の遺構・遺物

第8遺構面（第90図）は、東側で標高約7.0m付近から、西側の最深部で、標高約6.2m付近である。遺物が比較的まとまって出土した調査区東端のG10付近で厚く堆積している明黒色粘質土中から大量の土器が出土し、G10土器だまりとしたほか、小さな土坑4基、ピット約40基などを検出した。また、F5・G5では柱根を検出している。

G10 土器だまり 東側排水溝にかかる東西約7m、南北約9.5m、厚さ約20cmの範囲に明黒色粘質土が堆積しており、多量の土器を含むことからG10土器だまりと呼んだ。この土器だまりは、



第90図 第8遺構面遺構配置図 (1:300)

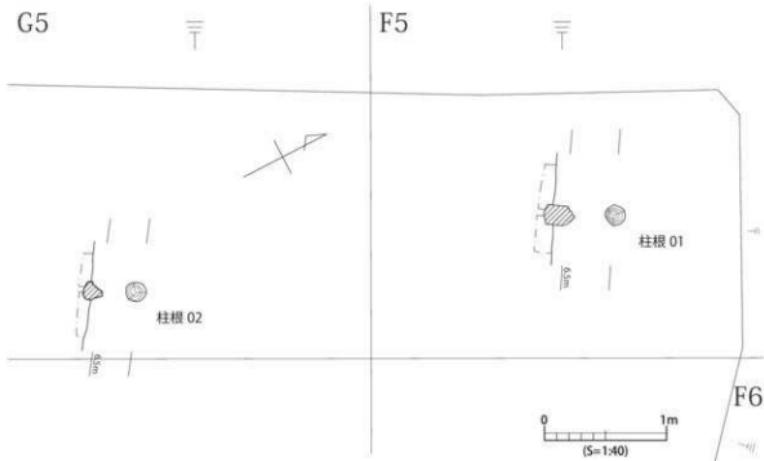


第91図 第8遺構面G9付近実測図(1:80)

平成26年9月に東側排水溝を掘削中に、大量の土器が出土したことから把握しており、G10付近を中心F10からG11に続き、さらに東へ延びると思われる。この土器だまりには土器類のほか、石皿・磨り石などの石器類を含んでいる。この付近は、上層にSRO1自然流路が流れしており、東壁の土層断面では土器だまりより上層は、自然流路の堆積となる。

第8遺構面の土坑・ピット 土坑・ピットは、第8遺構面の全面で見られるが、標高の高いG9からH9付近に多く、西側に向けて減少する傾向にある。G9付近のピットは長径約60cmの深い土坑であるSK27を中心に、直径7～8mの範囲に集中して見られることから、建物だった可能性もあるが、明確なまとまりは確認できない。この中で、P510・P511・P512(第14図)が、約2.1m間隔で一直線に並んでいる。多くのピットは直径20cm、深さ10cm程度で浅く、断面に柱根等の痕跡は見られない。

柱根 F5・G5で、柱根を検出し、それぞれ柱根1(F5)・柱根2(G5)と呼んだ。第8遺構面から約10cmつきだした状態で検出していることから、第7面遺構面以上の面から打ち込まれたと思われる。2基の柱根は約4.0m離れ、周間に他のピット等は見えないが、調査区西側の平成27年度I区では、同様の柱根が見られる。それぞれ柱根にかかるようにサブトレントを掘削し、断面を観察



第92図 第8遺構面柱根1・2実測図(1:40)

したが、柱穴や埋め土の痕跡が全く見えなかった。このことから、柱穴を掘らずに打ち込まれたか、自重で埋まったと考えられる。

第8遺構面出土木製品 第93図には、F5・G5で検出した柱根を示した。柱根1は直径15.9cm、残存長25.8cmで、樹皮をわずかに残す。基部側は鈍い円錐形を呈し、加工痕を明瞭に残している。この加工痕は、打ち込むために尖らせたものではなく、石斧を使用して伐採した時の形状のままと思われる。柱根2は復元直径約16cm、残存長15.6cmで、基部を鈍い円錐形にするなど、柱根1とほぼ同じ形状だが、腐朽が進み、残存状況は非常に悪い。

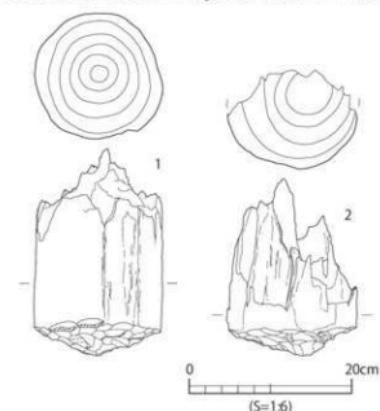
柱根1・2はいずれも杉材で、AMS年代測定の結果、柱根1が $2,705 \pm 20$ yrsBP、柱根2が $2,720 \pm 20$ yrsBPと測定された^(註1)。

第8遺構面出土石器 第94図は、第8遺構面から出土した石器類である。

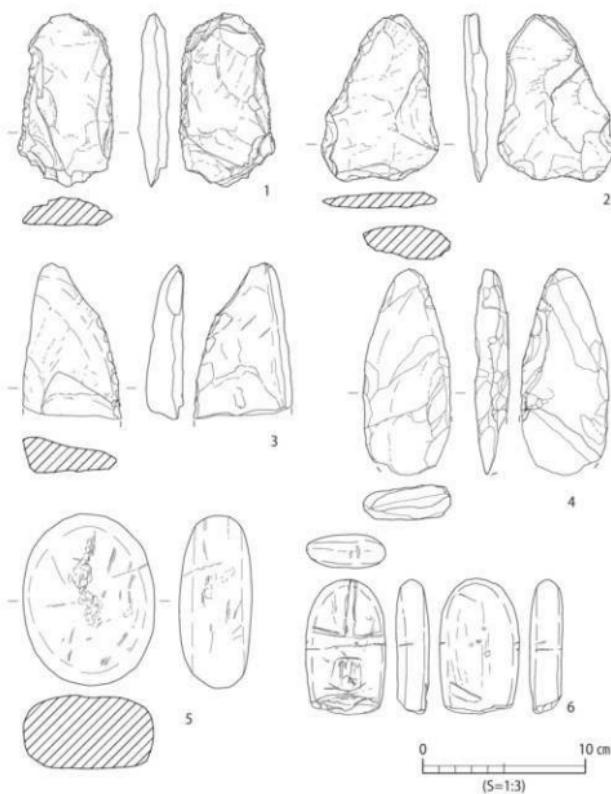
94-1・2・4は打製石斧。94-1・2は長さ10cm程しかない小型のもので、破損品の再利用か。

94-5は磨石・叩石。

94-6は線刻礫か。片面に2条の併行沈線などで文様を刻んでいる様に見える。図面上は、線を接ぎながら平行線による逆T字形を描き、その下に1辺を弧状にした四角形を作っている。四角形の内部を縦線で埋めているほか、周囲にも磨痕が見える。裏面には、明確な文様はない。



第93図 第8遺構面出土木製品実測図(1:6)



第94図 第8遺構面出土石器実測図(1:3)

95-4は口縁が直立する浅鉢。内面調整はミガキで、外面はナデ。外面にススが付着している。
95-6は、口縁部が大きく開く浅鉢。内面側をわずかに肥厚させ、施文するもので、2条の沈線間は磨消。

95-9は縄文地の壺。口縁部と肩部以下に縄文を施し、口縁部から頸部の外面に2条併行した縦方向の刺突列を入れる。刺突は、巻き貝の頂部を使用したもの。95-11は凹線でJ字を入れた小型の深鉢。鐘崎2。

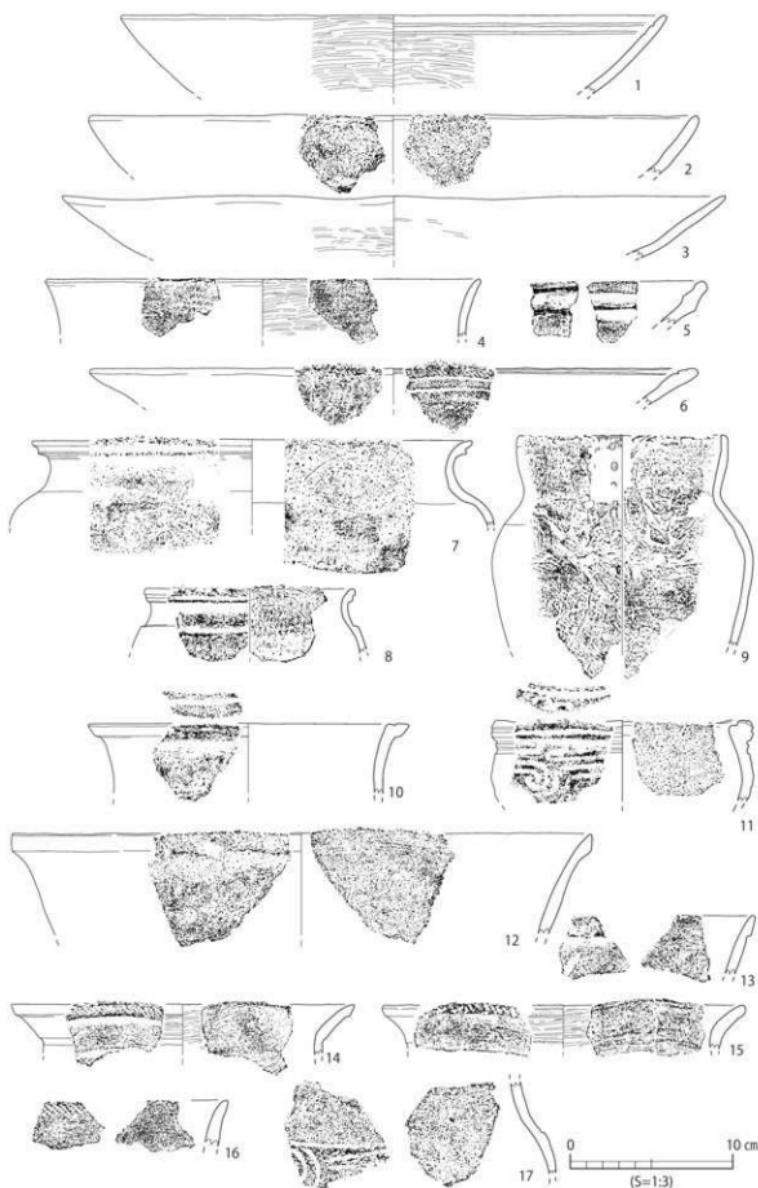
95-12～16、96-1は、口縁部外面をわずかに肥厚させ縄文を施すもの。95-12～16の内面はミガキ。96-1は口縁部のやや下に補修孔を開ける。

95-17は深鉢。肩部の外面に凹線を巻き込んだ文様を施す。摩滅しており、他の調整は不明。
96-2は口縁端部を拡張し凹線を施すもの。内外面ともナデ。96-3は外面に擦消縄文を施す深鉢の口縁部。96-4も深鉢の口縁部。外面側を拡張し、3条の凹線を入れている。内面はナデ。96-5は、口縁端部に面を作り、外面側に縄文を入れるもの。口縁部は肥厚させない。断面には、口縁部を外

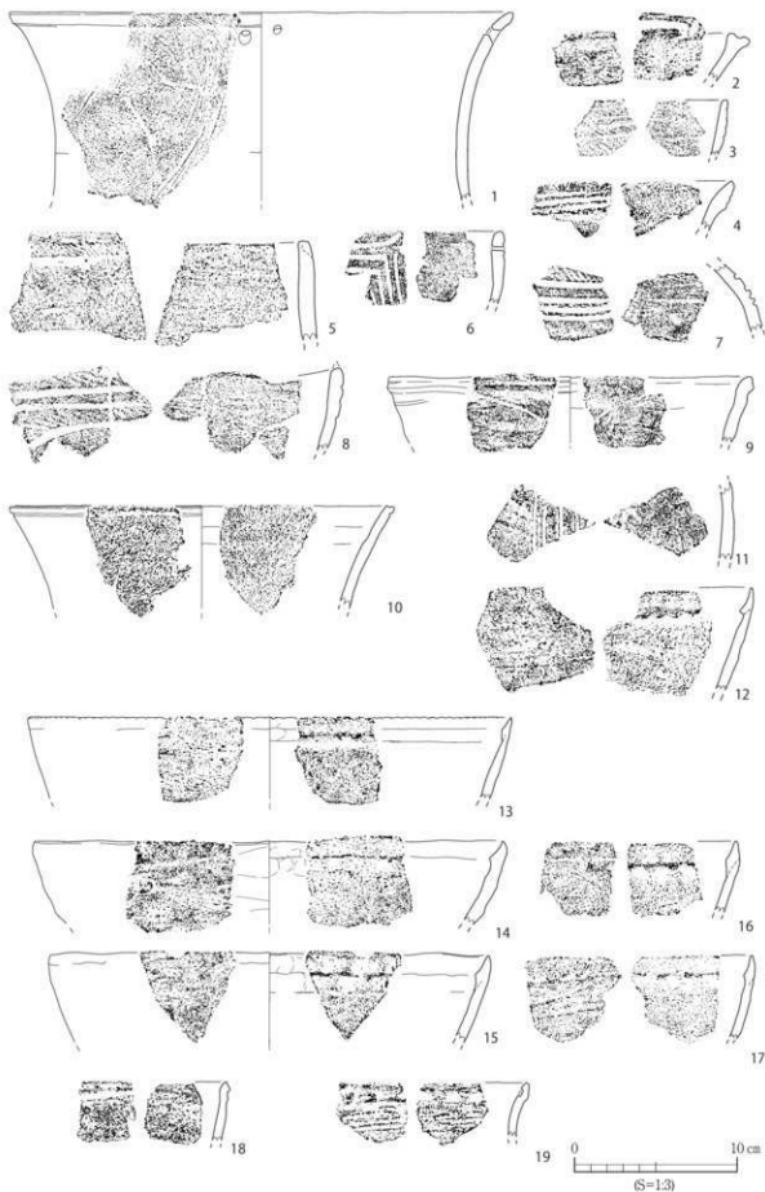
第8遺構面出土土器 第95～98図
98図は、第8遺構面から出土した土器類のうち、G10土器つまり以外から出土した土器である。

95-1は口縁部内面に2条の沈線を施す浅鉢。沢田式併行か。H10から出土しており、SR01に接していることから、上層の遺物が紛れ込んだ可能性がある。

95-2・3は、ポール形の浅鉢。95-2はナデ、95-3はミガキで調整される。



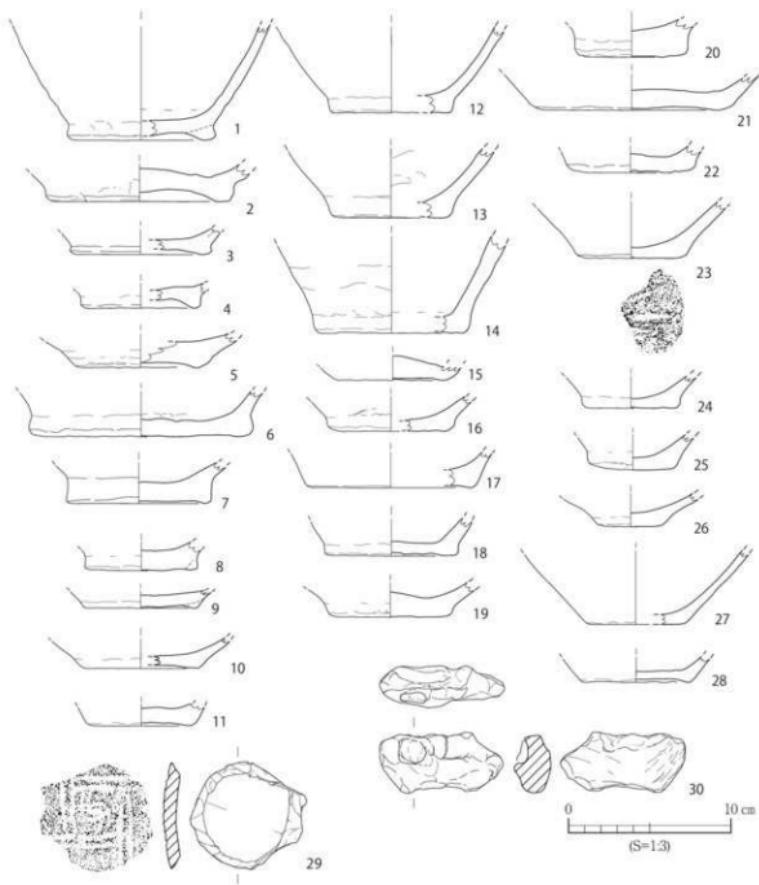
第95図 第8遺構面出土土器実測図(1)(1:3)



第96図 第8遺構出土土器実測図(2)(1:3)



第97図 第8遺構面出土土器実測図(3)(1:3)



第98図 第8遺構面出土土器実測図(4)(1:3)

側に折り返したような接合痕が見える。

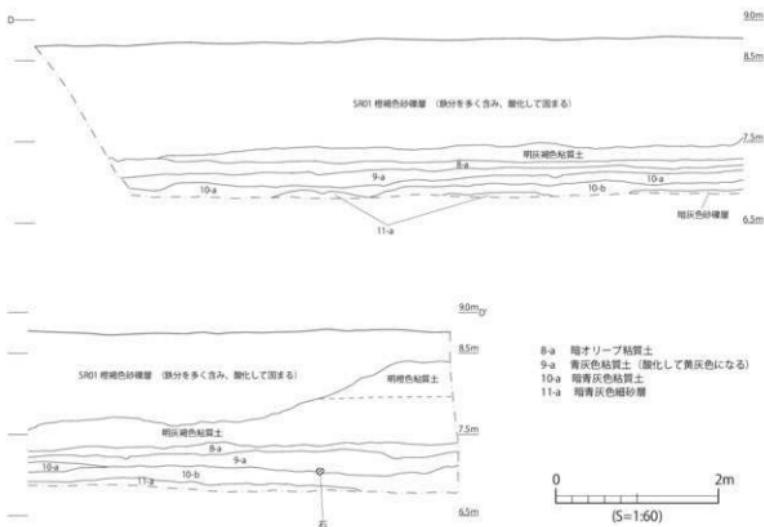
96-6は凹線で方形の文様を重ねるもの。口縁端部近くに穿孔する。内面は丁寧なミガキ。

96-7・8は磨消繩文の深鉢。96-8は口縁部の破片だが、剥離痕があり、口縁部に装飾があったことが判る。

96-9は口縁端部外面に面を持ち繩文を施す深鉢。体部は直線的に伸び、口縁部を外面側に折り返すように作っており、外面の口縁部直下に凹線状にくぼみがあげられる。

96-10は、口縁部を緩やかに外反させる深鉢。口縁端部と外面に沈線を施す。内外面ともナデ。

96-11は、体部の小片で深鉢だろうか。内湾気味に立ち上がる体部の外面に、4乗以上の縱方向の凹線を入れている。



第99図 調査区東壁土層堆積状況(1:60)

96-12～17は口縁部内面を肥厚させ指頭圧痕を残す深鉢。97-1・8は、口縁部内面の肥厚が明瞭でないが、口縁部直下の断面に接合痕が残っており、同様のものであろう。

96-19は口縁部内面に連続刺突を施す深鉢。竹管の先端を加工した工具を用い、約18mm間隔で刺突している。外面側は内面側の刺突に押され、梢円形に隆起している。両面に横方向の条痕を強く残している。

97-2は体部が直線的に延びる深鉢。外面には条痕を強く残す。97-3・4は頸部がすぼまる深鉢。97-3の体部外表面は条痕。他の調整はナデ。97-5は小型の深鉢。外面には条痕を強く残している。97-6は無文の深鉢で、外面にススが厚く付着している。

97-7は体部が直線的に延びる深鉢で、外面には縄文が見える。

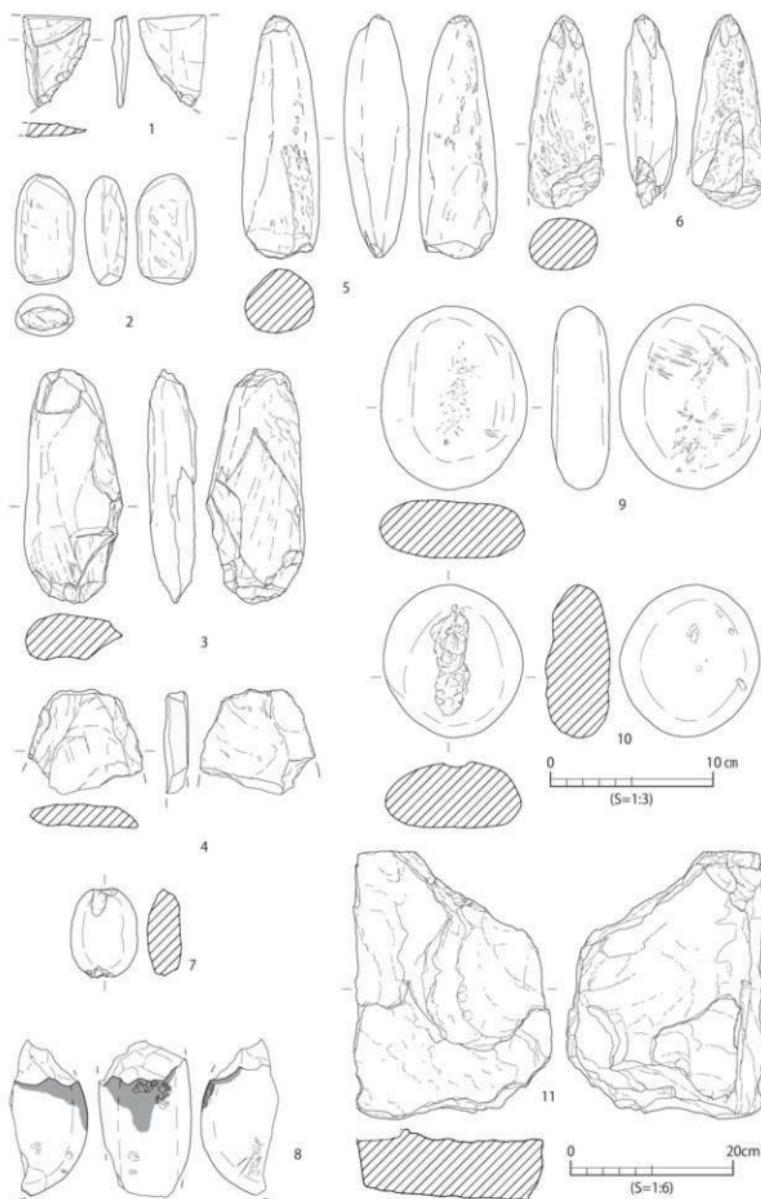
97-8～12は無文の深鉢。97-8・10は体部が直線的に延びるもので、口縁部のやや下に接合痕を残す。97-9・11・12は緩やかに内湾するもの。

98-1～28は底部。98-1は、底面に高台状の輪を貼り付けたもの。98-2～5も高台状に底を持ち上げている。98-23の底面には織維状の圧痕が見える。

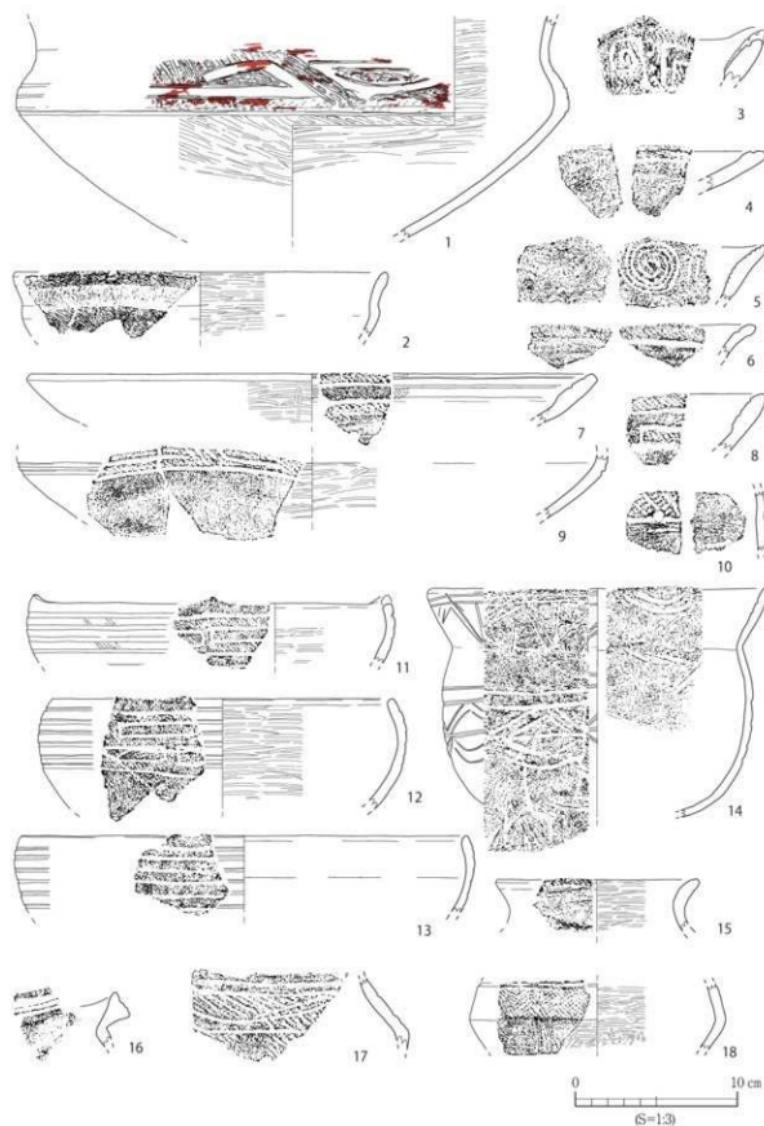
98-29は土製円盤。井桁状の中に巻き込んだ文様のある深鉢の体部を外面側から打ち欠いたもので、円形に整形しようとしているように見える。文様が、ほぼ中央に配されていることから、文様を意識して整形しようとしているか。

98-30は粘土塊である。握って固めたような粘土塊を、土器と同様に焼成したもの。G10土だまりでも、やや小型の同様のものが出土している。

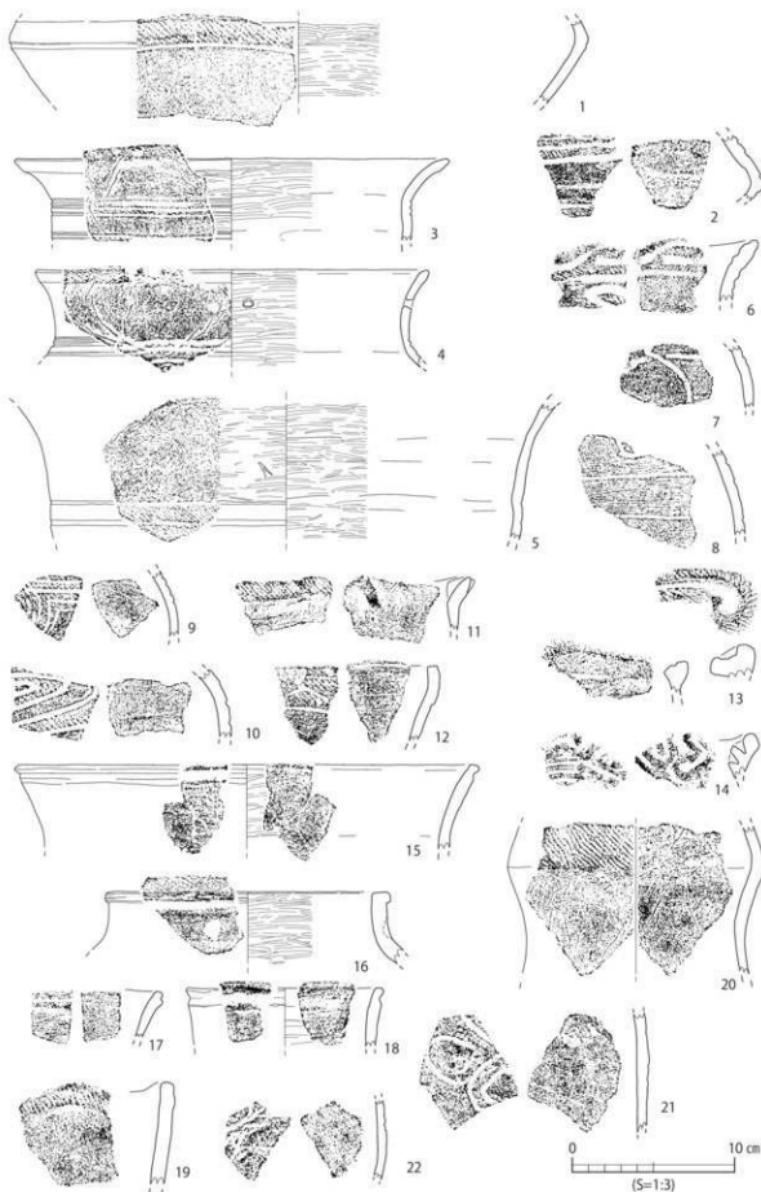
G10 土器だまり出土遺物 第100図には、G10土器だまりから出土した遺物のうち、石器類を図示した。



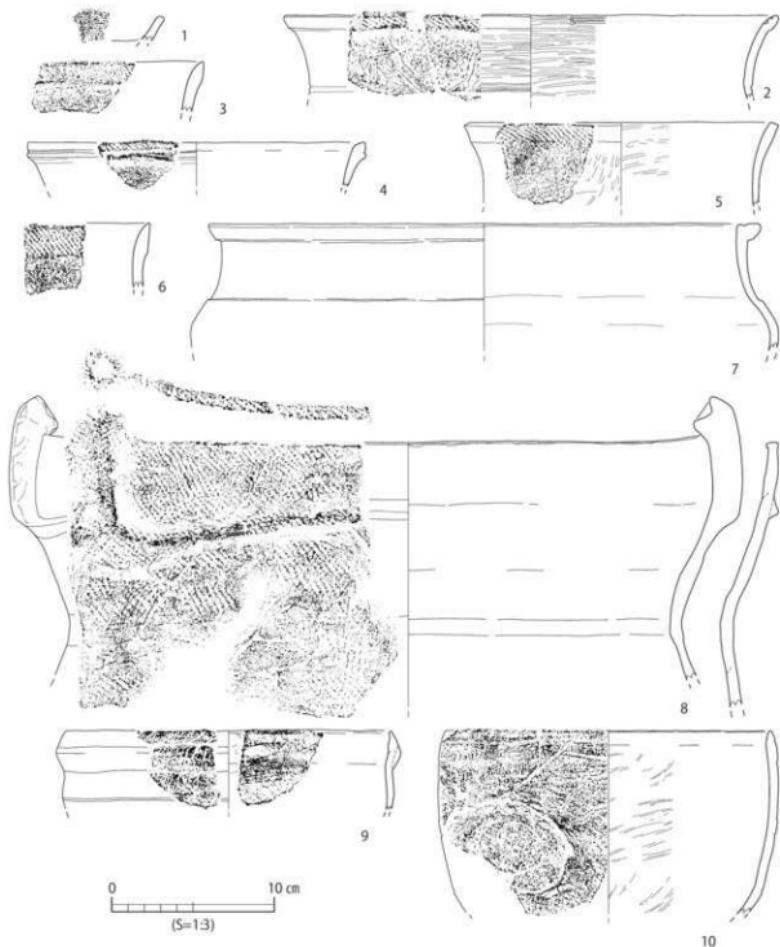
第100図 第8遺構面G10土器だまり出土石器実測図 (1:3、11のみ1:6)



第101図 第8遺構面G10土器だまり出土土器実測図(1)(1:3)



第102図 第8遺構面G10土器だまり出土土器実測図(2)(1:3)



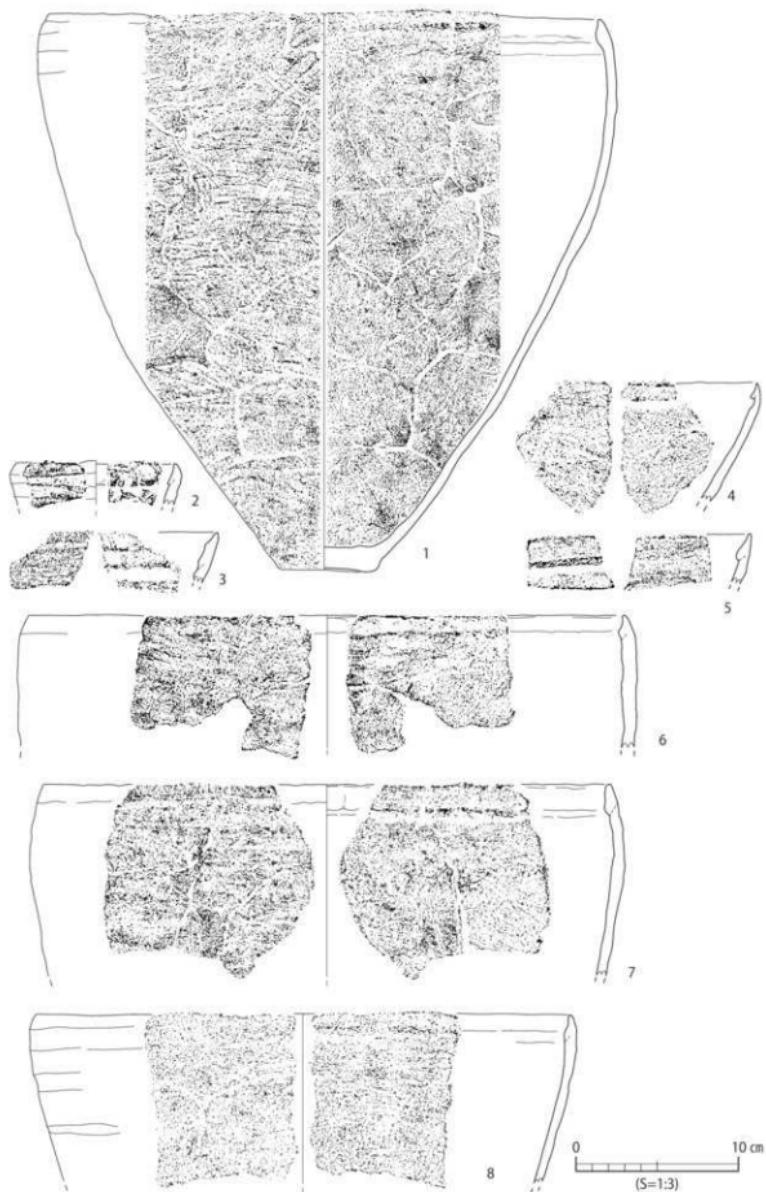
第103図 第8遺構面G10土器だまり出土土器実測図(3)(1:3)

100-1はサヌカイト製のスクレーパーである。大きく欠損しているが、緩やかな弧を描く刃部は丁寧に連続剥離されている。100-2は磨痕のある石。凝灰岩質の柔らかい石材で、非常に小さいことから磨石として機能するのは困難と思われる。呪術具か。

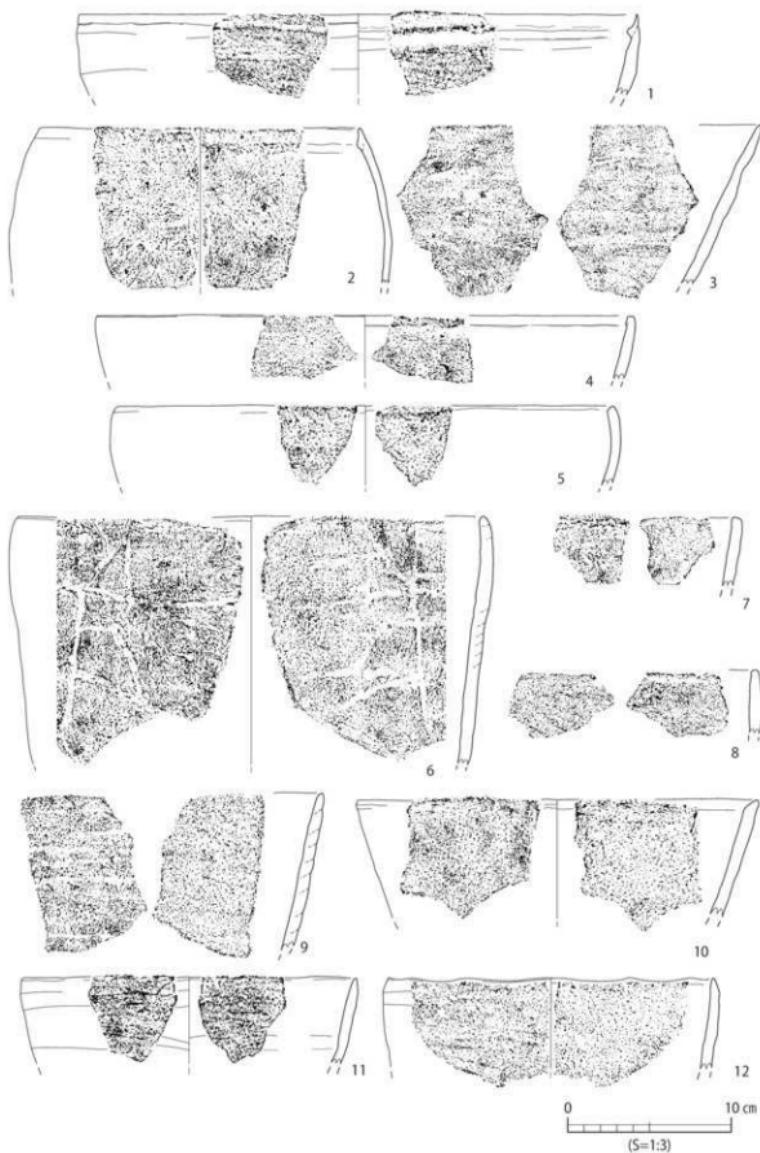
100-3・4は打製石斧で石鎚か。100-4は基部のみで、大半が欠損。100-5・6は塩基性片岩製の磨製石斧。100-6は大きく刃部を欠く。

100-7は長さ8cm程の石の両端にくぼみを入れたもので石錘。重さは68g。

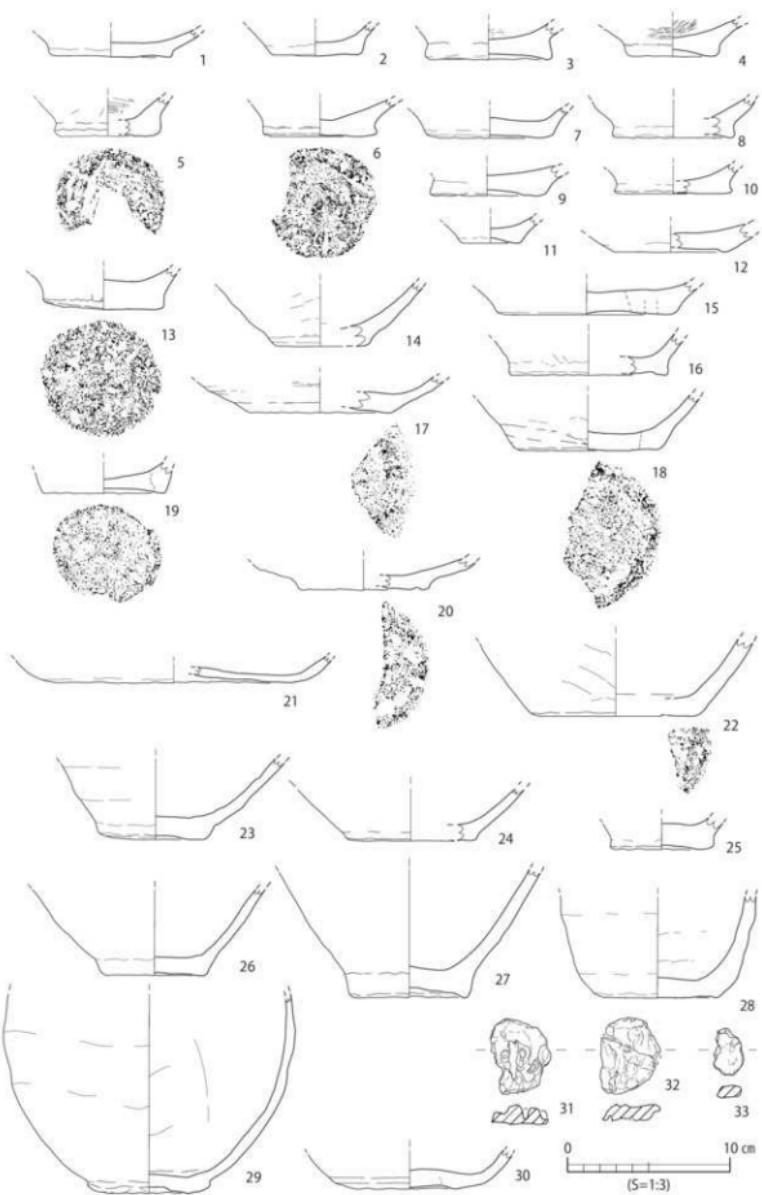
100-8～10は、磨石・叩石であるが、100-8は大きく欠損している上、被熱して赤変している



第104図 第8遺構面G10土器だまり出土土器実測図(4)(1:3)



第105図 第8遺構面G10土器だまり出土土器実測図(5)(1:3)



第106図 第8遺構面G10 土器だまり出土土器実測図(6)(1:3)

部分が見られる。使用後に破碎され、火に当てられたものか。100-10は磨痕がほとんど見えず、叩石。片面は、縦線を引くように集中的に打痕が集まっており、意図的に直線を刻もうとしているように思える。呪術的な行為によるものか。

100-11は石皿と考えられるものである。長さ32cm、幅24cm、厚さ7.5cmの自然石で、一部が被熱しているよう見える。

第101～106図には、G10土器だまりから出土した土器類を図示した。

101-1は肩が張り、口縁部を外反させる浅鉢。比較的大きな破片であるが、口縁端部は残っていない。肩部に沈線を入れ、それより上位の頸部外面に磨消繩文を入れる。文様のくぼみには赤色顔料が残存している。外面の肩部以下と内面調整はミガキ。九州の影響によるものか。

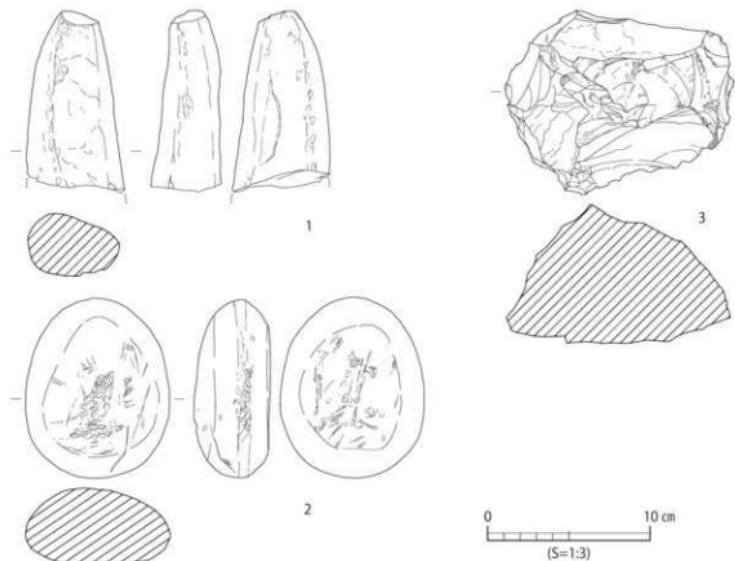
101-2は小型の浅鉢。口縁部外面に繩文を施す。内面調整はミガキ。

101-3は大きく開く浅鉢の口縁部の内面側に文様を入れる浅鉢。口縁部の突起から縦方向に刺突を連続させ、その両側に磨消繩文を入れる。

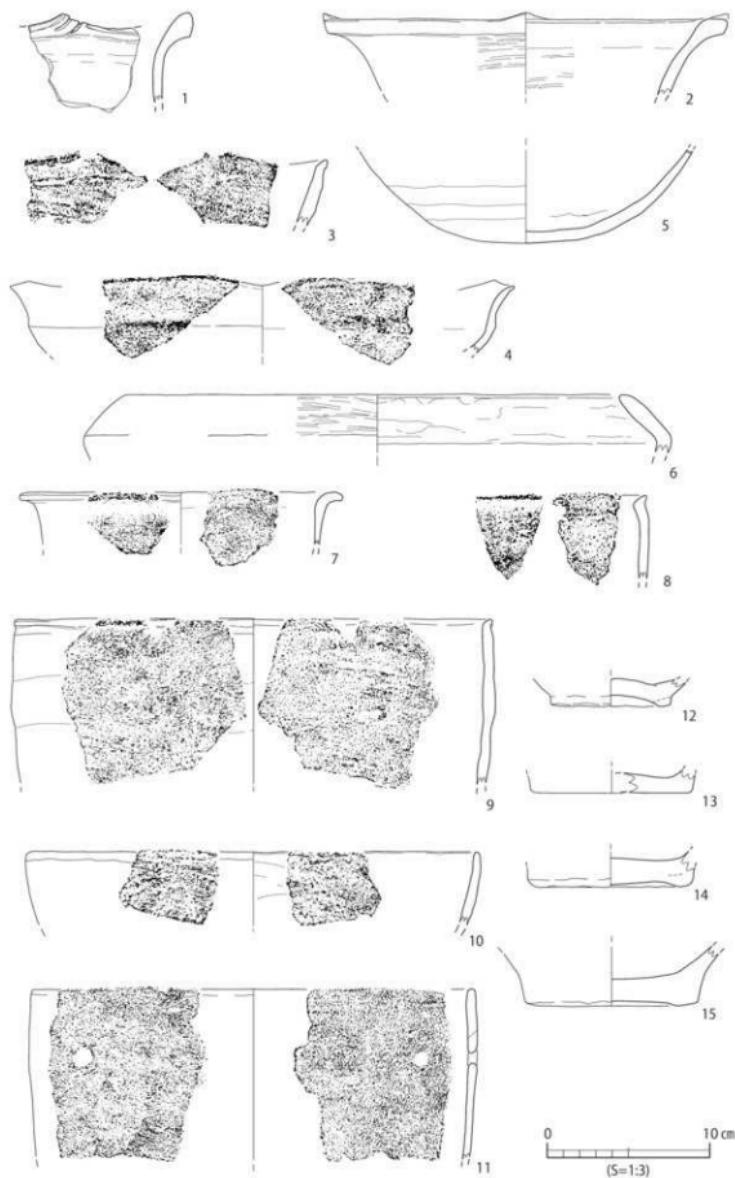
101-11～14はポール形の浅鉢。101-11には、口縁部に突起を作るもの。外面はヘラ状工具で区画し磨消繩文。内面調整はミガキ。

101-15は小型の壺。文様は見られず、内面の頸部より上位は横方向のミガキ。外面調整は摩滅のため不明。

102-1は外面肩部に繩文をめぐらす浅鉢で、内面は横方向のヘラミガキ。101-1と同様のものか。102-2も同様の浅鉢。外面には磨消繩文。102-3・4は外反する口縁部外面に繩文を施し、頸部に四線をめぐらすもの。102-4は、口縁部のやや下に補修孔が開けられている。106-5も擦消繩文の



第107図 9 ライントレンチ下層出土石器実測図 (1:3)



第108図 9ライントレンチ下層出土土器実測図 (1:3)

深鉢の肩部。頸部は外面ともミガキ。

102-6は深鉢の口縁部の小片で、外面に磨消繩文を施す。小池原上層。

102-8は深鉢の肩部。沈線で区画し、櫛状文を施す。注口土器か。

102-9は深鉢の肩部。擦消繩文に見えるが、擬繩文か。

103-1は浅鉢口縁部のリボン状突起の部分。

103-2～6は口縁部外面に繩文をめぐらす深鉢。このうち、103-2は口縁部内面に細い棒状工具で刺し、そのまま横に沈線を引いた文様が2条ある。口縁部から頸部にかけては外面ともミガキ。103-4は、口縁部外面を肥厚させ面を作る。繩文帯の下部に沈線を引く。103-5の外面はタテから斜め方向のミガキ。

103-7は口縁部を強く外側に折り曲げ、上面に面を持つ鉢。内面はナデ。口縁部外面は摩滅しているが、ミガキか。

103-8は繩文地の深鉢。肩部の隆帯が立ち上がり口縁部を越えて環状の飾りとなるもの。口縁部上面には面があり、その部分にも繩文が施される。内面はナデ。

103-9は小型の深鉢の口縁部と思われるが、口縁部先端を貼り付けて延長し、外面にも、断面三角形の低い突帯を貼り付ける。刻みはないが、細いヘラ状工具で、口縁部は斜め方向に、突帯部分は縱方向に、密に線を入れる。口縁部内面には指頭圧痕を連続する。

103-10はポール形の深鉢。口縁部外面に2条の直線文を引き、体部外面にヘラ状工具による2重横円弧文を置く。内面調整は荒いミガキ。

104-1～8、105-1・2は口縁部の内面を肥厚させ、指頭圧痕を残す深鉢である。肥厚させる部分の接合痕を明瞭に残すものが多い。このうち、104-1は口縁部から底部までの全形が判るもので、口径約34cm、底径5.7cm、器高34.5cmに復元できる。外面は横方向のナデ、内面はナデ調整され、底面は未調整。口縁部内面に連続する指頭圧痕を残す。104-2は小型のもので、復元口径は9cm程にしかならない。104-3は口縁部内面側の肥厚した部分の上面に施される指頭圧痕が2段になるもの。

105-3～12は無文の深鉢。105-6・9は断面に輪積みの痕跡を多く残す。

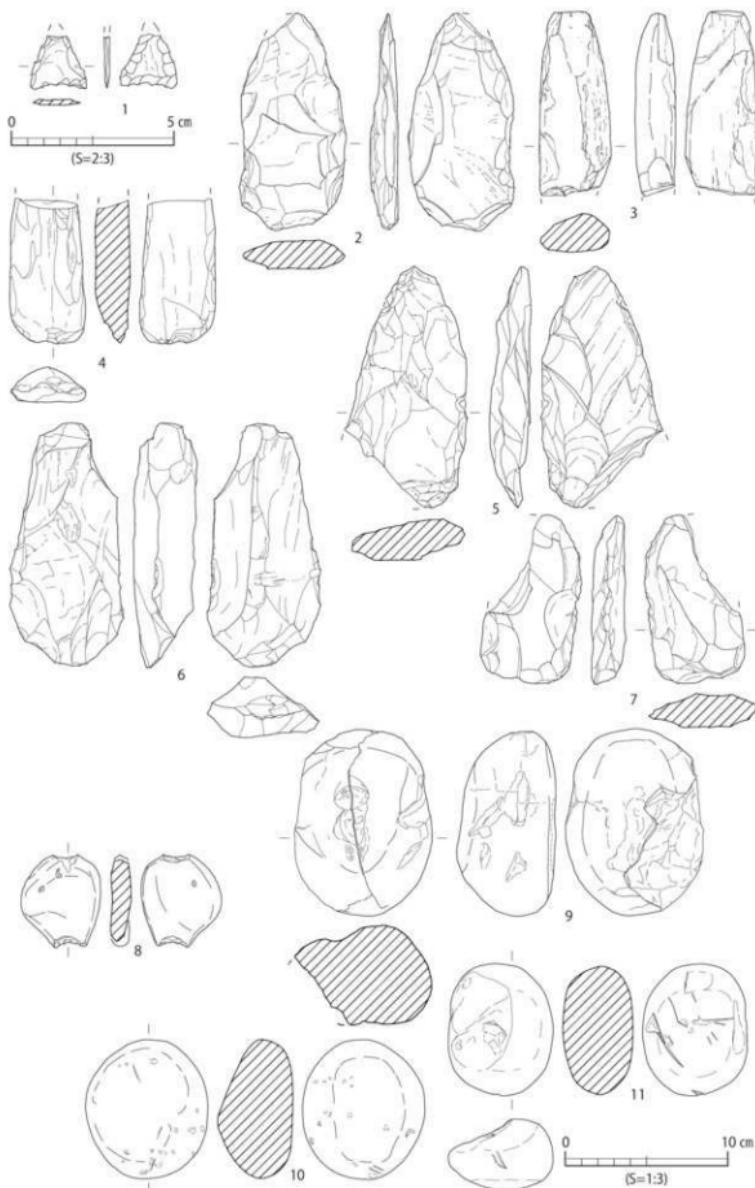
106-1～30は底部である。106-4の内外面、106-5の内面には細かいヘラミガキが残る。浅鉢か。106-5・20の底面には纖維状の圧痕が見える。106-18は内面側が黒変している。106-22の底面には、5mm程の粗い砂粒の圧痕が残る。106-30は、粘土円盤を作らず、底部の中心から粘土紐を巻き上げていった様子が観察され、106-15・19も同様のものか。

106-31～33は用途不明の粘土塊である。片面が凸凹で、反対面はやや平らになっている。3点の関係は判らない。G10土器だまりから出土し、土器と同様に焼かれているが、不定形で使用目的は判らない。植物纖維を練り込んで焼成したように見える。

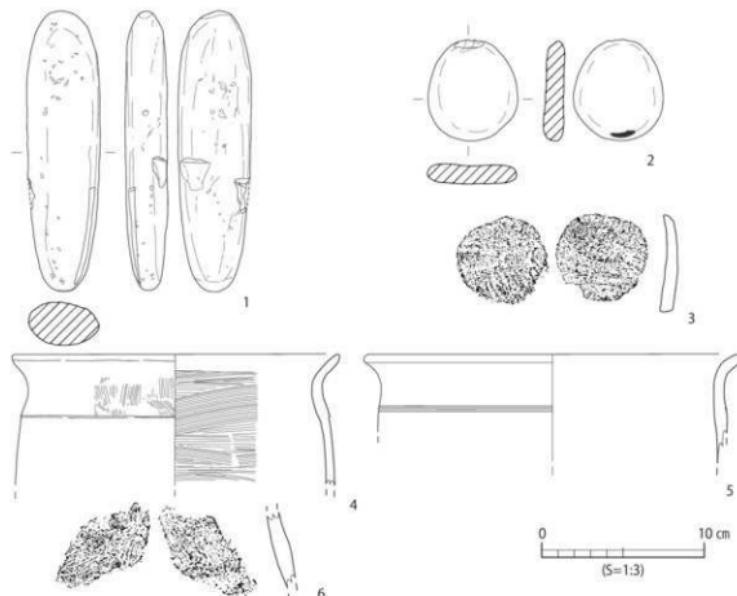
〈註〉

(1) 柱根1・2については、文化財調査コンサルタント(株)にAMS年代測定を依頼し、その結果を第5章に掲載した。

第5章「古屋敷遺跡D区発掘調査に係るAMS年代測定」渡辺正巳(文化財調査コンサルタント(株))



第109図 各遺構面以外から出土した石器類実測図 (1:3、1のみ 2:3)



第110図 各遺構面以外から出土した石製品・土製品・土器実測図(1:3)

11. 第8遺構面より下層の遺物

第8遺構面より下層については、9ラインにトレーニングを設定し、下層の状況を確認している。遺構は確認できなかったが、石器・土器が出土しており、第107・108図に示した。

9ライントレーニング下層出土石器類 107-1は、石斧の基部で、刃部を欠く。塩基性片岩を使用し、側縁の稜を敲打して形状を整えている。

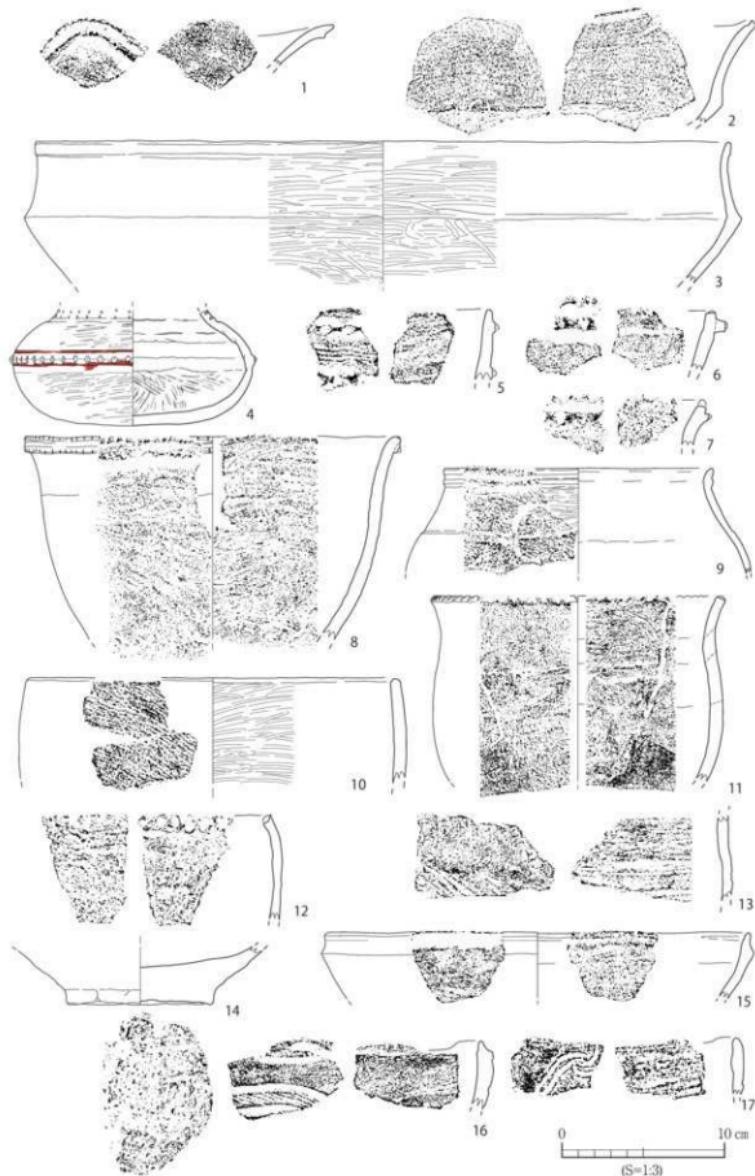
107-2は安山岩を使用した磨石・叩石である。両面に磨り面があり、側縁部と磨り面に敲打痕がある。磨り面の敲打痕は、側縁部に比べ深く強く叩かれている。

107-3は玉髓の核石と考えられるもので、長さ14.4cm、厚さ8.7cmの母岩の皮剥きまでを行った状態で廃棄されたものか。

9ライントレーニング下層出土土器類 108-1は深鉢の口縁部である。外面側に面を持ち、口縁端部から外面側にかけてヘラ状工具により2条の沈線を引き、文様を作っている。頭部は無文で外面ともナデ調整する。108-2は、浅鉢の口縁部と考えられる破片で、口縁部外面側に面を持ち、上端部の4カ所程度に突起が付くと思われるほかはほぼ無文。

108-3は波状口縁の深鉢口縁部外面を、ナデによりわずかにくびれさせる。体部の外面調整は条痕。108-4は、波状口縁の浅鉢で、薄く作られた頭部以上をナデ、体部は条痕か。

108-5は、浅鉢の底部であろう。摩滅しており調整は見えない。被熱しており、内面側には高温により剥離している面が見られる。108-6は大型の浅鉢か。内傾する口縁部は外面にミガキ。内面と体部はナデである。



第111図 各遺構面以外から出土した土器実測図 (1:3)

108-7～11は、粗製の深鉢で、108-7は口縁端部を外面側に折り曲げるもの。108-8・9は、口縁端部をつまみ出すように、小さく折り曲げるもの。

108-10は緩やかに内湾するもので、ボル形になるか。内外面とも条痕。108-11は直立するものである。いずれも条痕。108-11は、体部に外面側からの補修孔がある。

108-12～15は底部である108-12・14は、底部外周に粘土を貼り付けて高台状にして底部を持ち上げているもの。108-13は平底で、体部が直立気味に立ち上がる。108-15は底部側面が外反しながら立ち上がるもの。

12. 遺構・遺構面に伴わない遺物

第109～111図には、トレンチ等から出土し、所属遺構面の判らない遺物を示している。

石器 109-1は先端を欠く石鎌。ガラス質安山岩製。109-2～7は石斧。109-2は泥質片岩を使用した打製石斧で、刃部と基部の一部を欠く。109-3・4は緑色片岩製の磨製石斧。109-5・6は石鎌か。109-7は基部側の一角を欠く打製石斧。小型で、破損品の再利用か。

109-8は小型の石錘。凝灰岩を使用している。

109-9はデイサイト製の敲石。大きく欠損し被熱している。109-10・11も敲石・擦石。

110-1は凝灰岩を使用した敲石状の製品。少量の打痕と擦痕が残るが、非常に軟質の凝灰岩で、製粉作業に使えるとは思えない。呪術具か。110-2も磨石。

110-3は深鉢の体部を使用した土製円盤。周縁は摩減しており、成形時の剥離痕は明瞭ではない。内外面とも条痕。

110-4～6は弥生土器と考えられるもの。110-4は肩部に段のある壺。内面はヨコ方向のハケメを明瞭に残し、外面は、肩部以上に縦方向のハケメが見える。110-6は、肩部の段がなくなり2条の直線文をめぐらす。風化が進み調整は見えない。110-6は、壺の肩部か。線刻が見られ、文様と言うよりも絵か。内面側はナデ。

111-1は波状口縁の浅鉢。口縁部の外面側に口縁部に沿った隆線をつまみ出している。111-2も波状口縁の浅鉢。肩部を尖らせ、頸部から口縁部を緩やかに外反させる。口縁端部に面を作り、内面側にわずかにアクセントがある。頸部以上は丁寧なミガキ。体部の外面は条痕。111-3は大型の浅鉢。口縁部外面をわずかに肥厚させ、頸部以下は内外面ともヨコ方向の丁寧なミガキ。

111-4は小型の壺。胴部が丸く、頸部以上は直線的に上に延びるとと思われる。胴部最大径付近に低い刻目突帯を貼り、頸部に細い刺突を2段以上めぐらす。胴部の刻目突帯の上下には赤彩が残る。外面調整はヨコ方向のミガキ。内面下半の調整は須恵器の押さえ具痕を思わせるような深い条痕を残す。内面上半はナデ。トレンチのため、出土層位が明確ではないが、第5～6遺構面に相当する位置から出土している。

111-5は浅鉢の口縁部で、外面に2条の刻目突帯を施し、その間に3条の凹線が入る。中山B式。

111-6・7は口縁部を刻み、外面に刻目突帯を貼り付けるもの。111-8は口縁部を刻み、外面のわずかに下方に刻目突帯を貼り付けるもの。111-9は口縁部をすぼませる深鉢で、口縁部を外反気味に作り、そのすぐ下に無刻の突帯を貼るもの。頸部外面は横方向のナデ。

111-10は深鉢の口縁部。外面は縄文で、内面は丁寧なミガキ。北側排水溝より出土しており、第6遺構面より下層に含まれる。111-11は口縁部を刻むもの。頸部がくびれる。第4遺構面より

下層。111-12は口縁端部に刺突を施す深鉢。SR01に含まれる。111-13は頸部がすぼまり肩が張る深鉢に肩部。内面は横方向の条痕。111-14は縄文土器の底部。

111-15は口縁端部をつまみ出す浅鉢。器壁がや厚い。

111-16は口縁部の一部をつまみ出し、外面に擦消縄文を施す。102-6と同文と思われ、小池原上層か。111-17は、外面に櫛で文様を描くもの。内面側は横方向の条痕。いずれも北側排水溝から出土しており、第6遺構面より下層に含まれる。

第4章 自然化学分析

第1節 古屋敷遺跡D区発掘調査に係るAMS年代測定

渡辺正巳 (文化財調査コンサルタント(株))

1.はじめに

古屋敷遺跡は島根県中央部、大田市仁摩町大國に位置し、潮川の沖積平野上に立地する。

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの委託を受け、古屋敷遺跡D区8遺構面で検出された柱根(柱根1、柱根2)及び、第2遺構面で検出された土坑墓(SK01)第の年代を明らかにする目的で実施・報告した、AMS年代測定業務報告書の概報である。

2.分析資料について

第112図のD区平面図中に、分析試料の採取位置を示す。また、試料の詳細を表2に示す。

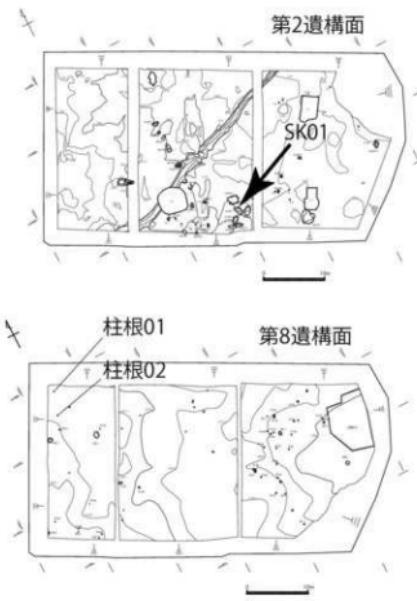
SK01からは土坑墓内の木棺(底板)を対象に71年輪を計数し、最内部(内(0))と最外部(外(71))を測定試料とした。

3. AMS年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。 ^{14}C 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期:5568年で年代計算を行った。曆年代較正にはOxCal ver.4.2(Bronk Ramsey, 2009)を用い、INTCAL13(Reymer et al., 2013)を利用した。また、試料:内(0)と外(71)を対象としたウイグルマッチングには、D_Sequence()関数(Bronk Ramsey et al., 2001)を使用した。

4. AMS年代測定結果

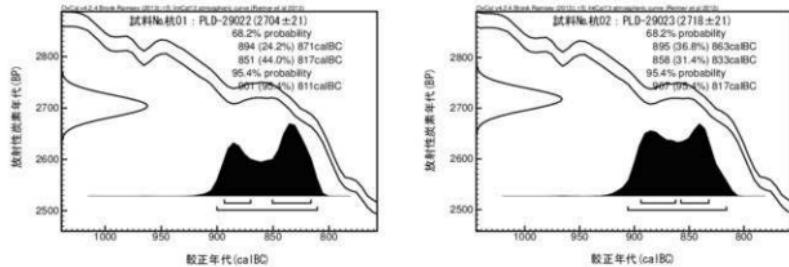
測定結果を第2表、第113・114図に示す。第2表には $\delta^{13}\text{C}$ 値の他、3種類の年代を示している。第113図には柱根1・柱根2の確率分布と $\delta \sim 2\delta$ の較



第112図 調査区(D区)平面図(試料採取地点)
上: 第2遺構面 下: 第8遺構面

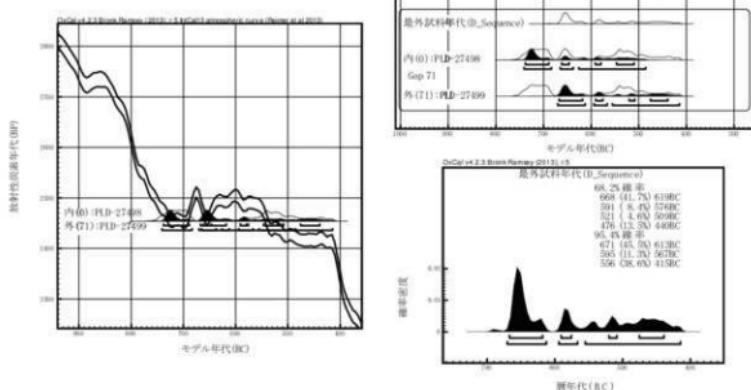
第2表 AMS 年代測定結果

試料			測定年代 ^{a)} (yrBP ± 1 σ)	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	曆年較正年代 (yrBP ± 1 σ)	補正年代 ^{a,b)} (yrBP ± 1 σ)	曆年較正年代		測定No. (PLD.)	
試料No.	種別	出土土地点					1 σ 曆年年代範囲	2 σ 曆年年代範囲		
柱根01	木片	D区(第8遺構面F5Gr) 150121実98	0.003	2807 ± 21	-31.21 ± 0.14	2704 ± 21	2705 ± 20	BC894 - 871(42.2%) BC851 - 817(44.0%)	BC901 - 811(95.4%)	29022
柱根02	木片	D区(第8遺構面F5Gr) 150121実99	0.008	2780 ± 22	-28.76 ± 0.11	2718 ± 21	2720 ± 20	BC895 - 863(6.8%) BC858 - 833(14.4%)	BC907 - 817(95.4%)	29023
内(0)	木片	D区 (第2遺構面SK01:土坑墓)	0.026	2427 ± 19	-23.32 ± 0.20	2454 ± 19	2455 ± 20	BC746 - 686(32.6%) BC666 - 643(11.1%) BC553 - 507(21.1%) BC501 - 490(3.3%)	BC752 - 682(34.8%) BC669 - 636(13.2%) BC626 - 614(17.7%) BC593 - 415(45.7%)	27498
			0.077	2443 ± 19	-24.28 ± 0.16	2454 ± 19	2455 ± 20	BC746 - 686(32.6%) BC666 - 643(11.1%) BC553 - 507(21.1%) BC501 - 490(3.3%)	BC752 - 682(34.8%) BC669 - 636(13.2%) BC626 - 614(17.7%) BC593 - 415(45.7%)	27499
前処理 超音波洗浄液・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 地塗:1.2G)							BC668 - 619(41.7%) BC591 - 576(8.4%) BC521 - 509(4.6%) BC476 - 440(13.5%)	BC671 - 613(45.5%) BC595 - 567(11.3%) BC556 - 415(38.6%)		

^{a)} $\delta^{14}\text{C}$ 補正年年代^{b)} $\delta^{14}\text{C}$ 補正年代

第113図 曆年較正図

左:柱根01 右:柱根02



第114図 ウイグルマッチング結果

左: Curve-plot 右上: Multiple-plot 右下: D-Sequence

曆年較正結果(確率分布)とウイグルマッチング結果との比較、D-Sequence の結果(確率分布と $\sigma \sim 2\sigma$ の較正範囲)を示している。

正範囲を示している。第114図にはウイグルマッチング結果を、INTCAL13の曲線上にプロットしたもの、暦年較正結果（確率分布）とウイグルマッチング結果との比較、D-Sequenceの結果（確率分布と $\delta \sim 2\sigma$ の較正範囲）を示している。

5. 年代測定値について

1.SK01(土坑墓)

得られた最外（年輪）試料年代値は 2σ でBC671～BC415年を示した。この値は、おおよそ縄文時代晚期となる。

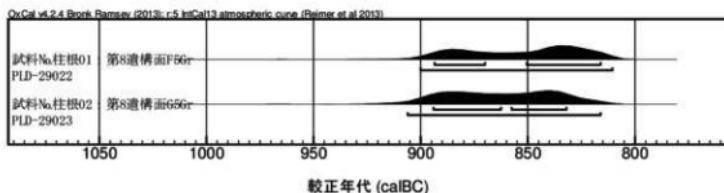
最外年輪の外部には更に年輪が存在したことから、この木の伐採は縄文時代晚期以降となる。このことは、発掘調査の結果から、この土坑墓が縄文時代晚期の土坑墓と考えられることと、矛盾しない。

2.柱根1, 柱根2

得られた年代値は柱根01が $2,705 \pm 20$ yrsBP (BC901～811; 2σ)、柱根02が $2,720 \pm 20$ yrsBP (BC907～817; 2σ) と、ほぼ一致した（第115図）。この値は、縄文時代晚期を示し、出土遺物から推定された時期と一致した。

参考文献

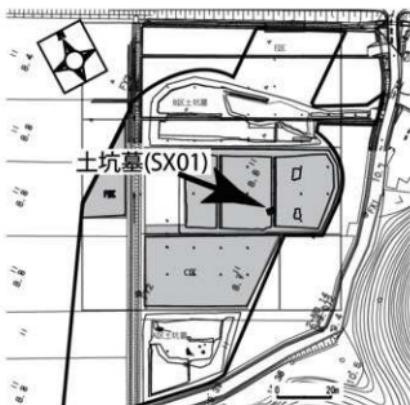
- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. Radiocarbon, 43(2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.



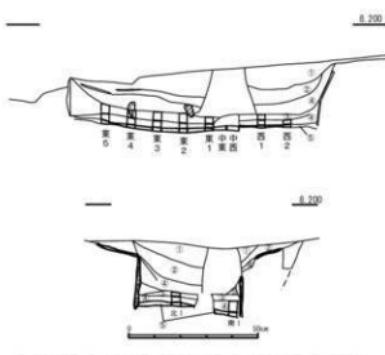
第115図 暗年較正年代の分布

第2節 古屋敷遺跡で検出された「土坑墓(SK01)」の自然科学的検証

渡辺正巳 (文化財調査コンサルタント(株))



第116図 調査区配置及び試料採取地点
(D区SK01: 土坑墓)



第117図 土坑(SK01)断面図及び分析試料位置

図上：東西断面 下：南北断面

3. 分析方法

リン濃度測定は、渡辺(2014)に従い、ICP発光分光分析装置を用いた。炭素、窒素濃度測定も同様に、渡辺(2014)に従い有機微量元素分析装置を用いた。

樹種同定では、渡辺(2010)に従い顕微鏡観察用永久プレラートを作成した。作成した永久プレラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。

1.はじめに

古屋敷遺跡は、島根県中央部、大田市仁摩町大國に位置し、潮川が成す沖積平野(仁摩平野)上に立地する。

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、島根県埋蔵文化財調査センターからの委託を受け、土坑(SK01)が土坑墓であることを、自然科学的に検証する目的で土坑内堆積物の化学分析(P、C、N分析)を実施・報告した、調査報告書の概報である。また、同時に行なった木棺の樹種同定結果についても報告する。

2. 分析資料について

調査区の配置及び土坑(SK01)の位置を第116図に、遺構の断面図及び試料採取位置を第117図に示す。土坑中央に十字形に残された畦をブロック状に切り出して、分析試料とした。試料名は図2に示すように、中心から東1～5、西1～2、北1、南1の9地点で、分層に従って(3)～(5)の試料を採取した。さらに、これら9地点の間で⑤層を対象とした試料を・「東1-2」、「中東」、「中西」、「西0-1」・として採取した。

また、土坑中より(木棺の一部と考えられる)任意の木片を取り上げ、樹種同定を行なった。

顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で4倍～600倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、顕微鏡写真撮影を行うとともに、島地ほか(1985)の用語に基本的に従い、記載を行った。

4. 分析結果

全リン分析結果及びCN濃度測定結果を第3表に示すと共に、第118、119図にリン濃度、C/Nの分布図を示す。

また、以下に濃度分布の特徴を示す。

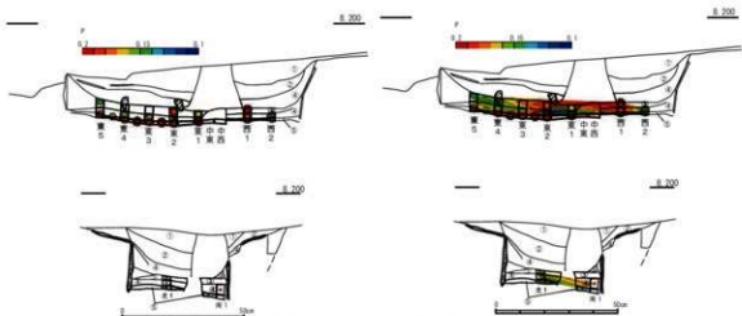
① リン(図118)

上層(③層)の分析試料は少ないが、西1地点で0.2、東2地点で0.19と高い値を示す。一方、東1、北1地点で0.17、東5地点で0.15とやや低い値を示す。

中層(④層)では、西1地点で0.19、南1地点で0.18を示すものの、その他の地点では0.11～0.16と全体に低い傾向にある。

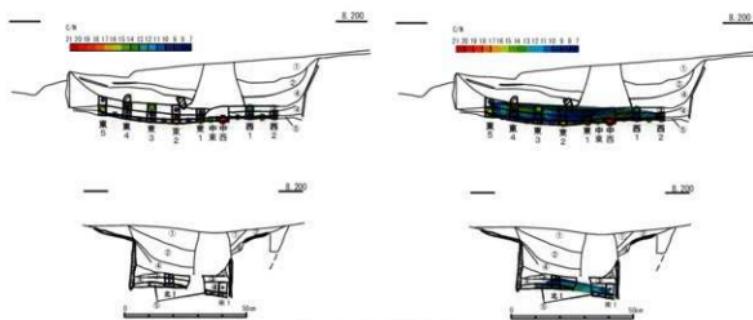
下層(⑤層)では、西2地点で0.16、東4・5地点で0.17、北1地点で0.18とやや低いものの、その他の試料では0.2か0.19と高い値を示す。

試料No.	リン含有量 (g/kg)	第3表 PCN測定結果			
		Carbon (%)	Nitrogen (%)	C/N	P/C
西2(4)	0.15	0.475	0.055	8.65	0.032
西2(5)	0.16	0.418	0.073	13.87	0.016
西1-2	—	1.185	0.083	14.30	—
西1-(3)	0.2	0.730	0.056	13.01	0.027
西1-(4)	0.19	0.473	0.052	9.10	0.040
西1-(5)	0.19	0.849	0.067	12.59	0.022
西0-1	—	0.777	0.072	10.82	—
中西	—	2.538	0.126	20.21	—
中東	—	1.144	0.083	13.84	—
東1-(3)	0.17	0.463	0.057	8.10	0.037
東1-(4)	0.14	0.411	0.045	9.15	0.034
東1-(5)	0.2	1.256	0.073	17.17	0.016
東1-2	—	0.585	0.061	9.54	—
東2-(3)	0.19	0.494	0.054	9.19	0.038
東2(4)	0.11	0.494	0.054	9.16	0.022
東2(5)	0.2	3.118	0.182	17.13	0.006
東2-3	0.2	0.604	0.061	9.89	0.033
東3-(3)	—	1.166	0.077	15.23	—
東3-(4)	0.16	0.477	0.049	9.73	0.034
東3-(5)	0.19	0.433	0.045	9.54	0.044
東3-4	0.2	0.569	0.062	9.23	0.035
東4-(3)	—	1.148	0.071	16.07	—
東4-(4)	0.16	0.475	0.052	9.09	0.034
東4-(5)	0.19	0.405	0.047	8.70	0.047
東4-5	0.17	0.815	0.067	12.25	0.021
東5-(3)	0.15	0.402	0.049	8.26	0.037
東5-(4)	—	1.624	0.101	16.00	—
東5-(5)	0.18	0.478	0.058	8.26	0.038
南1-(4)	0.18	0.564	0.053	10.59	0.032
南1-(5)	—	1.031	0.090	11.49	—
南0-1	0.16	0.722	0.064	11.28	0.022
北0-1	—	1.070	0.074	14.53	—
北1-(3)	0.17	0.353	0.045	7.82	0.048
北1-(4)	0.15	0.378	0.047	8.10	0.040
北1-(5)	0.18	0.850	0.066	12.84	0.021
北1-	—	0.855	0.071	12.01	—
平均	0.17	0.845	0.068	11.58	0.031
標準偏差	0.022	0.575	0.026	3.12	0.010
最大	0.20	3.118	0.182	20.21	0.048
最小	0.11	0.353	0.045	7.82	0.006



第118図 リン濃度分布

上：東西断面 下：南北断面 左：バブルグラフ 右：コンタマップ



第119図 C/N分布

上：東西断面 下：南北断面 左：バブルグラフ 右：コンタマップ

② 炭素

上層(③層)の分析試料は少ないが、多くは0.4～0.5(%)程度である。しかし、東3、4地点では1.1を超えるなど、差が大きい。

中層(④層)では、0.3～0.5程度と安定している。

下層(⑤層)では、東3、4、5地点で0.4程度を示すものの、その他の地点の多くでは1.0を超える。特に東2地点では3.118と高い値を示す。

③ 窒素

上層(③層)の分析試料は少ないが、多くは0.04～0.05(%)程度である。しかし、東3、4地点では0.077、0.071とやや高い値を示す。

中層(④層)では、0.05程度と安定しているが、東5地点で0.101と高い値を示す。

下層(⑤層)では、多くは0.06～0.08程度であるが、中西地点で0.126、東2地点で0.182と高い値を示し、東3地点で0.045、東4地点で0.047と低い値を示す。

④ C/N (図119)

上層(③層)では8程度を示す試料と13以上を示す試料に2分される。

中層(④層)では、ほとんどの試料が9程度を示すものの、東5地点で16.00、南1地点で10.59と高い値を示す。

下層(⑤層)では、11程度より高い値を示す試料と、10程度より低い値を示す試料に2分される。

⑤ P/C

上層(③層)では、0.03～0.05を示す。

中層(④層)では、0.02～0.04を示す。

下層(⑤層)では、0.04程度を示す試料と、0.02程度を示す試料、更に0.01に満たない試料に3分される。

5. 樹種同定結果

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はやや急で、晩材の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に分布している。また、分野壁孔はスギ型で2～3個存在

第4表 構成元素の割合と元素比

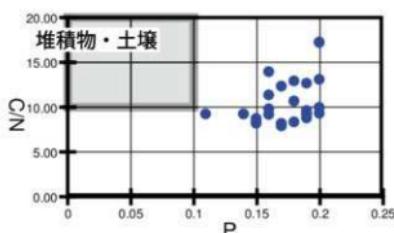
	炭素 (C)	窒素 (N)	イオウ (S)	C/N	C/S	カルシウム (Ca)	リン (P)	P/C
人間	全体	22.9%	2.6%	0.20%	8.9	114.3	1.4%	1.1%
	骨	36.0%	4.3%	0.06%	8.4	620.7	17.0%	6.7%
	筋肉	67.0%	7.2%	0.32%	9.3	209.4	0.04%	0.58%
	毛	54.0%	16.0%	2.40%	3.4	22.5	0.17%	0.01%
動物	肝臓	67.0%	7.2%	0.36%	9.3	186.1	0.02%	0.94%
	哺乳類	48.4%	12.8%	1.60%	3.8	30.3	-	-
	魚類	47.5%	11.4%	1.00%	4.2	47.5	0.10%	0.18%
植物	バクテリア	54.0%	9.6%	0.53%	5.6	101.9	0.51%	3.0%
	菌類	-	3.4%	0.40%	-	-	0.09%	0.50%
	蘇苔類	-	1.2%	0.15%	-	-	5.1%	0.17%
	シダ類	45.0%	2.0%	0.25%	22.5	180.0	0.37%	0.20%
	裸子植物	45.0%	3.2%	0.11%	14.1	409.1	0.85%	0.20%
	被子植物	45.0%	2.5%	0.53%	18.0	84.9	0.85%	0.11%
土壌・岩石	野菜類	45.0%	5.3%	0.33%	8.6	136.4	2.5%	0.51%
	平均的土壌	2.00%	0.20%	0.07%	10.0	28.6	1.5%	0.080%
	堆積物の平均	2.94%	0.05%	0.22%	62.6	13.4	6.6%	0.067%
	頁岩の平均	1.60%	0.060%	0.24%	26.7	6.7	3.10%	0.070%
	花崗岩の平均	0.036%	0.002%	0.03%	17.1	1.3	1.6%	0.070%
	玄武岩の平均	0.061%	0.003%	0.03%	20.3	2.4	6.7%	0.140%
								2.3

Bowen(1979) によって編集された、Iyengar et al. (1978), Koons and Helmke (1978), Tjell and Hovmand(1978), Casagrande and Erchall (1977), Hanawalt and Whittaker (1977), Valkovic (1977), Wakatsuki et al. (1977), Chester and Aston (1976), Connor and Shacklette (1975), Synder (1975), Golley et al. (1969), Scharrer and Linser (1969), Wedepohl (1969-1974), Haller et al. (1968), Wedepohl (1968), Bowen (1966), Chapman (1966), Gorham and Swaine (1965), Taylor (1964), Hanna and Grant (1962), Vinogradov (1959), Vinogradov (1953), Rankama and Sahama (1950) のデータを使用した。ただし、幅を持って示された値については、最高値と最低値の中間の値を用いた。

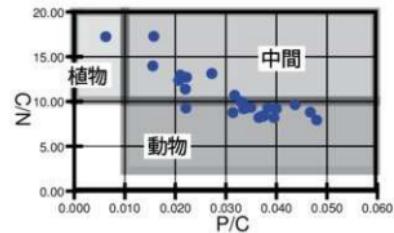
することなどから、スギ (*Cryptomeria japonica* D.Don) と同定した。また、第122図に顕微鏡写真を示す。作成したブレバートは、整理Na : W14071108 として文化財調査コンサルタント株式会社にて保管・管理をしている。

6. 遺骸残存の可能性について

第4表に示すように、土壌、堆積物に比べ、有機物（動植物）に含まれるリンの割合はおよそ2倍以上高い。このことから、堆積物（土壌）中に有機物が埋まっていた場合、有機物を中心としてリン濃度の高い部分が存在することが予想される。また、C/Nは、およそ10を境に動物と植物を分けることが可能である。一方、データが少ないもののP/Cではおよそ0.01が動物と植物を分ける指標となりうることが示



第120図 C/NとPの相関図



第121図 C/NとP/Cの相関図

唆される。

今回の分析では、有機物の存在を示唆するリン濃度は、④層の一部で低いものの、第4表に示した「平均的な土壤」や「堆積物平均」に比べ、高い傾向にあった。

一方、図119に示すように、C/Nは動物と植物を分ける10を挟んで分布し、リン濃度との関係では「平均的な土壤」や「堆積物平均」を示すエリアに属する試料は、存在しなかった。一方、図121に示すように、P/CとC/Nは明らかな逆相関の関係を示し、C/Nが高くP/Cが低い植物を示すゾーンと、C/Nが低くP/Cが高い動物を示すゾーン、これらの中間的なゾーンがあることが分かる。

これらのこととは、P/C値の高い試料では、人間を含む動物由來の有機物を多く含む反面、P/Cの低い試料では動物に加え、植物の影響を強く受けていることが分かる。採取試料に木棺(?)の破片が多量に含まれていたことから、C/Nの高い試料(P/Cの低い試料)では、木棺(?)の影響が強く表れていると考えられる。

今回の分析試料は土坑底部からのみ採取しており、上位には30cm以上の堆積物が存在していた。現状ではこれらに含まれたP、C、Nの濃度分布が不明で、これらの元素が上位から浸透してきた可能性を否定できない。また、データが木棺(?)の影響を強く受けているなどの問題点が残る。しかし、得られたデータから判断して、土坑内に人間を含む動物が埋まっていた可能性が高いと言える。

7.まとめ

古屋敷遺跡D区土坑墓(SK01)を対象に、全リン、有機炭素、全窒素測定を行った結果、得られたデータからは、土坑内に人間を含む動物が埋まっていた可能性が高いと言える。

木棺(?)の部材の一つとして、スギが用いられていた。

引用文献

Bowen, H. J. M. (1966) "Trace Elements in Biochemistry", Academic Press, London, New York

Bowen, H. J. M. (1979) "Environmental Chemistry of the Elements", Academic Press, London, New York



第122図 顕微鏡写真 左：横断面 中：接線断面 右：放射断面

- Casagrande, D. J. and Erchall, L. D. (1977) *Geochim. Cosmochim. Acta*, 41, 1391
- Chapman, H. D. (ed) (1966) "Diagnostic Criteria for Plants and Soils", Univ. California: Div. Agric. Sci.
- Chester, R. and Aston, S. R. (1976) "Chemical Oceanography", Vol. 6, p. 281 (Riley, J. P. and Skirrow, G., eds). Academic Press, London. New York
- Connor, J. J. and Shacklette, H. T. (1975) U.S. Geol. Surv. Prof. Paper 574-F
- Golley, F. B., McGinnis, J. T., Clements, R. G. I. and Duever, M. J. (1969) *Bioscience*, 19, 693 and 697
- Gorham, E. and Swaine, D. J. (1965) *Limnol. Oceanogr.* 10, 268
- Haller, W. A., Rancitelli, L. A. and Cooper, J. A. (1968) *J. Agric. Food Chem.* 16, 1036
- Hanawalt, R. B. and Whittaker, R. H. (1977) *Sili. Sci.* 123, 25
- Hanna, W. J. and Grant, C. L. (1962) *Bull. Torrey Bot. Club*, 89, 293
- Iyengar, G., Kollmer, W. E. and Bowen, H. J. M. (1978) "Elemental Composition of Human Tissues and Body Fluids", Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York
- Koops, R. D. and Helmke, P. A. (1978) *Soil Sci. Soc. Amer. J.* 42, 237
- Rankama, K. and Sahama, T. (1950) "Geochemistry", Chicago University Press
- Scharrer, K. H. and Linser, H. (eds) (1969) "Handbuch der Pflanzennahrung und Dungung", Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塙倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造, 276p., 文永堂, 東京。
- Snyder, W. S. (ed) (1975) "Report of Task Group on Reference Man", argamon Press Ltd, Oxford. New York
- Taylor, S. R. (1964) *Geochim. Cosmochim. Acta*, 28, 1273
- Tjell, J. C. and Hovmand, M. F. (1978) *Acta Agric. Scand.* 28, 81
- Valkovic, V. (1977) "Trace Elements in Human Hair", Garland S. T. P. M.
- Vinogradov, A. P. (1953) "The Elementary Chemical Composition of Marine Organisms", Sears Foundation, New Haven, Conn.
- Vinogradov, A. P. (1959) "Geochemistry of Rare and Dispersed Elements in Soils", Chapman and Hall, London
- Wakatsuki, T., Furukawa, H. and Kyuma, H. (1977) *Geochim. Cosmochim. Acta*, 41, 891
- Wedepohl, K. H. (1968) "Origin and Distribution of the Elements", p. 999(Ahrens, L. H., ed), Pergamon Press Ltd., Oxford, New York
- Wedepohl, K. H. (1969-1974) "Handbook of Geochemistry", Springer Verlag, Berlin, Heidelberg, New York
- 渡辺正巳 (2010) 木質遺物 (埋没樹木) 樹種同定, 必携 考古資料の自然科学調査法, 194 - 198. ニュー・サイエンス社.
- 渡辺正巳 (2014) 龍寺古墳群におけるリン、炭素及び窒素分析、龍寺古墳群・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡、一般国道9号(仁摩温泉津道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5. 201-207.

第3節 古屋敷遺跡（D区）から出土した赤色顔料付着遺物について

大田市古屋敷遺跡からは赤色顔料の付着した縄文時代後期から晩期にかけての土器が出土した。古墳時代以前の赤色顔料は、硫化第二水銀 (HgS) を主成分とする鉱物の辰砂に由来する水銀朱(朱)、酸化第二鉄 (Fe_2O_3) を多く含むとされるベンガラが知られている^(註1)。これらの遺物の性格を知る手がかりとして、蛍光X線分析による元素定性分析を行なった。

1. 分析の方法

分析方法は、蛍光X線分析による元素定性分析である。使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置の「エスアイアイ・ナノテクノロジー（現：日立ハイテクサイエンス）社製 SEA1200VX 卓上型ケイ光X線分析計（エネルギー分散型）」である。測定条件は、測定時間 200 秒（うち測定可能な有効時間は 120 ~ 142 秒）、試料室雰囲気は大気／真空、測定範囲は直徑 8.0mm、管電圧 50kV（測定室雰囲気真空時には 15kV）、管電流 64 ~ 1000 μA （管電圧による自動設定）、X線管球は Rh（ロジウム）、検出器は Si 半導体検出器（SSD）である。一次フィルタとして Pb フィルタ（真空雰囲気での測定時には Cl フィルタ）を設定した。なお、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。測定は肉眼、あるいは 10 ~ 40 倍の実体顕微鏡観察にて赤色顔料の付着がみられた箇所と、比較対照資料として胎土部分（土器の破断面）で行なった。このうち、水銀 (Hg) と硫黄 (S) を高く検出したものを水銀朱、鉄 (Fe) を高く検出し、水銀と硫黄を検出しなかったものは胎土部分のスペクトルピークの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラ（ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」^(註2)）であると判断した。

2. 結果

測定を行なった試料とその結果を第5表と蛍光X線分析スペクトルピークに示す。測定No D2・D3・D4・D5・D6・D7・D8・D9 は Hg と S のスペクトルピーク（以下、ピーク）を示した。これらの試料では、Fe の高いピークも検出しているが、Hg の高いピークを示す箇所では、Fe のピークは追随を許さないことや、Fe は胎土部分からも高いピークが検出されていることからも、Fe は胎土に由来しているものとみられる。したがって、水銀朱による塗彩は確実に行なわれていることが推測される。しかし、ベンガラとの混合の可能性の有無については、今回の分析では断言できない。また、Fe の高いピークを示した、測定No D1・D10・D11・D12・D13・D14・D15 については、胎土部分のピークとの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラが塗布されていると推測される。

〈註〉

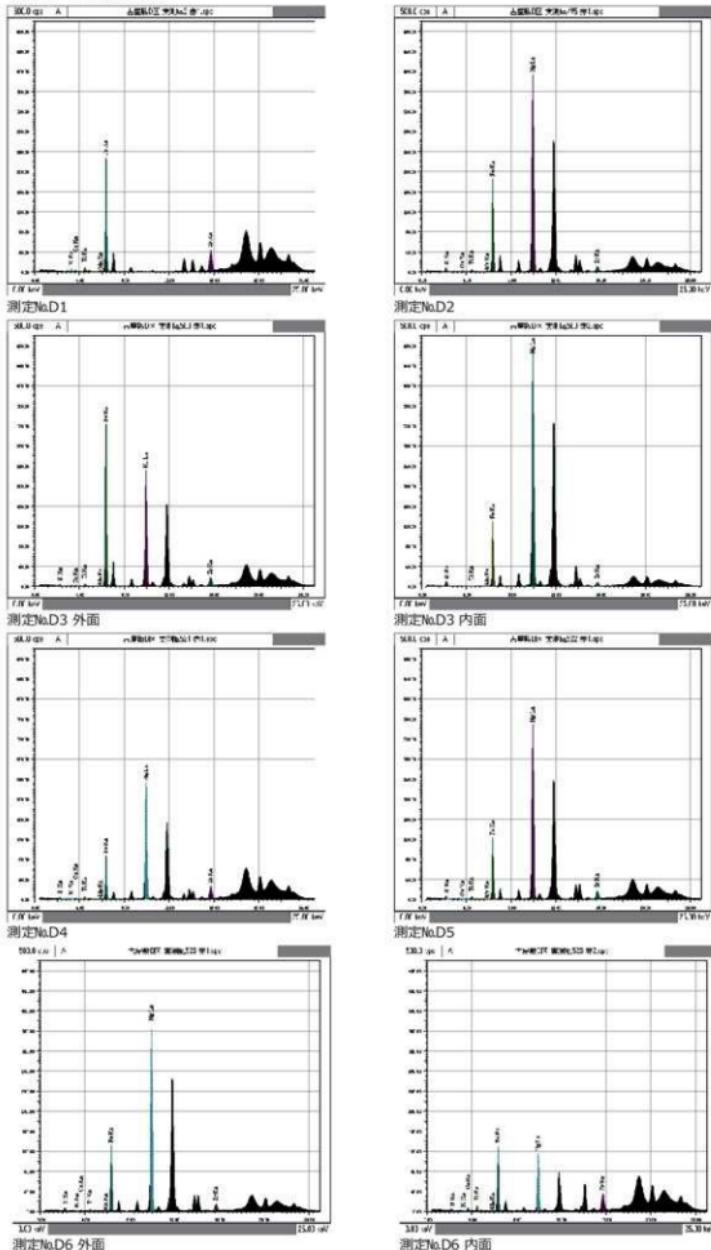
(1) 市毛勲『新版 朱の考古学』 1998 雄山閣

(2) 註1と同じ

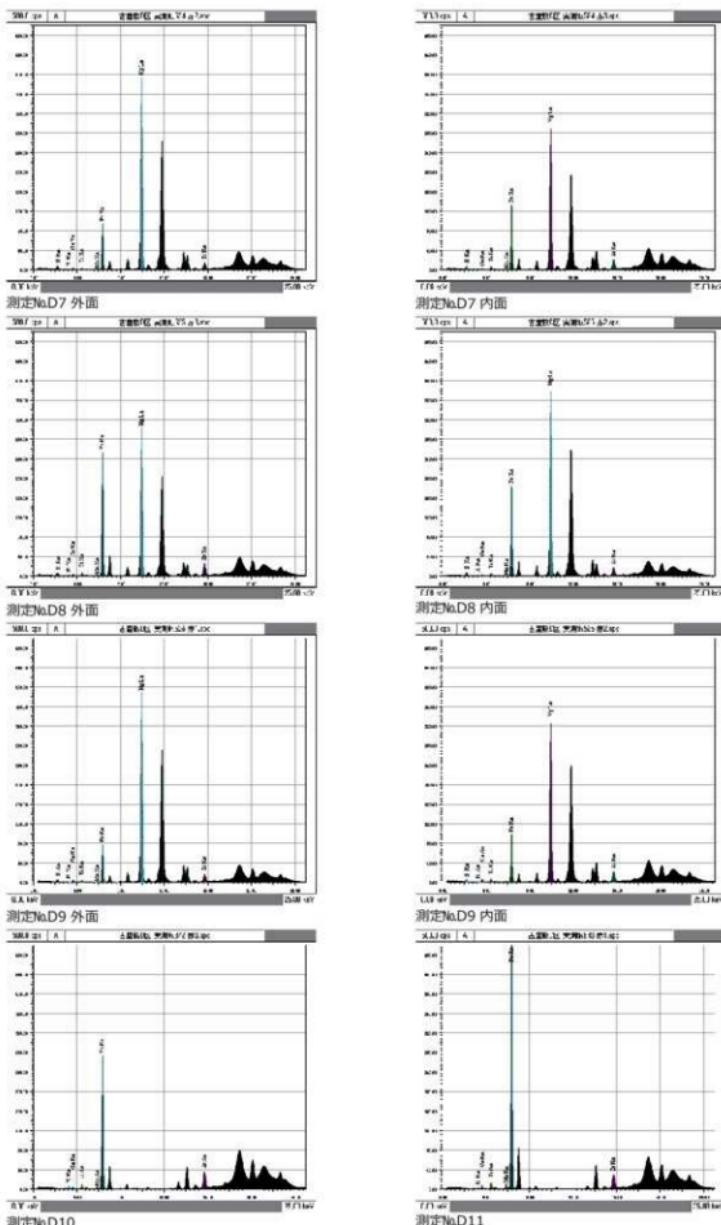
調査区	測定No.	捕図No.	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される 顔料	備考
						Fe	Hg	S		
D区	D1	111-4	縄文土器	壺・注口か?	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	試料形状により測定不可
D区	D2	52-4	縄文土器	浅鉢	外面	++	++	++	水銀朱	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D3	80-3	縄文土器	浅鉢	外面	++	++	++	水銀朱	
					内面	+	++	++	水銀朱	
D区	D4	52-3	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D5	80-8	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D6	88-3	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	+	+	++	水銀朱	
D区	D7	63-1	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	+	++	++	水銀朱	
D区	D8	74-1	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	+	++	++	水銀朱	
D区	D9	52-2	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
					内面	+	++	++	水銀朱	
D区	D10	102-3	縄文土器	深鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D11	102-10	縄文土器	深鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D12	102-4	縄文土器	深鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	赤彩なし
D区	D13	80-9	縄文土器	浅鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	試料形状により測定不可
D区	D14	101-1	縄文土器	浅鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	×	×	×	-	試料形状により測定不可
D区	D15	80-1	縄文土器	浅鉢	外面	++	-	-	ベンガラ	
					内面	++	-	-	ベンガラ	

検出元素凡例: ++…スペクトルピークが高く検出 / +…検出 / -…検出せず / ×…測定せず (赤彩なし・試料形状により測定不可)

第5表 古屋敷遺跡D区出土赤色顔料付着遺物蛍光X線分析結果

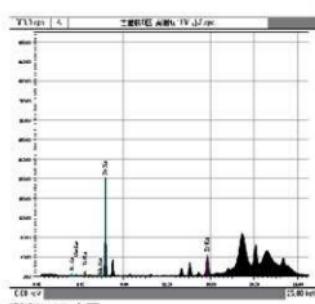
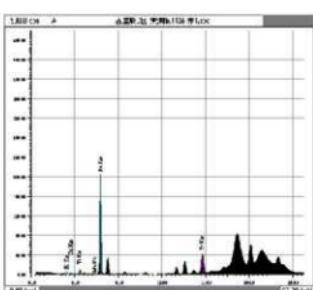
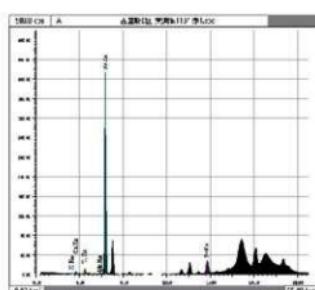
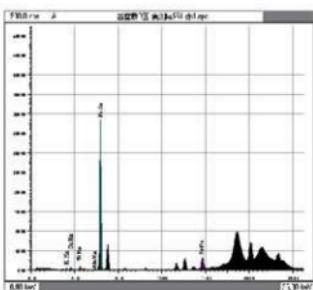
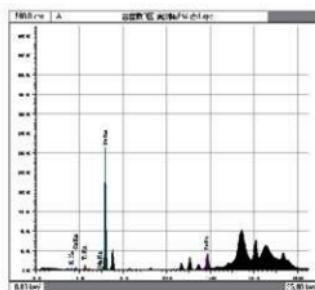


第123図 萤光X線分析スペクトルピーク



第124図 蛍光X線分析スペクトル(1)

蛍光X線分析スペクトル



第125図 蛍光X線分析スペクトル(2)

第5章 総括

1. 古屋敷遺跡（D区）の調査成果

古屋敷遺跡（D区）では、縄文時代後期後葉から晩期、弥生時代前期初頭に至る8面の遺構面を確認した。このうち、第1遺構面は弥生前期、第2～5遺構面は突帯文期、第6・7面が晩期前葉、第8遺構面と9ライントレント下層は縄文後期に遡る。

第1遺構面は弥生前期の土器を中心に、少量の突帯文土器が混じっている。この面では、弥生前期の土器と炭の詰まった土坑2基など検出したほか、第1遺構面を東西に横断する溝（SD01）を検出している。SD01は人工的な水路と考えられる。このSD01を挟み、東西で遺構の検出密度が異なるように見え、水田などの生産の場と墓地や生活面など、土地利用が異なっていた可能性も考えられる。旧仁摩町が市道際で行った調査では墓の可能性もある土坑などが出土しており、水路や水田遺構など、周辺の土地利用の状況について資料が蓄積されつつある。また、突帯文土器を含んだ木棺墓（SK01）と、弥生土器が入った土坑（SK02・SX01・02）などがあり、縄文から弥生時代への推移を検討する上で重要な資料を提供した。

第2遺構面では木棺墓と考えられる遺構（SK01）を検出し、第3遺構面で石冠と見られる石製品が突帯文土器とともに出土している。これらの面では、非常に多くの地床炉を検出し、繰り返し火が焚かれていたことを確認した。また、第4遺構面などで検出した配石遺構の位置が、層位の異なる第2遺構面のSK01に近接していることから、長期間にわたって、この付近が墓などを造る場所として認識されていた可能性もあり注意される。第2・3遺構面は突帯文土器を中心とし、第4・5遺構面でも、少量の突帯文土器を含んでいる。

第4・5遺構面は、古屋敷遺跡（D区）で最も多くの遺物が出土し、特に、第5遺構面では、水さらし場遺構や貯蔵穴、炭だまりなど特徴的な遺構を検出した。また、出土遺物に彩文土器が含まれている点は注目される。

第6・7遺構面では、突帯文土器はほとんど見られず、口縁部に刻目を入れる上器を中心となる。この面では地床炉はほとんど見られなくなり、変わって調査区全面に、たくさんの柱穴が展開する。確実な建物を確認することはできなかったが、数棟以上の建物が建っていたことは確実であろう。第8遺構面で検出した柱根は、AMS年代測定によって、BC900年頃の年代が測定され、第6～7遺構面から打ち込まれた可能性を考えているが、この柱根には柱穴がなく、地面に直接打ち込まれたか、自重で埋没した可能性が高い。これは、古屋敷遺跡が海岸線に近く、決して強固でない砂地に位置していることとも関係するとと思われるが、当時の建物の構造を考えるヒントになると思われる。

第8遺構面より下層は縄文後期に遡る。この中でG10土器溜まりは、黒褐色の粘質土に覆われた一括性の高い遺物群と思われ、九州の影響を受けた可能性がある土器を含むなど、活発な交流をうかがわせる。この土器群は、沖丈式併行と考えられる。

2. 石製呪術具と考えられる石製品

古屋敷遺跡（D区）の発掘調査では石製円盤や線刻縞など呪術具と考えられる石製品が多く出土している。主だったものをあげるとすれば、第2遺構面のくぼみ石（34-7・8）や鉄石英の玉石（34-6）。

第3遺構面からは石冠(41-4)、石刀と見れる石(42-7)や、くぼみ石(43-3)。第4遺構面からは、石棒(50-9・51-8)、線刻蹕(50-5)、磨石・くぼみ石(50-10~12)。第5遺構面では炭だまり1からは有孔石製品(61-9)、磨石(69-8)が土製円盤(61-5・6)とともに出土したほか、節理をなぞったような異形の線刻蹕(73-8)、明らかに火を受けた小さな線刻蹕(73-9)や磨石(73-4・5・7)がある。それ以外にも、線刻蹕(73-1)、磨石(72-3、73-2・3)、石棒(73-5)がある。第6遺構面から線刻蹕(79-7)、石製円盤(79-8)。第8遺構面の線刻蹕(94-6)などである。こうした呪術的な石製品は、第4・5遺構面に多く見られ、特に有孔石製品などを出土した第5遺構面の炭だまり1と隣接する地床炉107・108等との関係は、供宴や儀礼を思わせる。

第3遺構面では、石冠と称される半円形の石製品(41-4)が出土している。この石冠は2条突帯の深鉢(41-5)とともに出土し、出土状況から、地床炉47に伴う可能性が高い。石冠とされる石製品は、県内では、三田谷I遺跡、沖ノ原遺跡、下西海岸遺跡^(註1)で知られているが、いずれも半球形の頭部を持つもので、装飾的な加工のない半円形の頭部を持つ古屋敷遺跡例とは形状が異なる。土器や焼土面に伴って出土しており、時期の検討や使用方法の解明に良好な資料を提供したと言える。

ところで、古屋敷遺跡(D区)で出土した石器類のうち、磨石・叩石や石皿に欠損しているものが多く見られるほか、火を受けていると思われるものが一定量見られた点は注意される。79-5など、明らかに破断面から独立した位置に、×印を刻むように線を引く行為も見られ、廃棄時に再使用できないように破碎する行為があったかもしれない。

3. 彩文土器について

平成25年度に調査を行ったA区に統いて、D区でも同様の彩文土器(52-4)が出土した。暗褐色の顔料を漆状の樹脂で塗り描いたもので、大洞C2/A1式などに特徴的なC字文を描いている。この土器が出土した第4遺構面は口縁部を刻む深鉢に少量の突帯土器が伴っており、縄文時代晚期後葉と思われる。彩文土器の出土は、前年度A区出土彩文土器^(註2)と併せ、県内では雲南市の万場I遺跡^(註3)に続く2遺跡目となる。大洞C2/A1式の段階は、亀ヶ岡系の遺物が西日本各地へ移動することが知られており、古屋敷遺跡での出土も、そうした西日本的な動きの中で持ち込まれたものかもしれない。古屋敷遺跡のA区とD区で出土した彩文土器は、出土位置は離れているものの、出土層位はきわめて近く、文様そのものもよく似ていることから、両者は近い時期に持ち込まれたものと想像される。

A区で出土した彩文土器は、C字文の間に朱文による列点文を置いていることが特徴的だが、C字文の間を列点文で埋める文様は、西日本地域で知られる大洞式土器には見ることができない^(註4)。同様の文様は、福岡県の雀居遺跡^(註5)出土の飾り弓や高知県居德遺跡^(註6)出土の木胎漆器など、木製品だけであることから、本製品の文様が土器に写された可能性がある。こうした点は、古屋敷遺跡の彩文土器の出自や持ち込まれた経緯を考える上で注視される。

なお、前年度A区で出土した彩文土器は、鉄由来の赤色顔料が使用されていたが、D区から出土した52-4は、蛍光X線分析によって、水銀朱の使用が明らかになった。

4. 木棺墓について

第3遺構面のH8付近では木棺墓(SK01)を検出した。SK01は長さ135cmの土坑の中に針葉樹の板材で木棺を組んでおり、側板・小口板・床板、床板の下に組まれた棧がほぼ完全な状態で残されていた。土坑内には土器片2点が流れ込んでおり、副葬品と思われる滑石製の管玉1点が見られた。人骨などは残っていないが、全長1m程と小さいことから、小児墓と考えられる。D区SK01の特徴としては、底板の下面に3本の棒状木製品があり、底板を持ち上げる棧があった点、側板・小口板を杭によって固定している点、墓標状に打たれた杭があった可能性がある点などがある。また、土層の観察から墓坑の枠外を完全には埋め戻していない可能性がある。また、副葬品と見られる玉は、管玉をしているが、実際には長さがなく、丸玉に近い形状となっている。荒削り時の面を僅かに残し、周囲の研磨も十分でないことから、古墳時代の管玉のような形状からはかけ離れている。

SK01周辺では、地床炉と見られる火を焚いた痕跡が点々と見られ、周囲が当時の生活空間の一画だった可能性がある。近接して同様の土坑は見られず、墓域は形成していない。一方、第4遺構面で検出した配石遺構も、層位は異なるものの、平面的には近接した位置に見られることは注意される。この周辺の狭い範囲の機能が、墓や配石遺構など葬儀や祭祀的な施設を置く場所として特定されていた可能性も捨てきれない。

同時期の木棺墓と見られる遺構は、平成25年度A区のSK02のほか、平成25年度調査のB区でも小型の土坑(SK11)の床面に溝状のくぼみが見られる遺構があり、木棺墓の可能性がある。前年度A区のSK2は小口側の棺材の固定に石を使用し、側板で小口板を挟み込む配置と想定されている。また、墓坑底面に側板を立てる溝が切られ、側板を立てているが、小口板は底板の上に乗せるなどの特徴があり、D区SK01とは構造が異なっている。全長約1.9mと大きく、出土した人骨から成人女性の可能性がある。また、A区SK2からは石鎚2点が出土している。この石鎚はガラス質安山岩ではなく、碧玉製で、実用品ではない可能性もあり、副葬品であろう。石鎚は、1点が蓋板上、もう1点が側板の外側からの出土であり、蓋の上に乗せられていた可能性がある。D区SK01の管玉が、側板外側から出土し、蓋の上に置かれていたという想定に一致する。

縄文晩期から弥生時代初頭にかけて見られる木棺墓に、SK01で見られるような、杭を使用して側板・小口板を支える構造は知られていない。また、A区SK2のように川原石を詰めて小口板を固定している例は、滋賀県金屋遺跡などが知られている。

岐阜県の荒尾南遺跡SZ155^(註7)では、木棺墓の床板下面に3本の棒材が置かれ、床板を持ち上げるような構造になっていたことが知られており、SK01に共通する。SK01の床材下面是、水が湧き、材が浮きやすい状態となっていたため、3本の棧が、元々どのような位置にあったかは判らないが、荒尾南遺跡SZ155の状況は示唆的である。

三重県の中谷遺跡^(註8)では、14基の土坑墓が検出され、このうちの13基について、直接的な物証は無いものの、木棺墓だと推定されている。中谷遺跡の木棺墓は、110×60cm程の規模と考えられており、古屋敷遺跡(D区)SK01に近い。滋賀里遺跡では墓坑の切り合いが認められることから墓標などはなかったと想定されているが、中谷遺跡の木棺墓は長軸を揃えて隣接するものが2組あるほか、他の木棺墓にも切り合いが見られないことから、何らかの墓標があった可能性が想定されている。ところで、中谷遺跡では土坑墓とともに、土器棺墓6基が発見されており、

土器棺墓は乳幼児用、木棺墓を小児用と推定されている。

東海・近畿地方から中国地方で発見される同時代の木棺墓では、荒尾南遺跡などが側板が小口板を挟み込む形状、龍川五条遺跡^(註9)・御堂遺跡^(註10)などで小口板が側板を挟み込む形状を推定されている。一角が判別できない例は少なくないが、変則的な組み方をしている例は知られていない。

滋賀県の金屋遺跡^(註11)では川原石を詰めて棺材を固定した突帯文期の木棺墓と考えられる遺構2基が発見されているが、これら2基には水銀朱が塗布されている。水銀朱などの希少品の副葬は、木棺墓の意味の考える上で重要と思われるが、古屋敷遺跡の木棺墓からは水銀朱などの希少品は発見されていない。

SK01の墓坑からは突帯文土器の破片が出土している。棺外埋土中の出土で小片であることから、混入の可能性も低くはないが、AMS年代測定の結果からも、縄文晩期の最終末から弥生時代への移行期と考えることに矛盾はないと思われる。

県内で近い時期の木棺墓としては、堀部第1遺跡^(註12)があるが、堀部第1遺跡では多数の土坑墓が集中して墓域を形成していることが知られている。また、墓坑の上に配石が見られる点でも古屋敷遺跡とは異なる。堀部第1遺跡は、供献土器が弥生時代I・2～3様式に位置付けられ、古屋敷遺跡D区ではSK02やSX01・02と同時期と見られる。

古屋敷遺跡D区SK01は、北側では側板が小口板を挟み込んでいるが、南側では変則的になっている。すなわち、南側で側板が小口板を挟み込んでいるが、南東側は小口板の方が外側に出ており、左右対称になっていない。また、それぞれの側板・小口板を杭によって固定している点は特徴的である。第3章でも説明したとおり、棺の外側を完全には埋め戻していない可能性もあることから、側板・小口板を固定するのに杭が必要となったことが考えられる。前年度に調査されたA区SK2は、近い時期の木棺墓と推定されるが、両側板で小口板を挟み込む構造と推定され、小口板の裏込めに石を詰めるなど、滋賀県金屋遺跡などと同様の構造が推定される一方、小口板を床板の上に乗せ、小口板を立てるための溝を切らない等の特徴もある。A区SK2とD区SK01は、成人墓と小児墓の違いはあるかもしれないが、ほぼ同時期に造られ、僅か60mほどしか離れていない位置にありながら全く構造が異なる点は、木棺墓を導入する過程を検討する上で興味深い。

5.水さらし場遺構

古屋敷遺跡(D区)第5遺構面のI9南壁からは水さらし場遺構を検出した。SR01の岸に近い自然の湧水点に、自然木を使用して枠状に組み、外果皮を取り除いたトチやクルミの実を水漬けにしたもので、導水路(SD04)を作う可能性がある。水さらし場遺構は、東日本では50例ほどが知られているが、西日本地域では、岐阜県のたのもと遺跡^(註13)、カクシクレ遺跡^(註14)、福井県の四方谷岩伏遺跡^(註15)、奈良県の觀音寺本馬遺跡^(註16)、鳥取市の布勢第1遺跡^(註17)が知られているほか、北九州では弥生時代に下る、長野小西田遺跡^(註18)が知られている。このうち、カクシクレ遺跡では、導水路を作うことが知られているほか、鳥取県の布勢第1遺跡では木組み水路が検出されている。

水さらし場遺構は、外果皮を取り除いたトチや、クルミを水漬けし、虫殺しに使用^(註19)した施設だと想定されるが、同一面には、貯蔵穴や袋状土坑(Pit68)もあり、同様に木の実を貯蔵した施

設が点在する。前年度調査のB区でも貯蔵穴と考えられる袋状土坑が検出されており、SR01周辺で、その伏流水を利用した木の実の保存・水さらしななどが行われていた様子がうかがわれる。

水さらし場遺構を検出した第5遺構面では、炭だまり1・3・4を検出している。これらの遺構については、直径5~7mという大きさや形状から、住居跡ではないかという意見を、多くの研究者から受けた。しかし、屋根が乗るような柱穴が不明確であり、また、遺構内部から出土する土器片が、意外なほど接合できなかったことなどから考えると、住居跡と断定することは躊躇される。同一面で近接して検出した貯蔵穴や袋状土坑、地床炉107・108などが無関係に存在したとも思えず、当時の建物の構造、炉や食物の貯蔵場所との位置関係など検討すべき課題が多い。

古屋敷遺跡(D区)の調査では、縄文後期後葉から弥生前期初頭に至る多くの遺構・遺物を検出した。中でも、各部材が良好に残る木棺墓の検出や、西日本では発見例の少ない水さらし場遺構、水銀朱を使用して施された彩文土器など注目される遺構・遺物の発見が続いた。3カ年、1万m²近くの発掘調査を実施した古屋敷遺跡では、標高の低い西側へ向かうほど遺構・遺物の検出が少なくなる傾向があることから、遺跡の中心は潮川の自然堤防に近い東側にあり、B・D区近くが中心であったと考えられる。古屋敷遺跡の西側には、かつては入海が入り込んでいたと考えられ、食料の獲得や海を介した交流の拠点となっていたことが判る。

〈註〉

- (1)『三田谷1遺跡Vol.3』島根県教育委員会 2000年
『匹見町内遺跡詳細分布調査報告書 XV』匹見町教育委員会 2003年
『隱岐』関西大学・島根大学共同隠岐調査会 1968年
- (2)『古屋敷遺跡(A・E区)』島根県教育委員会 2017年
- (3)『万場1遺跡』雲南省教育委員会 2009年
- (4)『設楽博己・小林青樹「板付1式土器成立における亀ヶ岡系土器の闇与」「新弥生時代のはじまり 第2巻 縄文時代から弥生時代へ」』雄山閣 2007年
- (5)『雀居遺跡3』福岡市教育委員会 1995年
『雀居9』福岡市教育委員会 2003年
- (6)『居留地跡群IV』財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2003年
- (7)『荒尾南遺跡B地区II』財団法人岐阜県文化財保護センター 2003年
- (8)『丸野・中谷遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター 2003年
- (9)『龍川五条遺跡1』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1996年
- (10)『御堂遺跡』下関市教育委員会 1991年
- (11)『金屋遺跡』滋賀県教育委員会 2000年
- (12)『瑞郎第1遺跡』鹿島町教育委員会 2005年
- (13)『たのもと遺跡』財団法人岐阜県文化財保護センター 1998年
- (14)『カクシケレ遺跡』財団法人岐阜県文化財保護センター 1997年
- (15)『四方谷岩伏遺跡』福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 2003年
- (16)『觀音寺本馬遺跡』福井県教育委員会 2012年
- (17)『布勢遺跡発掘調査報告書』財団法人島根県教育文化財団 1981年
- (18)『長野小西田遺跡3』財団法人北九州市芸術文化振興財團 2010年
- (19)水さらし場遺構とされるものには、あく抜きや貯蔵など様々な機能が想定されるが、外果皮を取り除いたトチの実が大量に入り込んでいたことから、虫殺しと判断した。首都大学東京山田昌久教授に現地で指導を受けた。

補聞番号	閲覧番号	グリッド目白	Pno.	遺構名	出土層位	種別	器種	計測値				石材	備考
								長さ [cm]	幅 [cm]	厚さ [cm]	重量 [g]		
12-1	8	140702		SK001	褐色砂礫層	石器	鉛石	12.7	0.6	4.8	715	安山岩	片面：鋸刃底／鉄分付着
15-1	14	140701		SX001		石器	石礫	2.4	1.9	0.6	628	ガラス質安山岩	剝離不均勻／未製品か
17-1	15	140624		SX002	褐色砂礫層	石器	石造丁	8.8	(8.2)	0.5	43	頁岩	刃部：ヨコ方向剥離多／穿孔、1ヶ所
17-2	15	140704		SX002		石器	磨製石斧	12.2	6.1	3.4	377	緑色片岩	刃部：欠損
17-3	15	F10	140704	SX002		石器	磨製石斧	13.6	6.1	1.6	228	泥質片岩	全面：研磨痕
19-1	16	19	140617		灰色粘質土	石器	利片	7.4	2.2	1.1	17	ガラス質安山岩	凝灰片
19-2	16	H8	140617		暗灰黄色土	石器	利片	3.5	4.6	0.7	8	玉髓	使用痕削片
19-3	16	G6	140606		灰色粘土層	石器	スクレー バー	5.3	2.1	0.8	8	ガラス質安山岩	使用痕削片
19-4	16	F6	140605		明黄色雜層	石器	偏平片刃 石斧	(4.7)	2.8	0.9	20	凝灰岩	
19-5	16	I9	140617		灰色粘質土	石器	砾石	11.3	7.1	1.4	179	砂岩	鉄分付着
19-6	16	I5	140603		黄褐色シルト	石器	鉛石	(6.6)	10.0	7.4	662	花崗岩	周縁部：鋸刃痕
32-3	30	140818		SK001 F	石製品	青玉	1.4	長径 1.3	短径 1.0	3	滑石(蛇紋岩)	四角柱状石材の角を研磨	
34-1	32	140710		SK002		石器	利片	7.1	2.6	1.3	24	凝灰岩	
34-2	32	H8	140717		暗灰黄色土	石器	石斧	10.6	7.9	3.9	373	ディサイト	大形磨石を被砂か
34-3	32	H6	140728		灰色砂層	石器	打製石斧	(8.2)	(6.2)	2.0	138	流紋岩	
34-4	32	I9	140725		暗灰黄色土	石器	磨製石斧	14.4	4.3	2.9	290	緑色片岩	刃部：欠損
34-5	32	F10	140630	SD002	褐色砂礫層	石器	磨製石斧	15.6	(4.9)	4.5	429	緑色片岩	刃部：使用痕跡著
34-6	32	H7	140701		暗灰黄色土	石製品	滑石	4.7	4.1	3.2	89	鉄石英(赤色 碧玉)	全面：研磨／部分的：藍 打瓶
34-7	32	140702	47		暗灰黄色土	石製品	くぼみ石	14.5	12.9	8.1	869	凝灰岩	頂面：くぼみ3ヶ所／砕 損其か
34-8	32	F8	140714		暗灰黄色土	石製品	くぼみ石	11.8	7.6	2.1	149	凝灰岩	中央：くぼみ
41-1	38	140827	169	土器だま り01		石器	磨製石斧	13.7	4.2	3.4	270	緑色片岩	
41-2	38	140827	170	土器だま り01		石器	打製石斧	10.7	4.7	1.0	69	泥質片岩	刃部：使用による欠損
41-3	38	140827	167	土器だま り01		石器	鉛石	10.1	8.6	4.0	503	ディサイト	
41-4	38	140827	168	土器だま り01		石製品	石造	9.1	6.9	5.2	644	安山岩	全面：研磨痕／下面：藍 打瓶／磨輪
42-1	40	G6	140829		褐色粘質土	石器	石礫	(1.7)	1.4	0.3	0.27	凝灰岩	先端：欠損
42-2	40	140821		地床卯23		石器	石礫	(1.8)	1.4	0.4	0.63	ガラス質安山岩	先端：欠損／全面：磨滅
42-3	40	H9	140829		第3遺構底	石器	石礫	1.8	1.4	0.4	1	ガラス質安山岩	
42-4	40	G6	140829		暗褐色粘土	石器	石礫	(2.2)	1.1	0.4	0.8	ガラス質安山岩	先端：欠損
42-5	40	H8	140905		暗褐色粘土層	石器	石礫	(4.4)	1.4	0.5	2.9	ガラス質安山岩	先端：欠損
42-6	40	140905		SX10		石器	スクレー バー	4.3	7.7	1.4	44	流紋岩	
42-7	40	H6	140811		青灰色砂層	石器	石棒	(10.4)	2.7	1.7	80	片岩	打瓶／研磨痕
42-8	40	H6	140811		青灰色砂層	石器	打製石斧	11.6	9.8	2.2	322	泥質片岩	
42-9	40	H8	140910	243	SX10	石器	石斧	13.4	4.7	1.7	134	片岩	
42-10	40	F5/6	140806		青灰色砂層	石器	磨製石斧	12.3	4.3	2.2	160	緑色片岩	打瓶／研磨痕
42-11	40	H6	140811		青灰色砂層	石器	打製石斧	(6.7)	(7.4)	2.1	132	泥質片岩	刃部：欠損
42-12	40	F6	140807		青灰色砂層	石器	石核	7.0	7.5	3.7	235	流紋岩	スクレーバー未製品か

備考番号	開拓番号	グリッド目付	Pno.	遺構名	出土層位	種別	器種	計測値				石材	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
43-1	40	H5 140811			青灰色砂層	石器	擦石	12.3	9.5	5.6	879	安山岩	打痕 / 研磨痕
43-2	40	H6 140903	197		暗褐色粘質土	石器	敲石	8.3	4.6	3.8	178	凝灰岩	
43-3	40	H6 141006	198		暗褐色粘質土	石製品	くぼみ石	11.4	8.4	3.2	246	凝灰岩	敲打痕 / 磨擦か
50-1	47	G6 141015			暗青灰色粘質土	石器	打製石斧	15.7	7.2	2.5	398	基底性片岩	未製品か
50-2	47	F8 141016			暗青灰色粘質土	石器	打製石斧	(6.3)	(4.4)	0.9	32	泥灰岩	薄手
50-3	47	F6 141003			暗青灰色粘質土	石器	打製石斧	12.6	5.8	1.6	159	泥質片岩	
50-4	47	I10 140922	SX12周 り			石器	磨製石斧	7.8	4.7	1.3	66	泥質片岩	刃部: 欠損 / 打痕後再利用か
50-5	47	H6 141015	452		第4遺構面	石製品	縦刃鎌	(8.4)	4.3	2.3	81	凝灰岩	複数回なぞる直線 / 頭部: 斜傾3条
50-6	47	F10 140922			暗青灰色粘質土	石器	刮片	9.5	5.3	1.2	103	基底性片岩	磨製石斧破損後再利用か
50-7	47	H8 140910	244	SX10		石器	磨製石斧	(11.4)	3.8	1.5	93	基底性片岩	刃部: 欠損
50-8	48	F10 141020			黒灰色粘質土	石器	磨製石斧	14.2	4.4	3.2	324	緑色片岩	削錐部: 使用痕
50-9	48	H9 141007	355			石製品	石棒	12.9	5.8	4.1	465	基底性片岩	敲打痕
50-10	48	H6 141015			第4遺構面	石器	敲石	13.3	6.4	2.2	179	凝灰岩	端部: スス付着
50-11	48	F10 140922			暗青灰色粘質土	石製品	くぼみ石	11.4	6.2	2.3	165	凝灰岩	中央: 打痕 / 発火跡か呪具
50-12	47	H9 140924			暗青灰色粘質土	石製品	磨石	(8.7)	(9.6)	2.1	155	安山岩	端部: くぼみ2ヶ所
51-1	48	H7 141015			暗青灰色粘質土	石器	スクレーパー	(2.8)	2.7	0.7	7	ガラス質安山岩	研削
51-2	48	G7 141014			暗青灰色粘質土	石器	スクレーパー	(2.2)	(7.4)	0.9	18	ガラス質安山岩	研削
51-3	48	G6 140910	7ライン トレンチ		黒灰色粘質土	石器	打製石斧	(8.7)	5.3	1.2	73	泥質片岩	研削
51-4	48	G+H8 140117			第4遺構面	石器	磨製石斧	(8.2)	5.7	1.6	109	緑色片岩	基部: 欠損
51-5	48	H6 141001	338		第4遺構面	石器	敲石	10.9	(12.4)	5.3	747	デイサイト	部分的: 敲打痕集中 / 被熱変形 / 鉄分付着
51-6	48	F7 141010			暗青灰色粘質土	石器	擦石	7.9	7.2	4.7	374	デイサイト	
51-7	48	H6 141015			第4遺構面	石器	擦石	8.5	3.9	3.5	129	凝灰岩	偏布の理
51-8	48	H8 140929	281		第4遺構面	石製品	多角柱状 石棒	20.7	2.9	2.3	160	凝灰岩	破損か
51-9	48	H6 140910			黒灰色粘質土	石製品	くぼみ石	20.3	14.5	8.7	4340	安山岩	周縁部: 敲打痕 / 中央: 研磨によるくぼみ / 廃荷具未製品か
51-10	46	H8 141001	334		第4遺構面	石器	石皿	32.0	18.7	1.7	1636	砂岩	片面: 擦痕 / 落粉付着
61-7	62	141127	903	炭層り01	第5遺構面	石製品	磨石	6.7	7.1	3.3	228	砂岩	
61-8	62	141127	904	炭層り01	第5遺構面	石製品	縦刃鎌	(10.0)	5.3	2.2	110	凝灰岩	細かい縦筋 / 被熱・スス付着
61-9	62	141127	905	炭層り01	第5遺構面	石製品	有孔石質 品	7.7	7.3	2.2	130	安山岩	中央: 穿孔1ヶ所 / スス付着
61-16	63	141127	862	炭層り03	第5遺構面	石器	石斧	(7.6)	(3.2)	(3.1)	71	緑色片岩	
61-17	63	141127	867	炭層り03	第5遺構面	石器	敲石	(10.1)	(7.4)	6.5	664	デイサイト	敲打痕多
63-6	65	141120	783		暗黒灰色粘質土	石器	スクレーパー	(3.4)	(6.7)	0.6	21	ガラス質安山岩	
63-7	65	141120	772		暗黒灰色粘質土	石器	石斧	(9.7)	4.6	4.0	242	緑色片岩	基部・刃部: 欠損 / 敲打痕多
72-1	77	H8 141110			黒灰色粘質土	石器	スクレーパー	7.7	3.2	0.7	20	ガラス質安山岩	
72-2	77	G8 141104			黒灰色粘質土	石器	磨製石斧	(11.8)	4.8	2.3	176	泥質片岩	刃部: 欠損 / 研磨痕
72-3	77	G10 141121			暗黒灰色粘質土	石製品	縦刃鎌	(10.2)	9.2	2.3	243	凝灰岩	被熱変形・破壊
72-4	77	H7 141119			暗黒灰色粘質土	石器	磨製石斧	(7.2)	(5.3)	(2.5)	122	泥質片岩	

第5章 総 括

補聞 番号	閲覧 番号	グリッド 目付	Pno.	遺構名	出土層位	種別	器種	計測値				石材	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
72-5	77	F10 140918		丘～東側 排水溝	第5遺構面 黒色粘土	石器	石鏟	7.0	5.9	2.0	62	凝灰岩	切口石鏟
72-6	77	G7 141105			黒灰色粘土	石器	鍛石	10.7	8.4	4.7	561	安山岩	強・鍛打痕
72-7	77	H8 141110			黒灰色粘土	石器	擦石	(6.5)	(6.5)	(2.5)	97	凝灰岩	擦痕 / 鍛打痕 / 使用痕跡
72-8	77	H10 141015			暗青灰色粘質土	石器		(4.4)	(7.0)	(7.6)	296	安山岩	
72-9	77	H9 141020			黒灰色粘質土	石製品	磨石	(8.0)	(4.3)	(5.3)	214	安山岩	平行線 2 条全周縫割 / 配置跡か
72-10	77	F10 141021			黒灰色粘質土	石器	鍛石	(13.2)	(9.5)	(6.0)	934	安山岩	面・磨痕 / 周縫部・鍛打痕
73-1	78	H9 141112	石2	地床炉 107	第5遺構面	石製品	鍛打縫	8.0	4.4	3.0	89	凝灰岩	片面：深い直線1条・細い縫割
73-2	78	G7 141105			黒灰色粘質土	石製品	磨石	(6.0)	(5.0)	(2.3)	54	凝灰岩	擦痕
73-3	78	G9 141021			黒灰色粘質土	石器	鍛石	13.1	4.9	2.6	173	凝灰岩	
73-4	78	H7 141030			黒灰色粘質土	石製品	石棒	11.3	3.3	1.8	67	凝灰岩	鍛打痕 / 研磨板 / 肩端：被熱黒変
73-5	78	F9 141020			黒灰色粘質土	石製品	鍛打縫	12.0	6.9	2.1	174	凝灰岩	片面：わずかな縫割 / 斜面：打痕
73-6	77	H6 141024			黒灰色粘質土	石製品	多角柱状 石棒	19.8	4.9	4.2	576	凝灰岩	部分的：鍛打痕
73-7	78	G8 141117	665		第5遺構面	石製品	鍛打縫	6.5	5.3	2.9	77	凝灰岩	片面：むずかな縫割 / 被熱黒変
73-8	77	G10 141029	619		第5遺構面	石製品		8.0	9.0	7.9	586	安山岩	配熱目か
73-9	78	G9 141128			暗黒灰色粘質土	石製品	鍛打縫	5.6	3.3	1.3	18	凝灰岩	被熱黒変
73-10	78	G8 141104			黒灰色粘質土	石器	石鏟	(14.9)	(13.7)	(4.9)	781	ダイサイト	研磨版面著 / 鍛打痕
73-11	78	G6 141028	石23		第4遺構面	石器	石鏟	37.7	21.5	4.4	4020	凝灰岩	
78-1	84	G8 141121			暗黒灰色粘質土	石器	石鏟	2.6	1.8	0.3	1	ガラス質安山岩	
78-2	84	G9 141205			暗黒灰色粘質土	石器	磨製石斧	8.7	(6.3)	1.4	118	泥質片岩	刃部：欠損
78-3	84	G9 141205			暗黒灰色粘質土	石器	打製石斧	19.7	8.0	2.3	401	凝灰岩	片面：崩壊によるくぼみ
78-4	84	G7 141121			暗黒灰色粘質土	石器	打製石斧	(13.7)	7.4	1.8	243	波紋岩	基部：欠損
78-5	84	GS 140009	先史トレ ンチ		黒灰色粘質土	石器	磨製石斧	(9.7)	5.6	2.7	207	緑色片岩	木製品
78-6	84	G9 141205			暗黒灰色粘質土	石器	打製石斧	17.9	4.9	1.3	161	片岩	
78-7	84	H7 141203	973		第6遺構面	石器	磨製石斧	13.6	4.4	3.3	304	緑色片岩	刃部：使用痕 / 全面：鍛打痕
78-8	84	G7 141202	974		第6遺構面	石器	磨製石斧	11.6	3.9	2.7	186	泥質片岩	刃部：使用痕わずか
78-9	84	F5 141114			暗黒灰色粘質土	石器	石鏟	14.9	8.5	2.3	316	凝灰岩	使用痕跡著
79-1	85	H8 141202	972		第6遺構面	石器	擦石	10.7	8.8	5.2	774	ダイサイト	
79-2	85	H8 141202	967		第6遺構面	石製品	磨石	10.5	6.5	5.1	322	凝灰岩	片面：1ヶ所に使用痕集中
79-3	85	H8 141202	971		第6遺構面	石器	擦石	14.9	11.4	7.4	1785	ダイサイト	
79-4	84	F8 141121			暗黒灰色粘質土	石製品	くぼみ石	5.8	3.8	1.7	61	調査岩	全面：研磨面著
79-5	85	141127	石47		第6遺構面	石器	擦石	(14.1)	(10.5)	(7.2)	1222	安山岩	全面：研磨面著 / 片面：強・擦痕
79-6	85	141127	石46		第6遺構面	石器	石核	14.8	15.4	5.3	1250	ダイサイト	
79-7	84	H8 141126			暗黒灰色粘質土	石製品	磨石	7.1	5.5	2.1	79	凝灰岩	端部：被熱・スス付着
79-8	84	G7 141121			暗黒灰色粘質土	石製品	石製刀盤	6.3	知り	0.8	51	頁岩	
86-1	94	H10 141215	SX15			石器	石鏟	1.7	1.2	0.3	0.5	ガラス質安山岩	五角形石鏟

調査番号	回収番号	グリッド目付	Pno.	遺構名	出土層位	種別	器種	計測値				石材	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
86-2	94	I9 141222			暗オーリーブ粘質土	石器	打製石斧	9.3	2.2	1.1	25	ガラス質安山岩	
86-3	94	I9 141222			暗オーリーブ粘質土	石器	スクレーパー	9.4	5.1	1.4	107	デイサイト	
86-4	95	F9 150107	SK14	第7遺構面	石器	敲石	12.8	6.5	2.5	184	凝灰岩		
86-5	95	G9 141225			暗オーリーブ粘質土	石器	石錐	9.5	7.6	3.1	257	凝灰岩	
86-6	95	I8 141215			暗オーリーブ粘質土	石製品	石棒	14.9	5.1	4.3	550	泥質片岩	全面：細かい敲打痕
86-7	95	G9 141226 104			第7遺構面	石器	擦石	6.7	9.9	6.3	684	安山岩	
87-1	96	H7 141226			第7遺構面	石器	敲石	12.6	10.4	8.6	1397	デイサイト	敲打痕 / 研磨痕
87-2	96	H6 150115	1056		第7遺構面	石器	敲石	9.5	7.6	4.6	440	デイサイト	敲打痕
87-3	96	G8 141219			第7遺構面	石器	擦石	9.1	7.8	6.2	604	安山岩	敲打痕 / 研磨痕
87-4	96	G8 141226	75		第6遺構面	石器	石皿	14.4	21.2	15.2	6050	デイサイト	大型石皿使用後破片
87-5	96	G9 150105 108			第6遺構面	石製品	磨石	14.4	12.4	5.9	1114	デイサイト	半球状磨石を削った後被熱か
94-1	101	H8 150109			暗オーリーブ粘質土	石器	打製石斧	10.6	5.8	1.8	128	安山岩	小型品 / 刃部：欠損
94-2	101	G5 150121	1085	SK25	第8遺構面	石器	打製石斧	10.1	7.2	1.4	109	安山岩	小型品
94-3	101	I6 150108			青灰色粘質土	石器	打製石斧	9.4	5.9	2.3	134	安山岩	全面：鉄分付着 / 未製品の破損品
94-4	101	G10 150129	1283		第8遺構面	石器	打製石斧	12.6	5.4	2.1	188	流紋岩	刃部：欠損
94-5	101	I9 150129	1517		第8遺構面	石器	敲石	10.6	8.1	4.5	651	デイサイト	
94-6	101	G8 150128			青灰色粘質土	石製品	縦刻離	8.3	4.9	2.1	76	凝灰岩	片面：報削面
100-1	109	G11 140919			第7刷毛黒粘質土	石器	スクレーパー	5.6	4.1	1.1	22	ガラス質安山岩	
100-2	109	G10 150130	1558		第8遺構面	石製品	磨石	6.8	3.6	2.6	62	凝灰岩	
100-3	109	G9 150128	1132		第8遺構面	石器	磨製石斧	14.4	6.0	3.0	375	緑色片岩	使用痕顯著
100-4	109	G10 150129	1443		第8遺構面	石器	打製石斧	6.3	7.1	1.4	68	デイサイト	
100-5	109	G10 150129	1282		第8遺構面	石器	磨製石斧	14.8	4.7	3.9	405	磁基性片岩	敲打痕 / 刃部：使用による欠損
100-6	109	G10 150129	1486		第8遺構面	石器	磨製石斧	11.9	4.5	3.2	239	緑色片岩	刃部：欠損
100-7	109	G10 150129	1393		第8遺構面	石器	石錐	5.4	4.1	2.1	68	デイサイト	
100-8	109	G10 150129	1223		第8遺構面	石器	擦石	9.0	4.8	5.6	285	安山岩	研磨痕 / 被熱破片
100-9	109	G10 150129	1341		第8遺構面	石器	敲石	11.3	8.9	3.5	618	砂岩	敲打痕 / 擦痕
100-10	109	G10 150129	1239		第8遺構面	石製品	磨石	9.4	8.5	3.9	461	安山岩	帆彫刻か
100-11	109	G10 150129	1510		第8遺構面	石器	石皿	32.9	24.4	7.8	8460	流紋岩	部分的被熱黒変
107-1	120	150129	9ライン下層			石器	磨製石斧	10.7	5.7	4.3	389	磁基性片岩	敲打痕 / 刃部：欠損
107-2	120	150129	9ライン下層			石器	敲石	11.1	8.8	4.7	682	安山岩	敲打痕 / 研磨痕
107-3	120	1245	9ライントレンチ			石器	石核	11.4	14.2	8.4	1269	玉髓	
109-1	124	140905		北側排水路	石器	石錐	1.7	1.7	0.1	065	ガラス質安山岩	先端：欠損	
109-2	123	140909	5～8ライン間	北側排水路	石器	打製石斧	13.4	6.3	1.7	177	磁基性片岩	刃部：使用による彫刻	
109-3	123	140725		北側排水路	石器	磨製石斧	11.2	5.5	2.5	203	緑色片岩	未製品 / 破損品 / 片面：敲打痕集中	
109-4	123	140708	7ライントレンチ			石器	打製石斧	8.7	4.5	2.1	145	磁基性片岩	刃部：使用による欠損

挿図番号	図版番号	グリッド目付	Pno.	遺構名	出土層位	種別	器種	計測値				石材	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
109-5	123	140708		7ライントレンチ		石器	打製石斧	14.9	(7.2)	2.5	276	泥質片岩	刃部：欠損
109-6	123	G5 140910		西側排水溝	石器	打製石斧	14.9	6.8	3.7	394	流紋岩	未製品か	
109-7	123	141028		5～7ライン間	北側排水溝	石器	打製石斧	10.3	(5.6)	2.0	129	流紋岩	未製品の欠損品
109-8	124	G・H8 140917		9ライントレンチ		石器	石鏟	5.6	4.9	1.2	27	凝灰岩	
109-9	123	150128		9ライントレンチ		石製品	くぼみ石	11.4	8.6	6.0	591	安山岩	全体的に無熱赤・黒変・ヒビ割れ
109-10	123	G5 140910		西側排水溝	石器	擦石	8.6	7.5	4.6	307	安山岩		
109-11	123	140909			北側排水溝	石製品	線刃鏨	8.1	6.4	4.3	196	凝灰岩	片面：不定方向の直線彎削
110-1	123	140916		9ライントレンチ	第5遺構面	石製品	石棒	17.3	4.5	2.6	212	凝灰岩	鋸刃面／表面わずか
110-2	124	141028		F～Hライン間	西側排水溝	石製品	呪具	6.2	5.5	1.2	41	凝灰岩	端部：丸み付着

挿図番号	図版番号	グリッド目付	Pno.	遺構名・出土層位	種別	計測値			木取り	備考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
23-12	20	140710	65	SKO2	杭か	(28.7)	5.6	3.2	柵目	
28-1	27	140807	11	SKO1	木棺墓・部材	101.4	22.4	3.3	柵目	南側板
28-2	27	140821	22A	SKO1	木棺墓・杭	65.9	7.0	3.6	柵目	
28-3	27	140821	21	SKO1	木棺墓・杭	(62.4)	5.7	4.2	柵目	
28-4	28	140821	20	SKO1	木棺墓・杭	73.2	3.6	2.3	柵目	
28-5	28	140807	8	SKO1	木棺墓・杭	67.7	5.9	3.0	柵目	
28-6	29	140807	7	SKO1	木棺墓・杭	61.5	4.0	3.2	柵目	
28-7	29	140807	6	SKO1	木棺墓・杭	60.6	7.6	1.9	柵目	
29-1	27	140807	4	SKO1	木棺墓・部材	(29.6)	(8.7)	1.8	板目	蓋板
29-2	28	140807	12	SKO1	木棺墓・部材	45.0	23.0	1.8	柵目	西小口板
29-3	28	140814	13	SKO1	木棺墓・部材	49.3	26.6	2.6	柵目	東小口板
29-4	27	140807	14	SKO1	木棺墓・部材	104.1	25.2	2.8	柵目	北側板
30-1	29	140807	10	SKO1	木棺墓・杭	61.8	3.7	3.3	柵目	
30-2	29	140807	9	SKO1	木棺墓・杭	25.9	5.7	2.2	柵目	西小口内側中央杭／墓標
30-3	30	140703	19	SKO1	木棺墓・部材	51.8	25.5	2.5	柵目	底板
30-4	30	140814	18	SKO1	木棺墓・部材	43.5	27.4	2.3	板目	底板
30-5	29	140807	2	SKO1	木棺墓・棧	73.5	6.1	2.5	柵目	
31-1	29	140807	3	SKO1	木棺墓・棧	(79.9)	8.2	1.9	柵目	一部欠損
31-2	29	140807	1	SKO1	木棺墓・棧	44.3	8.4	2.6	柵目	
70-5	75	141216	S004	芯持材		43.2	8.7	4.5		両端：粗い切削痕
93-1	101	F5 150121	H01	第8遺構面	柱根	(25.5)	直径 15.6		芯持材	一部欠損
93-2	101	G5 150121	H02	第8遺構面	柱根	(16.8)	直径 (15.9)		芯持材	一部欠損

神岡 番号	Pno.	グリッド 番号	遺構名	出土 種別	縦幅	深幅	口径	最大 往	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
12-2 8		I-40702	SD01	褐色砂 礫層	陶文 土器	深鉢					(外) 船形側 突帯・ナデ (内) ナデ	白色小砂粒わず かに含む	良好	(外) 黒赤 2.5YR2/1 (内) 黑赤 2.5YR2/1	
12-3 8		I-40702	SD01	褐色砂 礫層	陶文 土器	深鉢					(外) 突帯・ナ デ (内) ナデ	白色小砂粒や少 多く含む	良好	(外) 單 10YR3/1 (内) 黑赤 2.5Y6/1	内面: 距分 付着
12-4 8		H8	SD01		陶文 土器	深鉢					(外) 刃口突帯 ・丁寧なナデ (内) 美痕・摩 擦	1 ~ 4mm白色砂 粒含む	良好	(外) 黑赤 2.5Y3/2 (内) にふい黄相 10YR6/3	
12-5 8		I-40627	SD01	陶文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 前曲げ・柔軟 (内) ナデ・柔 軟	1mm以下白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 單赤 5YR3/2 (内) 黑赤 2.5YR2/1	
12-6 8		I-40708	SD01	陶文 土器	深鉢						(外) 竹状突帯 突帯・ヨコ方 向ナデ (内) ヨコ方 向ナデ	白色小砂粒や少 多く含む	良好	(外) 黑赤 7.5YR4/2 (内) 黄褐 10YR4/2	外面: 被熱 黒変
12-7 8		H-17	SD01		陶文 土器	深鉢					(外) 美痕・削 目突帯・柔軟後 ナデ (内) ヨコ方 向柔軟後ナデ	1 ~ 4mm白色 砂粒多く含む	良好	(外) 黑赤 7.5YR6/2 (内) 黄褐 7.5YR5/2	外面: スス 付着
12-8 8		H-17	SD01		陶文 土器	深鉢	(16.6)	(16.8)			(外) 口縁端部 強烈移動・斜 刃口突帯・斜め 方向柔軟後ナデ (内) ナデ・柔 軟	1 ~ 2mm白色砂 粒含む	良好	(外) 黑 10YR4/6 (内) 黄褐 10YR6/2	
12-9 8		I-40702	SD01	褐色砂 礫層	陶文 土器	浅鉢	(23.8)				(外) ナデ・ヨ コ方向ミガキ (内) ヨコ方 向ミガキ	白色小砂粒含む	良好	(外) 黑白 10YR8/2 (内) 黑 2.5GY2/1	内面: 黒色 化處理
13-1 9		I-50702	SD01	褐色砂 礫層	陶生 土器	遺		(13.8)			(外) 有輪木葉 文・直線文4条 ・ヨコ方向ミガ キ (内) ナデ	白色小砂粒わず かに含む	良好	(外) 黑白 2.5Y8/2 (内) 黄灰 2.5Y5/1	
13-2 9		I-40704	SD01	褐色砂 礫層	陶生 土器	遺					(外) ミガキ後 直線文2回(2+1 箇)・山形文2 回 (内) 斜めミガ キ	白色小砂粒わず かに含む	良好	(外) にふい黄相 10YR6/3 (内) 黄灰 2.5Y7/2	
13-3 9		I-40722	SD01	陶生 土器	遺	鉢	(21.6)				(外) 直線文2 条間斜文・直 線文2条・ナデ (内) ナデ	白・湖色小砂粒 含む	良好	(外) 黑白 2.5Y8/1 (内) 黄灰 2.5Y8/3	
13-4 9	104	I-40807	SD01	陶生 土器	遺	遺					(外) ミガキ 直線文2回(2+1 箇)・間2枚有 輪羽状文・吹瓶 (内) 摩擦	1 ~ 3mm白色砂 粒多く含む	良好	(外) 黑白 7.5Y7/1 (内) 黑白 5Y8/1	大距離
13-5 9	61	H7	SD01	褐色砂 礫層	陶生 土器	底部			(10.0)		(外) 斜いナデ ・丁寧なナデ (内) ナデ	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	不良	(外) 稲 5YR7/6 (内) にふい黄相 10YR6/4	
13-6 9	28	I-40701	SD01	褐色砂 礫層	陶生 土器	遺	(22.8)	(21.6)			(外) ヨコナデ ・タテ方向ハケ 目 (内) ヨコナデ ・指屈直痕・ヨ コ方向ハケ目後 ナデ	2mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) にふい湖 7.5YR6/3 (内) にふい黄相 10YR7/4	粘土接合 部剥離/ 外面: スス 付着
13-7 9	26	I-40701	SD01	褐色砂 礫層	陶生 土器	遺	(20.0)	(18.0)			(外) ヨコナデ ・タテ方向ハケ 目・ハケ目全体 (内) ヨコナデ ・斜め方向ナデ	2mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) にふい黄相 10YR6/3 (内) 黑白 2.5YR8/2	外面: スス 付着

地図番号	国版番号	Pno.	グリッド 下位	遺構名	出土 部位	種別	器種	口径 (mm)	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
13-8	9	26	H・17 140704	SD01	褐色砂 質層	弥生 土器		(29.2)	(27.4)			(外)ヨコナデ ・側面圧縮・斜 め方向ハケ日 ・ハガ日原体段 (内)ヨコナデ ・ナデ・側面圧 縮	2mm白・灰・赤 色砂粒や多く含む	良好 (外) 淡橙 5YR8/4 (内) 橙 5YR7/8		
13-9	9		H・17 140704	SD01		弥生 土器		(27.0)	(25.0)			(外)ヨコナデ ・ハガ日原体段 ・ナデ方向ハケ 日 (内)ヨコナデ ・摩滅	2mm赤色砂粒や 少く含む	良好 (外) 橙 2.5YR6/6 (内) 橙 10YR8/2		
13-10	9		H・17 140701	SD01		弥生 土器		(27.0)				(外)横圓錐 削り・ヨコナデ (内)ヨコナデ	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 浅黄橙 10YR8/3 (内) 浅黄橙 10YR8/3		
15-2	14		140625	SX01		弥生 土器		(16.0)				(外)モ澤 (内)ミガキ・ 斜め方向ハケ日	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 明黄橙 10YR7/6 (内) 橙 7.5YR7/6	口縁部:ス タッピング	
15-3	14	29 ~ 31	140701	SX01		弥生 土器		(29.2)				(外)口縁部・有 輪 (内)ミガキ・ 摩滅	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 橙 2.5YR7/6 (内) 橙 5YR7/8		
15-4	14	30 ~ 34 ~ 36	140701	SX01		弥生 土器		(39.8)	(35.6)			(外)口縁端部 羽交文2条・沈 鏡2段(2-1条) 開網文2段・ ハガ日 (内)ヨコナデ ・ヘラケズリ	4mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄橙 10YR8/4 (内) 浅黄橙 10YR8/4		
15-5	14		140627	SX01		弥生 土器		(11.0)	(9.0)			(外)ヨコナデ ・タ方印ハケ 日 (内)ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 日	3mm白色砂粒多 く含む	良好 (外) 橙 2.5YR8/2 (内) 浅黄橙 10YR8/3	表面:被熱 黒変	
15-6	14	25	H9 140619 140625 140626	SX01	灰色粘 質土	弥生 土器	底部			7.7		(外)摩滅 (内)ナデ	赤色砂粒わざ か。5mm以下白 色砂粒非常に多 く含む	良好 (外) 明黄橙 10YR7/6 (内) ぶい赤胎 5YR7/4	外:内面:赤 被熱	
15-7	14	25	H9 140619	SX01	灰色粘 質土	弥生 土器	底部			(5.1)		(外)タ方印 ハガ日・粗いナ デ (内)ナデ	5mm白・白 色小砂粒多く 含む	良好 (外) 黑 10YR2/1 (内) ぶい赤胎 10YR7/3		
17-4	15		140627	SX02		弥生 土器		(21.0)				(外)摩滅・段 (内)摩滅	1 ~ 3mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 柿 10R6/8 (内) 柿 10R5/8		
17-5	15		G10 140630	SX02		弥生 土器		(21.6)				(外)摩滅・段 (内)摩滅	1 ~ 4mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 浅黄橙 10YR8/4 (内) 浅黄橙 10YR8/3		
17-6	15		G10 140630 140704	SX02		弥生 土器		15.2	14.2	18.8	6.5	(外)北端1条 ・ハガ日 (内)ヨコ方向 ハガ日・摩滅	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 柿 10R5/3 (内) 橙 5YR6/6		
17-7	15		G10 140630	SX02		弥生 土器		(15.6)	(13.4)			(外)ヨコナデ ・摩滅 (内)ヨコナデ ・摩滅	1 ~ 3mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 橙 5YR7/6 (内) 灰 2.5YR7/2	全面:被熱 赤黒変	
17-8	15		F・G10 140703	SX02		弥生 土器	底部			7.4		(外)モ澤 (内)モ澤	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 柿 10R5/4 (内) ぶい赤胎 10R6/4		
17-9	15		F・G10 140623	SX02		弥生 土器	底部			8.6		(外)モ澤 (内)モ澤	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 橙 5YR6/8 (内) 橙 5YR6/6		
17-10	15	48	F10 140703	SX02		弥生 土器	底部			(9.2)		(外)モ澤 (内)モ澤	2mm白色小砂粒 多く含む	良好 (外) 橙 5YR7/6 (内) 橙 5YR7/8		
17-11	15		F・G10 140627	SX02		弥生 土器	底部			7.5		(外)モ澤 (内)モ澤	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 淡赤柿 2.5YR7/4 (内) 橙 2.5YR6/8		
20-1	17		F8 140610		灰色粘 質土	縄文 深鉢						(外)口縁端部 削り突起・直腹 文2条 (内)モ澤	1mm白色小砂粒 多く含む	良好 (外) 明黄橙 10YR7/6 (内) 灰 10YR6/2		
20-2	17		G10 140620		灰色粘 質土	縄文 浅鉢						(外)口縁端部 削り突起・直腹 (内)モ澤	2mm白・灰色砂 粒含む	良好 (外) 周灰 7.5YR6/1 (内) 橙 7.5YR6/6	表面:被熱 黒変	

神岡 固版 番号	Pno.	グリッ ド日付	遺構名	出土 個位	種別	距離	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考	
20-3	17	HS I40616		灰色粘 質土	礫文 土器	深鉢					(外) 船付竹貫 状刺突突変・ナ デ (内) 細組後ナ デ	5mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) 黄褐色 10YR3/3 (内) 黑褐色 10YR4/4		
20-4	17	G10 I40620		灰色粘 質土	礫文 土器	深鉢					(外) ヨコ方向 茶削・竹貫状刺 突突変・条痕 (内) ヨコ方向 条痕	1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黄褐色 7.5YR4/3 (内) 黑褐色 7.5YR2/2	成形口縁 / 外面:スヌ 付着	
20-5	17	H9 I40617		灰色粘 質土	礫文 土器	深鉢					(外) ヨコ方向 茶削・竹貫状刺 突突変・条痕 (内) ヨコ方向 条痕	白色小砂粒含む	良好	(外) 黄褐色 7.5YR4/4 (内) 明褐色 7.5YR5/6		
20-6	17	F8 I40610		灰色粘 質土	礫文 土器	深鉢					(外) 無刷突變 ・ナデ (内) ヨコ方向 条痕	1mm以下白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 黄褐色 5YR5/2 (内) にごり黄褐色 3YR4/4		
20-7	17	G6 I40603		黃褐色 シルト 土器	礫文 土器	(28.4)	(27.6)				(外) 口縁部折 曲げ・2枚貝条 痕 (内) 斜め方向 条痕	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 浅黃褐色 2.5Y7/4 (内) にごり黄褐色 10YR5/3		
20-8	17	G10 I40620		灰色粘 質土	礫文 土器	壺		(19.4)			(外) 突沿・直 輪文2条 (内) 壓滅	白色小砂粒含む	良好	(外) 明褐色 10YR7/6 (内) 明褐色 2.5Y3/2		
20-9	17	H8 I40613		灰色粘 質土	陶 土器			(28.2)			(外) ヨコ・斜 め方向ハケ日焼 ・ナデ (内) 口縁部折 曲げ・ナデ	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 深褐色 5YR8/4 (内) 粗 5YR6/8	口縁部:褐 黒	
20-10	16	24	G9 I40619	灰色粘 質土	陶 土器			(32.4)			(外) ヨコ方向 ミガキ・直輪文 1条 (内) 壓滅	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 明褐色 10YR7/6 (内) 明褐色 10YR7/6		
20-11	16	G8 I40624		暗灰黃 色土	陶 土器				7.7		(外) ヨコ方向 ハケ日 ハケ日 (内) 壓滅	1~4mm白・赤 色砂粒多く含む	良好	(外) 褐 7.5YR7/6 (内) 黃褐 7.5YR8/8		
23-1	19	H6 I40709	SK02		礫文 土器	深鉢					(外) 口縁部折 曲目・端部削目 突沿・ナデ (内) ナデ	1mm以下白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 黄褐色 5YR5/2 (内) 黄褐色 5YR5/2	朝向: 距離 状	
23-2	19	H6 I40709	SK02		礫文 土器	深鉢					(外) 口縁部折 曲目・端部削目 突沿・ナデ (内) ナデ	1mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 黄褐色 7.5YR5/2 (内) 黑褐色 2.5Y3/1		
23-3	19	H6 I40709	SK02		礫文 土器	深鉢					(外) 無刷突變 ・磨滅 (内) 壓滅	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) 黄褐色 7.5YR5/1 (内) 黄褐色 7.5YR5/1		
23-4	19	67	H6 I40710	陶生 土器	礫文 土器	壺		9.1			(外) 壓滅・段 (内) 壓滅	3mm以下砂粒合 む	良好	(外) 白 10YR8/1 (内) 黑 10YR2/1		
23-5	19	H6 I40709	SK02	青灰色 砂岩	陶生 土器						(外) ナデ・ハ ク指き縫隙 (内) ナデ・壓 滅	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 黄褐色 7.5YR4/4 (内) にごり黄褐色 7.5YR4/3	外面: 褶 縫隙 細かい	
23-6	19	69	H6 I40710	陶生 土器	陶生 土器	底部					(外) ヨコ方向 ミガキ・ナデ (内) 壓滅	1~5mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好	(外) 明褐色 10YR7/6 (内) 明褐色 5YR5/2	内部:被熱 黒度	
23-7	19	68	H6 I40710	SK02	陶生 土器	陶 土器		(10.1)	9.4	11.0	6.2	(外) ヨコナデ ・タテ方向ハケ 目 (内) ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 目・胎頂压縮	1~3mm白・赤 色砂粒多く含む	良好	(外) 褐 2.5YR7/6 (内) 褐 2.5YR7/6	外面:被熱 黒度・久 久付着
23-8	20	74	H6 I40709 I40710	SK02	陶生 土器	陶 土器		(15.8)	(14.4)		(外) ヨコナデ ・タテ方向ハケ 目 (内) ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 目	4mm以下砂粒含 む	良好	(外) 赤褐色 10YR4/4 (内) にごり橙 7.5YR6/4		
23-9	20	72	H2 I40709 I40710	SK02	陶生 土器	陶 土器			18.4		6.8	(外) ヨコ方向 ハケ目・ナデ (内) 壓滅	4mm以下砂粒含 む	良好	(外) 浅褐色 10YR8/4 (内) 浅黃褐色 7.5YR8/4	外面:炭化 物付着

辨別 番号	出版 番号	Pno.	グリット 下限	遺構名	出土 部位	種別	器種	口径	最大 径	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
23-10		H6 140709	SK02	弥生 土器	底部				9.3	(外)ナデ・底 面火調節 (内)ナデ	4mm以下砂粒含 む	良好	(外)にぶい橙 7.5YR7/4 (内)にぶい褐 7.5YR6/3	外面:黒斑 /前面:スス 付着	
23-11	19	70	H6 140710	SK02	弥生 土器	底部			10.0	(外)ナデ (内)ナデ・磨 滅	3mm以下砂粒含 む	良好	(外)にぶい黄褐 10YR5/3 (内)褐色 7.5YR5/1	外面:スス 付着	
32-1	30	H8	SK01 H	SK01 縄文 土器	深鉢					(外)1)縁頭部 矧目・端部矧目 突起・タテ方向 ナデ (内)ヨコ方向 ナデ	2mm以下砂粒含 む	良好	(外)黒口 10YR3/1 (内)黒 2.5Y2/1		
32-2	30	H8 140818	SK01 G	縄文 土器	深鉢					(外)無刻実得 ・ヨコ方向ナデ (内)ヨコ方向 ナデ	2mm以上砂粒含 む	良好	(外)灰白 2.5Y8/2 (内)黒 2.5Y2/1	2.兼実得	
35-1	33	49	H7 140702	褐色砂 礫層	弥生 土器	蓋	(13.8)	5.4		(外)ナデ・削 減 (内)ナデ	1 ~ 2mm白・輕 色砂粒非常に多 く含む	良好	(外)橙 5YR7/8 (内)橙 5YR7/8	下方:剥落 穿孔2ヶ所	
35-2	33	H6 140728	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋					(外)ミガキ・ ヘラ引き継 (内)ナデ	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外)赤口 2.5YR4/1 (内)にぶい橙 5YR6/3	外面:擦刷 輪打か	
35-3	33	H5 140728	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋					(外)ナデ・ミ ガキ・ヘラ引き 継 (内)ヨコナデ	2mm白色砂粒少 なく多く含む	良好	(外)灰褐色 10YR8/2 (内)にぶい褐 10YR6/3	外面:擦刷 輪打か	
35-4	33	H9 140728	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋					(外)ミガキ・ ヘラ引き継 (内)ヨコ方向 ハケ目	1mm白色砂粒含 む	良好	(外)にぶい黄褐 10YR6/3 (内)灰褐色 10YR4/2	外面:洗刷 状連弧文	
35-5	33	F9 140808	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋					(外)點付無刻 突起2条・ナデ (内)ナデ	白色小砂粒罕少 多く含む	良好	(外)橙 5YR7/8 (内)橙 5YR6/5	2.兼実得	
35-6	33	H10 140729	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋	(18.6)				(外)ヨコナデ ・船付無刻実得 (内)ヨコ方向 ミガキ・ナデ	白色小砂粒非常 に多く含む	良好	(外)浅黄褐 7.5YR8/4 (内)灰黄 2.5YR6/2		
35-7	33	G11 140630	SD02	褐色砂 礫層	弥生 土器	蓋	(20.9)	(19.8)		(外)摩滅 (内)摩滅	1 ~ 2mm白色砂 粒多く含む	良好	(外)暗赤口 5YR5/6 (内)橙 2.5YR6/6		
35-8	34	140725	SD02	弥生 土器	蓋	(21.6)	(21.6)			(外)ヨコナデ ・タテ方向ハケ 目 (内)ヨコナデ ・斜め方向ハケ 目	1 ~ 2mm灰色砂 粒含む	良好	(外)にぶい黄褐 10YR5/3 (内)にぶい黄褐 10YR7/3		
35-9	33	F10 140630	褐色砂 礫層	弥生 土器	蓋	(21.0)	(26.0)			(外)ヨコナデ ・斜め方向ハケ 目 (内)ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 目	白色小砂粒含む	良好	(外)にぶい橙 5YR6/4 (内)橙 5YR6/8 + 褐 灰 10YR4/1		
35-10	34	140725	SD02	弥生 土器	蓋	(31.8)	(30.2)			(外)ヨコナデ ・前方方向ハケ 目 (内)ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 目・ナデ	1 ~ 2mm灰色砂 粒わずかに含む	良好	(外)灰白 2.5Y8/1 (内)灰白 2.5Y8/2		
35-11	35	H・B 140801	暗灰黃 色土	弥生 土器	蓋	(33.2)	(31.4)			(外)ヨコナデ ・摩滅 (内)ヨコナデ ・摩滅	2mm白色砂粒非 常に多く含む	良好	(外)灰白 2.5GY8/1 (内)明オリーブ灰 5GY7/1	面部外側 被黒変	
35-12	34	140725	SD02	弥生 土器	底部				(9.2)	(外)タテ方向 ハケ目・ナデ (内)ヨコ方向 ハケ目	白・灰色砂粒含 む	良好	(外)橙 7.5YR7/6 (内)橙 7.5YR6/6		
35-13	34	83	H6 140714		弥生 土器	底部			(10.8)	(外)タテ方向 ハケ目・ナデ (内)ナデ	白色小砂粒含む	良好	(外)灰白 2.5Y8/2 (内)黒褐 2.5Y3/2		
35-14	34	G9 140805	暗灰黃 色土	弥生 土器	底部				(13.0)	(外)タテ方向 ハケ目・ナデ (内)摩滅	2mm以下白・黒・ 赤色砂粒少 多く含む	良好	(外)橙 5YR6/6 (内)にぶい赤褐 2.5YR4/3		
35-15	34	85	G8 140714	第2迴 構造	弥生 土器	底部			(8.6)	(外)タテ方向 ハケ目・ナデ (内)ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)にぶい橙 7.5YR7/4 (内)灰褐色 10YR5/2		

碑固 番号	図版 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 部位	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
35-16	34	G6 140804		青灰色 砂留	佛生 土器	底部			(8.6)			(外) タテ方向 ハケ目 (内) ミコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y6/1 (内) 淡黄 2.5Y8/3	
35-17	34	I9 140728		暗灰黄 色土	佛生 土器	底部			4.6			(外) ナデ・ヘ ラケズリ (内) ナデ	1mm以下白色小 砂粒含む	良好	(外) 黄褐 7.5Y7/8 (内) ふい黄橙 10YR8/3	
36-1	34	I40724 SD02		甕文 土器	跡	(24.0)						(外) ミコ方向 ミガキ (内) 斜め方向 ミガキ・磨滅	白色小砂粒多く 含む	良好	(外) ふい體 5YR6/4 (内) 黄灰 10YR4/1	
36-2	34	G6 140803		暗灰黄 色粘質 土	甕文 土器	深鉢	(22.2)					(外) 口縁端部 引口・柔脛 (内) ミコ方向 柔脛	白・赤色小砂粒 多く含む	良好	(外) ふい黄橙 10YR7/3 (内) ふい黄橙 10YR7/3	
36-3	34	I8 140717		暗灰黄 色土	甕文 土器	深鉢	(27.8)					(外) ミコ方向 柔脛・朝日安帶 (内) ミコ方向 柔脛	2~3mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好	(外) 黒灰 10YR5/1 (内) 黄灰 10YR5/1	
36-4	34	H・I9 140821		地床炉	11	甕文 土器	深鉢					(外) 口縁端部 朝日安帶・ナデ (内) ミコ方向 柔脛	1~2mm白色 透明砂粒や少 く含む	良好	(外) 黄褐 10YR8/3 (内) 黒 5Y2/1	
36-5	35	I9 140725 140728		暗灰黄 色土	甕文 土器	深鉢	(35.6)	(35.6)				(外) 口縁端部 貼付側口安帶・ 柔脛 (内) ナデ・施 道口痕・柔脛	2~3mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 灰白 10YR8/1 (内) 黄灰 10YR4/1	
36-6	35	H・I8 140804		暗灰黄 色土	甕文 土器	浅鉢						(外) 柔脛後ナ デ (内) ミガキ・ 沈線 2 条	白色・透明小砂 粒や多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/1 (内) ふい黄橙 10YR4/3	
36-7	35	H8 140717		暗灰黄 色土	甕文 土器	浅鉢						(外) ナデ・柔 脛・摩滅 (内) ミガキ・ 沈線 3 条	透明小砂粒わす かに含む	良好	(外) ふい黃褐 10YR5/3 (内) 黒 5Y2/1	内面: 黒色 釉面
36-8	35	H・I8 140804		暗灰黄 色土	甕文 土器	浅鉢						(外) ミガキ (内) ミガキ・ 沈線 2 条	白色小砂粒多く 含む	良好	(外) 黒灰 7.5YR4/1 (内) 黄灰 7.5YR4/1	方形浅鉢
36-9	35	G5 140804		青灰色 砂留	甕文 土器	浅鉢						(外) ミコ方向 ミガキ・ヘラ描 き綴附 (内) ミガキ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) ふい黒 7.5YB5/4 (内) 黄灰 2.5Y7/2	外面: 脈列 輪廻か
36-10	35	I8 140701		暗灰黄 色土	甕文 土器	浅鉢	(19.0)					(外) ミコ・斜 め方向ミガキ (内) 斜め方向 ミガキ	白色小砂粒や少 く含む	良好	(外) 黒灰 10YR5/1 (内) 黑褐 10YR3/1	
36-11	35	I8 140717		暗灰黄 色土	甕文 土器	浅鉢	(27.6)					(外) ナデ・斜 め方向ミガキ (内) ナデ・ミ コ方向ミガキ	白色小砂粒・金 雲母含む	良好	(外) 黑灰 10YR5/1 (内) 黄灰褐 10YR6/2	
36-12	35	I40725 SD02		甕文 土器	浅鉢	(26.0)	(27.6)					(外) ナデ (内) ミコ方向 ミガキ	白・赤色小砂粒 わずかに含む	良好	(外) 灰白 10YR8/2 (内) 浅黄褐 10YR8/2	大きく歪 む
37-1	35	I9 140725		暗灰黄 色土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 貼付側口安帶・ ミコ方向器具柔 脛 (内) ミコ方向 器具柔脛	白色小砂粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/2 (内) 黄灰褐 10YR5/2	
37-2	35	H5 140728		暗灰褐 色土	甕文 土器	深鉢						(外) 摩滅 (内) 摩滅	1mm白色小砂粒 少々多く含む	良好	(外) ふい黄橙 10YR8/4 (内) 带赤褐 2.5YR3/2	
37-3	35	F・G9 140818		青灰色 砂留	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 貼付側口安帶・ ミガキ・ヘラ描 き綴附 (内) ミコ方向 柔脛	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) ふい赤褐 5YR4/4 (内) 明褐 7.5YR5/6	外面: 脈列 輪廻か
37-4	35	I40724 SD02		甕文 土器	深鉢							(外) ナデ・口 縁端部貼付側口 安帶 (内) ナデ	白色微砂粒含む	良好	(外) 黒 5Y2/1 (内) オリーブ黒 7.5Y3/1	

井戸番号	開拓番号	Pno.	グリット 下目付	透構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
37-5	35	B8 140717		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 削り突帯・素面 (内) ナコ方向 ナコ・条痕	1 ~ 2mm灰色砂 粒含む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR5/4 (内) 黒褐色 7.5YR4/1		
37-6	35	G8 140715		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢	(20.6)	(20.6)				(外) 口縁端部 削り突帯・素面 (内) ナコ方向 ナコ・条痕	1 ~ 2mm白色砂 粒含む	良好 (外) 明赤褐色 5YR3/3 (内) 黑褐色 5YR3/1		
37-7	35	H6 140627		暗灰黄色 土	繩文 土器	浅鉢	(20.2)	(18.0)				(外) ナコ・丁 字状・美張・粗 条痕 (内) ナコ・斜 めの凹面条痕	1mm白色砂粒非 常に多く含む	良好 (外) に赤い黄褐色 7.5YR5/3 (内) 茶褐色 10YR8/3		
37-8	35	H7 140704		暗黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) 丁字ナコ 丁字・口縁端部削 り突帯・斜め方 向ナコ (内) ナコ・ヨ ココ方向条痕	1 ~ 5mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR6/3 (内) 灰白色 10YR8/2		外面:被熱 黒度
37-9	35	F9 140806		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) ナコ・丁 字・口縁端部削 り突帯・ヘラ描き線刻 ・ミガキ (内) ヨコ方向 条痕	1mm白色小砂粒 多く含む	良好 (外) 灰褐色 10YR4/2 (内) 灰褐色 10YR5/2	輪廻か	
37-10	35	F9 140804		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) ナコ・削 り突帯 (内) ナコ	白・灰色小砂粒 砂多く含む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR5/4 (内) 黑褐色 7.5YR4/1		外面:スス 付着
37-11	35 120	G10 140819		地床剥 ¹²³	繩文 土器	深鉢						(外) ナコ・口 縁端部削り突 帯 (内) ナコ	白色小砂粒含む	良好 (外) 暗赤褐色 5YR3/2 (内) に赤い赤褐色 5YR5/3		
37-12	35	H8 140711		地床剥 ⁷	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 削り突帯・ナコ (内) ヨコ方向 条痕	灰色小砂粒含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 灰黄 2.5Y7/2		外面:被 熱黒度
37-13	36	H8 140717		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 削り突帯・削 り突帯・ナコ (内) ヨコ方向 ナコ・条痕	透明小砂粒含む	良好 (外) 灰褐色 10YR4/2 (内) 黑 2.5Y2/1		
37-14	36	H8 140717		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 削り・端部削付 削り突帯・ナコ (内) ナコ・ヨ コ方向条痕	白色小砂粒含む	良好 (外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 黑褐色 2.5Y3/1		外面:スス 付着
37-15	36	H8 140711		暗灰黄色 土	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 削り・端部削付 削り突帯・ナコ (内) ナコ	白色小砂粒多く 含む	良好 (外) に赤い赤褐色 5YR5/3 (内) 黑 5YR7/1		
37-16	36 127	H9 140821		第2道 構面	繩文 土器	深鉢	(43.6)					(外) 口縁端部 沈縫2条・朝日 ・沈縫1条・ナ コ (内) ヨコ方向 ミガキ・ナコ	白色小砂粒・金 雲多く含む	良好 (外) に赤い黄褐色 7.5YR5/3 (内) 灰褐色 10YR4/2		
37-17	36	H9 140801		暗灰黄色 土	繩文 土器	浅鉢						(外) 口縁端部 直腹文2条・削 り突帯・直腹文 2条 (内) ナコ	白色小砂粒多く 含む	良好 (外) 黑 7.5YR2/1 (内) 黑褐色 7.5YR3/1		
37-18	36 86	H9 140731		繩文 土器	深鉢	(23.2)	(28.0)					(外) 口縁端部 直腹文2条(3 名)・削り突帯 (内) ナコ	2mm以下白色小 砂粒含む	良好 (外) 淡黄褐色 10YR8/3 2条突帯 (内) 褐灰 10YR5/1		
37-19	36	H6 140804		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢						(外) 直腹文・ 直腹文2条(3 名)・削り突帯 (内) ナコ	1mm白色砂粒非 常に多く含む	良好 (外) 明赤褐色 5YR5/8 (内) に赤い黄褐色 10YR7/2	突起文脈 の基盤的 な深鉢か	

神岡 固版 番号	Pno.	グリッ ド日付	遺構名	出土 個体	種別	深部	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
38-1 36	H9 140725		暗灰 色粘質 土器	縄文 土器	深鉢						(外)ナデ・口 縁端部下削り突 帶・条痕 (内)ナデ・条 痕	1~3mm白色砂 粒含む	良好 (外)にぶい黄橙 10YR7/4 (内)にぶい黄橙 10YR7/2	2条突帯 か	
38-2 36	96 140801	地床炉 13	縄文 土器	深鉢							(外)口縁端部 下削り突り突 帶・ヨコ方向ナデ (内)ナデ・ヨ コ方向	1mm以下透明小 砂粒多く含む	良好 (外)にぶい黄橙 10YR4/3 (内)黒 10YR2/1	外面: 久又 付着	
38-3 36	18 140717	暗灰 色土	縄文 土器	深鉢	(24.2)	(23.6)					(外)口縁端部 下削り突り突 帶・ヨコ方向条痕 (内)ナデ・ヨ コ方向条痕	1~5mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y7/2 (内) 黄灰 2.5Y5/1		
38-4 36	H7 140729	暗灰 色土	縄文 土器	深鉢							(外)ナデ・口 縁端部下削り突 帶・直線文 2 条 (内)ナデ・ヨ コ方向条痕	1mm白色砂粒含 む	良好 (外) 黄灰 10YR4/1 (内) 黄灰 10YR5/1		
38-5 36	18 140717	暗灰 色土	縄文 土器	深鉢							(外)口縁端部 下削り突り突 帶・ヨコ方向条痕 (内)ナデ	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外) 黄灰 10YR8/1 (内) 黄灰 10YR5/1		
38-6 36	HB 140708	地床炉 7	縄文 土器	深鉢							(外)ナデ・施 付削り突帶・条 痕 (内)ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外)にぶい體 7.5YR6/4 (内)にぶい褐 7.5YR5/3		
38-7 36	H7 140729	暗灰 色土	縄文 土器	深鉢							(外)ミガキ・ 直線文 1 条 (内)ヨコ方向 ナデ	1mm白色砂粒多 く含む	良好 (外) 明灰 7.5YR5/6 (内) 黃灰 10YR4/1		
41-5 38	161 ~ 163 ~ 276	140827 140925 01	土器組り	縄文 土器	深鉢	(28.9)	(30.0)				(外)口縁端部 下削り突日突 段 2段・条痕・施 付削り突帶 (内)条痕	2mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好 (外) 黃 7.5YR7/6 (内) 淡黃橙 10YR8/3	2条突帯 か	
44-1 41	99 140805	SX04	弥生 底部								(外)ナデ方向 ハケ目・ナデ (内) 施漬	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外)にぶい體 7.5YR7/4 (内) 黄灰 2.5Y6/1		
44-2 41	H6 140811	青灰色 砂粗	弥生 底部								(外)ナデ・摩 滅 (内)ナデ・摩 滅	白・赤砂粒少 なく含む	良好 (外)にぶい體 SYR7/4 (内)灰白 10YR8/2		
44-3 41	H5 140811	青灰色 砂粗	縄文 土器	深鉢	(38.4)						(外)ヨコ方向 ナデ・条痕 (内)丁寧なナ ギ	1~2mm白色砂 粒多く含む	良好 (外)にぶい體 7.5YR5/3 (内) 黃灰 7.5YR3/2	外面: スス 付着	
44-4 41	F-G7 140821	青灰色 砂粗	縄文 土器	壺	(21.0)						(外)ヨコ方向 ナデ・施漬 (内)ヨコ方向 ナデ・施漬	1mm白色小砂粒 非常に多く含む	良好 (外) 明灰 7.5YR7/2 (内) 粉 7.5YR7/6	舟形陶壺 最終末の 可能性	
44-5 41	G6 140901		暗褐色 粘土	縄文 土器	浅鉢	(20.8)					(外)斜めヨコ ミガキ・摩滅 (内)ヨコ方向 ミガキ・摩滅	1mm以下白色小 砂粒含む	良好 (外) 黑褐 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1		
44-6 41	I9 140828		青灰色 砂粗	縄文 土器	浅鉢	(21.8)					(外)斜いヨコ ミガキ (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm白色・方々 又白砂粒含む	良好 (外) 黄灰 10YR5/1 (内) 黃灰 10YR5/1		
44-7 41	160 140827		明灰色 粘土	縄文 土器	浅鉢	(35.9)					(外)ヨコ方向 ミガキ (内)口縁端部 沈漫 2 条・摩滅	1~2mm白色小 砂粒やや多く含 む	良好 (外) 暗灰黄 2.5Y5/2 (内) 灰白 2.5Y7/1		
44-8 41	G6 140811		青灰色 砂粗	縄文 土器	浅鉢	(35.6)					(外)ヨコ方向 条痕 (内)条痕後ナ ギ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外)にぶい赤褐 3YR4/4 (内)にぶい赤褐 3YR5/3	外側面: 被 熱黒変	
44-9 41	H6 140903		暗褐色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(30.4)	(28.4)				(外)ナデ・条 痕 (内)ナデ・条 痕	1~4mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好 (外) 淡黃橙 7.5YR8/4 (内) 黃灰 5YR4/1	口縁部: 久 又付着	
44-10 41	G7 140822		青灰色 砂粗	縄文 土器	浅鉢						(外) 施漬 (内) 施漬	白色・透明小砂 粒含む	良好 (外) 黄 7.5YR4/3 (内) 黑褐 7.5YR3/2		

地図番号	国版番号	Pno.	グリッド上付	遺構名	出土位置	種別	器種	口径	最大径	高さ	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
44-11	41	G10 140825		明灰色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 直角文 3 条・竹 管状模様付口突 ・鋸歯正縫 (内) ナギ	透明微砂粒多く 含む	良好 (外) 黒褐 10YR3/4 (内) 黒褐 5YR3/1	中山B			
44-12	41	H9 140828		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 繩目直角文 2 条・ 縫合部下側口 突帯 (内) ナギ	1 ~ 3mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 黒褐 10YR3/2 (内) 黑褐 10YR3/3	中山B			
44-13	41	H9 140828		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 直角文 7 条 (内) ナギ	1 ~ 3mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 明黄褐 10YR8/6 (内) 黑褐 10YR3/3	中山B			
44-14	41	F10 140825		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) ナギ・縫 目ナギ	1 ~ 2mm白色砂 粒含む	良好 (外) 黑褐 10YR3/2 (内) 灰白 10YR8/2				
44-15	41	H9 140829	地床印 ⁴² 第3道	埴曲	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) ナギ	白色小砂粒や少 多く含む	良好 (外) にぶい黄 2.5Y6/3 (内) 黄灰 2.5Y5/1				
44-16	41	F-G8 140821		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) 3方向 条縫後ナギ	1 ~ 2mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 黑 7.5YR2/1 (内) 喀灰 7.5YR5/1				
44-17	41	H8 140902		明褐色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) 条縫	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 灰白 5YR8/2・灰 3Y5/1 (内) 灰白 5YR8/2・灰 3Y5/1				
44-18	41	H7 140818		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) ナギ	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR5/3 (内) にぶい黄褐 10YR5/3	外縁:スヌ 付着			
44-19	41	H8 140818		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) ナギ・口 縁端部貼付口 突帯・ 条縫 (内) ナギ・縫 目	1 ~ 2mm白色砂 粒含む	良好 (外) 黑 7.5YR4/3 (内) 黑 7.5YR2/1				
45-1	42	H9 140829		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ ナギ (内) ナギ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y7/2 (内) 灰 5Y4/1				
45-2	42	H8 140812	地床印 ¹⁷	繩文 土器	深鉢					(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) ヨコ方向ミガニ	1 ~ 5mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 5YR2/1				
45-3	42	H8 140819		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) ナギ・口 縁端部下貼付口 突帯 (内) ナギ	1mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 黄 2.5Y4/1 (内) 黑褐 2.5Y3/1				
45-4	42	F8 140826	地床印 ³³	繩文 土器	深鉢					(外) ナギ・口 縁端部下貼付口 突帯 (内) ナギ・ヨ コ方向条縫	白色小砂粒含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y7/2 (内) 灰黄 2.5Y6/2				
45-5	42	H6 140829		明褐色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ 条縫 (内) 条縫	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 灰白 2.5Y8/2 (内) 黄灰 2.5Y5/1				
45-6	42	H8 140822		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) ナギ・口 縁端部貼付口 突帯 (内) 条縫後ナ ギ	2mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR4/2 (内) 黑褐 10YR3/1				
45-7	42	H8 140905		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁端部 貼付口突帯・ ナギ (内) ナギ・削 減	3mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好 (外) にぶい黄 10YR7/4 (内) にぶい黄 10YR7/4				

神岡 番号	固版 番号	Pno.	グリッ ド日付	遺構名	出土 層位	種別	深さ	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
45-8	42	H6 140829		暗褐色 粘土	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・条 幅(内) 条幅後ナ ギ	1mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 淡黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR3/2	
45-9	42	H5 140811		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 端部下貼付別口 突堤・条幅 (内) 条幅	2mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) 浅黄褐 7.5YR8/4 (内) 棕 7.5YR7/6	
45-10	42	186 140903		暗褐色 粘土	礫文 土器	深鉢						(外) ナデ・口 縁面部下貼付別 口突堤・条幅 (内) 条幅後ナ ギ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 浅黄褐 10YR8/3 (内) 淡黄褐 10YR7/2	
45-11	42	G6 140901		暗褐色 粘土	礫文 土器	深鉢						(外) ナデ・口 縁面部下貼付別 口突堤・条幅 (内) ナデ・条 幅	1mm白色小砂粒 含む	良好	(外) 淡黄褐 7.5YR5/3 (内) 淡黄褐 10YR3/3	
45-12	42	141 140821	地床炉 11	礫文 土器	深鉢							(外) 口縁面部 端部別口突堤・ ナデ (内) ナデ・ヨ コ方向条幅	白色小砂粒多 く含む	良好	(外) 黑褐 5YR2/2 (内) 明赤褐 5YR5/6	外面突堤 付着
45-13	42	H10 140827		明灰色 粘土	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 朝日突堤・条幅 (内) ナデ	白色・透明小砂 粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/2 (内) 淡黄褐 10YR5/4	
45-14	42	224 140910	SX10	礫文 土器	深鉢							(外) 口縁面部 端部別口突堤 (内) ヨコ方向 条幅	3mm白色砂粒・ 金芸多く含む	良好	(外) 淡黄 10YR7/1 (内) 淡黄褐 10YR7/4	外面・スス 付着
45-15	42	175 140829		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) ナデ・口 縁面部別口突堤 ・ヨコ方向条幅 (内) ナデ・ヨ コ方向条幅・摩 擦	2mm以下白・黒 色砂粒含む	良好	(外) 黄褐 7.5YR5/1 (内) 黑白 7.5YR8/2	
45-16	42	G6 140828		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 朝日突堤・ナデ (内) 丁寧なナ ギ	白色小砂粒多く 含む	良好	(外) 暗赤褐 5YR3/3 (内) 黑褐 5YR4/6	
45-17	42	G6 140807		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 下貼付別口突堤・ 磨滅 (内) 条幅	2mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 淡黄褐 7.5YR7/4 (内) 淡黄褐 7.5YR7/4	
46-1	42	337 141001	第5道 横面	礫文 土器	深鉢							(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・条 幅 (内) 条幅後ナ ギ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 淡黄褐 10YR6/2 (内) 灰褐色 10YR6/2	
46-2	42	366 141010	第3道 横面	礫文 土器	深鉢	(24.4)						(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・ナ ギ (内) ナデ・条 幅	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 淡黄褐 10YR4/3 (内) 淡黄褐 10YR6/3	
46-3	43	H8 140819		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・条 幅後ナギ	1mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) 淡黄褐 10YR6/3 (内) 淡黄褐 10YR7/3	
46-4	43	18 140901		青灰色 砂層	礫文 土器	深鉢						(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・ナ ギ (内) ナデ・条 幅	灰褐色小砂粒や少 多く含む	良好	(外) 黑褐 5YR2/1 10YR4/3 (内) 黑褐 5YR2/1	
46-5	43	H6 140829		暗褐色 粘土	礫文 土器	深鉢	(26.2)					(外) 口縁面部 朝日・端部下貼 付別口突堤・ナ ギ (内) ナデ・条 幅	白色小砂粒や少 多く含む	良好	(外) 淡黄褐 10YR6/4 (内) 黄灰 2.5Y5/1	外面・スス 付着

地図番号	国版番号	Pno.	グリッド下付	遺構名	出土位置	種別	器種	口径	最大径	高さ	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
46-6	43	H6 140829		暗褐色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁部 削り・端部削 付削り突起・ナ ギ (内) ナギ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y7/2 (内) 黄灰 2.5Y6/1				
46-7	43	G6 140811		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) タデ・口 縁部削り・斜 め方向条痕 (内) ヨコ方向 条痕	1 ~ 4mm白色砂 粒含む	良好 (外) にぶい赤褐 5YR4/3 (内) 褐 5YR6/6				
46-8	43	H6 140901		暗褐色 粘土	繩文 土器	浅鉢 (27.0)				(外) 口縁部削 り・端部削り・ヨ コ方向条痕・タ ケ付沈線 2 条 (内) ヨコ方向 条痕	白色砂粒含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR5/3 (内) 黑褐 10YR3/1		中山Bの 影響		
46-9	43	H8 140819		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) タデ・口 縁部削り・条 痕 (内) ナギ・条 痕	1 ~ 5mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 黄褐 7.5YR4/2 (内) 黑褐 5YR2/1				
46-10	43	F7 140822		青灰色 砂層	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁部削 り・端部削り・条 痕 (内) ナギ	1mm以下白色砂 粒含む	良好 (外) 褐 2.5YR7/6 (内) 喻赤褐 10R3/1		外面: 暗黒 黒変		
46-11	43	I7 140905	地床炉 52	第3造 構面	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁部削 り・端部削り・ナ ギ (内) 条痕後ナ ギ	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y8/2 (内) 黄灰 2.5Y6/1				
46-12	43	H6 140803		暗褐色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) 口縁部削 り・端部削り・条 痕 (内) 条痕	4 ~ 5mm以下白 色砂粒多く含む	良好 (外) 灰白 2.5Y8/2 (内) 灰白 2.5Y8/2		補修孔か れ		
46-13	43	H8 140902		暗褐色 粘土	繩文 土器	深鉢				(外) タデ・条 痕 (内) ナギ・卷 貝条痕	1mm白色砂粒含 む	良好 (外) にぶい褐 7.5YR5/4 (内) 褐 7.5YR4/4		外面: スス 付着		
46-14	43	H8 140804		第2造 構面	繩文 土器	浅鉢				(外) 潜痕 (内) 潜痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄 2.5Y7/3 (内) 灰 2.5YR6/6				
46-15	43	H6 140903		暗褐色 粘土	繩文 土器	深鉢 (25.4) (26.0)				(外) 条痕 (内) 条痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR7/2 (内) にぶい黄褐 10YR7/2		口縁部突 起		
46-16	43	H4 140804		繩文 土器	深鉢			4.0	(外) タデ方向 条痕後ナギ (内) ヨコ方向 条痕・ナギ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄褐 10YR8/3 (内) 灰黄褐 10YR6/2					
52-1	49	365 141009		暗青灰 色粘質 土	繩文 土器	鉢				20.9 (外) ナギ (内) ナギ	1mm以下白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 灰黄褐 10YR6/2		底部外面: 暗黒黒変 / 内面: スス 付着		
52-2	126	H7 141021	土壌掘り	繩文 土器	浅鉢					(外) 赤 (内) 赤	黒・白色微砂粒 含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y7/2 (内) 灰 2.5Y7/2 7.5R4/8				
52-3	126	479 141021	付近	繩文 土器	浅鉢					(外) 三ガ弓 下地縫・赤彩 (内) ヨコ方向 ミガ弓	白色小砂粒わざ かに含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y4/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1 下地縫 (赤黒 5R2/1) 赤彩 (赤 7.5R4/5)				
52-4	126	H10 140922		暗青灰 色粘質 土	繩文 土器	浅鉢				(外) タデ・彩 文・文字文 (内) ナギ	白色小砂粒わざ かに含む	良好 (外) 明赤褐色 2.5YR5/6 (内) 明赤褐色 2.5YR5/8 10R4/1 10YR4/1				
52-5	50	G10 140917		繩文 土器	深鉢					(外) 三ガ弓 条痕 (内) 口縁部削 り沈線 1 条・三 ガ弓	白色小砂粒多く 含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR4/3 (内) 褐 10YR4/1		口縁部突 起		
52-6	50	H7 1031 1110		黒灰色 粘質土	繩文 土器	浅鉢				(外) 三ガ弓 (内) 口縁部削 り沈線 1 条・ヨ コ方向ミガ弓	1mm以下白色小 砂粒含む	良好 (外) 黑褐 7.5YR3/1 (内) 黑褐 7.5YR3/1		方形浅鉢		

神岡 番号	出版 年号	Pno.	グリッド付	遺構名	出土 層位	縦切 面	縦幅	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
52-7	50	655	H7 141110		第4道 横面	縄文 土器	浅跡					(外) ミガキ・ 沈線1条・条痕 (内) ミガキ	1mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) に赤い黄 2.5Y6/3 (内) 黒褐 2.5Y5/3	
52-8	50	383	I41015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡					(外) ミガキ・ 条痕 (内) ミガキ	白色微砂粒多く 含む	良好	(外) 黑褐 7.5YR3/1 (内) 黑褐 7.5YR4/1	方形浅跡
52-9	50		G8 141014		暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	浅跡	(26.4)	(27.7)			(外) ナデ・条 痕後ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒や少多く含 む	良好	(外) に赤い黄 7.5YR5/4 (内) 黑褐 10YR3/3	上縁部外 面:スス付 着
52-10	50	564	H7 141023 03	土器部	第4道 横面	縄文 土器	浅跡	(22.4)	(24.0)			(外) ミガキ・ 条痕後ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR3/1	黑色磨研 口縁部外 面:スス付 着
52-11	50	405	H6 141015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡	(17.9)	(18.2)			(外) ナデ・条 痕 (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 黑褐 7.5YR6/2 (内) 黑褐 7.5YR4/1	黑色磨研
52-12	50	404	H6 141015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡	(23.6)	(24.2)			(外) ヨコ方向 ミガキ・条痕後 ナデ (内) 丁寧なヨ コ方向ミガキ	1mm以下白色小 砂粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR6/2 (内) 黑褐 10YR4/1	
52-13	49	323	I41001	地床炉	56	縄文 土器	浅跡	(32.8)	(36.6)			(外) ヨコ方向 ミガキ・条痕 (内) ヨコ方向 ミガキ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR5/2	外面:鉢分 付着
52-14	50		H5 141009		暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	浅跡	(46.0)	(44.4)			(外) ヨコ方向 ミガキ (内) 口縫端部 沈線1条・ヨコ 方向ミガキ	0.5mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 5YR2/1 (内) 黑褐 5YR2/1	上縁部: 穿孔
52-15	50	437・ 405	H6 141015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡	(43.0)	(40.8)			(外) ヨコ方向 ミガキ・条痕後 ミガキ (内) 口縫端部 沈線1条・ヨコ 方向ミガキ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/2 (内) 黑褐 10YR3/1	
52-16	50	376	I41015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡	(52.2)	(53.4)			(外) ナデ・条 痕後ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	白色・透明微砂 粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR4/1 (内) 黑褐 10YR4/1	
53-1	51	357	G6 141007		縄文 土器	浅跡		(49.2)				(外) 条痕 (内) ヨコ方向 ミガキ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR5/2	
53-2	51	292・ 310		地床炉	66	第3道 横面	縄文 土器	浅跡	(22.0)			(外) ヨコ方向 ミガキ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 2.5Y3/1 (内) 黑褐黄 2.5Y5/2	
53-3	51	376	G6 141015		第4道 横面	縄文 土器	浅跡			8.6		(外) 条痕後ナ デ・ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	1~2mm白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 黑褐 2.5Y6/1 (内) 黑褐 10YR5/1	
53-4	51	H5・ 6	I41001		暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	浅跡	(17.2)	(17.0)			(外) ヨコ方向 ミガキ・ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm白色砂粒や 少多く含む	良好	(外) 黑褐 7.5YR4/2 (内) 黑褐 7.5YR4/1	
53-5	51	404	H6 141015		第4道 横面	縄文 土器	跡	(13.2)	(12.4)			(外) ヨコ方向 ミガキ (内) ナデ・条 痕	1mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 黑褐 10YR4/1 (内) 黑褐 10YR5/1	
53-6	49	275	H10 140925		暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	迹			33.8		(外) ヨコ方向 ミガキ (内) ナデ・条 痕	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/6 (内) 黑褐 10YR5/6	
53-7	52	633	I7 141031		第4道 横面	縄文 土器	深跡	(20.0)	(27.4)			(外) 口縫端部 折目・端部・縫 合部・条痕 (内) ナデ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑褐 7.5YR3/1 (内) 黑褐 10YR5/2	

第5章 総括

地図番号	国版番号	Pno.	グリッド番号	遺構名	出土位置	種別	器種	口径	最大径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
53-8	51		141024	地床跡	83	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・条痕 (内) 条痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 明灰灰 7.5YR7/2 (内) 開灰 7.5YR4/1		
53-9	51	439	H6	第4遺構面	141015	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・条痕後ナ デ (内) 条痕後ナ デ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰白 5Y7/1 (内) 灰白 2.5Y8/2		
53-10	51	515	H7	土蔵跡	141023	03	第4遺構面	縄文 土器	深鉢			(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・条痕 (内) ナデ・条 痕	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄橙 10YR5/2 (内) に赤い黄橙 10YR5/3		
53-11	51	440	H6	第4遺構面	141015	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・条 痕 (内) 条痕後ナ デ	4mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い黄橙 10YR7/2 (内) に赤い橙 5YR6/4		
53-12	51		H6	暗青灰 色粘質土	141008	縄文 土器	深鉢	(30.1)				(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ (内) ナデ	白色小砂粒多 く含む G	良好 (外) 黒 7.5YR2/1 (内) 灰褐 7.5YR5/2		
54-1	53	433・ 434	H6	第4遺構面	141015	縄文 土器	深鉢	(51.6)				(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・条痕 (内) 条痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黒褐 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1		
54-2	53	532	H7	土蔵跡	141023	03	第4遺構面	縄文 土器	深鉢	(30.2)		(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・条痕 (内) ナデ・条 痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰白 10YR8/2 (内) に赤い橙 7.5YR7/3		
54-3	52	345・ 346・ 6	H5・ 141001	暗青灰 色粘質土		縄文 土器	深鉢	(44.4)	(41.8)			(外) 口縁端部 呑み削り突起・ タガ・凹凸方向 条痕 (内) ナデ・凹 凸方向条痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄橙 10YR8/3 (内) 浅黄橙 10YR8/3		
54-4	53	522	H7	第4遺構面	141023	縄文 土器	深鉢	(41.0)				(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・条 痕 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 灰白 2.5Y7/1 (内) 黄橙 2.5Y5/1		
54-5	53	562	H7	土蔵跡	141023	03	第4遺構面	縄文 土器	深鉢			(外) 口縁頭部 削り・端部下削 付削口突起・ナ デ・斜め方向条 痕 (内) ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黑褐 7.5YR3/1 (内) 浅黄 2.5Y7/3		
54-6	53	66	H6	暗褐色 粘土	140904	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁端部 呑み削り突起・条 痕 (内) ナデ・条 痕	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外) に赤い黄橙 10YR7/4 (内) に赤い黄褐 10YR5/3		
54-7	53		H8	暗青灰 色粘質土	140925	縄文 土器	深鉢	(23.5)	(23.8)			(外) 口縁端部 呑み削り突起・ ナデ・条痕 (内) 条痕	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い黄橙 10YR6/3 (内) に赤い黄褐 10YR6/3	外観:スヌ 付着	
54-8	53	417	H6	第4遺構面	141015	縄文 土器	深鉢	(23.2)				(外) 口縁端部 呑み削り突起・ ナデ・条痕 (内) ナデ・条 痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄橙 10YR5/2 (内) 褐灰 10YR4/1		
54-9	53		H6	暗青灰 色粘質土	141009	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁端部 呑み削り突起・ ナデ・条痕 (内) ナデ	4mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い黄橙 10YR7/2 (内) に赤い黄褐 10YR7/2		

神岡 番号	固版 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 種別	縦切 面	横切 面	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
54-10	53	HS 140926		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・溝痕 (内) 美瓶	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄5Y6/1 (内) リーパー黒 5Y3/1	
54-11	53	G9 140925		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・ナデ (内) ナデ	1mm以下砂粒少 く含む	良好	(外) 黄黄褐 10YR5/2 (内) 黄灰 10YR4/1	
54-12	53	G9 140925		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・ヨコ方向溝痕 (内) ナデ・溝 痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR7/4 (内) に赤い黄褐 10YR7/4	外面:スヌ 付着
54-13	53	HS 140924		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・ナデ等 (内) ナデ	1mm以下砂粒少 く含む	良好	(外) 黄黄褐 10YR5/2 (内) 黄灰 10YR4/1	
55-1	53	H6 141008		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 朝日・端部下貼 付朝日突帯 ・条痕 (内) 美瓶	5mm小石・白色 砂粒含む	良好	(外) 黄 7.5YR5/2 (内) 黄褐 7.5YR3/1	
55-2	53	372 G6 141015		第4 遺 構面	甕文 土器	深鉢 (23.2)						(95) 口縁頭部 朝日・端部下貼 付朝日突帯・ナ デ・溝痕 (内) ナデ	2mm以下砂粒少 く含む	良好	(外) 黄白 2.5Y8/1 (内) に赤い黄褐 10YR7/3	
55-3	54	HS 140926		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	直 (11.2)	(12.4)					(外) 口縁頭部 朝日・端部下貼 付朝日突帯・ナ デ (内) ナデ	1mm以下砂粒少 く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR6/3 (内) 黒 2.5Y2/1	外面:スヌ 付着
55-4	54	H7 141023 03	土器彫り	第4 遺 構面	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁頭部 朝日・端部下貼 付朝日突帯・ナ デ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄白 2.5Y8/2 (内) 黄褐 2.5Y7/2	
55-5	54	G6 141007		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁頭部 朝日・貼付朝日 突帯・ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR7/2 (内) 黄褐 2.5Y5/1	
55-6	54	G9 140925		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・条痕 (内) 美瓶	1mm以下砂粒少 く含む	良好	(外) に赤い黄褐 7.5YB6/4 (内) 黑褐 7.5YR3/2	外面:スヌ 付着
55-7	54	G9 140925		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・ナデ (内) ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 黄 2.5Y7/2 (内) 黄褐 2.5Y4/1	
55-8	54	G8 140925		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁頭部 朝日・端部下貼 付朝日突帯・ナ デ (内) ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR7/3 (内) 黄黄褐 10YR6/2	
55-9	54	H7 141023 03	土器彫り	第4 遺 構面	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁頭部 朝日・端部下貼 付朝日突帯・条 痕 (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄 7.5YR4/3 (内) に赤い黄褐 10YR5/3	
55-10	54	G9 140924		暗青灰 色粘質 土	甕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・ナデ (内) ナデ・美 瓶	2mm以下砂粒含 む	良好	(外) 黄褐 7.5YR4/1 (内) に赤い黄褐 10YR5/2	
55-11	54	296 141001	地床軒 56	甕文 土器	深鉢							(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・条痕 (内) 美瓶後ナ デ	1 ~ 2mm灰色砂 粒含む	良好	(外) 白 2.5Y7/1 (内) 白 5Y7/1	内部:被熱 黒変
55-12	54	298 141001	地床軒 66	甕文 土器	深鉢							(外) 口縁端部 下貼付朝日突帯 ・条痕 (内) ナデ・美 瓶	3mm以下白色砂 粒無く含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/2 (内) に赤い黄褐 10YR7/3	外面:スヌ 付着

辨別 番号	固版 番号	Pno.	グリット 下目付	遭構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
55-13	54	H8 140929		暗青灰 色粘質 土	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 無刷毛・ナデ・ ・柔痕 (内) ナデ・柔 痕	1 ~ 2mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 黄褐色 10YR6/2 (内) 黑褐色 10YR5/1		
55-14	54	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(34.4)	(35.2)				(外) 口縁部 刷毛・ナデ・柔 痕 (内) ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄褐色 2.5Y7/2 (内) 黑褐色 10YR3/1		
55-15	54 407 408	H6 141015		第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(30.4)	(31.2)				(外) 口縁部 刷毛・ナデ・柔 痕 (内) ナデ	1 ~ 2mm白・赤 色砂粒や多く 含む	良好 (外) 黄褐色 10YR8/2 (内) に赤い黄褐色 10YR7/2	口縁部外 面: 久々付着 内面: 被熱黒變	
55-16	54 566	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 刷毛・柔痕後 打 (内) ナデ	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) に赤い黒 7.5YR5/3 (内) に赤い黄褐色 10YR6/4	外面: 久々 付着	
56-1	55 917	G8 141127	炭化り	暗青灰 色粘質 土	闕文 土器	深鉢	(28.5)	(28.8)				(外) 条痕 (内) 口縁部 刷毛・ナデ・柔 痕	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 黄褐色 10YR5/2 (内) 黑褐色 10YR5/2		
56-2	54 484	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(27.2)	(26.6)				(外) 口縁部 刷毛・ヨコ・タ マ方向条痕 (内) ナデ	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 浅黄褐色 10YR8/3 (内) 浅黄褐色 10YR8/3		
56-3	54 543	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(20.4)	(26.2)				(外) 口縁部 刷毛・ヨコ・タ マ方向柔痕 (内) ナデ・ヨ コ方向柔痕	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR7/3 (内) に赤い黄褐色 10YR7/2		
56-4	55 526	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ナデ・柔 痕	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 黑褐色 5YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/2	外面: 久々 付着	
56-5	55 G10	H8 140926	暗青灰 色粘質 土	闕文 土器	深鉢							(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ナデ	白・灰色砂粒 ・金雲母少多 く含む	良好 (外) 黄褐色 2.5Y6/1 (内) 黄褐色 2.5Y6/2		
56-6	55 517	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(14.4)	(15.2)				(外) 口縁部 刷毛・ヨコ・斜 筋方向条痕 (内) ナデ・ヨ コ・斜筋方向条 痕	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 黑褐色 7.5YR4/1 (内) 黑褐色 7.5YR4/2		
56-7	55 430	H6 141015		第4道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ナデ	1mm以下透明小 砂粒含む	良好 (外) 浅黄褐色 7.5YR3/3 (内) 黄褐色 2.5Y4/1		
56-8	55 483	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(21.3)	(21.0)				(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ヨコ方向 柔痕	2mm灰色砂粒含 む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR6/3 (内) に赤い黄褐色 10YR4/3	外面: 久々 付着 / 内 面: 被熱黒變	
56-9	55 400	H6 141015		第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(21.0)					(外) 口縁部 刷毛・ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 浅黄褐色 2.5Y7/3 (内) 黄褐色 5Y4/1		
56-10	55 G7	H8 141014	暗青灰 色粘質 土	闕文 土器	深鉢	(34.8)						(外) 口縁部 刷毛・ナデ (内) ナデ	1 ~ 4mm白色砂 粒や少多く含む	良好 (外) 黄褐色 2.5Y4/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/2	外面: 久々 付着	
56-11	55 571	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ナデ	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 黄褐色 10YR5/2 (内) 黑褐色 10YR3/1	外面: 久々 付着	
56-12	55 569	H7 141023 03	土壌混り	第4道 構面	闕文 土器	深鉢	(26.2)					(外) 口縁部 刷毛・タマ方向 柔痕 (内) ナデ	1mm白色砂粒少 く含む	良好 (外) 浅黄褐色 10YR8/4 (内) 浅黄褐色 10YR8/3	外面: に赤い 被熱黒變	
56-13	55 423	H6 141015		第4道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 刷毛・柔痕 (内) ナデ	3mm以下砂粒少 く含む	良好 (外) 黄褐色 10YR6/2 (内) に赤い黒 7.5YR6/3		
56-14	55	H5 141008	暗青灰 色粘質 土	闕文 土器	深鉢							(外) 条痕・摩 滅 (内) 口縁部 刷毛・柔痕・摩 滅	2.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好 (外) に赤い黄褐色 10YR7/2 (内) に赤い黄褐色 10YR7/3		

神岡 番号	出版 番号	Pno.	グリッ ド付	遺構名	出土 個体	縦切 面	縦幅	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考	
56-15	55	435	H6 I41015	第4道 横面	縄文 土器	深鉢						(外)口縁面部 朝日・柔版・摩 減 (内)ナヂ・摩 減	2mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好	(外)灰白 5Y7/1 (内)に赤い黄緑 10YR7/2		
57-1	55	H7 I41029	土器腰力 03	黒灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(20.4)					(外)口縁面部 朝日・条版後ナ ヂ (内)美痕後ナ ヂ	白色小砂粒わず かに含む	良好	(外)灰黄 2.5Y7/2 (内)灰黄 2.5Y4/1		
57-2	55	H5-6 I41001	暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	深鉢							(外)口縁面部 朝日状朝日・ヨ コ方向条版 (内)ヨコ方向 柔版	1~2mm白色小 砂粒含む	良好	(外)黑褐 10YR3/2 (内)に赤い黄緑 10YR5/4		
57-3	55	G-HB I41017	第4道 横面	縄文 土器	深鉢							(外)口縁面部 朝日・柔版 (内)ナヂ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)黒褐 10YR3/2 (内)に赤い黄緑 10YR3/1	外側: 丈夫 付着	
57-4	55	432	H6 I41015	第4道 横面	縄文 土器	深鉢	(28.5)					(外)口縁面部 朝日・ナヂ (内)ナヂ	1~2mm白色砂 粒多く含む	良好	(外)灰褐色 7.5YR2/2 (内)褐 7.5YR4/3		
57-5	55	499	H7 I41029	土器腰力 03	黒灰色 粘質土	縄文 土器	鉢	(20.2)	(21.1)			(外)口縁面部 朝日・柔版 (内)美痕・摩 減	2~3mm白・灰 色砂粒含む	良好	(外)赤褐 5YR4/6 (内)に赤い黄緑 7.5YR5/4	口縁部外 面: 丈夫 着・丈夫 裏: 暖熱黒化	
57-6	55	597	G6 I41028	第4道 横面	縄文 土器	深鉢	(23.4)					(外)美痕・朝 文・剛・柔版 (内)美痕・摩 減	1mm以下白色小 砂粒や少く含む	良好	(外)黒褐 7.5YR3/2 (内)灰黄褐 10YR6/2	外側: 丈夫 付着	
57-7	56	383	H6 I41015	第4道 横面	縄文 土器	深鉢	(17.4)	(17.8)				(外)口縁面部 朝日・端部朝日 突起・削突き之 角・ナヂ・柔版 (内)ナヂ・柔 版	白・赤色小砂 粒含む	良好	(外)明褐灰 7.5YR7/2 (内)に赤い黄緑 10YR7/3	外側: 丈夫 付着	
57-8	56	654	H7 I41110	第4道 横面	縄文 土器	深鉢	(19.2)					(外)ナヂ・朝 日・柔版・ナヂ (内)ナヂ・柔 版	1mm白・赤色砂 粒やや多く含む	良好	(外)灰褐 5YR4/2 (内)黒褐 7.5YR3/1		
57-9	55	G6 I41007	暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	庖か							(外)削り目・柔 版	3mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)灰褐 2.5Y6/2 (内)灰黄褐 10YR5/2		
57-10	56	246	G5 I40911	第4道 横面	縄文 土器	浅鉢	(26.0)					(外)ナヂ・め 方向柔版 (内)ナヂ・柔 版	2mm以下グラス 質砂粒含む	良好	(外)灰褐 2.5Y5/1 (内)に赤い黄緑 2.5Y6/3	外側: 丈夫 付着	
57-11	56	301	H8 I40930	地床炉 66	第4道 横面	縄文 土器	深鉢	(25.6)	(27.0)			(外)美痕 (内)柔版	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)に赤い黄緑 10YR7/2 (内)削灰 10YR6/1		
57-12	56	G5 I41008	暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	深鉢							(外)口縁面部 押引状朝文・ ヨコ方向柔版 (内)ナヂ	白色小砂粒・金 雲母わずかに含 む	良好	(外)削灰 5YR5/1 (内)灰黄褐 10YR5/2		
57-13	56	F6 I41003	暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	浅鉢							(外)ヨコ方向 ミガキ・丁寧な ミガキ (内)ヨコ方向 ミガキ	白色小砂粒含む	良好	(外)灰褐 2.5Y4/1 (内)灰褐 2.5Y4/1		
57-14	56	504	H7 I41029	土器腰力 03	黒灰色 粘質土	縄文 土器	底部			(5.0)		(外)ナヂ (内)ミガキ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)に赤い黄緑 10YR7/3 (内)黒褐 10YR3/1		
57-15	56	339	H6 I41001	第4道 横面	縄文 土器	底部						(6.9)	(外)ナヂ・柔 版・ナヂ (内)ナヂ	白色微砂粒非常 に多く含む	良好	(外)灰褐 2.5Y7/2 (内)黒褐 2.5Y3/1	
57-16	56	H10 I40922	暗青灰 色粘質 土	縄文 土器	底部							(7.6)	(外)ナヂ・柔 版 (内)ミガキ・ 摩減	白色砂粒含む	良好	(外)削灰 5YR4/1 (内)削灰 5YR5/1	
57-17	56	406	H6 I41015	第4道 横面	縄文 土器	底部						(6.6)	(外)ナヂ (内)ミガキ・ 摩減	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)灰黄褐 10YR4/2 (内)灰黄褐 10YR4/2	
57-18	56	429	H6 I41015	第4道 横面	縄文 土器	深鉢						(外)柔版 (内)柔版・ナ ヂ・削頂直底	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)灰黄褐 10YR6/2 (内)灰黄褐 10YR5/2		

辨別 番号	国版 番号	Pno.	グリット 下限	遭構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
57- 19	56	F8 141010		暗青灰 色粘質 土	土製 品 円盤	長径 4.9	短径 4.8		厚 0.8		(外) 英板・摩 減 (内) 摩減	1 ~ 2mm白・赤 色砂粒や少く含む	良好 (外) 黒白 7.5YR8/2 (内) 粉 7.5YR6/6	深鉢の転 用品 / 使用 痕跡有	
61-1 62	62	899 141127	炭塵り 01	第5道 構面	闊文 土器	浅鉢					(外) 三才牛 (内) 口縁端部 沈痕 1 条・ミガ 牛	白・灰色小砂粒 含む	良好 (外) 稼 7YR7/6 (内) 粉 5YR6/6	方形浅鉢 / 口縁端部・ 穿孔	
61-2 62	62	891 141127	炭塵り 01	第5道 構面	闊文 土器	浅鉢					(外) ナデ・三 才牛 (内) 口縁端部 沈痕 1 条・ミガ 牛	1 ~ 4mm白色砂 粒含む	良好 (外) に赤い斑 2.5Y6/3 (内) 灰 5Y4/1	方形浅鉢	
61-3 62	62	881 141127	炭塵り 01	第5道 構面	闊文 土器	深鉢					(外) 口縁部 半円竹管状附 ・端部下斜面削 目妻痕・ナデ (内) 条痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰黄褐 10YR5/2		
61-4 62	62	886 141127	炭塵り 01	第5道 構面	闊文 土器	浅鉢					(外) ナデ・三 才牛 (内) 口縁端部 沈痕 1 条・ミガ 牛	1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好 (外) 喀黃灰 2.5Y5/2 (内) 黄灰 2.5Y5/1		
61-5 62	62	910 141127	炭塵り 01	第5道 構面	土製 品 円盤	長径 4.2	短径 4.1		厚 0.6		(外) 英板・摩 減 (内) ナデ・摩 減	白色小砂粒や少 多く含む	良好 (外) 黑褐 2.5Y3/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1	深鉢の転 用品 / 使用 痕跡有	
61-6 62	62	907 141127	炭塵り 01	第5道 構面	土製 品 円盤	長径 4.8	短径 4.3		厚 0.7		(外) 柔痕乏 三才牛・摩減 (内) ミガ牛・ 摩減	2mm以下白砂粒 含む	良好 (外) 黑褐 10YR3/1 (内) 黑 10YR2/1	浅鉢の転 用品 / 使用 痕跡有	
61- 10	63	849 141127	炭塵り 03	第5道 構面	闊文 土器	浅鉢					(外) ナデ・三 才牛・条痕 (内) ナデ・三 才牛・摩減	1 ~ 3mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好 (外) 明褐 7.5YR5/6 (内) 赤褐 5YR4/6		
61- 11	63	839 141127	炭塵り 03	第5道 構面	闊文 土器	深鉢					(外) 口縁部削 目・条痕 (内) 条痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 白 2.5Y7/1 (内) 灰黄褐 10YR6/2		
61- 12	63	813 141126	炭塵り 03	第5道 構面	闊文 土器	深鉢 (24.5) (25.6)					(外) 口縁部削 目・条痕・半 裁状状突変 (内) 条痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰黄褐 10YR6/2 撫文既削 痕		
61- 13	63	832 141127	炭塵り 03	第5道 構面	闊文 土器	深鉢 (30.4)					(外) 口縁部削 目・凹凸方向 ミガ牛 (内) 凹凸方向 ミガ牛	1mm以下砂粒少 なく含む	良好 (外) 黑褐 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1		
61- 14	63	844 141127	炭塵り 03	第5道 構面	闊文 土器	深鉢 (30.0)					(外) 口縁部削 目・端部下斜 付削り突痕・ナ デ・条痕 (内) 条痕	2mm以下砂粒少 なく含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 黑 2.5Y2/1		
61- 15	63	797 141127	炭塵り 01	第5道 構面	闊文 土器	深鉢					(外) 口縁部削 目・端部下斜 付削り突痕・ナ デ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黑白 10YR8/1 (内) 黑白 10YR8/1		
63-1 126	126	G8 141120	暗黒灰 色粘質 土	闊文 土器	浅鉢						(外) 三才牛・ 条痕・赤彩 (内) 三才牛・ 赤彩	白色微砂粒わざ かに含む	良好 (外) 黑褐 5YR3/1 (内) 黑褐 5YR3/1	方形浅鉢 / 赤彩 (赤 10R3/6)	
63-2 65	65	718 141120	暗黒灰 色粘質 土	闊文 土器	浅鉢						(外) 三才牛 (内) 三才牛・ ナデ	1 ~ 4mm白色砂 粒やや多く含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y7/3 (内) 黄灰 2.5Y4/1		
63-3 65	65	262 141120		闊文 土器	深鉢 (20.6) (21.8)					(外) ナデ・条 痕 (内) 口縁端部削 付状突変・条 痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 2.5Y3/1			
63-4 65	65	712 141120	暗黒灰 色粘質 土	闊文 土器	深鉢 (32.6) (30.2)					(外) 口縁部削 目・条痕 (内) ナデ・条 痕	1mm以下白色小 砂粒やや多く含 む	良好 (外) 灰黄 2.5Y6/2 (内) 灰黄 2.5Y6/2	口縁部外 面・又斜付 着		

神岡 番号	固版 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 個体	種別	距離	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
63-5	65	720	I41120	縦里灰 色粘質 土器	縦文 土器	深鉢	(35.8)	(35.0)				(外) 刺突文 四・条痕 (内) 口縁頭部 削り・ナデ・柔 軟	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒闇 10YR3/1 (内) 黒 10YR2/1	
70-1	75	1048	B9 I50109	水さらし 呪	縦文 土器	深鉢	(27.8)					(外) ミガキ・ 柔軟後ミガキ・ (内) ヨコ方向 ミガキ	白色小砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒 7.5YR7.7/1 (内) ブラウン 7.5YR5/3	
70-2	75	1050	B9 I50109	水さらし 呪	縦文 土器	深鉢	(20.4)	(21.4)				(外) 口縁端部 削り削り突起・ 柔軟 (内) ナデ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒闇 10YR4/1 (内) ブラウン 10YR5/3	
70-3	75	1049	B9 I50109	水さらし 呪	縦文 土器	浅鉢						(外) 口縁端部 削り削り突起・ 柔軟 (内) ナデ・柔 軟	1mm白色砂粒や 多く含む	良好	(外) 黒 10YR2/1 (内) 黑 10YR2/1	
70-4	75		I41219 水さらし 呪1	縦文 土器	浅鉢							(外) ミガキ・ (内) ミガキ	1mm以下白色小 砂粒わざかに含 む	良好	(外) 黑 2.5Y2/2 (内) 黑闇 2.5Y3/1	波状口縁
74-1	126	96	I41027		縦文 土器	浅鉢						(外) ナデ・赤 彩 (内) ナデ・赤 彩	白色小砂粒含む	良好	(外) 黒闇 7.5YR3/1 (内) 黒闇 7.5YR4/1	赤 (赤 10YR4/6)
74-2	79	G8 I50128		青灰色 粘質土 土器	注口 土器							(外) ナデ・摩 滅 (内) ナデ・摩 滅	1mm白色小砂 粒や多く含む	良好	(外) 黒 2.5Y7/1 (内) 黑闇 2.5Y7/2	
74-3	79	669	H8 I41110	黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢						(外) ミガキ・ 柔軟 (内) ヨコ方向 ミガキ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 黒闇黄 2.5YS/2 (内) 黄闇 2.5Y6/1	方形浅鉢
74-4	79	F8 I41104		黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢						(外) ナデ・ミ ガキ・柔軟 (内) ヨコ方向 ミガキ	1~2mm白色小 砂粒含む	良好	(外) 黒闇 2.5Y4/1 (内) ブラーピー黑 5Y3/1	方形浅鉢
74-5	79	627	G10 I41030	第5道 横面	縦文 土器	深鉢						(外) ナデ・柔 軟 (内) 口縁端部 沈握 1箇・ミガ キ	1~3mm白色砂 粒含む	良好	(外) ブラウン 10YR5/4 (内) ブラウン 2.5Y6/2	方形深鉢 / 外面:スス 付着
74-6	79		I41113 地床部 110	縦文 土器	浅鉢	(30.0)	(27.0)					(外) ヨコ方向 ミガキ・柔軟後 ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	灰色微砂粒や少 多く含む	良好	(外) 白 2.5Y8/2 (内) 白 2.5Y8/2	波状口縁
74-7	80	608	G9 I41029	黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢	(43.2)	(44.0)				(外) ナデ・ケ ズリ (内) 口縁端部 沈握 1箇・ヨコ 方向ミガキ	1mm以下白色小 砂粒や多く含 む	良好	(外) 黒闇 7.5YR3/1 (内) 黒闇 7.5YR4/1	波状口縁
74-8	79	H6 I41024		黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢	(26.6)	(28.4)				(外) 丁寧なナ デ (内) 丁寧なナ デ	1mm以下白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 黒闇黄 2.5Y5/2 (内) 黑闇 10YR3/2	
74-9	79		G10 I41020	黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢	(23.9)					(外) 摩滅・ミ ガキ (内) ヨコ方向 ミガキ	白色小砂粒含む	良好	(外) 黒闇 5YR4/1 (内) 黒闇 5YR4/1	
74-10	79	632	H8 I41031	第4道 横面	縦文 土器	浅鉢	(28.2)					(外) 口縁頭部 削り・ヨコ方向 ミガキ・削り突 起 (内) ヨコ方向 ミガキ	白色小砂粒含む	良好	(外) 黒闇 10YR3/1 (内) 黒闇 10YR4/1	
74-11	79	F8 I41104		黒灰色 粘質土 土器	縦文 土器	浅鉢	(35.4)	(34.4)				(外) ナデ・柔 軟 (内) ミガキ・ 摩滅	1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黄闇 2.5Y5/3 (内) 黄闇 2.5Y5/1	
74-12	80	670	H8 I41119	第5道 横面	縦文 土器	浅鉢	(31.2)	(32.3)				(外) ヨコ方向 ミガキ・柔軟 (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒わざかに含 む	良好	(外) 黑闇黄 2.5Y5/2 (内) 黑闇 2.5Y3/2	黑色磨研 / 桶形孔か

第5章 総 括

辨別 番号	固版 番号	Pno.	グリット 下目付	透構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
74-13	89	477	B 141021	第5道 構面	繩文 土器	浅鉢	(18.3)	(15.0)				(外) 日口方向 三方牛・彌板 (内) 三方方向 三方牛	1mm白色砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y6/1 (内) 黑 2.5Y2/1		
74-14	80	650	H7 141106	黒灰色 粘質土	繩文 土器	浅鉢	(11.9)	4.5	4.3			(外) 三方牛・ ナデ (内) ナデ後ミ・ 三方牛	1mm以下砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y4/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1		
74-15	80	F-G7 141034	黒灰色 粘質土	繩文 土器	浅鉢				5.8				1mm白色砂粒少 なく含む	良好 (外) 黑 2.5Y2/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1		
74-16	79	H7 141113	第5道 構面	繩文 土器	浅鉢				(5.2)	(外) 条幅 (内) 三方牛		1mm以下白色砂 粒含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y7/2 (内) 黄灰 2.5Y6/1			
74-17	79	F8 141117	第5道 構面	繩文 土器	浅鉢				4.2	(外) 条板・ケ ズリ (内) ナデ・三 三方牛	1mm以下砂粒少 なく含む		良好 (外) 黄灰 2.5Y7/3 (内) 黄灰 2.5Y6/2			
74-18	79	H7 141029/03	土糞腰刀 粘質土	繩文 土器	底部				(4.6)	(外) ナデ (内) 地痕	2mm以下砂粒少 なく含む		良好 (外) 黄灰 2.5Y6/2 (内) 黑 2.5Y3/1			
75-1	79	621	G10 141029	第5道 構面	繩文 土器	浅鉢	(29.0)	(31.4)				(外) 日口方向 三方牛 (内) 日口方向 三方牛	1mm以下砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄灰 10YR5/2 (内) 黄灰 10YR5/2	補修孔か れ	
75-2	79	F9 141128	暗黒灰 色粘質 土	繩文 土器	深鉢	(27.1)						(外) 口縁頭部 削り・条痕 (内) 地痕	白色砂粒多く 含む	良好 (外) 黄灰 10YR5/1 (内) 黑 10YR2/1		
75-3	79	476	F10 141020	第5道 構面	繩文 土器	深鉢	(25.0)					(外) ナデ・摩 滅 (内) ナデ・摩 滅	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 明るい 10YR7/6 (内) ふじい 10YR7/4	外面: 黄分 村着	
75-4	79	H8 140331	黒灰色 粘質土	繩文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り状付目・端 部・貼付剝離 部・ナデ (内) 条痕	2 ~ 3mm白・灰 色砂粒含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y8/1 (内) 明るい 5YR5/8				
75-5	81	141112	地床剖 108	繩文 土器	深鉢					(外) ナデ・条 痕 (内) 口縁端部 竹管刺突文・ 斜方条痕	1 ~ 2mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好 (外) オリーブ緑 2.5Y4/3 (内) 黄灰 2.5Y5/3	孔洞文 化			
75-6	81	H8 141031	黒灰色 粘質土	繩文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 D形削り・彌板 (内) 斜め方向 条痕	1mm白色砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄白 5Y7/1 (内) 白 7.5Y7/1				
75-7	81	H8 141031	黒灰色 色粘質 土	繩文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り・条痕 (内) 地痕・ナ デ	2.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好 (外) 黑褐 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1				
75-8	81	H7 141113	暗黒灰 色粘質 土	繩文 土器	浅鉢	(17.8)	(18.6)			(外) ナデ・条 痕 (内) ナデ	1mm以下白色小 砂粒非常に多く 含む	良好 (外) 黄灰 7.5YR4/1 (内) 黄灰 10YR4/1				
75-9	81	270	H10 140918	黒灰色 粘質土	繩文 土器	深鉢			8.2	(外) ナデ (内) 美痕後ナ デ	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) ふじい 黄 10YR7/4 (内) 黄灰 2.5Y4/1				
75-10	81	663- 2- 793	F8 141113 118	地床剖 黒灰色 粘質土	繩文 土器	深鉢			(1.8)	(外) ナデ・条 痕 (内) ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y5/1 (内) ふじい 黄 10YR6/3				
80-1	127	735	141120	暗黒灰 色粘質 土	繩文 土器	浅鉢				(外) 口縁頭部 削起・ミガキ・赤 彩 (内) 口縁部沈 み・三方牛・赤 彩	1mm灰色砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄灰 10YR5/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1	口縁部突 起・穿孔/ 方形浅鉢			
80-2	86	728	G8 141120	黒灰色 粘質土	繩文 土器	浅鉢				(外) 三方牛・ 沈痕1条・ナデ (内) 三方牛	ガラス質小砂粒 わずかに含む	良好 (外) 褐灰 5YR4/1 (内) 黑褐 5YR3/1	端部: 穿孔/ 方形浅鉢			
80-3	127	677	H7 141119	暗黒灰 色粘質 土	繩文 土器	浅鉢				(外) 三方牛・ 下垂・赤漆	白色小砂粒含む	良好 (外) 黑 2.5YR1.7/1 (内) 赤 7.5R4/8				
80-4	87	761- 763- 764	141120	暗黒灰 色粘質 土	繩文 土器	浅鉢	(24.8)	(20.6)		(外) 条痕後コ ロコ向・三方牛・ ナデ (内) 三方方向 三方牛	1mm以下砂粒少 なく含む	良好 (外) 黄灰 10YR4/1 (内) 黄灰 10YR4/1				

碑頭 番号	図版 番号	Pno.	グリッド付	遺構名	出土 層位	縦幅	深幅	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
80-5	86		FB 141211	第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(16.2)	(14.8)				(外)ナデ・ヨコ方向ミガキ・美瓶 (内)ナデ・ヨコ方向ミガキ・美瓶	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y4/1 (内) 黄灰 2.5Y4/1	
80-6	86		H10 141218	地床炉 134	第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(28.6)	(27.4)			(外)ヨコ方向 ミガキ (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒含む	良好	(外) 黒 7.5Y2/1 (内) 黒灰 7.5Y4/1 灰成口跡	
80-7	86		F6 141114	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢	(25.4)	(23.2)				(外)ヨコ方向 ミガキ (内)ヨコ方向 ミガキ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 黒褐 10Y3/1 (内) 黑 2.5Y2/1	
80-8	127		G9 141205	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢		(19.2)				(外)ナデ・美 瓶・赤彩 (内)ナデ	透明微砂粒含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y6/2 (内) 黑褐 2.5Y5/3 外壁・被 熱黒変 / 肩部:赤 彩(赤 10R4/8)	
80-9	127	979	G9 141210	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢	(23.6)	(25.0)				(外)ヨコ方向 ミガキ・赤彩 (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y6/2 (内) 黄灰 2.5Y6/2	
80-10	86		I41224	Pt277	第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(25.0)				(外)ヨコ方向 ミガキ (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm白色ガラ 又質砂粒含む	良好	(外) 黑褐 10Y3/2 (内) 黄灰 10Y4/1	
80-11	86		G9 141205	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢	(23.6)	(24.2)				(外)ナデ・美 瓶 (内)ナデ	5mm白色小石・ 1mm白色小砂粒 含む	良好	(外) 黑褐 10Y4/1 (内) 黑褐 10Y3/1 口片状注 口	
80-12	86		G10 141203	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢	(49.0)					(外)丁寧なナ デ (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒含む (外) (内)丁寧なナ デ (内)ヨコ方向 ミガキ	良好	(外) に赤い斑 5YR6/4 (内) に赤い斑 5YR6/4	
80-13	86	694	G8 141120	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢			(5.4)			(外) 美瓶・ナ デ (内) ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄褐 10Y4/2 (内) 黄褐 10Y5/2	
80-14	86	955	G5 141127	第6遺構面	縄文 土器	底部			(4.7)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄 2.5Y8/2 (内) 黄 2.5Y7/2	
80-15	86	987	I7 141212	第6遺構面	縄文 土器	浅鉢			(4.2)			(外)ケズリ後 ミガキ・ケズリ (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) 黑褐 10Y3/1 (内) 黑褐 10Y3/1	
81-1	87	978	I41210	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(18.2)	(17.2)				(外)口縁頭部 朝日・端部下駄 付朝日突起・ヘ タ描き格子文・ 美瓶 (内)ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑 10Y2/1 (内) 黑 10Y2/1 外面:スヌ ・炭化物付 着/内面: 被熱黒変	
81-2	86	963	G10 141202	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(18.1)	(18.6)				(外)口縁頭部 朝日・タテ美 瓶・深渠 7条・美 瓶	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) に赤い斑 7.5YR5/3 (内) に赤い斑 7.5YR6/4	外面:スヌ 付着
81-3	86		G6 141117	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢						(外)丁寧なナ デ・ヘラ描き直 線文・斜行文 (内)ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒少し含む	良好	(外) 黄 2.5Y7/2 (内) リーブ黑 5Y3/1	
81-4	86		F5 141114	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	浅鉢	(24.4)	(26.4)				(外)丁寧なナ デ (内)斜め方向 ミガキ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) に赤い斑 10Y7/2 (内) 黄褐 10Y4/2	
81-5	86		H6 141112	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(25.0)	(27.2)				(外)口縁頭部 朝日・ナデ・美 瓶 (内)ナデ・美 瓶	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y5/2 (内) 黑褐 2.5Y3/1	外面:スヌ 付着
81-6	86	927	G5 141127	暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(11.2)	(12.0)				(外)斜め方向 美瓶 (内)ナデ	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 黑褐 10Y3/2 (内) に赤い斑 10Y6/3	

第5章 総括

地図番号	国版番号	Pno.	グリッド 下付	遺構名	出土 位置	種別	器種	口径 (mm)	最大 径	基高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
81-7	88	1024	141222		第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(27.3)	(28.0)			(外) 日口方向 三刀牛・彌歯 条・条痕 (内) 日口方向 三刀牛・ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y4/1 (内) 陶灰 10YR4/1		
81-8	89	928	F5 141127		第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(20.2)	(29.4)			(外) 条痕削 め跡方向ミガ牛 (内) 条痕削 コ・削め方向ミ ガ牛	1 ~ 2mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y6/2 (内) 浅黄 2.5Y7/3	外面:スス 付着	
81-9	86	928	F5 141127		第6遺構面	縄文 土器	浅鉢	(26.4)	(26.0)			(外) 日口方向 ミガ牛 (内) 日口方向 三刀牛・条痕削 ナデ	1mm白色小砂粒 少々多く含む	良好 (外) 灰黄褐色 10YR4/2 (内) 灰黄色 10YR6/2		
82-1	89	G5 141201		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) 口縁頭部 半円状剥落・ 条痕削後ナデ (内) 条痕	1mm以下砂粒 わずかに含む	良好 (外) 黑 7.5YR2/1 (内) 黑 7.5YR2/1		
82-2	89	F6 141114		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(24.3)	(25.4)			(外) ナデ (内) ナデ	白・灰・赤色微 細粒わずかに含 む	良好 (外) に赤い斑 7.5YR5/3 (内) 陶灰 5YR6/1			
82-3	89	718	G8 141120		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 削り・斜め方向 条痕・摩擦 (内) 日口方向 条痕	1mm白色砂粒含 む	良好 (外) に赤い斑 10YR6/4 (内) 灰黄褐色 10YR6/2	外面:スス 付着	
82-4	89	926	G5 141127		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(19.4)	(19.8)			(外) 条痕・ナ デ (内) 条痕・ナ デ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) 黑褐色 10YR3/1 (内) 黑褐色 10YR3/1	外面:スス 付着	
82-5	89	952	G6 141127		第6遺構面	縄文 土器	深鉢	(18.8)	(16.8)			(外) ナデ・磨 滅 (内) ナデ・条 痕・摩擦	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い斑 10YR7/4 (内) 黑 2.5Y6/1	口縁部突 起	
82-6	88	942	F5 141127		第6遺構面	縄文 土器	深鉢	(20.5)	(22.6)			(外) ナデ (内) ナデ	1mm白色砂粒少 々多く含む	良好 (外) オリーブ緑 2.5Y4/3 (内) 暗黒灰 2.5Y5/2		
82-7	88	F6 141114		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢	(41.5)				(外) 条痕削 いナデ (内) 条痕削 后ナデ	白・灰色小砂粒 含む	良好 (外) 灰白 10YR7/1 (内) 灰白 10YR8/2	外面:スス 付着		
82-8	88	1018	141222		第6遺構面	縄文 土器	深鉢	(34.0)				(外) ナデ (内) ナデ・条 痕	1mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄褐色 10YR5/2 (内) 灰黄色 10YR4/2		
82-9	89	988	H9 141216	Pt263	第6遺構面	縄文 土器	深鉢	(35.4)	(32.4)			(外) 口縁頭部 削り・条痕・指 跡・ナデ (内) ナデ・条 痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y7/2 (内) 浅黄 2.5Y7/3		
82-10	88	933	F5 141127		第6遺構面	縄文 土器	深鉢	(18.2)	(18.0)			(外) 条痕削 后・日口方向ナ デ (内) 日口方向 ナデ	黑・赤色小砂粒 含む	良好 (外) 陶灰 10YR5/1 (内) に赤い斑 10YR7/2	口縁部突 起 スス付着 /口縁部突 起	
82-11	88	G9 141205		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢					(外) 日口方向 ナデ・条痕 (内) 日口方向 ナデ・条痕	白色小砂粒含む	良好 (外) 灰 N6/1 (内) 灰 N6/1			
83-1	88	F8 141119		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 竹管状突起・ 条痕 (内) ナデ	白色小砂粒含む	良好 (外) 黑 7.5YR7/1 (内) 黑褐色 2.5Y3/1			
83-2	88	G8 141121		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 竹管状突起・ 条痕 (内) ナデ	1 ~ 2mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 灰白 2.5Y8/2 (内) 黑 10Y2/1	外面:スス 付着		
83-3	88	H9 141205		暗黒灰 色粘質土	縄文 土器	深鉢					(外) 口縁頭部 竹管状突起・ 条痕 (内) ナデ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y7/2 (内) 灰黄 2.5Y7/2			

碑固 番号	固版 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 種別	縦切 面	断面	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
83-4	88	702	G8 I41120	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)ナデ・ヨ コ方向刻痕 (内)口縁端部 刻突文・ナデ・ 美痕	2~3mm白色砂 粒含む	良好	(外) 黒褐 10YR3/2 (内)に似い黄褐 10YR3/3	外面: 久 付着
83-5	90		G8 I41121	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)ナデ (内)口縁端部 D形刻突文・ ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)に似い黄褐 10YR6/3 (内)に似い黄褐 10YR6/3	
83-6	90		H9 I41205	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)ナデ (内)口縁端部 刻突文・ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黃褐 10YR5/1 (内)に似い黄褐 10YR7/2	
83-7	90	726	G8 I41120	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)ナデ・美 痕 (内)ナデ・口 縁端部刻文	1~4mm白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黄灰 2.5YS/2 (内) 黄灰 2.5Y5/1	孔凹文土 器
83-8	90		H10 I41222	SX15 第6遺 構面	甕文 土器	深鉢					(外)口縁端部 朝日・端部下點 付朝日突唇・美 痕 (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)に似い黄褐 10YR7/3 (内)に似い黄褐 10YR7/3	
83-9	90	401	H6 I41015		第6遺 構面	甕文 土器	深鉢 (32.6)	(31.4)			(外)口縁端部 朝日・端部下點 付朝日突唇・美 痕 (内)ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)灰黄褐 10YR5/2 (内)灰黄 2.5Y6/2	
83-10	90		G9 I41205	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)口縁端部 朝日・端部下點 付朝日突唇・美 痕 (内)竹管状刻 突文・美痕	1mm白色砂粒少 し含む	良好	(外)灰黄褐 10YR6/2 (内)に似い黄褐 10YR6/3	
83-11	90		I41208		第6遺 構面	甕文 土器	深鉢				(外)口縁端部 朝日・端部下點 付朝日突唇・美 痕 (内)美痕	2~3mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外)オーリーブ褐 2.5Y4/3 (内)灰黄 2.5Y4/1	
83-12	90		G8 I41120	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢 (17.9)					(外)口縁端部 朝日・斜め方向 刻痕 (内)ヨコ方向 美痕	透明微砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黑 10YR2/1 (内) 黑褐 10YR3/1	
83-13	90	741	H8 I41120	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)ナデ (内)口縁端部 朝日・美痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄 2.5Y7/3 (内)灰白 5Y7/1	
83-14	90	692	G8 I41120	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢					(外)胎付平底 竹管状刻突唇・ ナデ (内)押引文瓶 浅鉢・ナデ	1~2mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好	(外)灰黄褐 10YR4/2 (内)灰黄 2.5Y2/1	
83-15	90	960	G10 I41202	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢 (33.2)	(31.0)				(外)口縁端部 朝日・ナデ (内)ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外)灰褐 10YR4/1 (内)灰黄 2.5Y4/1	外面:スス 付着
83-16	90	975	H8 I41210	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	深鉢 (36.0)	(32.6)				(外)口縁端部 朝日・美痕 (内)美痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰黄 2.5Y7/2 (内)灰黄 2.5Y6/1	
83-17	90	992	G8 I41218	SK07 第6遺 構面	甕文 土器	底部					(外)ナデ (内)ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐 10YR8/3 (内)浅黄褐 10YR8/3	
83-18	90		G8 I41121	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	底部					(外)ナデ (内)ナデ	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外)灰黄 2.5Y7/2 (内)灰黄 2.5Y4/1	
83-19	90	977	I41210	暗黒灰 色粘質 土器	甕文 土器	底部			(5.0)		(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外)に似い黄褐 10YR7/4 (内)に似い黄褐 10YR7/4	
88-1	97		G11 I40919		第7遺 構面	甕文 土器	浅鉢 (35.0)				(外)粗いナデ (内)丁寧なナ デ	3~4mm白色砂 粒わずか、黒色 微砂粒多く含む	良好	(外)に似い黄 7.5Y6/4 (内)灰黄 2.5Y7/2	
88-2	97	1039	G8 I41226	SK13 第7遺 構面	甕文 土器	浅鉢					(外)ミガキ・ 美痕後ナデ(内) ミガキ	1mm白色砂粒含 む	良好	(外)灰褐 7.5YR4/1 (内)黑 7.5YR1.7/1	方形浅鉢

第5章 総括

種別 番号	固版 番号	Pno.	グリップ 下付	遭構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
88-3	126	B 141222		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	浅鉢		(23.2)				(外) 極限1条 ・ナデ・条痕 ・赤彩 (内) ミガキ・ 赤彩	透明・白色小砂 粒わずかに含む	良好 (外) に赤い黄 2.5Y6/4 (内) 噴灰黄 2.5Y5/2	赤彩 (赤 10R5/8)	
88-4	97	G7 150105		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢						(外) 円孔・円 文 (内) ナデ	1mm以下白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 黄灰 2.5Y6/1 (内) 灰黄 2.5Y6/2		
88-5	97	G11 140919		第7道 構面	闕文 土器	深鉢	(12.3)					(外) 口縁端部 鏡・ヨコ方向 三方牛 (内) ヨコ・斜 め方向ミガキ牛	1~2mm灰色砂 粒わずかに含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y7/3 (内) 浅黄 2.5Y7/3		
88-6	97	G10 141224		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢						(外) 陶造窓文 ・ナデ (内) 条痕後丁 字ナデ	2mm白色砂粒わ ずかに含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y6/2 (内) 噴灰黄 2.5Y5/2		
88-7	97	150120	SK21	第7道 構面	闕文 土器	深鉢						(外) ハラ描き 前文施文2回 (内) ナデ	1mm以下白・褐 色砂粒多く含む	良好 (外) 浅黄橙 10Y8R/4 (内) に赤い黄橙 10Y8T/3		
88-8	97	G7 150105		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢	(16.8)	(17.2)				(外) ナデ (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8R/2 (内) に赤い黄 10Y8R/3	外面:スス 付着	
88-9	97	G8 150113		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢	(16.6)					(外) 口縁端部 鏡・ヨコ方向 三方牛 (内) 条痕1条 ・三方牛	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外) 灰黄 2.5Y6/2 (内) 灰黄 2.5Y6/2		
88-10	97	G7 150107		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	浅鉢	(37.4)	(38.0)				(外) 1寸寒なナ デ (内) ヨコ方向 三方牛	1mm以下白色小 砂粒少々多く含 む	良好 (外) に赤い黄 10Y8R/3 (内) 黒 10Y8R/1		
88-11	97	999 141222		第7道 構面	闕文 土器	浅鉢	(22.0)	(22.4)	12.0	1.4		(外) 三方牛・ 摩滅 (内) ミガキ・ 摩滅	3mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8T/2 (内) に赤い黄 10Y8T/4		
88-12	97	G9 150106		第7道 構面	闕文 土器	浅鉢						(外) ナデ・条 痕重複したナデ (内) ナデ	1mm白色小砂粒 多く含む	良好 (外) に赤い黄 7.5Y8R/3 (内) 白 10Y8R/2	外面:スス 付着・被 熱変	
88-13	97	G6 141208		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢	(24.2)					(外) ナデ (内) ナデ・条 痕	白色小砂粒含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8S/2 (内) 反転型 10Y8S/2	口縁部突 起	
88-14	97	G8 150106		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	浅鉢	(38.4)					(外) ヨコ方向 三方牛 (内) ヨコ方向 三方牛	ガラス質機砂粒 含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8T/3 (内) 割れ 10Y8S/1	外面:スス 付着	
88-15	97	G7 150105		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢	(30.3)	(31.6)				(外) 条痕 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒少々多く含む	良好 (外) 明るい黄 5Y8S/6 (内) 灰黄 7.5Y8R/2	外面:スス 付着	
88-16	97	141210	Ph274	闕文 土器	深鉢							(外) 口縁部 削り・条痕 (内) 条痕・摩 滅	1~4mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 黄 7.5Y4R/3 (内) 黄灰 2.5Y4/1		
88-17	98	141217	地床剖 133	闕文 土器	深鉢							(外) 口縁部 削り・条痕 (内) 条痕	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8T/2 (内) 割れ 10Y8S/1		
88-18	97	H9 141225		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢						(外) 口縁部 削り・条痕 (内) 条痕	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い黄 10Y8T/2 (内) 割れ 10Y8R/4		
88-19	98	1040 141226	G8 SK13	第7道 構面	闕文 土器	深鉢	(26.2)	(27.0)				(外) 口縁部 削り・条痕 (内) 条痕後ナ デ	1~2mm白・赤 色・ガラス質機 砂粒含む	良好 (外) 灰 2.5Y7/2 (内) 噴灰黄 2.5Y5/2	外側面:ス ス付着	
88-20	98	H6 141204		昭才 リーブ 粘質土	闕文 土器	深鉢 か						(外) 条痕 (内) 口縁部 削り形装飾削付 ・ナデ	1mm以下褐色小 砂粒含む	良好 (外) 灰白 5Y8/1 (内) 灰白 5Y7/1		
88-21	98	G8 140119	SX19	第7道 構面	闕文 土器	深鉢	(32.6)					(外) 条痕後ナ デ (内) 1寸寒なナ デ・ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄 2.5Y7/3 (内) 浅黄 2.5Y8/3		

神岡 固版 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 材質	縦切 面	縦幅	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
89-7 98	G9 141226		縫才 リーブ 粘質土	縫文 土器	深鉢						(外) 条版 (内) 口縁端部 有質状斜め削突 文・縫痕	2~3mm白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) オリーブ黒 3Y3/1 (内) オリーブ黒 3Y3/1	
89-8 98	1044 150108	F10 SK15	縫文 土器	深鉢							(外) 条版 (内) 口縁端部 削突文・縫痕	ガラス質微砂粒 少々多く含む	良好	(外) 黄褐色 10YR4/2 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1 外面: 久又 付着	
89-9 98	G8 150119	SX19	第7遺 構面	縫文 土器	深鉢	(34.6)					(外) 条版・縫 痕 (内) 条版	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黒 3YR7/3 (内) 黄灰 2.5Y5/1	
89-10 98	1057 150116	SK17	第7遺 構面	縫文 土器	深鉢	(39.4)					(外) ナデ・条 版 (内) 滑頭压痕 +ナデ	1mm白色砂粒少 少多く含む	良好	(外) 黄褐色 2.5Y7/4 10YR4/2 (内) 黄灰 2.5Y6/1 口縁部内 面肥厚削 頭压痕土 器	
89-11 98	G5 141208		縫才 リーブ 粘質土	縫文 土器	底部			3.8			(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) にぶい黒 3YR6/4 (内) にぶい赤褐 3YR5/4	
89-12 98	G8 150118	SX19	第7遺 構面	縫文 土器	深鉢	(47.6)					(外) 斜め方向 条版後ナデ (内) 口縁端部 折曲げ・指剥压 痕・ナデ	2~3mm白・黒 色砂粒少々多く 含む	良好	(外) 黄灰 10YR4/1 10YR3/1 (内) 黄褐色 10YR4/2 10YR3/1	口縁部内 面肥厚削 頭压痕土 器
95-1 102	H10 150116		青灰色 粘質土	縫文 土器	浅鉢	(33.6)					(外) ヨコ方向 ミガキ (内) 沈線2条 +ヨコ方向ミガキ	1~2mm白色砂 粒含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y4/1 10YR3/2 (内) 黄褐色 2.5Y4/2	
95-2 102	G8 150128		青灰色 粘質土	縫文 土器	浅鉢	(37.2)					(外) ナデ・摩 擦 (内) ナデ・摩 擦	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR6/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	
95-3 102	1087 150122	F6	第8遺 構面	縫文 土器	浅鉢	(40.8)					(外) ナデ・ヨ コ方向ミガキ (内) ナデ・摩 擦	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR6/3 (内) にぶい黄褐色 10YR7/2	
95-4 102	I9 150116		青灰色 粘質土	縫文 土器	浅鉢	(26.6)					(外) ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm白色砂粒含 む	良好	(外) 黄褐色 10YR3/2 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	外面: スヌ 付着
95-5 102	G9 141226		縫才 リーブ 粘質土	縫文 土器	浅鉢						(外) ミガキ (内) ミガキ	1mm白色砂粒少 少多く含む	良好	(外) 黄褐色 2.5Y4/2 10YR5/3 (内) 黑 2.5Y2/1	黑色削研
95-6 102	G8 150128		青灰色 粘質土	縫文 土器	浅鉢	(36.6)					(外) 条版後ナ デ (内) 滑削闊文 +沈線2条	黑・灰色小砂粒 含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y8/2 (内) 黄灰 2.5Y8/2	
95-7 102	1126 150128	G7	第8遺 構面	縫文 土器	直	(27.1)	(29.8)				(外) 口縁端部 縫文・沈線1条 +ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 3YR7/4 (内) 黄灰 2.5Y6/1	
95-8 102	1104 150128		第8遺 構面	縫文 土器	直	(12.8)					(外) 口縁端部 縫文・沈線1条 +ナデ (内) ナデ・条 版後ナデ	1mm以下白色小 砂粒や少々多く含 む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR5/3 (内) 黄褐色 10YR6/2	
95-9 107	G6 150106		青灰色 粘質土	縫文 土器	深鉢	(12.2)	(16.2)				(外) 口縁端部 縫文・ヨコ方向 ナデ・摩擦削突 文2列・縫文 (内) ナデ	1mm白色砂粒少 少多く含む	良好	(外) 黄褐色 10YR5/2 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR3/1	
95-10 102	F8 150123		青灰色 粘質土	縫文 土器	深鉢	(17.2)					(外) 口縁頂部 縫文・沈線2条 +ナデ (内) ナデ・摩 擦	1~3mm白色砂 粒含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR5/3 (内) 滑削板 10YR8/4	
95-11 102		150128		燒土	縫文 土器	深鉢	(13.2)	(14.2)			(外) 口縁頂部 縫文・沈線2条 +文字・縫文 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒多く含む	良好	(外) 7.5YR6/8 3Y3/1 (内) オリーブ黒 3Y3/1	
95-12 102	G7 150127		青灰色 粘質土	縫文 土器	深鉢	(35.6)					(外) 口縁端部 縫文・ナデ・摩 擦 (内) 条版後ナ デ	1~2mm白色小 砂粒多く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/4 (内) にぶい黄褐色 10YR5/4	

第5章 総括

測定番号	測定番号	Pno.	グリフ 印目付	遺構名	出土 部位	種別	断面	口径	最大 径	高さ	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
95-13	102	F8 150123		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 口縁端部 調文・ナデ (内) ナデ	1mm白・灰色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 黒褐 7.5YR6/2 (内) 白 2.5Y8/2	
95-14	102	H8 150123		青灰色 粘質土 土器	繩文 浅鉢	(21.0)						(外) 口縁端部 調文・沈線 1 条 ・ヨコ方向ミガキ (内) ヨコ方向 ミガキ	1mm以下白色小 砂粒や多く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR5/3 (内) 黑褐 2.5Y3/1	
95-15	102	G10 150128	Pr524	第 8 道 横面	繩文 深鉢	(22.0)						(外) 口縁端部 調文・ヨコ方向 ミガキ (内) ヨコ方向 ミガキ	1 ~ 2mm白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黒褐 7.5YR5/2 (内) 黑褐 10YR4/1	
95-16	102	G8 150126		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 口縁端部 調文・ナシ (内) ミガキ	5mm白色小石・ ガラス質微砂粒 含む	良好	(外) 黑褐 10YR4/3 (内) 黑褐 10YR3/1	
95-17	102	150128	Pr524		繩文 土器	深鉢						(外) 摩滅・沈 線 1 条・円形文 2・直線文 3 条 (内) 摩滅	黒・褐色小砂粒 わずかに含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/1 (内) に赤い黄褐 10YR7/3	繩文の 深鉢
96-1	102	G8 150126		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢	(30.8)						(外) 口縁端部 調文・ナデ・繩 文 (内) ナデ	1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黄 2.5Y7/2 (内) 浅黄 2.5Y8/3	補修孔か
96-2	102	H6 150108		青灰色 粘質土 土器	繩文 浅鉢							(外) 口縁端部 沈線状文様・ナ シ (内) ナデ	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR7/2 (内) 白 10YR8/2	
96-3	102	H9 150121		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 濃淡繩文 (内) ナデ	1mm白色砂粒多 く含む	良好	(外) 黑褐 2.5Y5/2 (内) 黑褐 2.5Y7/2	外側 被熱
96-4	102	G9 150115		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) ナデ・四 輪文 3 条・ナシ (内) ナデ	2mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) 黄 2.5Y6/1 (内) に赤い黄 2.5Y6/4	
96-5	102	G7 150126		第 8 道 横面	繩文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 折曲げ・繩文 ・ナデ (内) ナデ	1 ~ 5mm白・赤 色砂粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/2 (内) 黑褐 5Y6/1	
96-6	103	G8 150128		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 沈線状 文繩文 (内) ミガキ	1 ~ 2mm白色砂 粒や多く含む	良好	(外) 黑褐 5Y4/1 (内) 黑褐 5Y4/1	口縁端部 燒成前穿 孔
96-7	103	H7 150122		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 濃淡繩文 (内) 極後ナ シ	1mm白色小砂 粒や多く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR7/4 (内) 明黄褐 10YR6/6	外側 スヌ 付着 / 内 側 被熱 黒変
96-8	103	F7 150123		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) 口縁端部 裝飾付直鉢 ・濃纏繩文 (内) 極後ナ シ	白色砂粒含む	良好	(外) 粗 5Y6/6 (内) 明黄褐 5Y5/6	
96-9	103	H7 150122		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢	(22.2)						(外) 口縁端部 調文・柔痕後ナ シ (内) 極後ナ シ	1mm以下白色小 砂粒や多く含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR5/3 (内) 黑褐 10YR3/2	
96-10	103	G8 150128		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢	(22.8)						(外) 口縁端部 沈線状くぼみ・ 端部沈線 1 条 ・ナデ (内) ナデ	白色砂粒・金 雲多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR5/2 (内) に赤い黄褐 10YR5/3	
96-11	103	G7 150126		第 8 道 横面	繩文 土器	深鉢						(外) ナデ・タ テ方向沈線 5 条 (内) ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黄 2.5Y7/2 (内) に赤い黄褐 10YR7/4	
96-12	103	G9 150121		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢							(外) ナデ・柔 韌 (内) 指頭付直 ・ナシ	1 ~ 2mm白色砂 粒含む	良好	(外) に赤い黄褐 10YR6/3 (内) 黑褐 10YR5/2	口縁部内 由頭骨指 頭直腹土 器
96-13	103	G7 150128		青灰色 粘質土 土器	繩文 深鉢	(29.6)						(外) 口縁端部 斜削・ナデ (内) 丁寧ナ デ・指頭直腹	1 ~ 4mm白色砂 粒含む	良好	(外) 白 10YR8/2 (内) 浅黄褐 10YR8/3	口縁部内 面肥厚指 頭直腹土 器

碑固 番号	版番 番号	Pno.	グリッ ド白付	遺構名	出土 材質	種別	深さ	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
96-14	103	F6	I50128	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(28.7)					(外) 黒い条痕 (内) 滴道直痕 ・ナデ	1~5mm白色砂 粒多く含む	良好	(外) 明赤褐色 2.5YR5/6 (内) にぶい黄褐色 5YR7/4	口縁部内 面肥厚指 道直痕土 器
96-15	103	F6	I50128	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(26.8)					(外) 黒い条痕 (内) 滴道直痕 ・ナデ	2mm以下白色小 砂粒や多く含む	良好	(外) 黄灰 10YR5/1 (内) にぶい黒 5YR6/4	口縁部内 面肥厚指 道直痕土 器
96-16	103	G8	I50126	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) 滴道直痕 ・ナデ	1~2mm白色砂 粒含む	良好	(外) にぶい黒 7.5YR7/4 (内) にぶい黒 7.5YR6/3	口縁部内 面肥厚指 道直痕土 器
96-17	103	G7	I50127	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ・柔 軟 (内) 滴道直痕 ・ナデ	1mm白色砂粒井 間に多く含む	良好	(外) 黄褐色 2.5YR5/3 (内) にぶい黄褐色 5YR5/3	口縁部内 面肥厚指 道直痕土 器
96-18	103	H8	I50123	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 沈眠状くぼみ ・ナデ (内) ナデ	1mm以下白色小 砂粒少し含む	良好	(外) 黄灰 2.5YR4/1 (内) 黄灰 2.5YR5/1	口縁部; 又 付着
96-19	103	G9	I41226	暗オ リーブ 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ・柔 軟 (内) 滴道直痕 ・ナデ	2mm以下白色小 砂粒含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR5/4 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	外縁; 又 付着
97-1	104	G8	I50128	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(30.6)					(外) 濃黒 (内) 滴道直痕 ・ナデ	1mm間・灰色砂 粒や多く含む	良好	(外) 白灰 2.5YR8/2 (内) 白灰 2.5YR8/2	口縁部内 面肥厚指 道直痕土 器
97-2	104	G8	I50128	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR7/4 (内) にぶい黄褐色 10YR7/3	外縁; 又 付着
97-3	104	G5	I50121	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	16.5	(16.0)				(外) ナデ・ヨ コ・斜め方向条 痕 (内) ナデ	1~3mm白色砂 粒含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR8/3 (内) 黄灰 2.5YR5/1	外縁; 又 付着
97-4	104	G5	I50121	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(17.0)	(16.6)				(外) ナデ 粒多く含む	1~4mm白色砂 粒多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/2 (内) 黑褐 2.5YR2/1	全面; 又 付着
97-5	104	G9	I50115	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(22.0)					(外) ナデ (内) ナデ	白色微砂粒や 多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/1 (内) にぶい黄褐色 10YR5/3	外縁; 又 付着
97-6	104	G5	I50121	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(24.6)	(26.0)				(外) ナデ (内) ナデ	5mm白色小石、 1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR4/1 (内) 黑褐 10YR4/2	外縁; 又 付着
97-7	104	F10	I50115	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(24.7)					(外) ナデ・縄 文 (内) ナデ・縄 文	1mm以下白色 ガラス質小砂粒 含む	良好	(外) 黄褐 10YR8/8 (内) 黄褐 10YR8/6	外縁; 又 付着
97-8	104	I105	F6	I50128	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(30.7)				(外) 滴道直痕 ・ナデ (内) ナデ・ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黒 7.5YR5/3 (内) 滴道直痕 10YR8/3	外縁; 又 付着
97-9	104	I1068	G5	I50121	第8遺 構面	縄文 土器	深鉢	(18.0)	(18.7)			(外) ナデ・柔 軟 (内) ナデ	1mm白色砂粒含 む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR4/2 (内) 黑褐 10YR4/4	外縁; 又 付着
97-10	104	G8	I50128	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) ナデ・柔 軟	5mm以下白色砂 粒含む	良好	(外) 黑褐 10YR3/1 (内) 黑褐 10YR6/2	外縁; 又 付着
97-11	104	I1077	G6	I50121	第8遺 構面	縄文 土器	(28.2)	(29.4)				(外) ナデ・柔 軟 (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 10YR5/2 (内) にぶい黄褐色 10YR5/4	外縁; 又 付着
97-12	104	F7	I50126	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢	(30.6)					(外) ナデ・柔 軟 め方向条痕 (内) ナデ・柔 軟	2mm白色砂粒や 多く含む	良好	(外) 黑褐 10YR8/8 (内) 黄褐 10YR8/6	外縁; 又 付着
98-1	105	G7	I50126	青灰色 粘質土	縄文 土器	深鉢				(7.8)	(外) ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄灰 10YR5/1 (内) 黄灰 2.5YR4/1	外縁; 又 付着	
98-2	105	I1130	H7	I50128	第8遺 構面	縄文 土器				9.4	(外) ナデ (内) ナデ・柔 軟	5mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黄灰 2.5YR6/2 (内) 滴道直痕 2.5YR8/3	外縁; 又 付着	
98-3	105	G7	I50126	青灰色 粘質土	縄文 土器	底部				(7.4)	(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 白灰 5Y7/1 (内) 白灰 2.5YR8/2	外縁; 又 付着	
98-4	105	I1472	G9	I50129	第8遺 構面	縄文 土器				(6.6)	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) にぶい黄褐色 2.5YR7/2 (内) 黄灰 2.5YR4/1	外縁; 被熱 底部	

辨別 番号	固版 番号	Pno.	グリット F1付	遺構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
98-5	105	G8		青灰色 粘質土	底部				7.5	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰白 2.5Y8/2 (内) 灰N4			
98-6	106	G8	150129	青灰色 粘質土	底部				(11.6)	(外) ナデ (内) ナデ・削 道(?)	6mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 喙灰黄 2.5Y5/2 (内) 喙灰黄 2.5Y5/2			
98-7	106	1123	G7	第8遺 構面	底部				8.0	(外) ナデ (内) 丁寧なナ デ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 喙灰黄 2.5 Y 5/2 (内) 灰黄褐 10 YR 6/2			
98-8	108	1478	G9	第8遺 構面	底部				(6.8)	(外) ナデ 摩滅	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰黄褐 10YR6/2			
98-9	106	G8	150126	青灰色 粘質土	底部				(6.8)	(外) ナデ・削 減 (内) ナデ・削 減	4mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰白 2.5Y7/1 (内) 灰黄 2.5Y7/2			
98-10	105	G6	150119	青灰色 粘質土	底部				(7.0)	(外) ナデ 摩滅	1mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 黒褐 2.5Y3/1 (内) にら・黄褐 10YR7/4			
98-11	106	G6	150108	青灰色 粘質土	底部				(5.8)	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) にら・黄褐 10YR7/3			
98-12	106	F7	150126	青灰色 粘質土	底部				(7.2)	(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰白 10YR8/2			
98-13	106	H8	150123	青灰色 粘質土	底部				(7.2)	(外) ナデ (内) ナデ	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 灰灰褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR5/1			
98-14	106	F7	150126	青灰色 粘質土	深鉢				(8.8)	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 黑褐 2.5Y5/1			
98-15	105	G7	150127	青灰色 粘質土	底部				6.6	(外) ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰白 2.5Y8/1 (内) 黑褐 2.5Y8/1			
98-16	104	G6	150109	青灰色 粘質土	浅鉢				(7.6)	(外) ナデ (内) ナギキ・ 削減	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) にら・黄褐 (内) にら・黄褐 10YR7/2			
98-17	104	G7	150127	青灰色 粘質土	底部				(9.7)	(外) ナデ (内) ナギキ・ 削減	1mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 黑褐 10YR5/1 (内) 灰黄 2.5Y7/2			
98-18	104	1125	G7	第8遺 構面	底部				(8.0)	(外) ナデ・底 面下剥離 (内) ナデ	4mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) にら・黄褐 (内) 剥離 10YR5/1			
98-19	105	G8	150128	青灰色 粘質土	底部				7.3	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 浅黄褐 10YR8/3	底面: 磨擦 (内) 黑 5Y4/2		
98-20	105	G8	150126	青灰色 粘質土	底部				(6.5)	(外) ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) にら・黄褐 10YR7/2 (内) 浅黄褐 10YR8/4			
98-21	105	G6	150121	第8遺 構面	底部				(10.8)	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 灰灰褐 10YR5/2 (内) 黑白 10YR8/2			
98-22	105	1516	G8	第8遺 構面	底部				7.2	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 灰白 10YR8/2 (内) 浅黄褐 10YR8/3	底面: 磨擦 剥離		
98-23	105	G8	150127	青灰色 粘質土	底部				(5.2)	(外) ナデ・底 面下剥離 (内) ナデ	2mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) にら・黄褐 10YR7/2 (内) 剥離 10YR5/1	底面: 磨擦 剥離		
98-24	105	H9	150121	青灰色 粘質土	底部				(5.6)	(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 黑褐 2.5Y5/1			
98-25	105	H9	150120	青灰色 粘質土	底部				(5.3)	(外) ナデ・削 減 (内) ナデ・摩 滅	2mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 灰白 2.5Y7/2 (内) 黑 5Y5/1			
98-26	106	G8	150126	青灰色 粘質土	底部				4.0	(外) ナデ (内) ナギキ・ 削減	2mm以下砂粒多 <含む	良好 (外) 浅黄 2.5Y7/3 (内) 灰黄 2.5Y6/2			
98-27	106	G8	150126	青灰色 粘質土	底部				(6.0)	(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 黑褐 10YR6/1 (内) 黑褐 2.5Y5/1			
98-28	106	G7	150127	青灰色 粘質土	底部				(6.2)	(外) ナデ (内) ナデ	1mm以下砂粒少 ずかに含む	良好 (外) 浅黄 2.5Y7/3 (内) 灰白 2.5Y8/2			
98-29	106	G7	150126	第8遺 構面	土質 円盤	長径 6.9	幅 6.5	厚さ 0.8		(外) 土質 (内) ナデ	1mm白色砂粒少 多く含む	良好 (外) 灰灰褐 2.5Y7/2 (内) 浅黄 10YR8/3	文様に 沿って打 ち欠く		
98-30	106	G9	150115	青灰色 粘質土	土質 品	祭具 長さ 7.6	幅 3.7	厚さ 2.6		指による調整	1mm以下白色砂 粒含む	良好 灰白 2.5Y7/1	全面: 被熱 黒変		

碑頭 番号	図版 番号	Pno.	グリッ ド日付	遺構名	出土 位置	縦幅	深幅	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
101-128 1	1324	G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡			(34.1)			(外)ナデ・漬 酒甌文・脩口圓 刻文・斜め方 彎三ガ牛・赤彩 (内)ヨコ方向 ミガ牛	1mm白色小砂 粒・金芸合む	良好	(外) 黄灰 2.5Y6/1 (内) に赤い黄 10YR6/3	外面: 朱 ス付着 / 赤彩(赤 10R5/8)
101-110 2	1174	G10+ H1		第7・ 8遺構 面	甌文 土器	浅跡	(22.8)	(23.2)				(外)口縁端部 甌文・ナデ・醜 文・(内)ヨコ方向 ミガ牛	1mm以下白色微 砂粒合む	良好	(外) 黄灰 2.5Y7/3 (内) 黄灰 2.5Y7/2	
101-110 3		G10 150130		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡						(外)丁寧なナ デ・(内)漬酒甌文 ・ミガ牛	1mm白色砂粒含 む	良好	(外) に赤い黄 10YR6/3 (内) に赤い黄 10YR6/3	口縁部突 起
101-110 4		G10 150127		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡						(外)柔服なナ デ・(内)口縁部 開口 1条・醜文 ・ミガ牛	1~2mm白色 砂粒合む	良好	(外) 黄 5Y6/1 (内) 白灰 5Y8/1	
101-110 5		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	深跡						(外)ナデ・(内) 陶文ヘラ 開き甌文・ナデ	2mm以下鄭・灰 色砂粒やや多く 含む	良好	(外) 白灰 2.5Y8/2 (内) 白灰 2.5Y8/2	
101-110 6		G10 150126		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡						(外)口縁端部 甌文・ミガ牛 (内)甌文・沈 糊 1条・ミガ牛	1mm以下白色微 砂粒多く含む	良好	(外) 黑褐 2.5Y3/2 (内) 暗灰黄 2.5Y5/2	
101-110 7		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡	(34.6)					(外)ナデ・ヨ コ方向ミガ牛 ・(内)漬酒甌文	1mm以下ガラス 質砂粒合む	良好	(外) 黄褐 10YR5/2 (内) 開灰 10YR4/1	補修孔か
101-110 8		G10 150126		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡						(外)ミガ牛 (内)漬酒甌文 ・ミガ牛	2mm白色砂粒含 む	良好	(外) 黄灰 2.5Y7/2 (内) 開灰 10YR5/1	
101-110 9		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡		(30.4)				(外)漬酒甌文 ・ヨコ方向ミガ牛 ・(内)ヨコ方向 ミガ牛	1mm以下白色微 砂粒多く含む	良好	(外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黑 10YR2/1	
101-110 10		G10 150127		第8遺 構面	甌文 土器	深跡						(外)甌文・將 行直線文・凹形 文・沈糊 1条・ ナデ・(内)ナデ	1mm以下白色微 砂粒多く含む	良好	(外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黑灰黄 2.5Y4/2	
101-110 11		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡	(21.2)	(22.7)				(外) 漬酒甌文 ・方形区画文 (内) ミガ牛・ 青漿	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 黄褐 10YR5/2/波状口縁 (内) 黑灰 7.5Y4/2	
101-110 12		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡	(20.4)	(22.7)				(外) 漬酒甌文 ・方形区画文 ・ナデ・ヨ コ方向ミガ牛 (内)ナデ・ヨ コ方向ミガ牛	1~2mm白色小 砂粒やや多く含 む	良好	(外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黄褐 10YR4/2	
101-110 13		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡	(27.4)	(28.4)				(外)ナデ・漬 酒甌文・直線区 画文 (内) 丁寧なナ デ	1~3mm白色砂 粒多く含む	良好	(外) 明赤 5YR5/6 (内) 淡黄褐 10YR6/2	
101-117 14	1259- 1292- 1305- 1306	G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	深跡	(20.6)	(19.2)				(外)口縁端部 二重弧文・ヘラ 開き連続三角形 文・ナデ (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 紫 7.5YR7/6 (内) に赤い黄 10YR7/3	
101-110 15		G11 140919		第8遺 構面	甌文 土器	浅跡	(12.0)					(外)口縁端部 甌文・ミガ牛 (内)ヨコ方向 ミガ牛	白色小砂粒少 し含む	良好	(外) 黄褐 10YR5/1 (内) 黑褐 10YR3/1	
101-110 16		G11 140919		黑色粘 土	甌文 土器	浅跡						(外)口縁端部 平行線文・甌文 ・ナデ (内)ナデ	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好	(外) 黄褐 10YR8/8 (内) 黄褐 10YR8/6	波状口縁
101-10 17		G10 150129		第8遺 構面	甌文 土器	深跡						(外) 漬酒甌文 ・斜行線文 (内) ミガ牛	5mm小石、1mm 以下砂粒含む	良好	(外) 黄灰 2.5Y7/4 (内) 黄灰 2.5Y6/2	

辨別番号	固版番号	Pno.	グリット 下目付	遺構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
101-110 18		G11 140919		第8遺構面	縦文 土器	浅鉢		(15.8)				(外) 収縮1条 ・縦文・ミガホ (内) ヨコ方向 ミガホ	灰色小砂粒含む	良好 (外) 黒褐2.5Y3/2 (内) 黑褐2.5Y3/1		
102-111 1	111	I384	G10 150129	第8遺構面	縦文 土器	浅鉢		(35.6)				(外) 縦文・ミ ガホ (内) ヨコ方向 ミガホ	1m以降グラス 質微砂粒含む	良好 (外) 明黄2.5Y4/2 (内) 黑褐10YR3/1	内面:コケ 付着	
102-112 2	111	G10 150126		第8遺構面	縦文 土器	鉢						(外) 無施文 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR5/6 (内) 岩灰10YR4/1		
102-126 3	126	I145	150129	第8遺構面	縦文 土器	深鉢	(26.2)					(外) 口縁部端 縦文・ヨコ方向 ミガホ (内) ヨコ方向 ミガホ・ナデ	白色小砂粒含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR6/3 (内) 黄褐2.5Y7/2	縫口:赤色 胎土わずかに残存	
102-126 4	126	G10 150130		第8遺構面	縦文 土器	深鉢	(24.0)					(外) 口縁部端 縦文・ヨコ方向 ミガホ・無施文 (内) ヨコ方向 ミガホ	1m白色小砂粒 やや多く含む	良好 (外) にぶい黄 2.5Y6/3 (内) 灰黄褐10YR6/2	口縁部外 面:赤色胎 土か/補 修孔か	
102-111 5	111	G11 140919		第8遺構面	縦文 土器	深鉢		(31.0)				(外) ヨコ方向 ミガホ・無施文 (内) ヨコ方向 ミガホ	1~2mm白色・ グラス質砂粒少 し含む	良好 (外) にぶい黄 2.5Y6/3 (内) 黄灰2.5Y6/1		
102-111 6	111	I452	G10 150129	第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 無施文 (内) 槌工具 刺突文・ナデ	1m白色砂粒含 む	良好 (外) 黒褐5YR2/1 (内) 黄褐10YR5/6		
102-111 7	111	G10 150130		第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 無施文 ・ミガホ (内) ナデ	1m白色砂粒含 む	良好 (外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 灰黄褐10YR5/2		
102-111 8	111	I395	G10 150129	第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 振刷痕・ 蓋痕・ミガホ (内) ナデ	1m以下白色小 砂粒やや多く含 む	良好 (外) 灰2.5Y7/2 (内) 白2.5Y8/2		
102-111 9	111	G10 150129		第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 無施文 (内) ヨコ方向 ミガホ	1m以下白色砂 粒含む	良好 (外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 黑褐10YR3/1		
102-126 10	126	I395	G10 150129	第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 無施文 (内) ミガホ	1m以下白色小 砂粒やや多く含 む	良好 (外) 黑2.5Y2/2 (内) にぶい黄 2.5Y6/3	縫口:赤色 胎土既存	
102-111 11	111	G10 150130		第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 口縁部端 縦文・ミガホ (内) ミガホ	1~2mm白・黃 色砂粒含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR6/3 (内) にぶい黄褐 10YR7/2	口縁部内 面突起	
102-111 12	111	G10 150228		第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 純文・直 縞文・ナデ (内) ナデ	2mm白色砂粒 やや多く含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR6/3 (内) 明灰黄2.5Y5/2		
102-111 13	111	I465	G9 150129	第8遺構面	縦文 土器	深鉢						(外) 口縁部端 縦文・無施文 ・直縞文 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒やや多く含む	良好 (外) 黑2.5Y7/2 (内) 黑2.5Y7/2		
102-111 14	111	G10 150129		第8遺構面	縦文 土器	直						(外) ナデ (内) 口縁部端 縦文・丸2	白色微砂粒や 多く含む	良好 (外) 浅黄2.5Y7/3 (内) 浅黄2.5Y7/3	九州系か	
102-112 15	112	G10 150114		青灰色 粘質土	縦文 土器	深鉢	(27.5)					(外) 口縁部端 沈痕1条・盖痕 後ナデ (内) ヨコ方向 ミガホ	1m白色砂粒少 し含む	良好 (外) にぶい橙 7.5YR7/4 (内) 浅黄2.5Y7/3	縫部穿孔 中途	
102-111 16	111	G11 140919		黑色粘 質土	縦文 土器	直	(15.2)					(外) ナデ (内) 口縁部端 縦文・ヨコ方向 ミガホ	1m以下白色砂 粒含む	良好 (外) 黑2.5Y5/4 (内) にぶい黄 2.5Y6/3		
102-111 17	111	G10 150127		第8遺構面	縦文 土器	浅鉢						(外) 口縁部端 縦文・ミガホ (内) ナデ	1m以下白色小 砂粒少し含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR6/3 (内) にぶい黄褐 10YR5/4		
102-111 18	111	G10 150114		青灰色 粘質土	縦文 土器	深鉢	(14.2)					(外) ナデ (内) ナデ・ヨ コ方向ミガホ	1m以下白色小 砂粒含む	良好 (外) にぶい黄褐 10YR5/3 (内) にぶい黄褐 10YR7/2		

神岡 固版 番号	Pno.	グリッ ド付	選構名	出土 層位	種別	深解	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
102-112 19	1288	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 陶文・柔削後ナ デ (内) ナデ	1mm以下灰色小 砂粒多く含む	良好 (外) 黄褐 2.5YR8/3 (内) 白灰 2.5YR8/1		波状口縁
102-112 20	1522	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢		(17.8)				(外) 甌文・ナ デ (内) ナデ	1mm以下ガラス 砂粒非常に多 く含む	良好 (外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR4/1		
102-112 21	1308	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) ナデ・ハ ラ描き線刻文 (内) ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) 黄褐 10YR4/2 (内) 黑褐 10YR4/1		
102-112 22	1294	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) ナデ・ハ ラ描き線刻文 (内) ナデ	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外) に赤い點 7.5YR5/3 (内) に赤い黄褐 10YR5/3		
103-112 1		G10 150126	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) ナデ・複 陶文	1mm以下白色小 砂粒含む	良好 (外) 黄褐 7.5YR4/2 (内) 黄褐 7.5YR5/6		口縁部突 起
103-112 2	1231- 1262	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢	(30.2)					(外) 口縁端部 陶文・ヨコ方向 ミガキ・直線文 2条 (内) 剥突文2 段・ヨコ方向ミ ガキ	1mm以下白色砂 粒少し含む	良好 (外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR3/1		
103-112 3		G10 150130	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 陶文・ナデ (内) ミガキ	1mm以下白色小 砂粒含む	良好 (外) に赤い點 7.5YR6/4 (内) に赤い黄褐 10YR6/4		
103-112 4		G11 140919	黑色粘 質土	甌文 土器	浅鉢	(20.7)					(外) 口縁端部 陶文・此彫1条 ・ナデ (内) ナデ	白色微砂粒わ ずかに含む	良好 (外) 黄褐 2.5YR8/1 (内) 白灰 2.5YR8/2		
103-112 5		G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	盤	(18.3)					(外) 口縁端部 陶文・ナデ・タ テ方向ミガキ後 ナデ (内) ヨコ方向 ミガキ・ナデ	1~2mm白色砂 粒わざかに含む	良好 (外) に赤い黄褐 10YR6/3 (内) 黄褐 10YR5/1		
103-112 6		G10 150130	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) 口縁端部 陶文・ナデ (内) ミガキ	白色小砂粒多く 含む	良好 (外) に赤い點 7.5YR5/4 (内) 黄褐 7.5YR5/2		
103-112 7		F7 150126	青灰色 粘質土	甌文 土器	深鉢	(31.1) (36.2)					(外) 摩擦 (内) 摩擦	1~4mm白色砂 粒非常に多く含 む	良好 (外) 黄褐 10YR4/2 (内) 黄褐 10YR4/2		
103-112 8		G11 140918		甌文 土器	深鉢	(40.8)					(外) 隆帯文・ 陶文・ヨコ方向 ナデ (内) ナデ	1~2mm白・赤 色砂粒わずかに 含む	良好 (外) 黄褐 10YR5/2 (内) 黄褐 10YR5/2		
103-112 9	1175- 1225	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢	(20.1) (21.2)					(外) ナデ・ハ ラ描き文様 (内) 脱臼直彫 ・ナデ	1mm白・暗灰色 砂粒含む	良好 (外) 黄褐 2.5YR6/2 (内) 浅黄 2.5YR7/3		
103-112 10	1325- 1326	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	鉢	(19.7) (21.0)					(外) ハラ描き 直線文・二重円 文・ミガキ (内) ヨコ・斜 め方向ミガキ・ ナデ	1~5mm砂粒わ ずかに含む	良好 (外) に赤い點 2.5YR6/3 (内) 浅黄 2.5YR7/3		外面:スヌ 付着
104-109 1		G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢	(33.8) 35.7 34.4 5.9					(外) ナデ・柔 軟・複 陶文・柔削 直彫・柔削	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) に赤い點 10YR7/3 (内) に赤い柔軟 10YR7/3		
104-112 2	1358	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢	(9.6)					(外) ヨコ方向 ナデ (内) ナデ・柔 軟直彫・柔削	1mm以下白色砂 粒少し含む	良好 (外) に赤い點 3YR6/4 (内) に赤い柔軟 3YR5/3		
104-112 3		G10 150126	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) 摘脱直彫 ・ナデ	2~3mm白色砂 粒含む	良好 (外) 黄 10YR4/4 (内) 黄褐 10YR5/2 胡塗直彫 土器		口縁部内 面肥厚指 胡塗直彫 土器
104-113 4	1398	G10 150129	第8道 構面	甌文 土器	深鉢						(外) 美痕・摩 滅 (内) 摘脱直彫 ・ナデ	白・褐色小砂粒 等多く含む	良好 (外) 黄褐 10YR5/2 (内) に赤い黄褐 10YR6/3		L1縁部内 面肥厚指 胡塗直彫 土器

第5章 総括

地図番号	国版番号	Pno.	グリット F1付	透構名	出土 位置	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
104-5	113	1379	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢						(外)ナデ・ (内)指透圧痕 ・ナデ	白・灰色小砂粒 やや多く含む	良好 (外)灰黄褐色 (内)にぶい黄 10YR6/2 (内)灰黄2.5Y7/4	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器	
104-6	113	1569	G10 150130	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(36.6)	(38.2)				(外)ナデ・ 条痕 (内)指透圧痕 ・ナデ	2~5mm灰・黃 色砂粒含む	良好 (外)にぶい黄 10YR7/2 (内)灰黄2.5Y7/2	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器	
104-7		1226	150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(34.6)					(外)ナデ・ 条痕 (内)指透圧痕 ・条痕	2mm粒多く含む	良好 (外)にぶい黄 10YR6/3 (内)にぶい黄 2.5W6/3	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器	
104-8	113	1090	G6 150123	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(32.8)	(33.7)				(外)ナデ・ 条痕 (内)指透圧痕 ・ナデ	1~2mm白色砂 粒非常に多く含む	良好 (外)にぶい黄 10YR6/3 (内)にぶい黄 7.5W5/4	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器	
105-1	114	1242	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(34.0)					(外)ナデ・ 条痕 (内)指透圧痕 ・ナデ	1m以下白・黃 色砂粒含む	良好 (外)にぶい黄 10YR6/3 (内)灰黄2.5Y7/2	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器 ・又付着	
105-2	114	1254	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(19.4)	(23.4)				(外)ナデ・ 指透圧痕・条痕 (内)指透圧痕 ・ナデ	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外)灰灰10YR5/1 (内)にぶい黄 10YR6/3	口縁部内 面肥厚筋 透圧痕土器	
105-3	114	1161	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢						(外)条痕 (内)条痕	1~2mm白色砂 粒含む	良好 (外)にぶい黄 10YR7/2 (内)灰黄2.5Y6/2		
105-4	114		G10 150127	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(32.0)					(外)ナデ・ (内)口端部 折れけ・ナデ	金芸母・ガラス 微砂粒含む	良好 (外)にぶい黄 10YR7/2 (内)灰黄10YR4/2		
105-5	114	1385	G10 150127	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(29.6)	(31.2)				(外)ナデ・ (内)ナデ	1~2mm白・灰 色砂粒多く含む	良好 (外)灰黄2.5W6/1 (内)黄2.5W6/1		
105-6	115	1512-1521	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(28.4)	(29.6)				(外)ナデ (内)ナデ	1m以下砂粒多 く含む	良好 (外)にぶい 7.5W7/4 (内)にぶい黄 10YR7/2		
105-7	114	1385	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢						(外)条痕 (内)ナデ	1m以下白・赤 色砂粒多く含む	良好 (外)黒周10YR3/1 (内)にぶい黄 10YR6/4	外曲:又 付着	
105-8	114	1493	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢						(外)ナデ・ 条痕 (内)ナデ	5mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外)灰灰7.5YR4/2 (内)黒周10YR3/1		
105-9	114	1447	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢						(外)ナデ (内)ナデ	1~2mm白色砂 粒多く含む	良好 (外)灰黄2.5Y7/2 (内)黄2.5Y5/3	粘土細 目顯著/ 外曲:被熱 変度	
105-10	114	1138	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(24.4)					(外)ナデ (内)ナデ	1~3mm白色砂 粒含む	良好 (外)褐褐10YR3/3 (内)灰黄10YR6/2		
105-11	115	1355	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(20.3)					(外)ナデ・ 条痕 (内)ナデ	1mm白色砂粒含 む	良好 (外)にぶい黄 10YR5/4 (内)にぶい黄 10YR6/4	全面:又 付着	
105-12		1172	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	深鉢	(19.8)					(外)条痕 (内)ナデ	白色微砂粒多く 含む	良好 (外)にぶい黄 10YR5/3 (内)にぶい 7.5W7/4	浅状口縁 分	
106-1	115	1287	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	底部			7.2	(外)ナデ (内)ナデ	1m以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外)浅灰2.5Y7/3 (内)灰2.5Y8/2				
106-2	115	1195	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	底部			5.4	(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外)にぶい黄 10YR7/3 (内)にぶい黄 10YR7/3				
106-3	115	1345	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	底部			7.2	(外)ナデ (内)ナデ	1m以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外)浅灰2.5Y7/3 (内)オーピーブ 5Y3/3				
106-4	115	1518	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	底部			5.0	(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒わ ずかに含む	良好 (外)にぶい 7.5YR6/4 (内)灰黄周 10YR5/2				
106-5	115	1509	G10 150129	第8透構面	縦文 土器	底部			6.0	(外)ナデ (内)ナデ	1m以下砂粒多 く含む	良好 (外)灰黄褐 10YR6/2 (内)灰黄2.5Y7/2	底部:繊維 網压痕			

碑固 番号	固版 番号	Pno.	グリッ ド付	遺構名	出土 材別	種別	器種	口径	最大 径	器高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
106- 115 6	1563	G10 150130		第8遺 構面	甕文 土器				7.0			(外)ナデ (内)ミガニ・ 崩滅	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐色 10YR8/3 (内)灰白色 10YR7/2	
106- 115 7		G10 150120		青灰色 粘質土 土器	甕文 底部				(7.8)			(外)ナデ (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 10YR8/2 (内)灰白色 10YR8/2	
106- 115 8	1379	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(7.0)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 10YR8/2 (内)灰白色 10YR8/2	
106- 115 9	1364	G10 150124		第8遺 構面	甕文 土器				7.0			(外)ナデ (内)ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐色 2.5YR7/3 (内)灰褐色 2.5Y5/1	
106- 115 10	1287	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				7.2			(外)ナデ (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐色 10YR7/3 (内)灰白色 10YR6/1	
106- 115 11		G10 150128		第8遺 構面	甕文 底部				(3.4)			(外)ナデ (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 10YR8/3 (内)灰白色 10YR3/1	
106- 115 12		G10 150130		第8遺 構面	甕文 土器				(6.9)			(外)ナデ (内)ミガニ・ 崩滅	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐色 SV7/4 (内)灰褐色 10YR5/2	
106- 116 13	1564	G10 150130		第8遺 構面	甕文 土器				7.4			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 7.5YR7/3 (内)灰白色 SY6/1	
106- 115 14	1261	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(5.4)			(外)ナデ (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)浅黄褐色 10YR7/3 (内)灰白色 10YR8/2	
106- 116 15	1284	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(10.2)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 10YR7/3 (内)灰白色 10YR7/4	底部: 貼土 粗面
106- 115 16		G10 150130		第8遺 構面	甕文 土器				(9.6)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 10YR6/2 (内)灰褐色 10YR5/1	
106- 116 17		G10 150130		第8遺 構面	甕文 土器				(8.6)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 2.5Y8/2 (内)灰褐色 2.5Y5/1	
106- 116 18	1525	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(8.6)			(外)美瓶・ナ デ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y7/2 (内)灰褐色 2.5Y5/1	内面: 被熱 黒変
106- 116 19		G10 150128		第8遺 構面	甕文 土器				(7.3)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 10YR6/2 (内)灰白色 10YR6/1	底部: 貼土 粗面
106- 116 20	1284	G10 150129		第8遺 構面	甕文 底部				(7.4)			(外)ナデ・底 面竹管状網目 込み (内)兼渠後ナ デ・崩滅	2mm以下砂粒多 く含む 金具等無く 含む	良好	(外)灰褐色 7.5YR7/4 (内)灰白色 2.5Y8/2	外側: 粗 張状
106- 116 21	1548	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(16.2)			(外)ナデ (内)崩滅	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y5/1 (内)灰褐色 10YR5/2	
106- 116 22		G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(9.6)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y6/3 (内)灰褐色 2.5Y4/1	底部: 相持 压痕
106- 116 23	1290	G10 150129		第8遺 構面	甕文 土器				(6.5)			(外)ナデ・底 面未調整 (内)ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y7/2 (内)灰褐色 2.5Y7/2	
106- 116 24	140918	G5 150129	第5遺 構面	浅井 土器				(8.0)			(外)ナデ (内)ナデ	白色微砂粒わす かに含む	良好	(外)白 2.5Y8/6 (内)灰白色 10YR7/1		
106- 116 25	1387	G10 150129	第8遺 構面	甕文 土器				5.3			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 10YR7/3 (内)灰褐色 2.5Y4/1		
106- 116 26	1305	G10 150129	第8遺 構面	甕文 土器				6.0			(外)ナデ (内)ナデ	4mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y7/2 (内)灰褐色 2.5Y6/1		
106- 117 27	1226	G10 150129	第8遺 構面	甕文 土器				6.7			(外)美瓶・ナ デ・崩滅 (内)ナデ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y7/2 (内)灰褐色 2.5Y6/1		
106- 117 28	1542 1555	G10 150129	第8遺 構面	甕文 底部				(7.1)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 7.5YR7/4 (内)灰褐色 2.5Y4/1		
106- 117 29	1324	G10 150129	第8遺 構面	甕文 底部			(18.0)	(7.5)			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 10YR7/1 (内)灰白色 10YR8/2		
106- 116 30	1307	G10 150129	第8遺 構面	甕文 土器				6.0			(外)ナデ (内)ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰白色 2.5Y8/3 (内)灰褐色 2.5Y4/1	底部: 貼土 粗面	
106- 116 31	1524	G10 150129	第8遺 構面	土質 品	不明	直 径 4.7	高 3.5	厚 1.2				側突状くぼみ	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外)灰褐色 2.5Y8/3 (内)灰褐色 2.5Y4/1	

種別 番号	固版 番号	Pno.	グリッ F1付	遺構名	出土 部位	種別	器種	口径	最大 径	高さ	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
106- 116 32	1524 150129	G10 G10		第8 進 耕面	土製 品	不明	長4.5 長	幅3.7 幅	厚0.9 厚			側尖状くぼみ わざかに含む	1mm以下小砂粒 わざかに含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 黄 2.5Y4/1		
106- 116 33	1524 150129	G10 G10		第8 進 耕面	土製 品	不明	長2.9 長	幅1.8 幅	厚0.7 厚			側尖状くぼみ わざかに含む	1mm以下小砂粒 わざかに含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 黄 2.5Y4/1		
108- 120 1	150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢							(外) 検査部 ハラ福文・ナ デ・摩滅 (内) 丁寧なナ デ・粗いナデ・ 摩滅	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/6 (内) 茶灰 7.5YR5/1		
108- 120 2	150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢	(2.2)						(外) 日コ方向 ミガキ (内) ナデ・日 コ方向ミガキ	2~5mm赤色砂 粒含む	良好 (外) にぶい褐 7.5YR6/3 (内) 灰白 10Y8B/2		
108- 120 3	150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢							(外) 条痕 (内) ナデ	1mm以下白色小 砂粒多く含む	良好 (外) 灰黄褐色 10YR6/2 (内) 黄質 2.5Y7/2		
108- 120 4	150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	茂鉢	(30.8)						(外) ナデ・条 痕・磨滅 (内) 三ガキ・ 磨滅	1~5mm白・赤 色砂粒含む	良好 (外) にぶい褐 3YR7/6 (内) にぶい褐 5YR7/6	浅灰色II	
108- 121 5	1181	150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	茂鉢						(外) ナデ (内) ナデ	4mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 灰黄褐色 10YR4/2 (内) 灰褐色 10YR4/2 削離		
108- 120 6		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	茂鉢	(29.6)	(36.2)				(外) 日コ方向 ミガキ・ナデ (内) ナデ	1mm白色小砂粒 非常に多く含む	良好 (外) 黑灰 10YR5/1 (内) 灰黄褐色 10YR5/2		
108- 120 7		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢	(21.0)					(外) 検査部 縦文・丁寧なナ デ (内) ナデ	1mm白色砂粒少 く含む	良好 (外) 淡黄 2.5Y8/3 (内) 浅黄 2.5Y7/3		
108- 120 8		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢						(外) ナデ (内) ナデ	1~2mm白色小 砂粒や多く含む	良好 (外) にぶい赤褐色 5YR5/4 (内) 灰黄褐色 10YR6/2		
108- 120 9		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢	(29.2)	(29.8)				(外) ナデ・条 痕 (内) 美痕	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 剥離 10YR4/1	表面:スヌ 付着	
108- 120 10		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢	(27.4)					(外) 条痕・磨 滅 (内) ナデ	1~2mm白色砂 粒や多く含む	良好 (外) にぶい黄 2.5Y6/3 (内) 浅黄 2.5Y7/4		
108- 121 11	1200	9Line Tr	下層	縦文 土器	深鉢	(27.2)	(27.6)				(外) 丁寧なナ デ (内) 丁寧なナ デ	3mm以下白色砂 粒わざかに含む	良好 (外) 灰黄褐色 10YR5/2 補修孔 (内) 灰黄褐色 10YR5/2			
108- 121 12		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器				(7.2)			(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 淡 5YR7/6 (内) 黒褐色 2.5Y3/1		
108- 121 13		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器				(9.4)			(外) ナデ (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 淡 5YR7/6 (内) 剥離 10YR4/1		
108- 121 14		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器				(0.0)			(外) ナデ (内) ナデ	3mm以下砂粒多 く含む	良好 (外) 浅黄褐色 10YR8/4 (内) 灰白 10YR8/2		
108- 121 15		150129	9Line Tr	下層	縦文 土器				(10.7)			(外) ナデ (内) ナデ	3mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) 淡 2.5YR7/6 (内) 黄褐色 2.5Y4/1		
110- 124 3	140909		北側壁 水溝	土製 品	長径 円盤	5.7	幅径 5.4	厚	0.7			(外) 条痕 (内) 丁寧なナ デ	2mm以下ガラス 質砂粒や多く含 む	良好 (外) 黑褐色 10YR3/2 (内) 剥離 10YR4/1	打引き未 調整 背面:スヌ 付着	
110- 125 4	F5 140702		排水路 生糸	甕	縦文 土器	(19.9)	(19.6)					(外) 日コナデ 段・タテ方向 ハケ目 (内) ヨコナデ ・ヨコ方向ハケ 目	1~2mm白色砂 粒わざかに含む	良好 (外) にぶい黄褐色 10YR7/2 (内) 黑褐色 7.5YR3/2		
110- 125 5	140617	9Line Tr	生糸 土器	甕	(2.7)	(21.4)						(外) ヨコナデ ・直線文3条・ 摩滅 (内) ヨコナデ ・摩滅	3mm以下白色砂 粒多く含む	良好 (外) 灰褐色 7.5YR6/2 (内) 浅黄褐色 10YR8/3		
110- 125 6	140708	9Line Tr	縦文 土器	甕								(外) ミガキ後 直線文摩滅 (内) ヨコ方向 モザイクナデ ・摩滅	1~2mm白色砂 粒多く含む	良好 (外) にぶい褐 5YR7/4 (内) 灰褐色 5YR4/2		
111- 125 1	140910	7Line バブルト	縦文 土器	甕								(外) 検査部 無剥離・ミガ キ牛 (内) ミガキ牛	ガラス質砂 粒や多く含む	良好 (外) 黄褐色 2.5Y5/1 (内) 黄褐色 2.5Y5/1	方而剥離	

神岡 番号	出版 番号	Pno.	グリッ ド日付	道構名	田土 種別	縦切 面	横断 面	口径	最大 径	筋高	底径	調整及び手法	胎土	焼成	色調	備考
111-125 2		FB 140714		北側排水路	縄文 土器	深鉢						(外) ヨコ方向 ミガキ・柔韌 (内) 口縁端部 内側1箇・ヨコ 方向ミガキ	1mm以下透明砂 粒多く含む	良好	(外) 黒赤 2.5YR1.7/1 (内) 黑褐 5YR3/1	黒色焼成
111-125 3		F9 150128		北壁	縄文 土器	浅鉢	(42.5)	(44.0)				(外) ヨコ方向 ミガキ (内) ヨコ方向 ミガキ	ガラス質微粒 わずかに含む	良好	(外) 黒褐 10YR4/1 (内) 黑褐 10YR4/1	
111-128 4		9Line Tr		縄文 土器	遊歩			16.0	6.7			(外) 剥皮突起 の剥離・削除 ヨコ方向ミガキ ・赤彩 (内) ナデ・ヘ ラ状工具押え痕	1mm以下白色砂 粒わずかに含む	良好	(外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 灰黄褐 10YR5/2	赤彩(赤 10R5/8)
111-125 5		IR 140910		南水路	縄文 土器	深鉢						(外) 刻目実際 2段・柔韌 (内) 柔韌	白色小砂粒や少 多く含む	良好	(外) 黒褐 5YR4/2 (内) 黑褐 7.5YR5/1	朱赤焼成
111-125 6		F5 140707		排水路	縄文 土器	深鉢						(外) 口縁頂部 明日・端部下駄 付朝廷突堤・柔 韌後ナデ (内) 柔韌後ナ デ	2mm以下砂粒や 少多く含む	良好	(外) に赤い赤褐 5YR4/3 (内) 黑 5YR4/1	
111-125 7		I-40705 7 ~ 8Line		南側排水 水路	縄文 土器	深鉢						(外) 口縁頂部 山形・端部下駄 突堤・ナデ (内) 摩擦	1mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 褐 2.5YR6/8 (内) 黑褐 7.5YR6/1	
111-124 8		1059 150120	7Line ベルト		縄文 土器	深鉢	(22.4)	(21.0)				(外) 口縁頂部 明日・端部下駄 付朝廷突堤・柔 韌後ナデ・柔韌 (内) ナデ・柔 韌	1 ~ 5mm白色砂 粒含む	良好	(外) に赤い黒 2.5YR6/3 (内) に赤い黒 2.5YR6/3	外内面:ス ス付着
111-125 9		150114 9 ~ 10 Line		北側排水 水溝	縄文 土器	壺	(16.4)	(21.2)				(外) 口縁端部 削離・縫合文様・ヨ コ方向ミガキ・ 縄文 (内) ナデ	2mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) に赤い黄褐 10Y7/2	
111-125 10		I-41106 7 ~ 8Line		北側排水 水溝	縄文 土器	鉢	(22.4)	(23.8)				(外) 繩文單脚 RL (内) ヨコ方向 ミガキ	1 ~ 5mm白色砂 粒含む	良好	(外) 赤褐 5YR4/8 (内) 明赤褐 5YR5/8	
111-125 11		IR 140910		南水路	縄文 土器	深鉢	(17.2)	(17.8)				(外) 口縁頂部 明日・ナデ・柔 韌 (内) 柔韌	3mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 黒褐 2.5Y7/2 (内) に赤い黄褐 10YR6/3	外内面:ス ス付着
111-125 12		G10 140917		北~東 側排水 溝	縄文 土器	深鉢						(外) 美痕 (内) 口縁頂部 明日・ナデ	4mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 10YR6/1 (内) に赤い 2.5YR6/4	
111-125 13		I-40715		西側排水 水溝	縄文 土器	深鉢						(外) ナデ・柔 韌・斜め方向 柔韌 (内) ヨコ方向 柔韌	白・褐色小砂粒 含む	良好	(外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰黄褐 10YR6/3	
111-124 14		H8 150129	9Line Tr	下槽	縄文 土器	底部						(外) ナデ (内) ナデ	4.5mm以下砂粒 多く含む	良好	(外) 灰黄褐 10YR5/2 (内) 黑褐 10YR5/1	底部:繩 縫隙 被熱ヒビ 割れ
111-125 15		B10 140917		北~東 側排水 溝	縄文 土器	浅鉢	(26.0)	(26.6)				(外) ナデ・柔 韌後ナデ (内) ナデ	2mm以下白色砂 粒多く含む	良好	(外) 灰黄褐 10YR6/2 (内) 灰黄褐 10YR4/2	内面:ス ス付着
111-126 16		I-41106 7 ~ 8 Line		北側排水 水溝	縄文 土器	浅鉢						(外) 縄文・擦 消ミガキ・縄文 (内) ナデ・ミ ガキ	ガラス質小砂粒 わずかに含む	良好	(外) 黄褐 2.5Y8/3 (内) 黑 2.5Y8/2	口縁部内 面:スス付 着
111-125 17		I-41106 7 ~ 9ラ イン		北側排水 水溝	縄文 土器	鉢						(外) ナデ・ヘ ラ指き縫削 (内) 柔韌後ナ デ	1mm白色砂粒や 少多く含む	良好	(外) に赤い赤褐 5YR5/4 (内) に赤い赤褐 5YR5/4	

写 真 図 版



古屋敷遺跡全景（空撮：東から）



古屋敷遺跡全景（空撮：西から）

図版2 古屋敷遺跡（D区）



古屋敷遺跡（D区）表土掘削風景（北から）



古屋敷遺跡（D区）表土掘削風景（北から）



古屋敷遺跡（D 区）西壁第 3 遺構面より上層の土層堆積状況（東から）



古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南東から：耕作土直下に SR01 の砂礫が見える）

図版 4 古屋敷遺跡 (D 区)



古屋敷遺跡 (D 区) 西壁土層堆積状況 (南東から : I ライン付近)



古屋敷遺跡 (D 区) 北壁土層堆積状況 (北東から : G ライン付近)



古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南東から：9 ライン付近）



古屋敷遺跡（D 区）北壁土層堆積状況（南西から：8 ライン付近）

図版 6 古屋敷遺跡 (D 区)



古屋敷遺跡 (D 区)7 ライン土層堆積状況 (北東から : G ライン付近 4a ~ 10a 層)



古屋敷遺跡 (D 区)9 ライン土層堆積状況 (南西から : I ライン付近 5a ~ 10a 層)



G17 付近 SD01 土層堆積状況（東から）



G8 付近 SD01 遺物出土状況（西から）

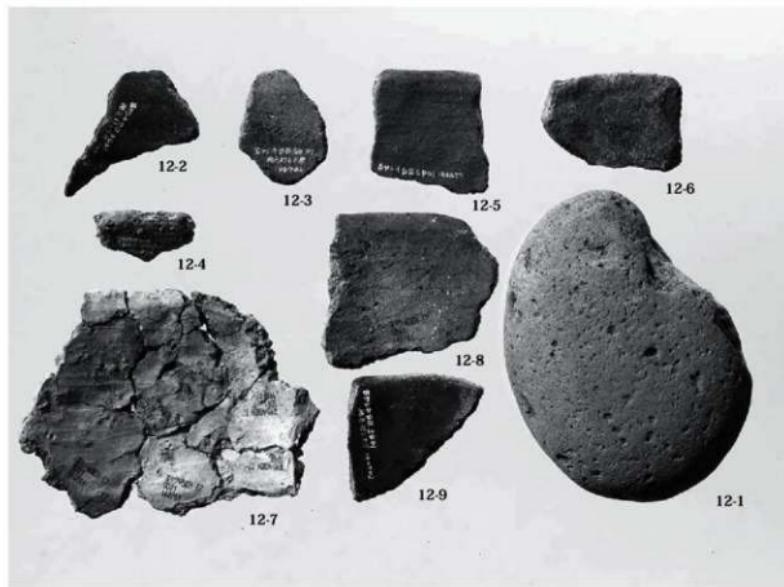
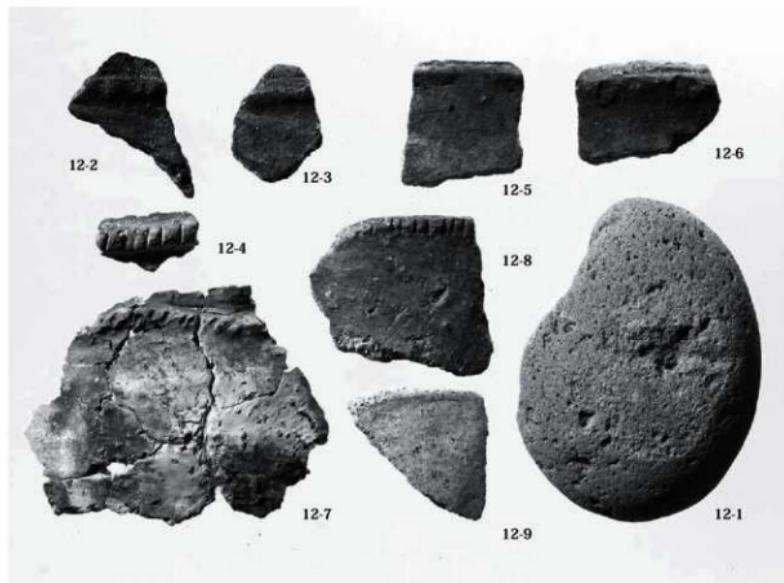


G8 付近 SD01 遺物出土状況（北東から）

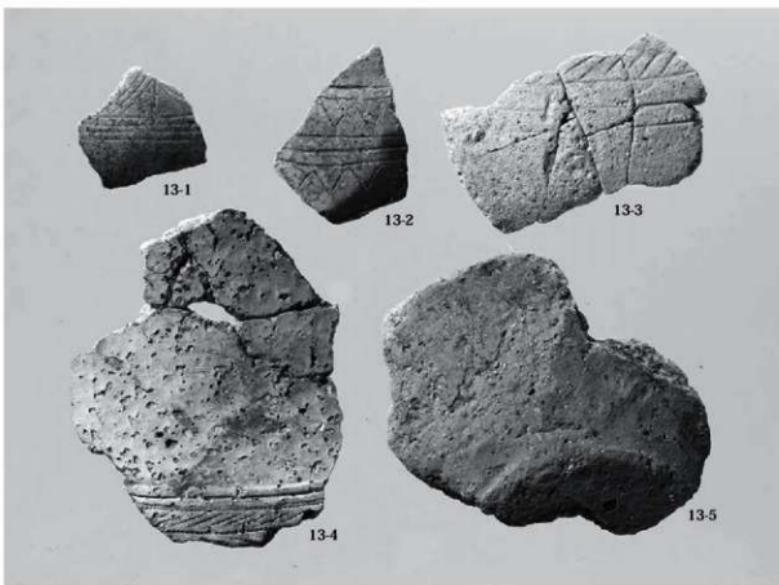


G6 ~ I8 付近第1 遺構面完掘状況（西から）

図版8 古屋敷遺跡(D区)



SD01出土遺物(1)



SD01 出土遺物 (2)

図版 10 古屋敷遺跡 (D 区)



SX01 土層堆積状況（東から）



SX01 検出状況・遺物出土状況（南から）



SX01 完掘状況（南から）



SX02 遺物出土状況（東から）



SX02 作業風景（東から）



SX02 完掘状況（東から）

図版 12 古屋敷遺跡 (D 区)



SX03 完掘状況（東から）



SX05 完掘状況（北から）



SX06 完掘状況（北から）

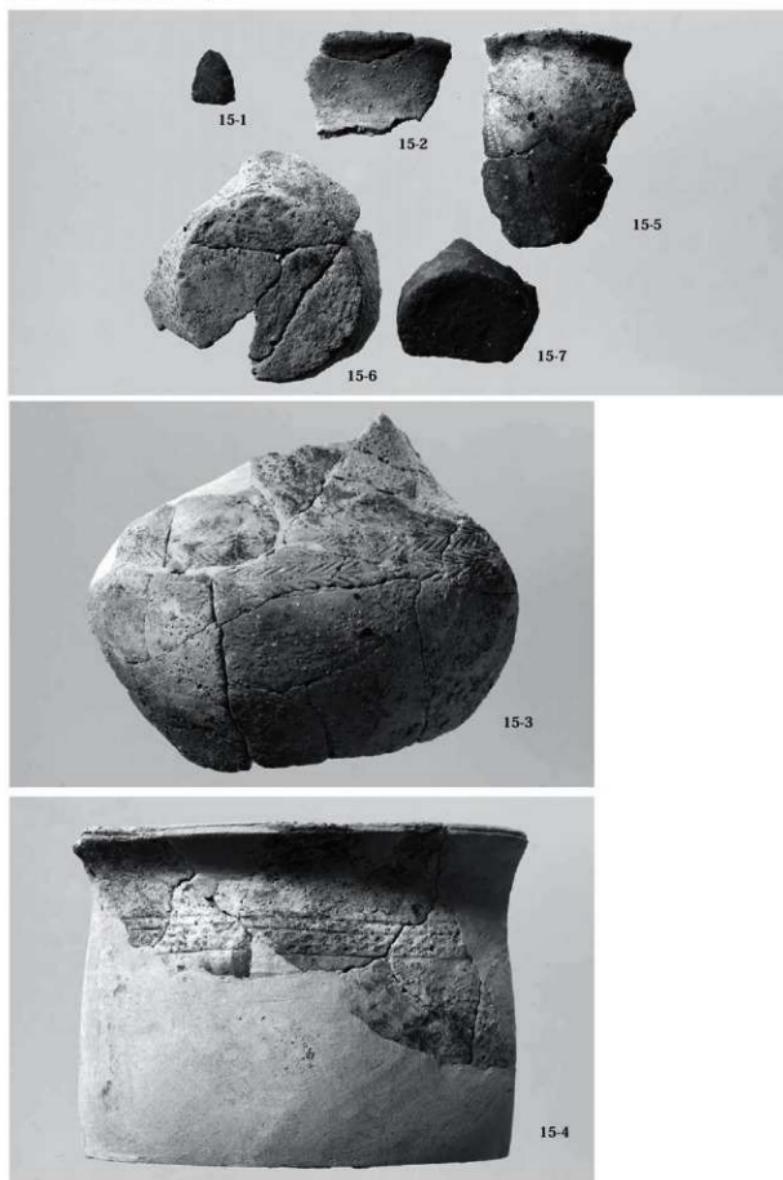


SX07 上層堆積状況（東から）

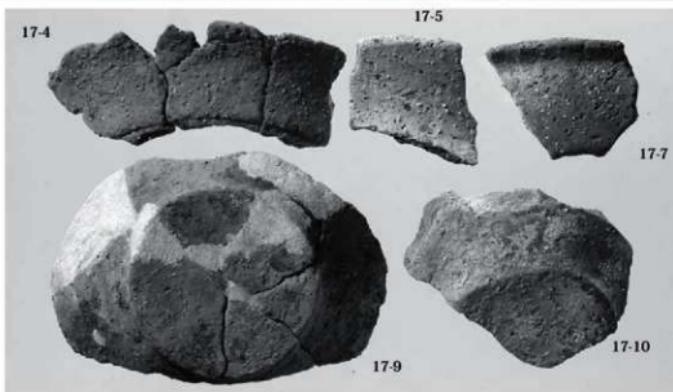


SX09 完掘状況（北から）

図版 14 古屋敷遺跡 (D 区)

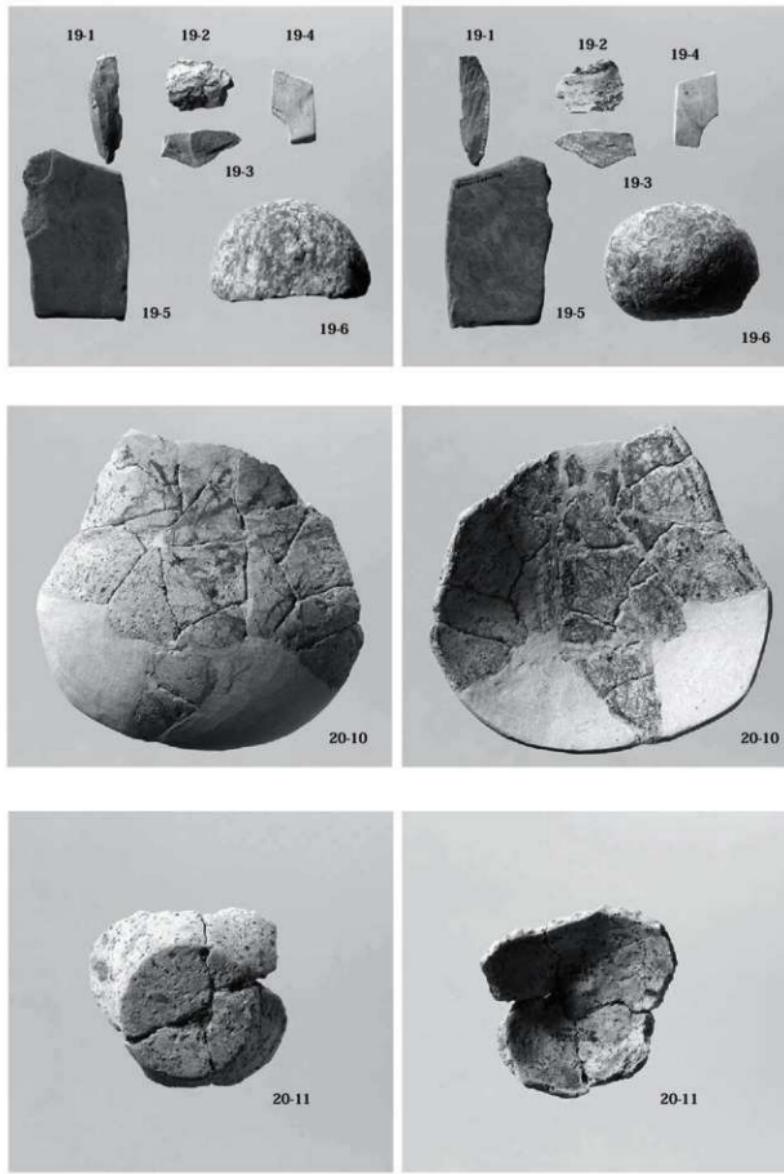


SX01 出土遺物

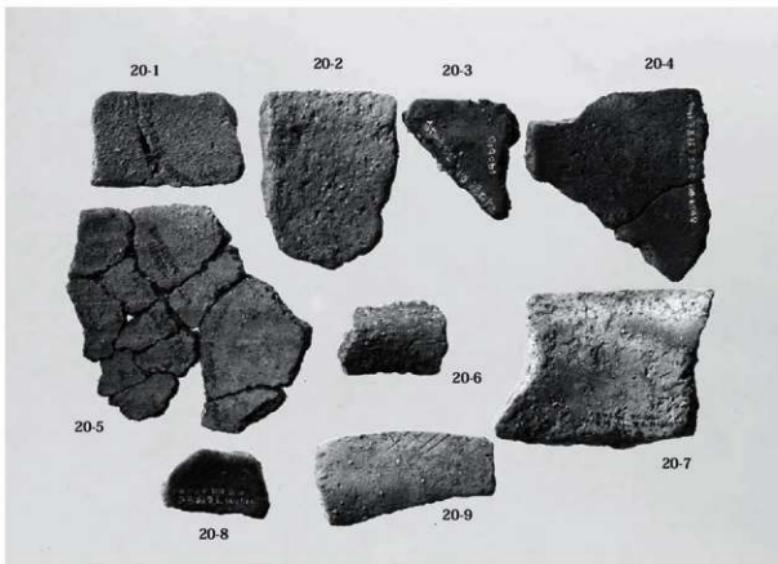
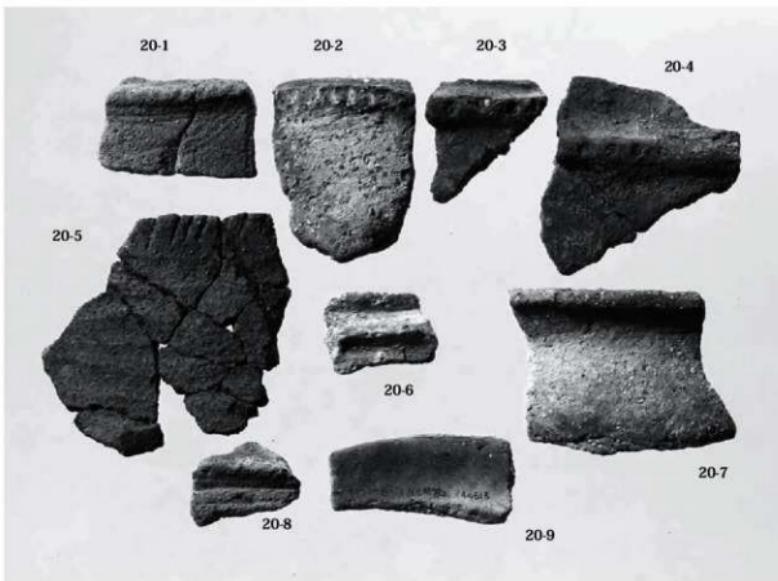


SX02 出土遺物

図版 16 古屋敷遺跡 (D 区)



第 1 遺構面出土遺物 (1)



第 1 遺構面出土遺物 (2)

図版 18 古屋敷遺跡 (D 区)



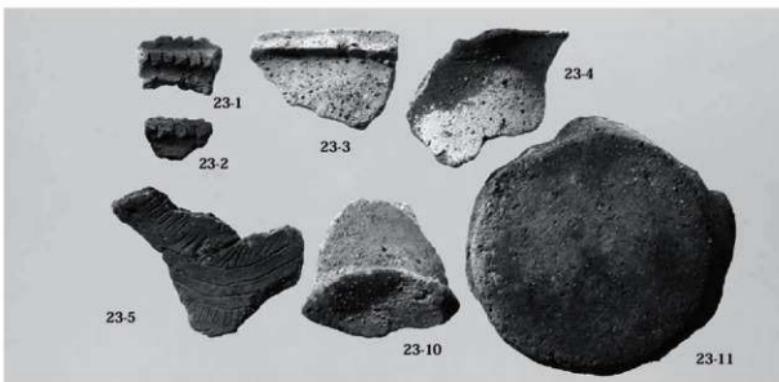
SK02 土層堆積状況（北から）



SK02 遺物出土状況（北西から）

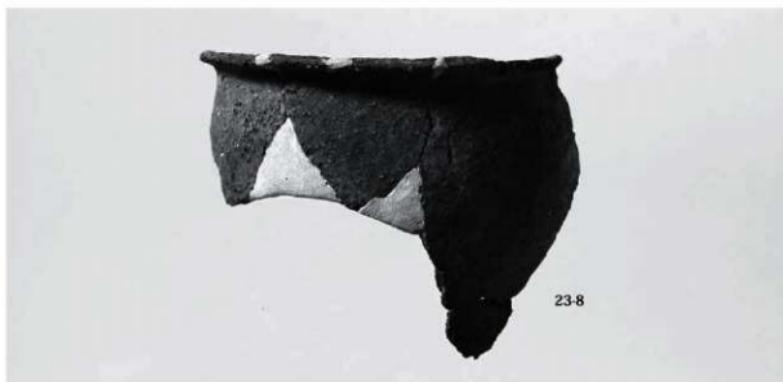


SK02 完掘状況（北東から）



SK02 出土遺物 (1)

図版 20 古屋敷遺跡 (D 区)



SK02 出土遺物 (2)



SK01 檜出状況（北東から）



SK01 蓋板検出状況（東から）



SK01 蓋板検出状況（北東から）



SK01 木棺墓内完掘状況（南東から）

図版 22 古屋敷遺跡 (D 区)



SKO1 棺内土層堆積状況（北から）



SKO1 蓋板か北側板を突き破る杭（東から）



SKO1 棺内完掘状況（東から）



SK01 棺内完掘状況（北から）



SK01 床板除去状況（南東から）

図版 24 古屋敷遺跡（D 区）



木棺墓東小口板と側板の関係（北西から）



木棺墓西小口板と側板の関係（東から）



棺外北側面の土層堆積状況（西から）



棺外東小口の土層堆積状況（北から）

図版 26 古屋敷遺跡 (D 区)



SK01 墓坑上層堆積状況（北から）



SK01 墓坑上層堆積状況（東から）



SK01 完掘状況（東から）



29-1



29-4



28-1



28-2



28-3

SK01 出土木製品 (1)

図版 28 古屋敷遺跡 (D 区)



29-2



28-3

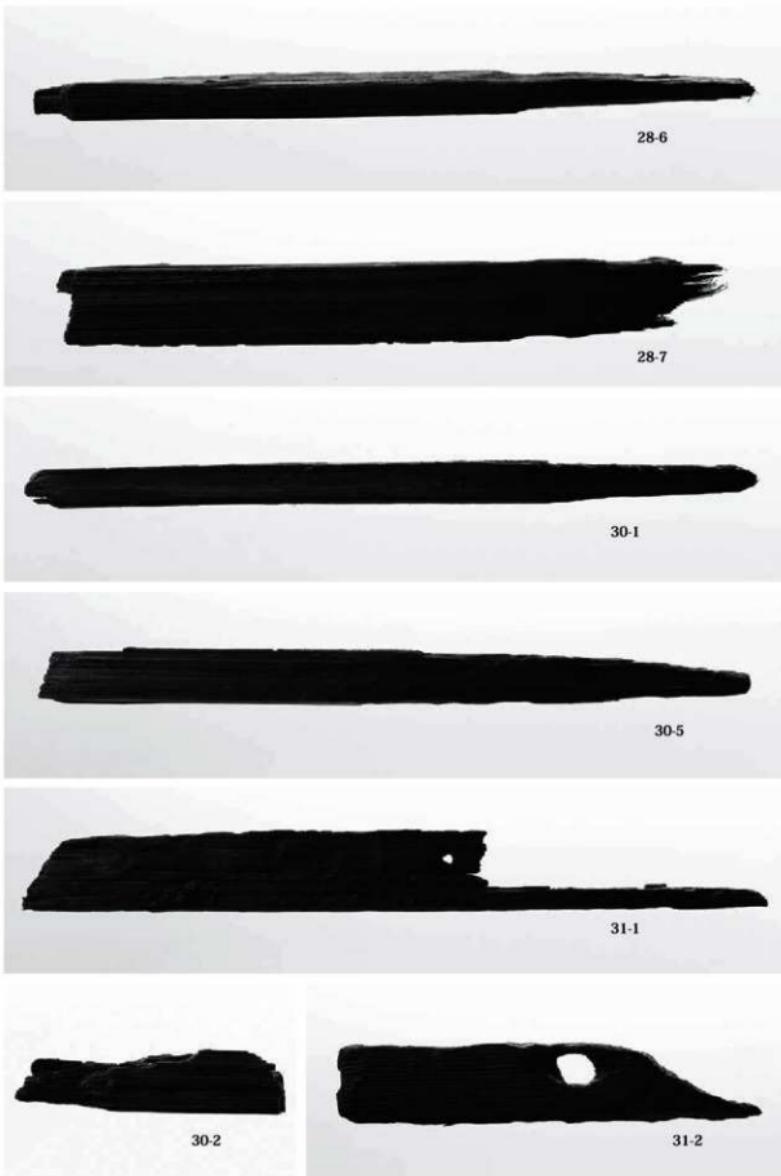


28-4



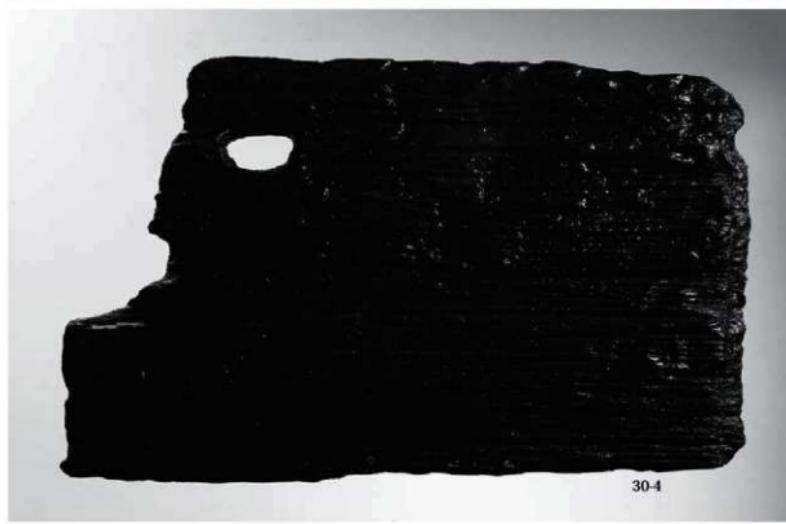
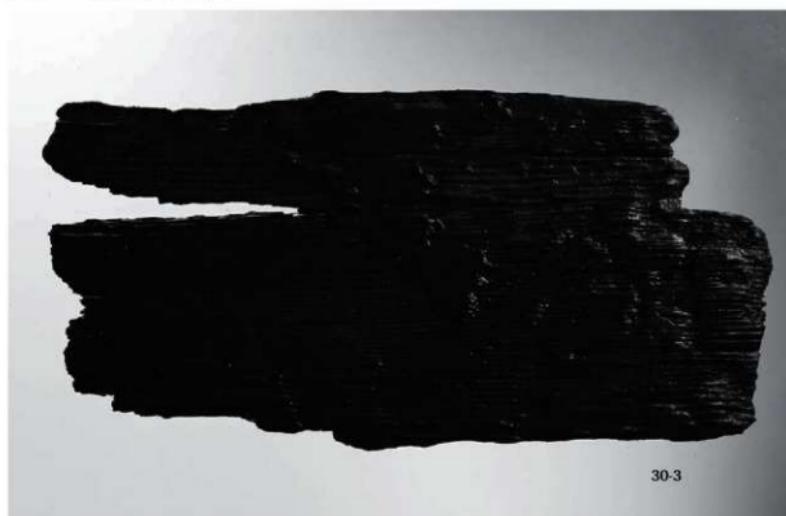
28-5

SK01 出土木製品 (2)



SK01 出土木製品 (3)

図版 30 古屋敷遺跡 (D 区)



SK01 出土木製品 (4)・土器・玉



地床炉 11 完掘状況 (西から)

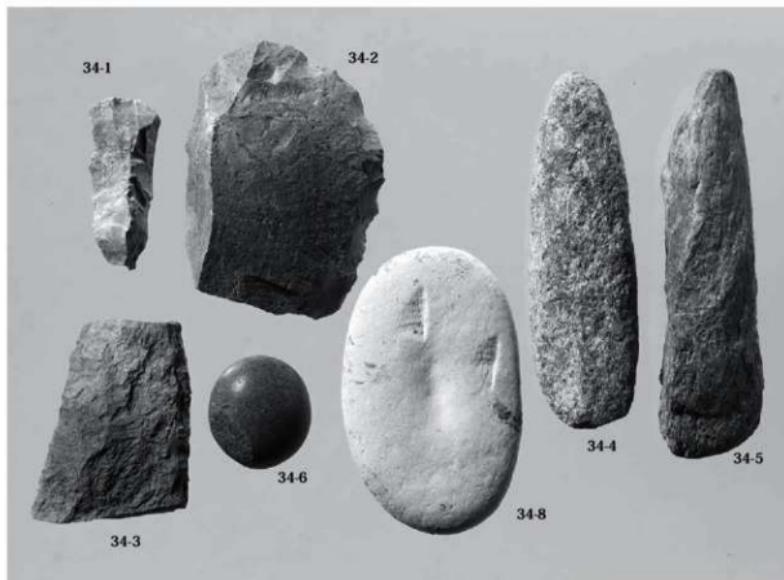


地床炉 24 検出状況 (南から)

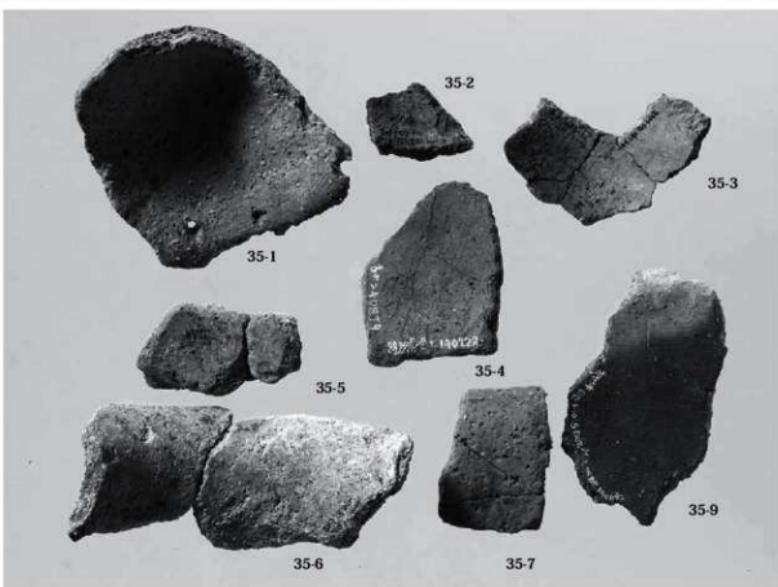
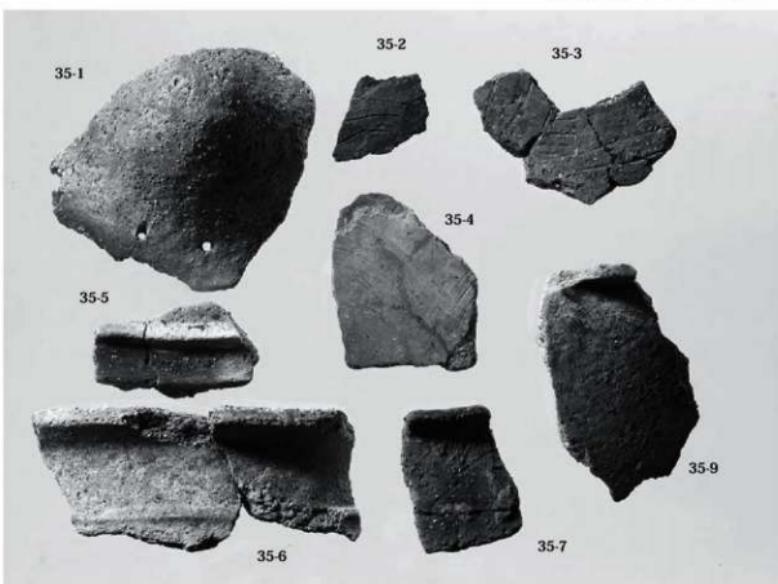


SRO1 検出状況 (南から)

図版 32 古屋敷遺跡 (D 区)

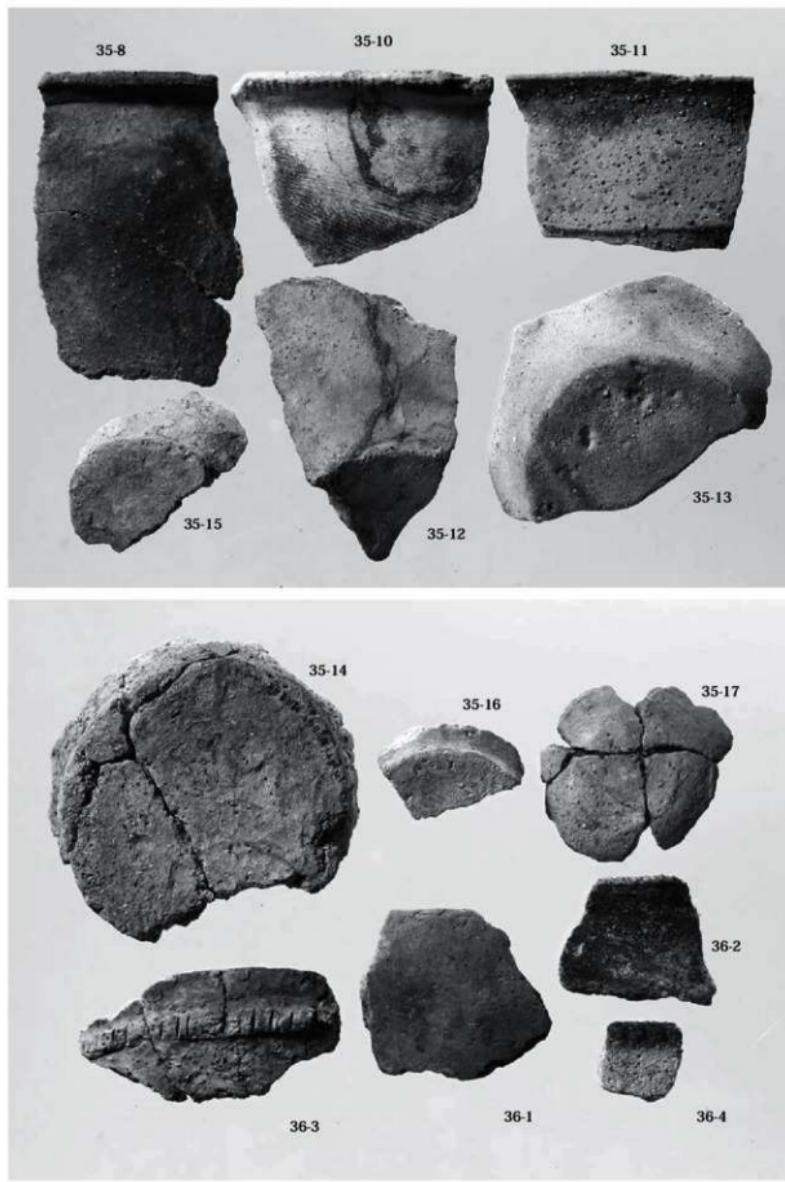


第 2 遺構面出土石器

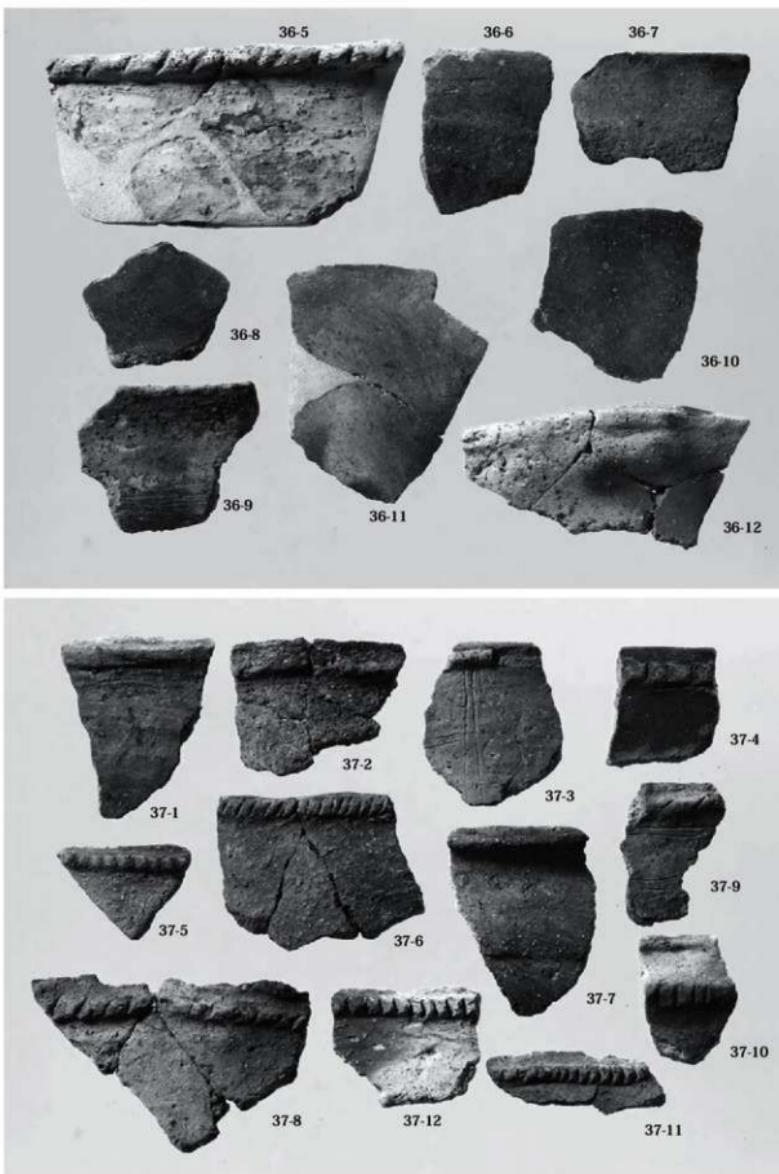


第2 遺構面出土土器 (1)

図版34 古屋敷遺跡(D区)

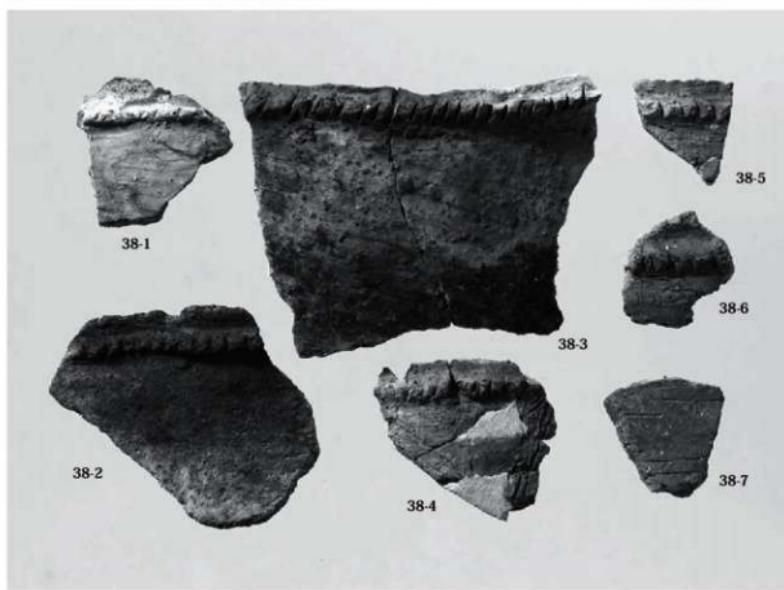
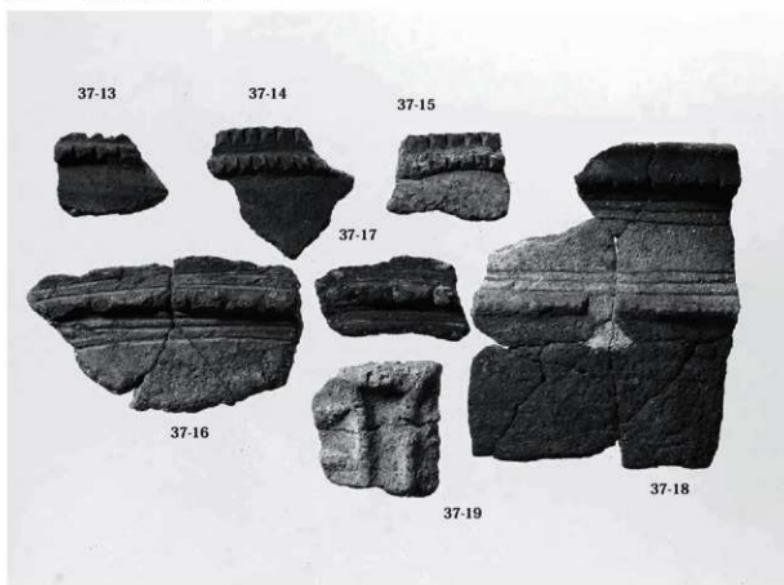


第2 遺構面出土土器 (2)



第2 遺構面出土土器 (3)

図版 36 古屋敷遺跡 (D 区)



第 2 遺構面出土土器 (4)

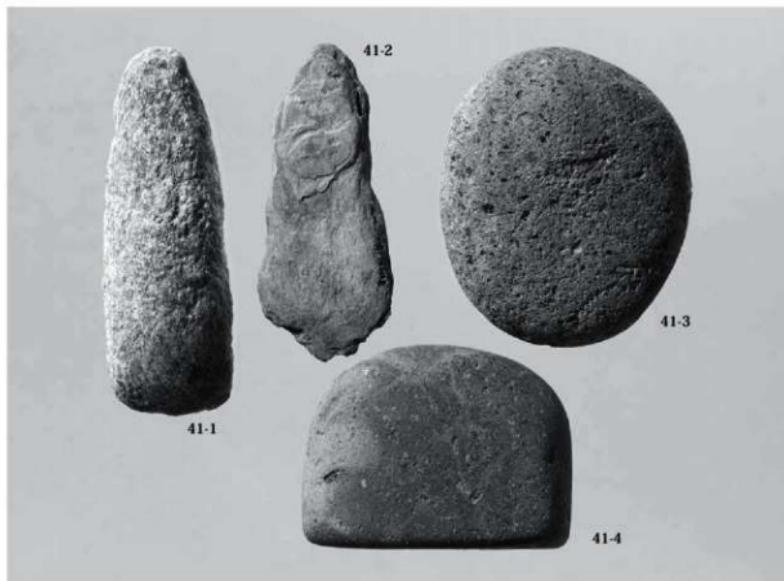


土器だまり 1 検出状況（北西から）



地床炉 47 土層堆積状況（西から）

図版 38 古屋敷遺跡 (D 区)



土器だまり 1 出土遺物



G6 付近第 3 遺構面完掘状況（西から）

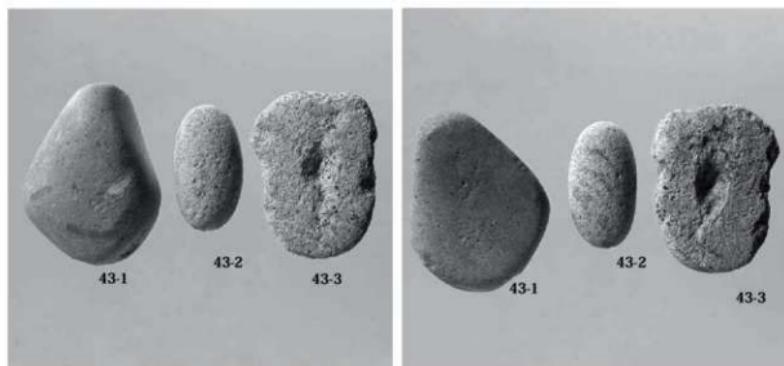
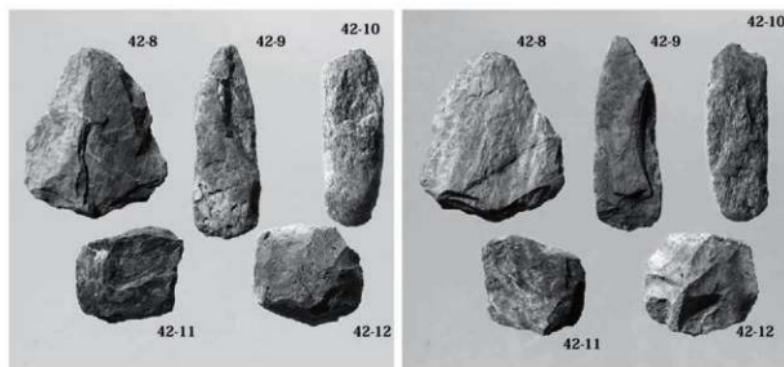
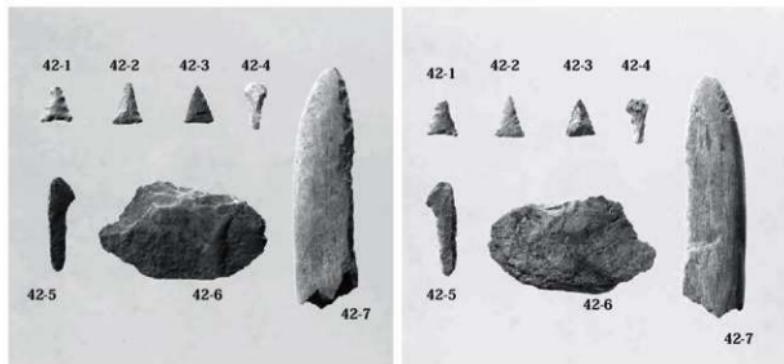


G10・H10 付近第 3 遺構面完掘状況（東から）

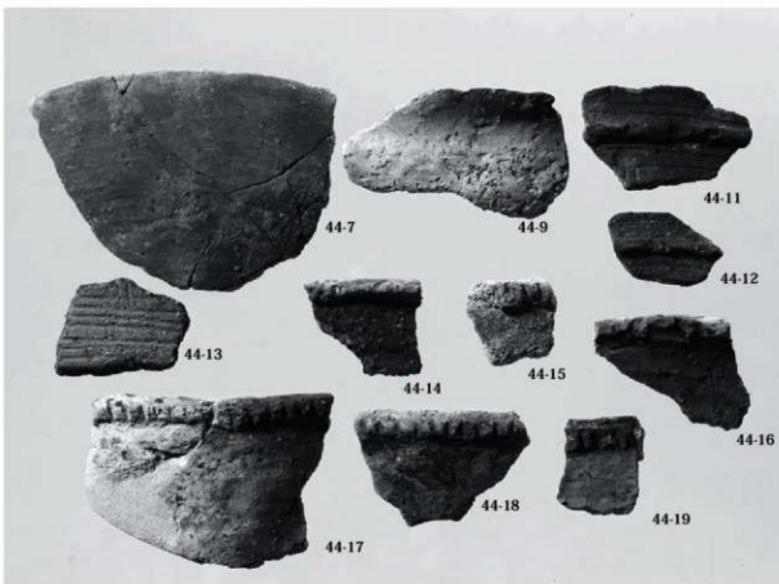
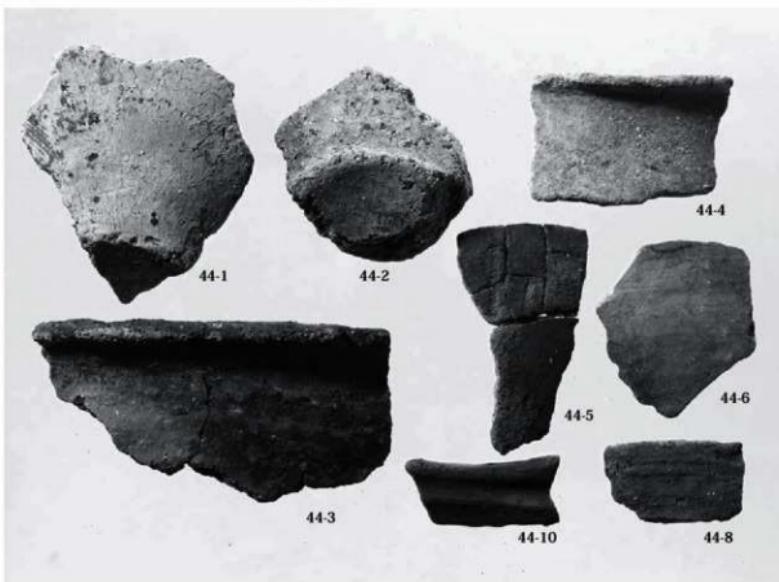


H10・G10 付近第 3 遺構面完掘状況（南から）

図版 40 古屋敷遺跡 (D 区)

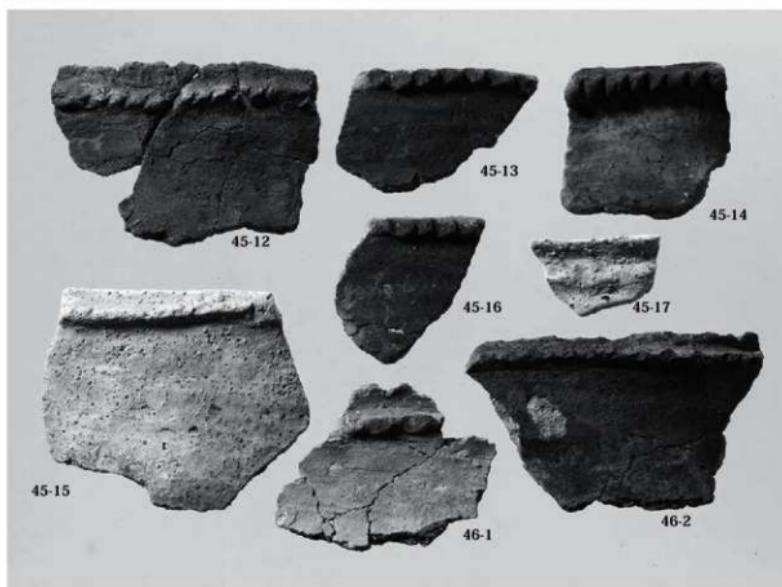
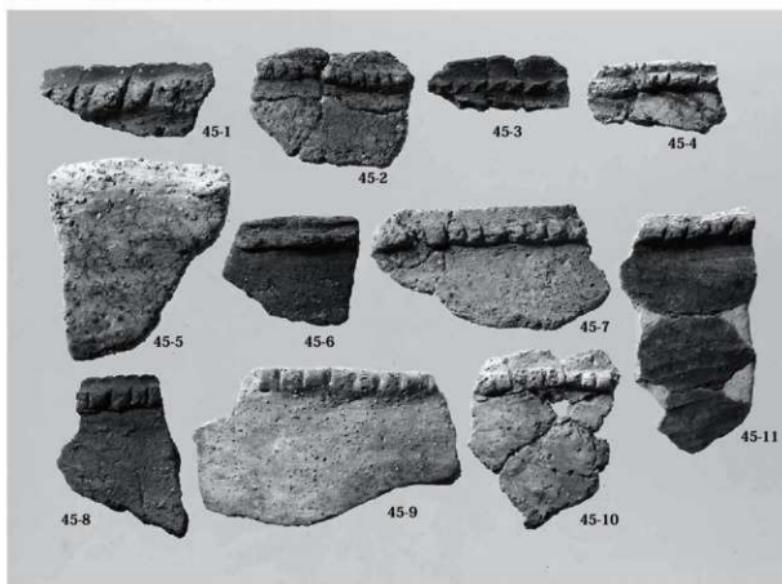


第3 遺構面出土石器

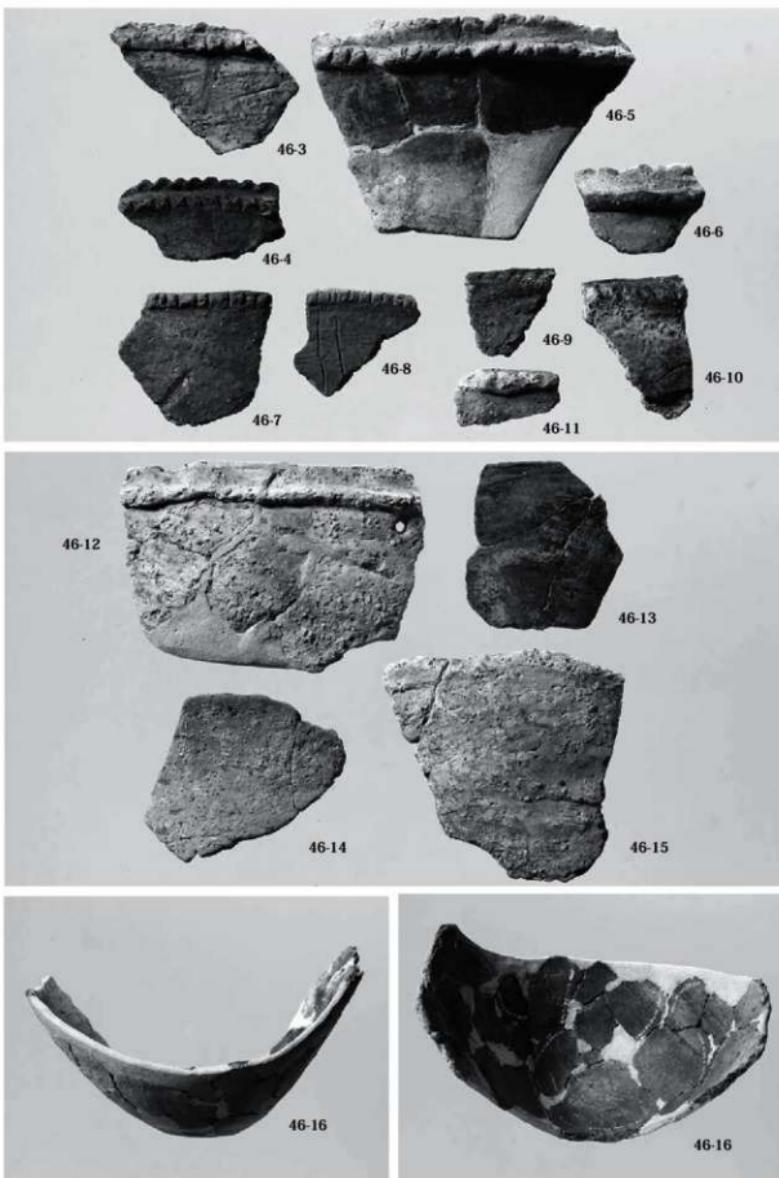


第3 遺構面出土土器 (1)

図版 42 古屋敷遺跡 (D 区)



第3 遺構面出土土器 (2)



第3 遺構面出土土器 (3)

図版 44 古屋敷遺跡 (D 区)



配石遺構検出状況（西から）



配石遺構完掘後の下層の状況（東から）



H7 付近石製品 (51-10) 出土状況 (東から)



H7 付近土器 (52-1) 出土状況 (北から)



土器だまり 3 検出状況 (東から)

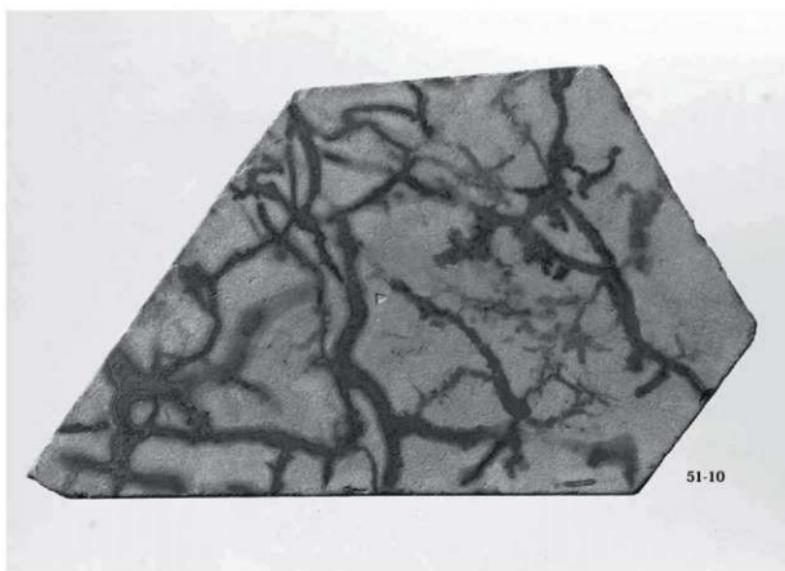


第 4 遺構面 7 ライン以西完掘状況 (北から)

図版 46 古屋敷遺跡 (D 区)

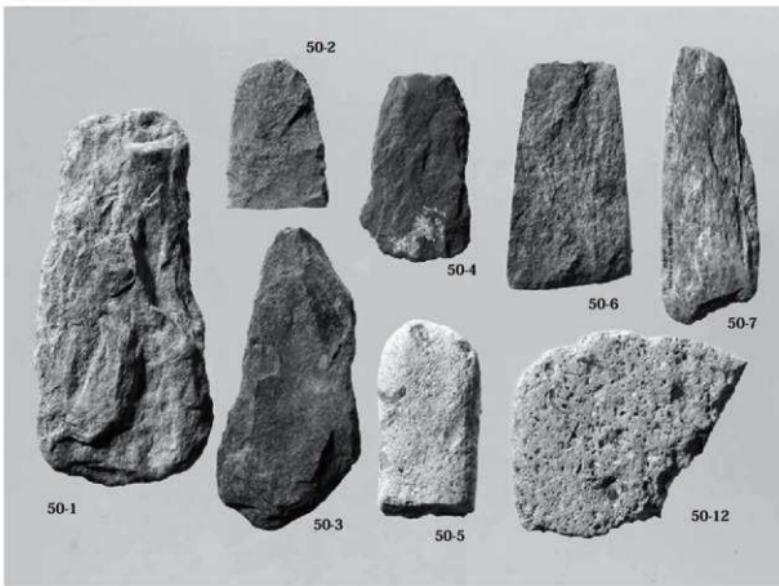
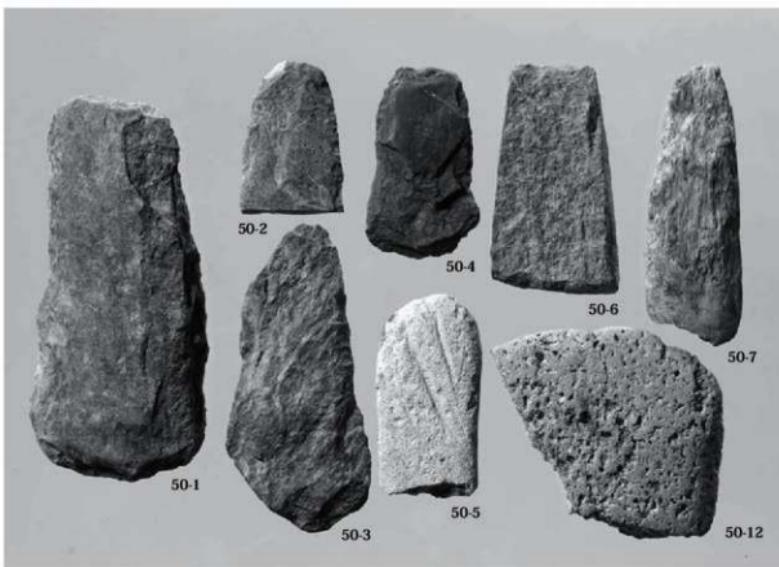


9 ライン土層堆積状況 (南西から: 石の裁る面が第 4 遺構面)



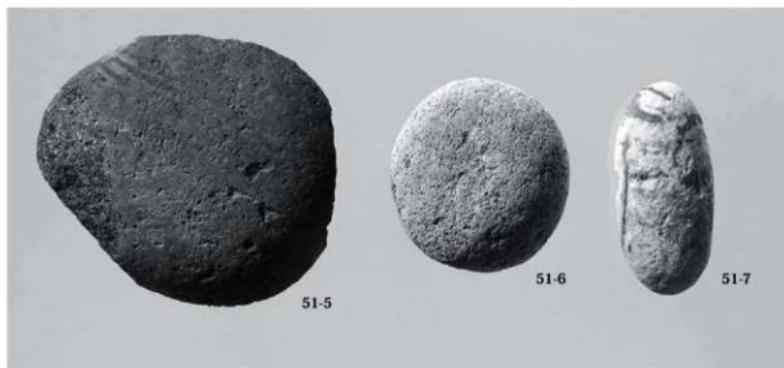
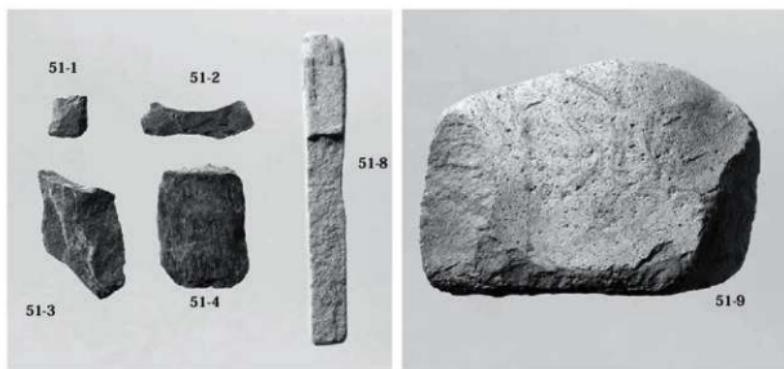
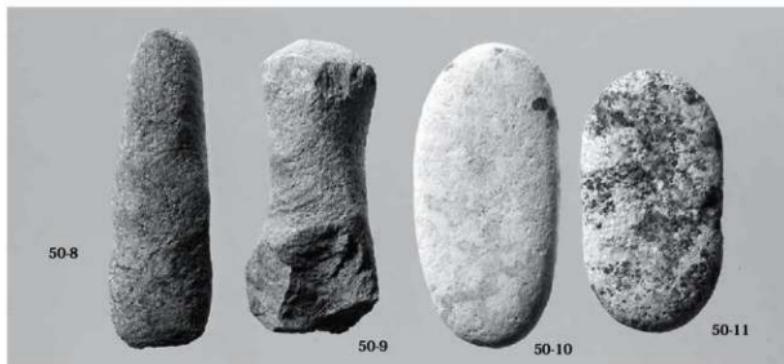
第 4 遺構面出土石器 (1)

51-10



第4 遺構面出土石器（2）

図版 48 古屋敷遺跡 (D 区)

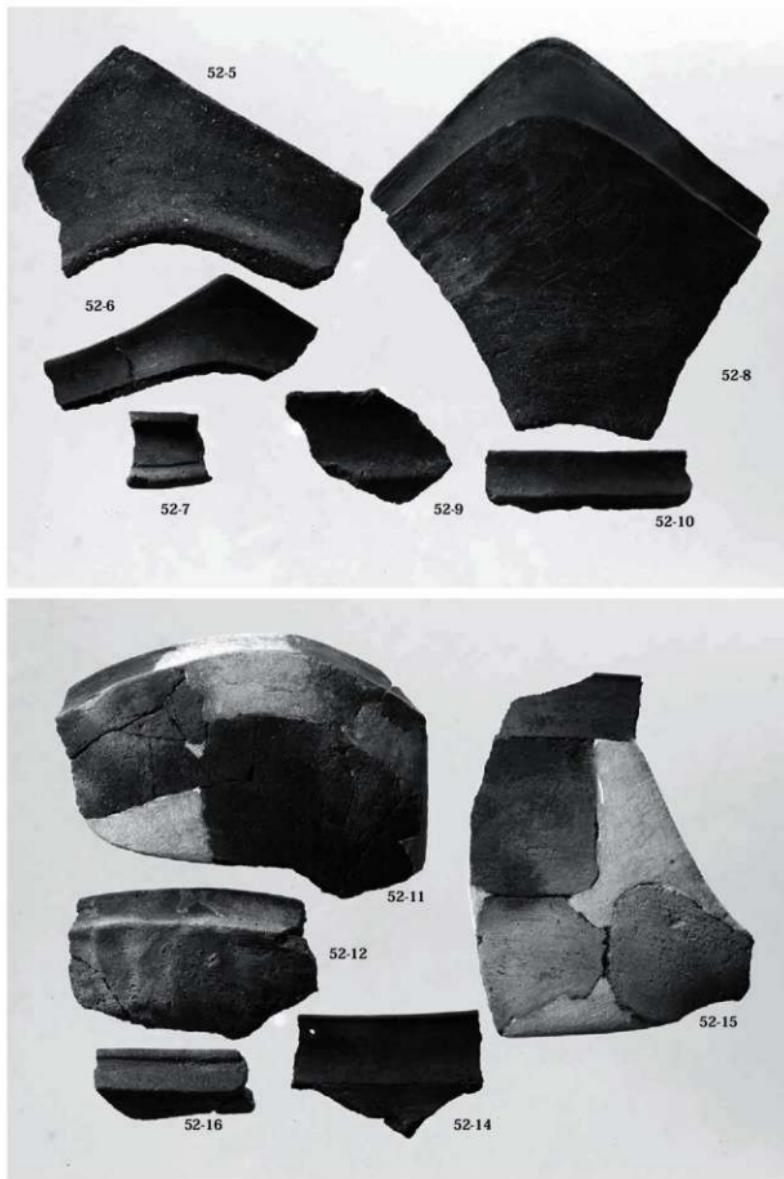


第4 遺構面出土石器 (3)

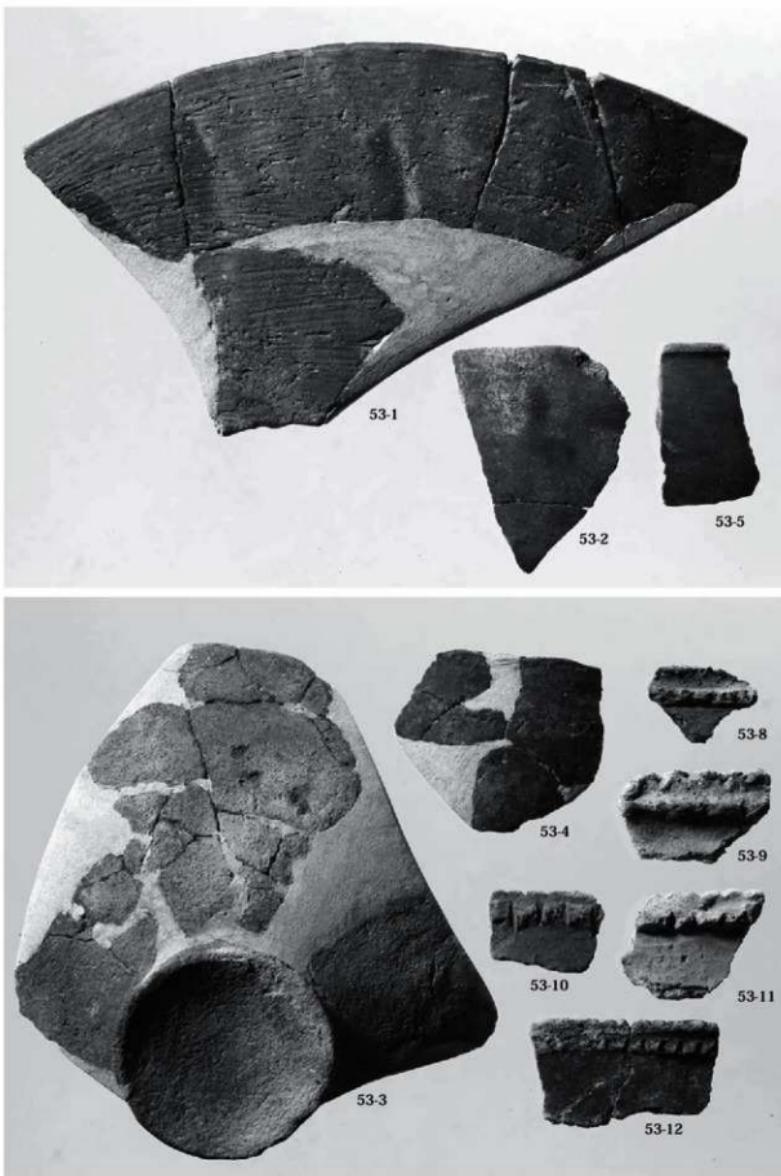


第 4 遺構面出土土器（1）

図版 50 古屋敷遺跡 (D 区)

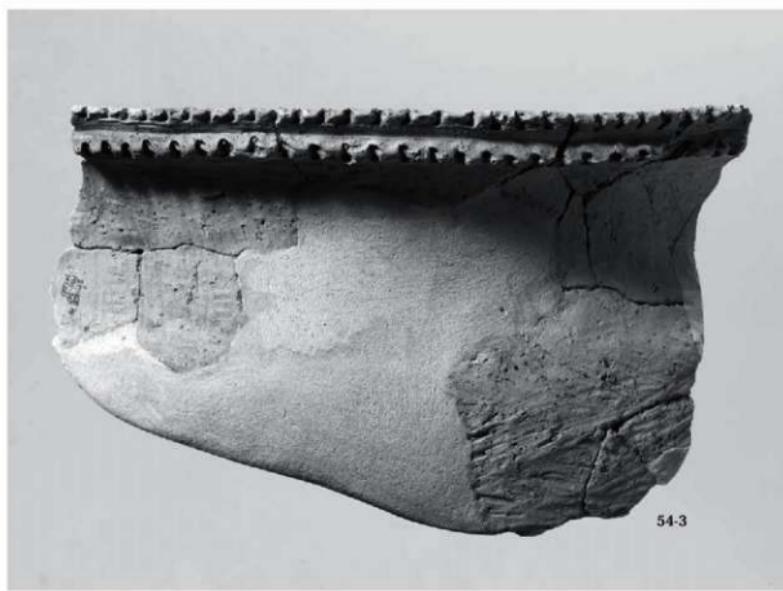


第4 遺構面出土土器 (2)

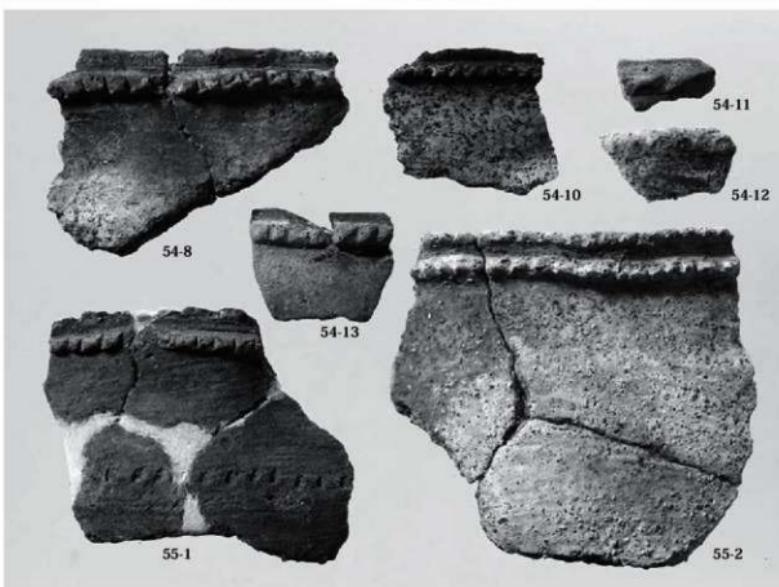
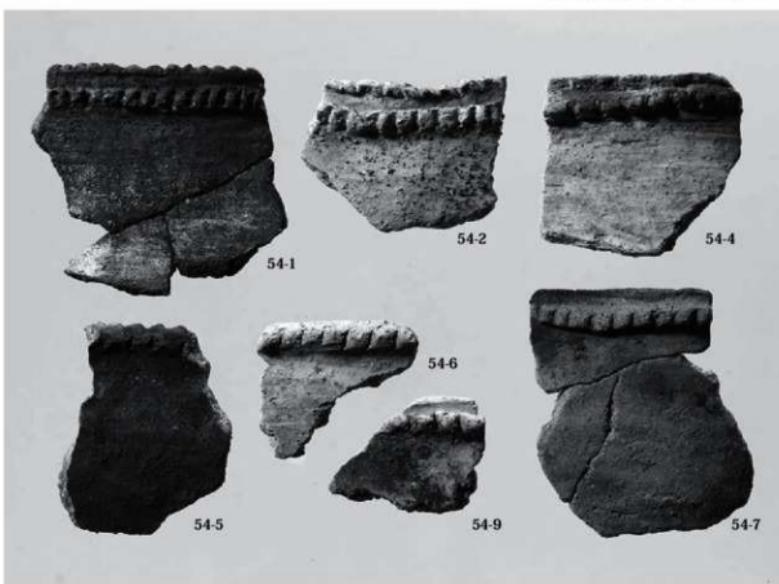


第 4 遺構面出土土器 (3)

図版 52 古屋敷遺跡 (D 区)

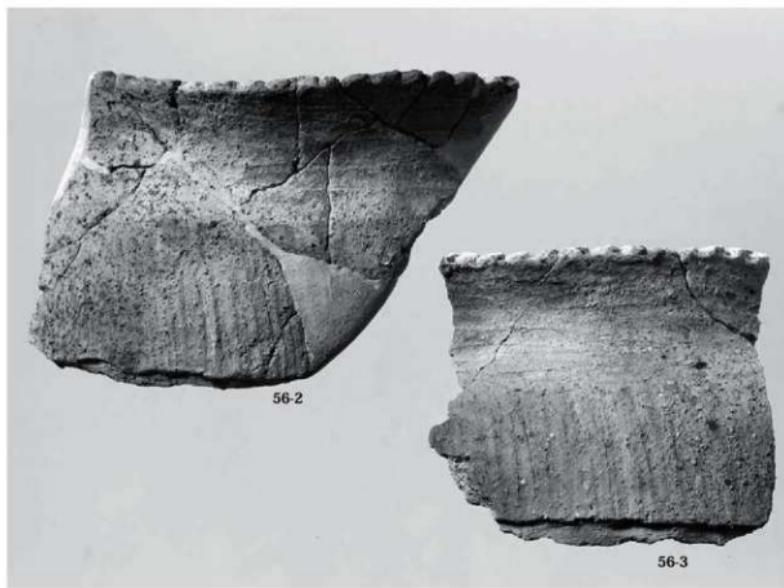
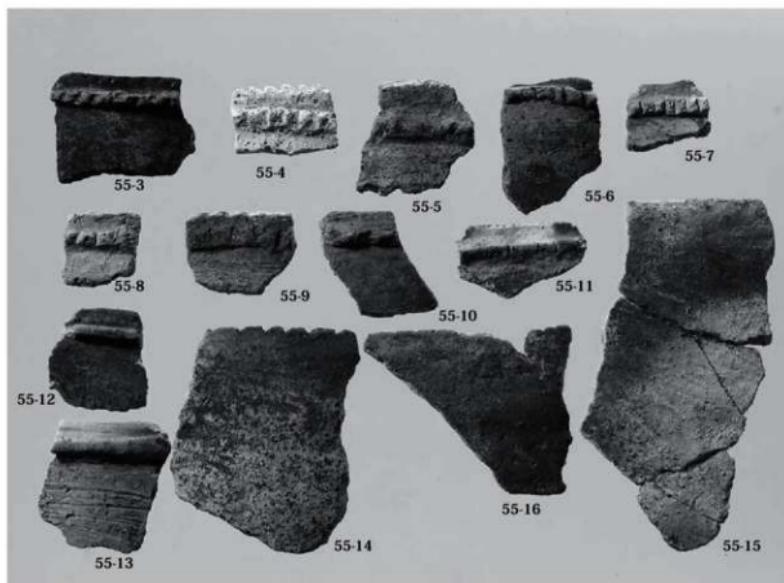


第 4 遺構面出土土器 (4)

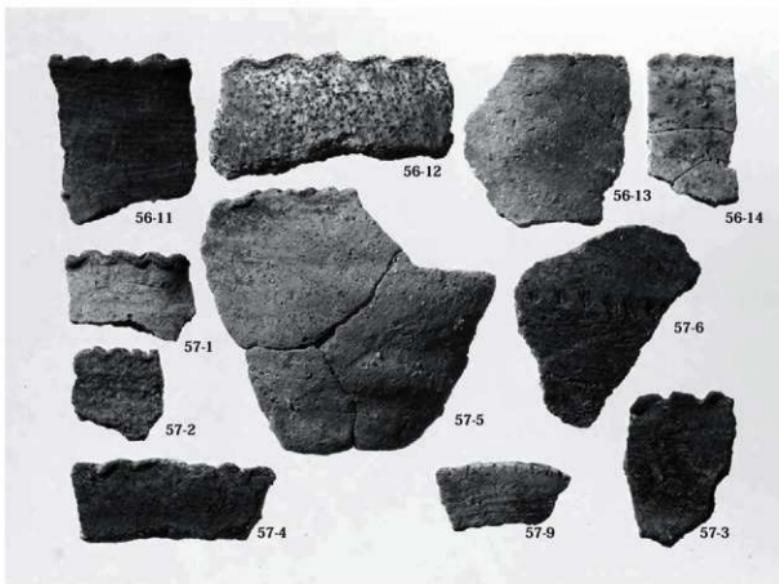


第4 遺構面出土土器（5）

図版 54 古屋敷遺跡 (D 区)

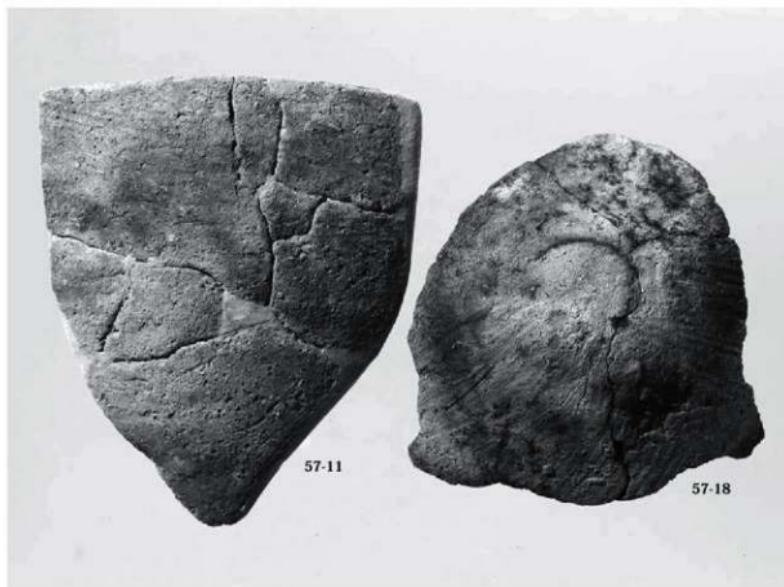
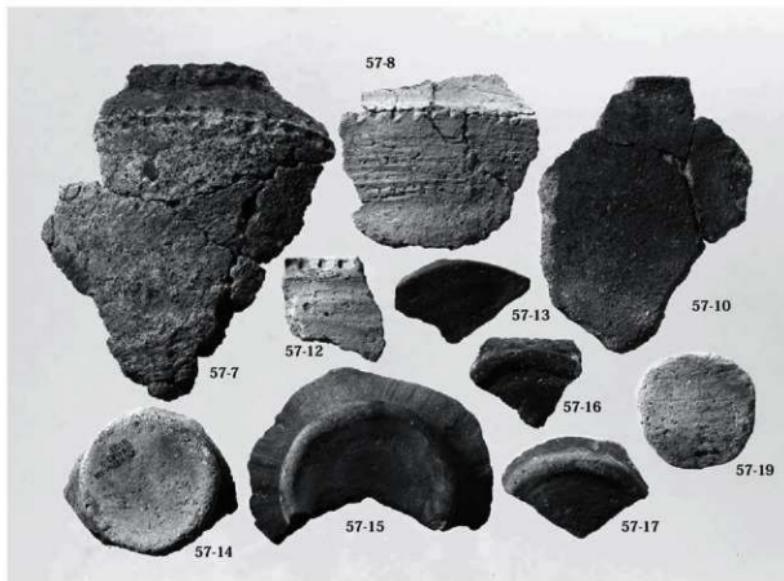


第4 遺構面出土土器 (6)



第 4 遺構面出土土器 (7)

図版 56 古屋敷遺跡 (D 区)



第4 遺構面出土土器 (8)



炭だまり 1 検出状況（東から）



炭だまり 1 Pit124（東から）



炭だまり 1 獣歯牙検出状況（南から）

図版 58 古屋敷遺跡 (D 区)



炭だまり 1 東側土層堆積状況（南から）



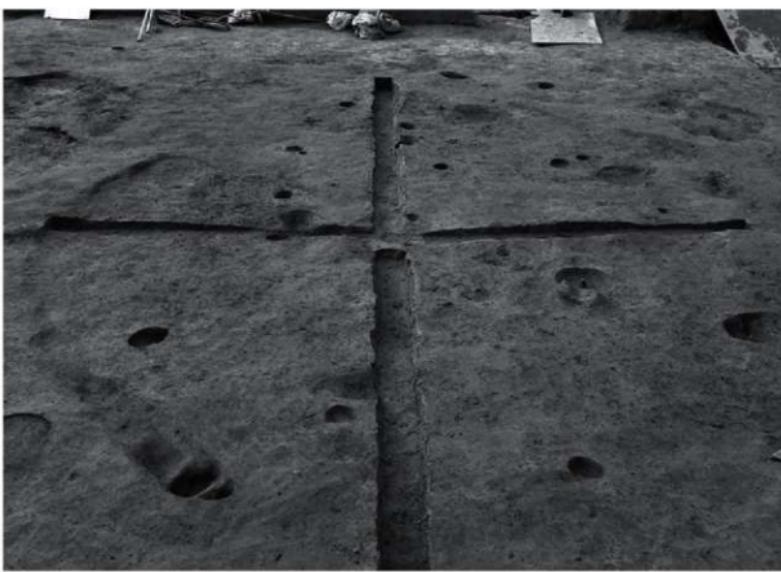
炭だまり 1 西側土層堆積状況（南から）



炭だまり 1 遺物出土状況（東から）



炭だまり 1 円碟検出状況（西から）



炭だまり 1 完掘状況（東から）

図版 60 古屋敷遺跡 (D 区)



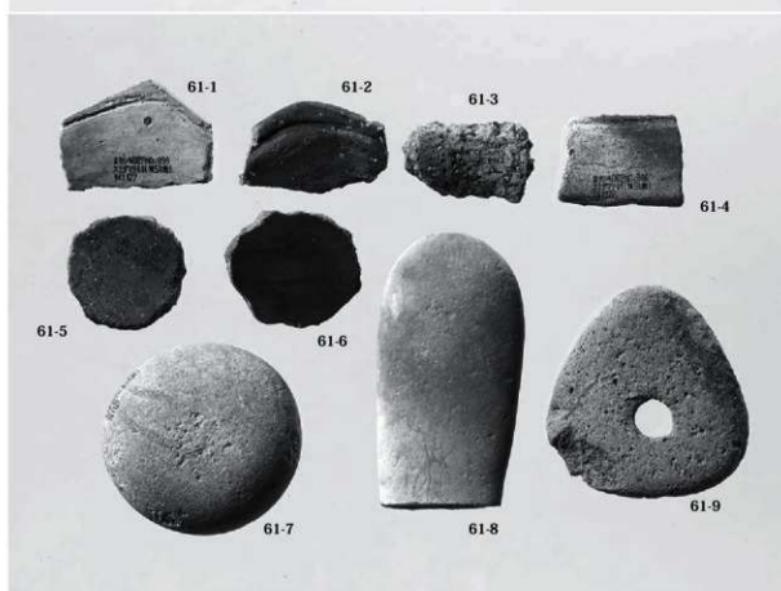
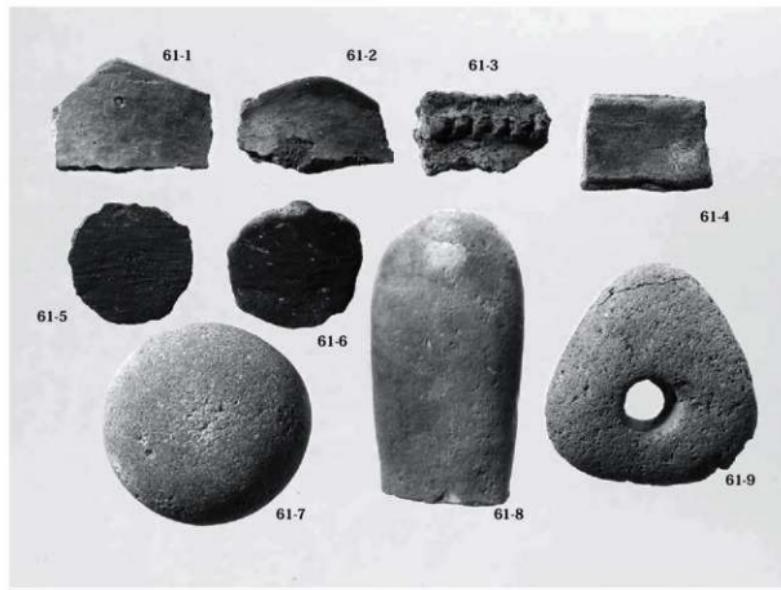
炭だまり 3 東側土層堆積状況 (南から)



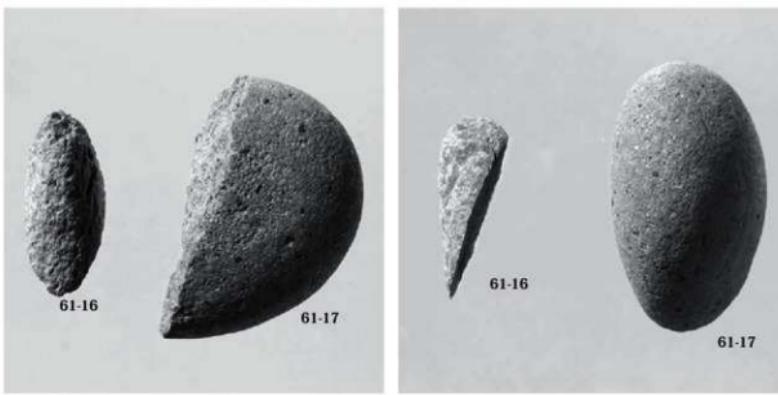
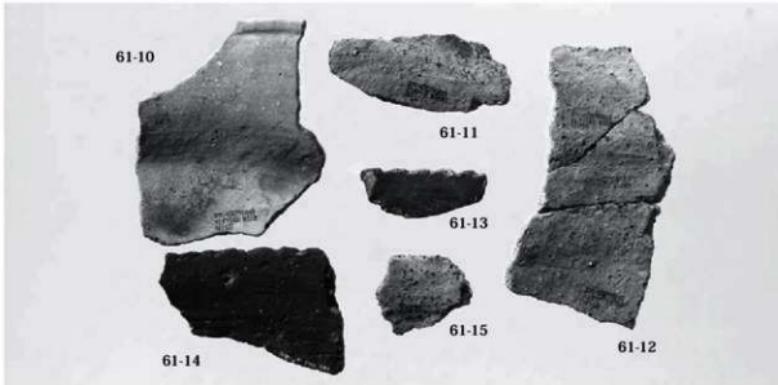
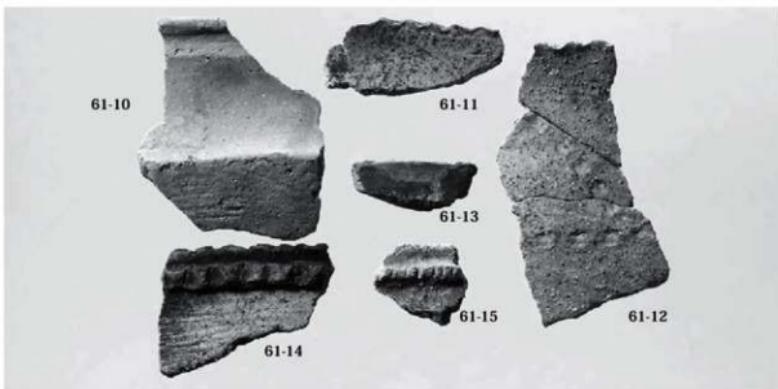
炭だまり 3 西側土層堆積状況 (南から)



図版 62 古屋敷遺跡 (D 区)



炭だまり 1 出土遺物



炭だまり 3 出土遺物

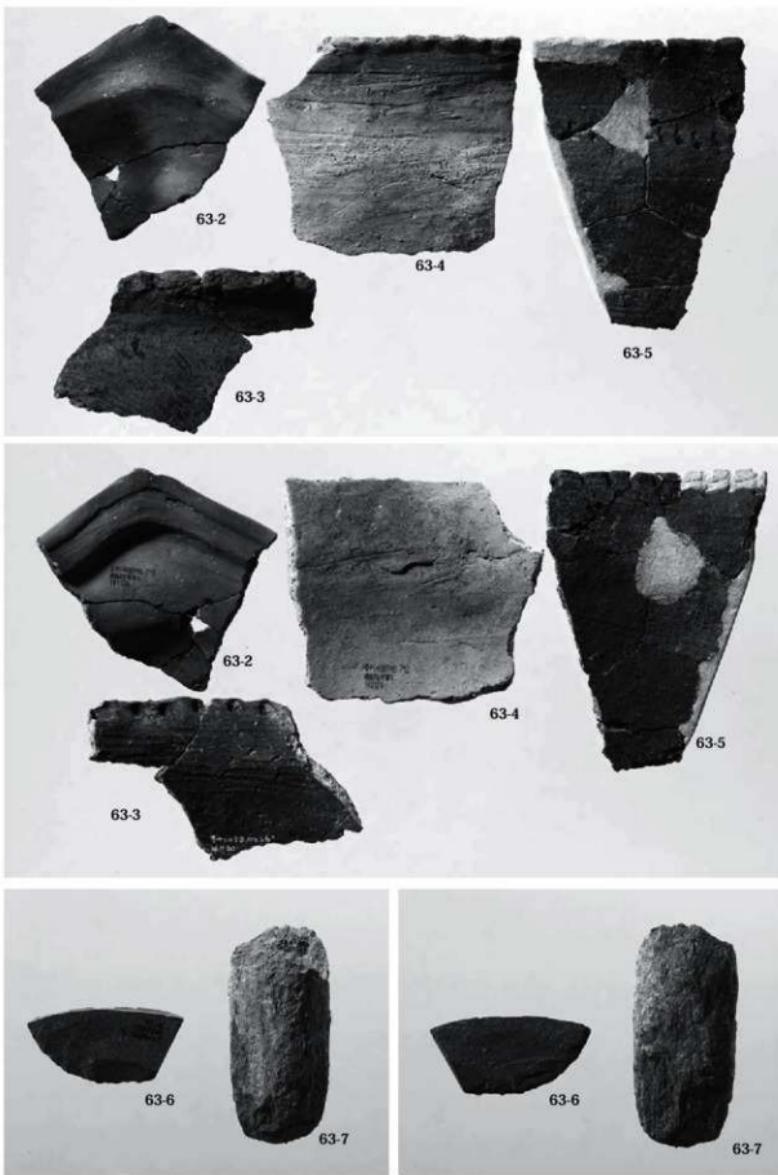
図版 64 古屋敷遺跡 (D 区)



炭だまり 4 遺物出土状況（南西から）



炭だまり 4 完掘状況（北から）



炭だまり 4 出土遺物

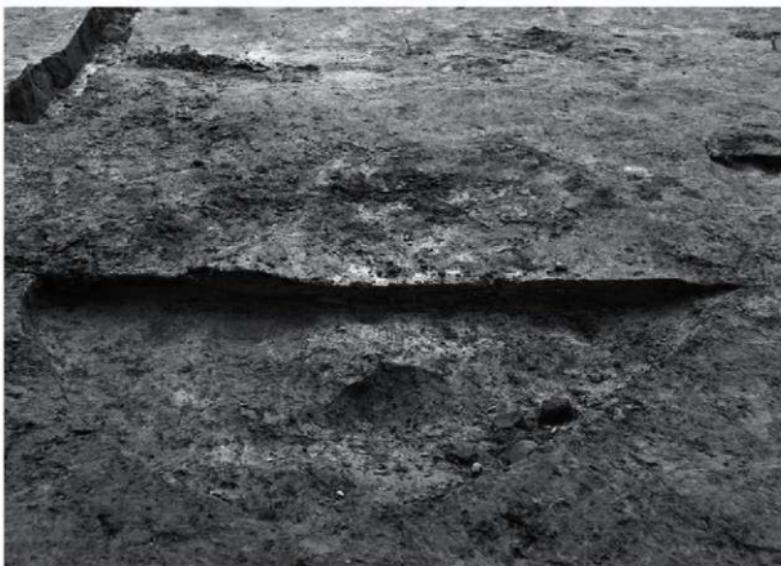
図版 66 古屋敷遺跡 (D 区)



地床炉 107 土層堆積状況 (南から)



地床炉 107(左)・108(右) 完掘状況 (北から: 奥は炭だまり 3)



地床炉 108 土層堆積状況（南から）



地床炉 118 完掘状況（西から）

図版 68 古屋敷遺跡 (D 区)



袋状土坑 (Pit68) 土層堆積状況 (南から)



袋状土坑 (Pit68) 完掘状況 (南から)



貯蔵穴検出状況（西から）



貯蔵穴堅果類出土状況（西から）



貯蔵穴完掘状況（西から）

図版 70 古屋敷遺跡 (D 区)



地床F10 完掘状況(東から)



F10付近 Pit 全景(東から)



古屋敷遺跡（D 区）南壁水さらし場遺構付近上層堆積状況（北から）



水さらし場遺構検出状況（北から）

図版 72 古屋敷遺跡 (D 区)



水さらし場遺構と SD04 検出状況（南から）



SX12 検出状況（東から）



水さらし場遺構堅果類出土状況（西から）



水さらし場遺構上層堆積状況（東から）



水さらし場遺構内部の状況（北から）



SD04 遺物出土状況（北東から）

図版 74 古屋敷遺跡（D 区）



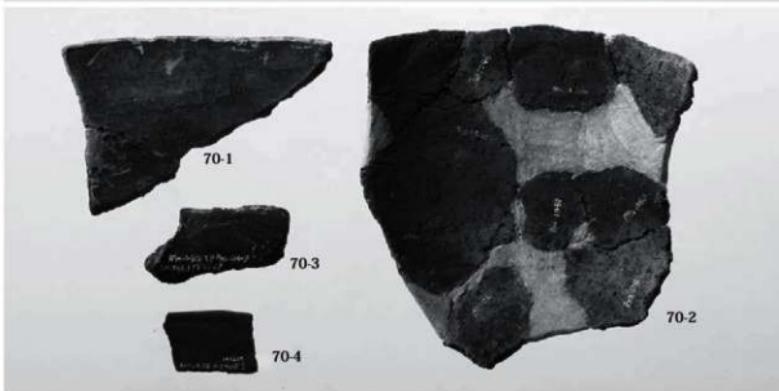
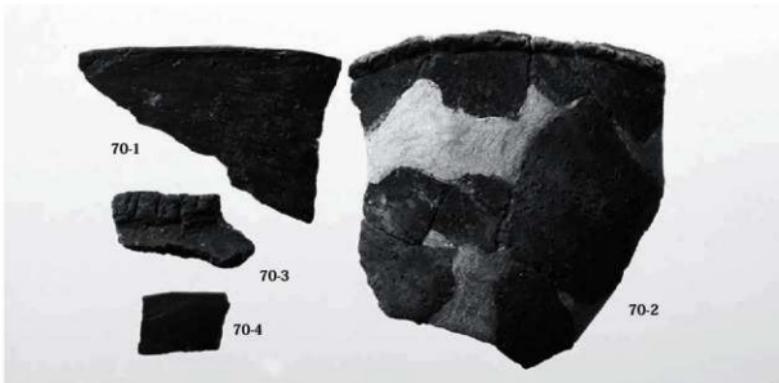
水さらし場遺構内部の状況（東から）



水さらし場遺構埋土除去状況（北西から）



水さらし場遺構完掘状況（北から）



水さらし場遺構出土遺物

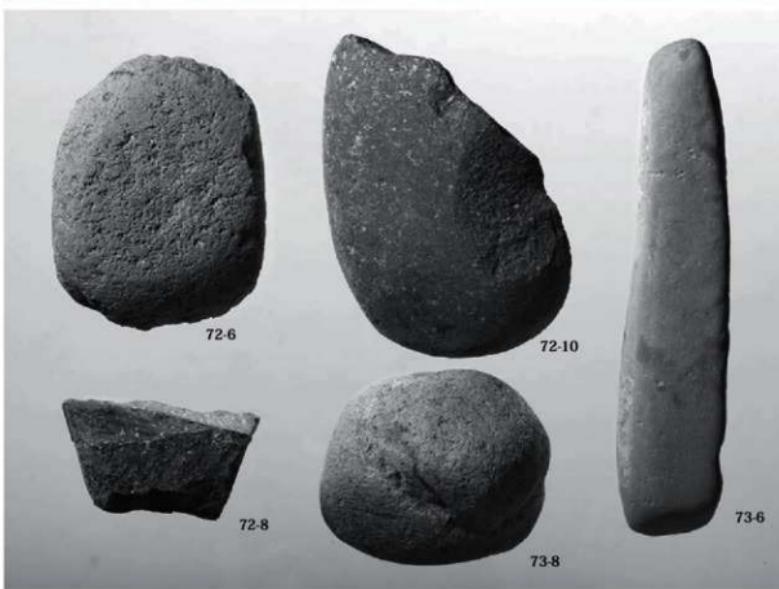
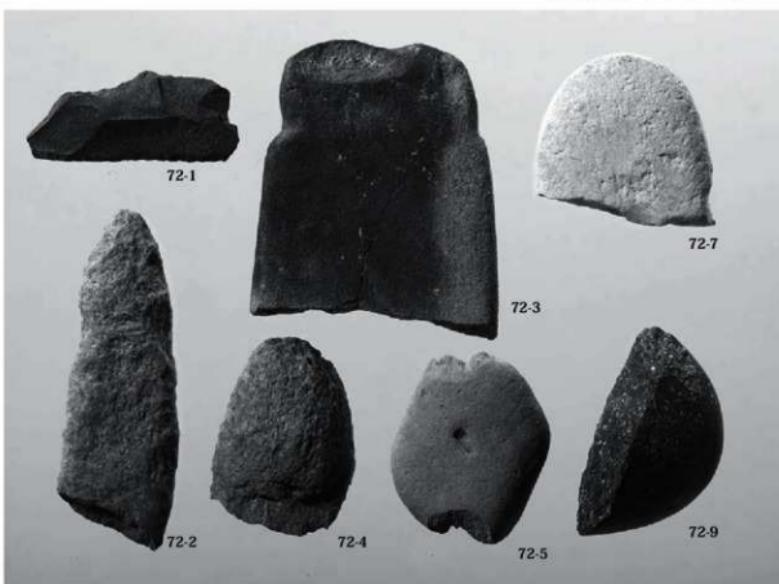
図版 76 古屋敷遺跡（D 区）



第5遺構面7ライン以西完掘状況（南西から）

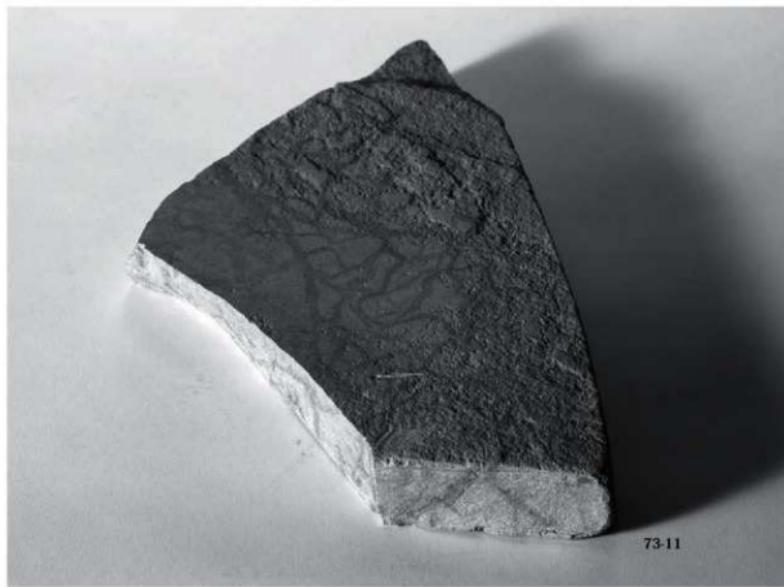


第5遺構面9ライン以東完掘状況（北から）

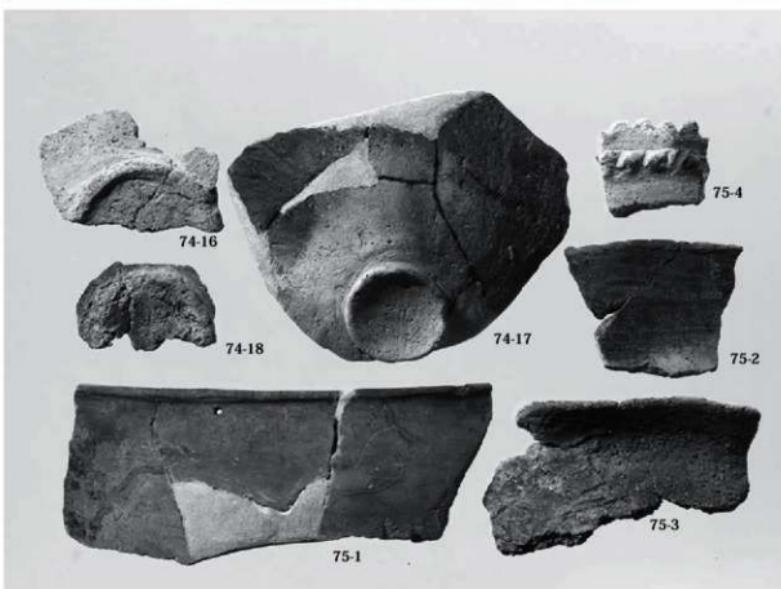
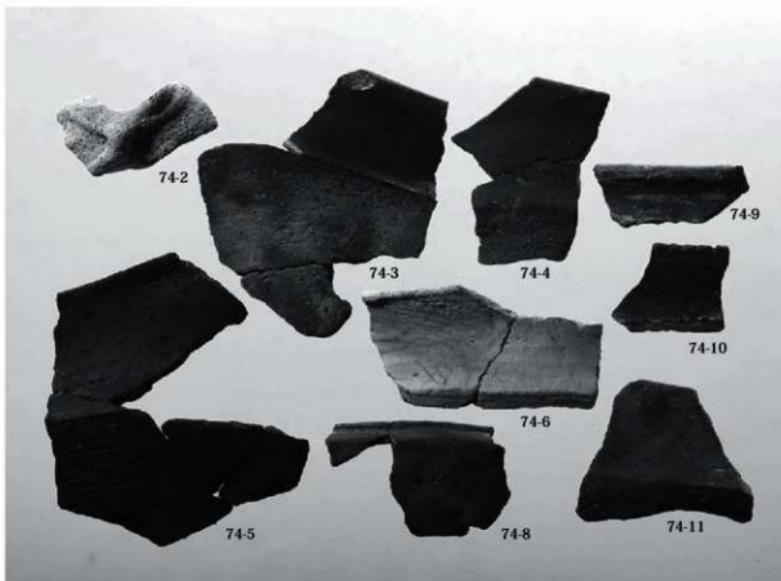


第 5 遺構面出土石器 (1)

図版 78 古屋敷遺跡 (D 区)

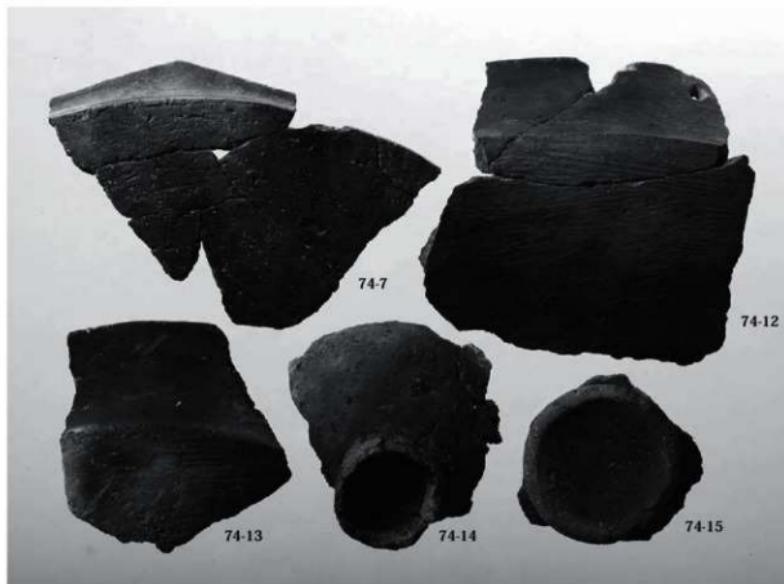


第 5 遺構面出土石器 (2)

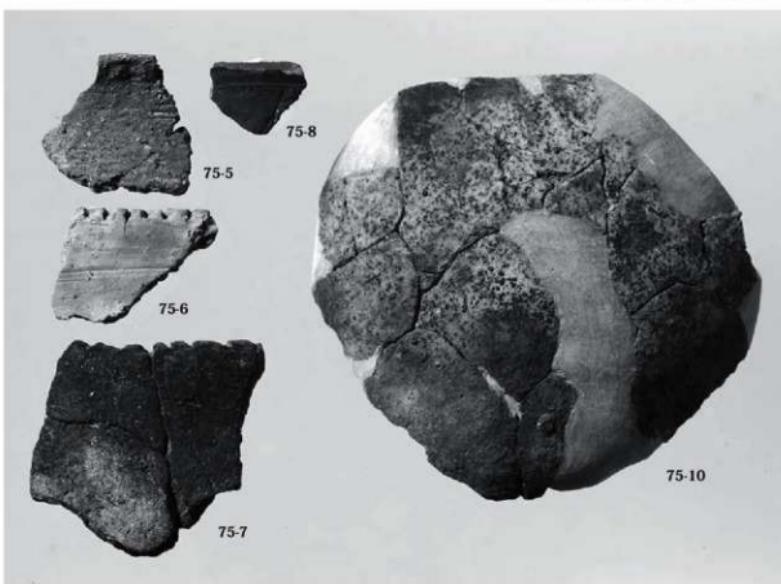


第5 遺構面出土土器 (1)

図版 80 古屋敷遺跡 (D 区)



第 5 遺構面出土土器 (2)



第 5 遺構面出土土器 (3)

図版 82 古屋敷遺跡 (D 区)



配石遺構 3 検出状況（北から）



H8 磨石 (79-1・3) 出土状況（北から）

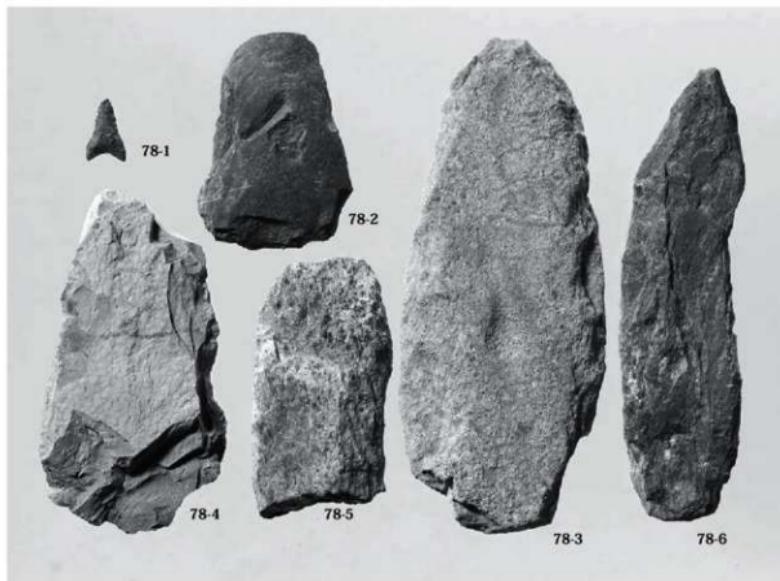


H8 石斧(78-7・8) 出土状況(北から)

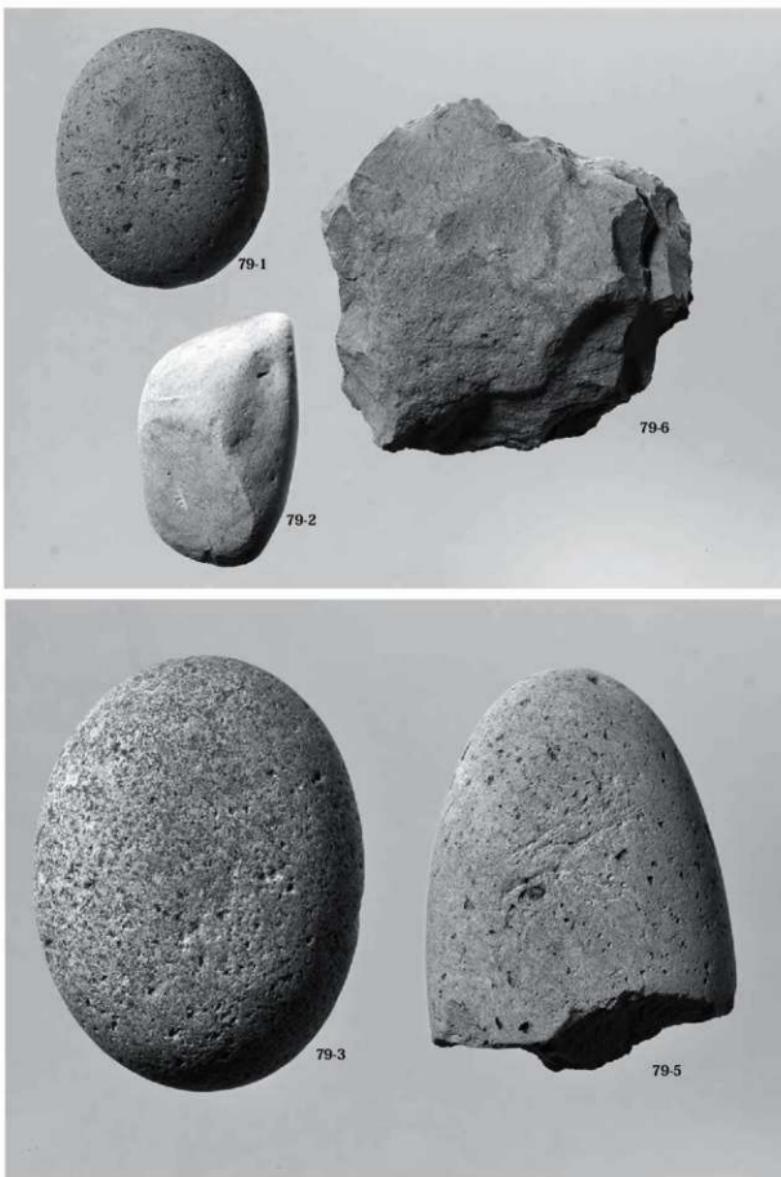


第6遺構面7～9ライン間完掘状況(南東から)

図版 84 古屋敷遺跡 (D 区)

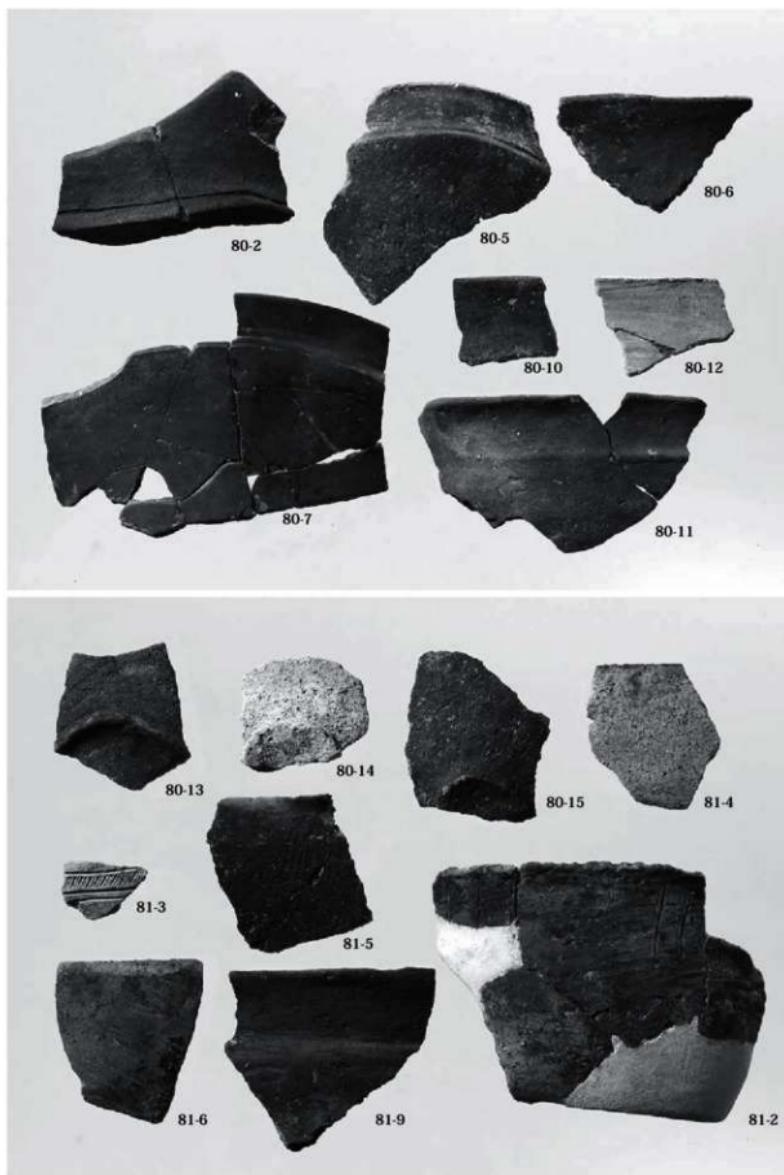


第 6 遺構面出土石器 (1)



第 6 遺構面出土石器 (2)

図版 86 古屋敷遺跡 (D 区)



第 6 遺構面出土土器 (1)

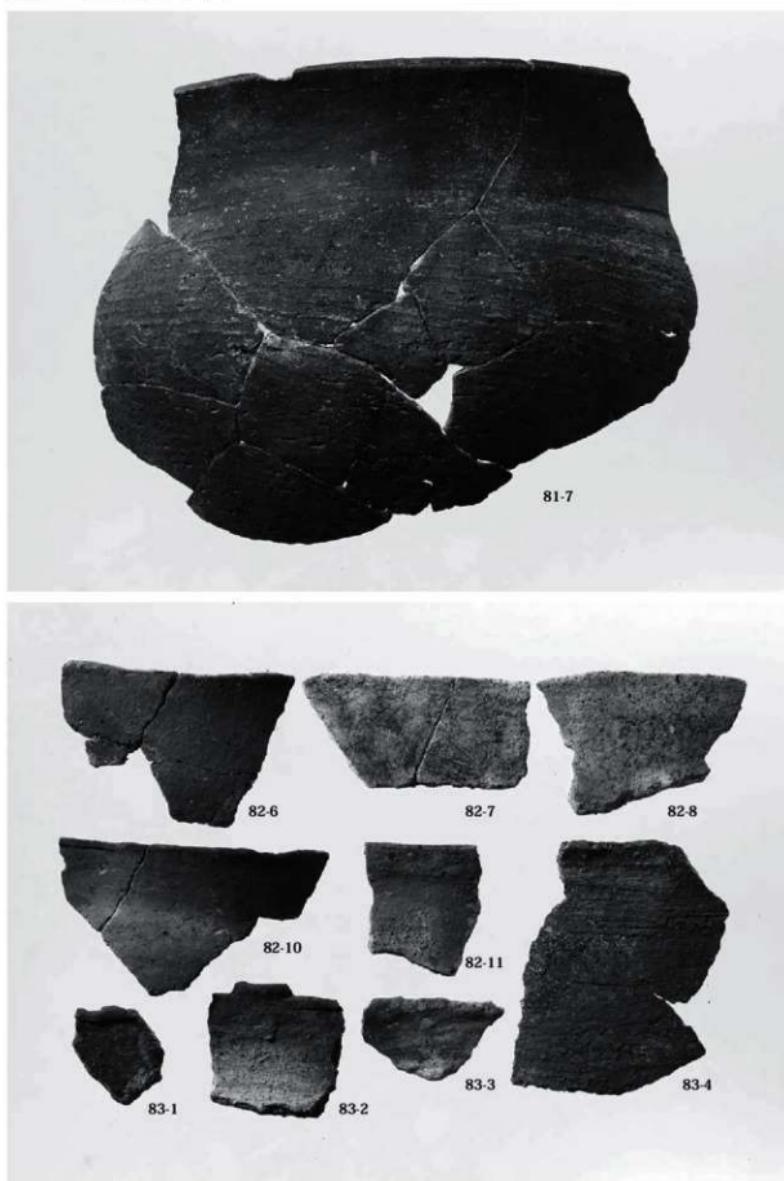


80-4

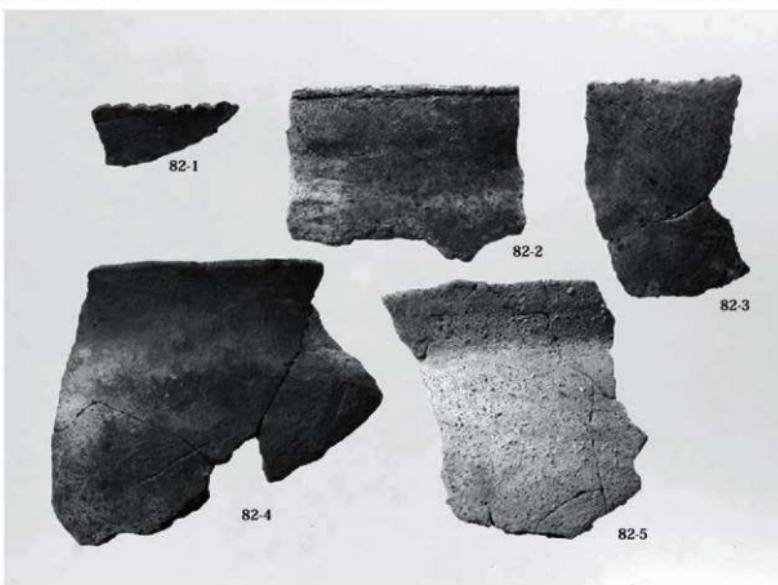
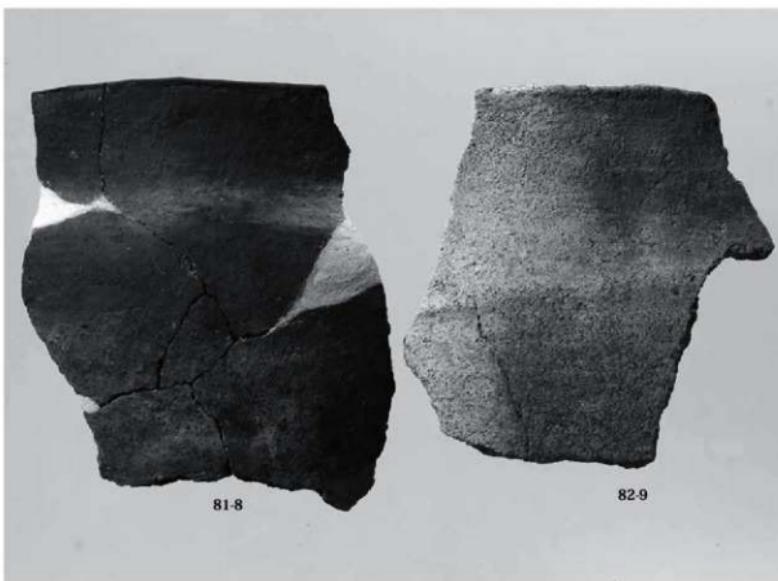


81-1

第 6 遺構面出土土器 (2)

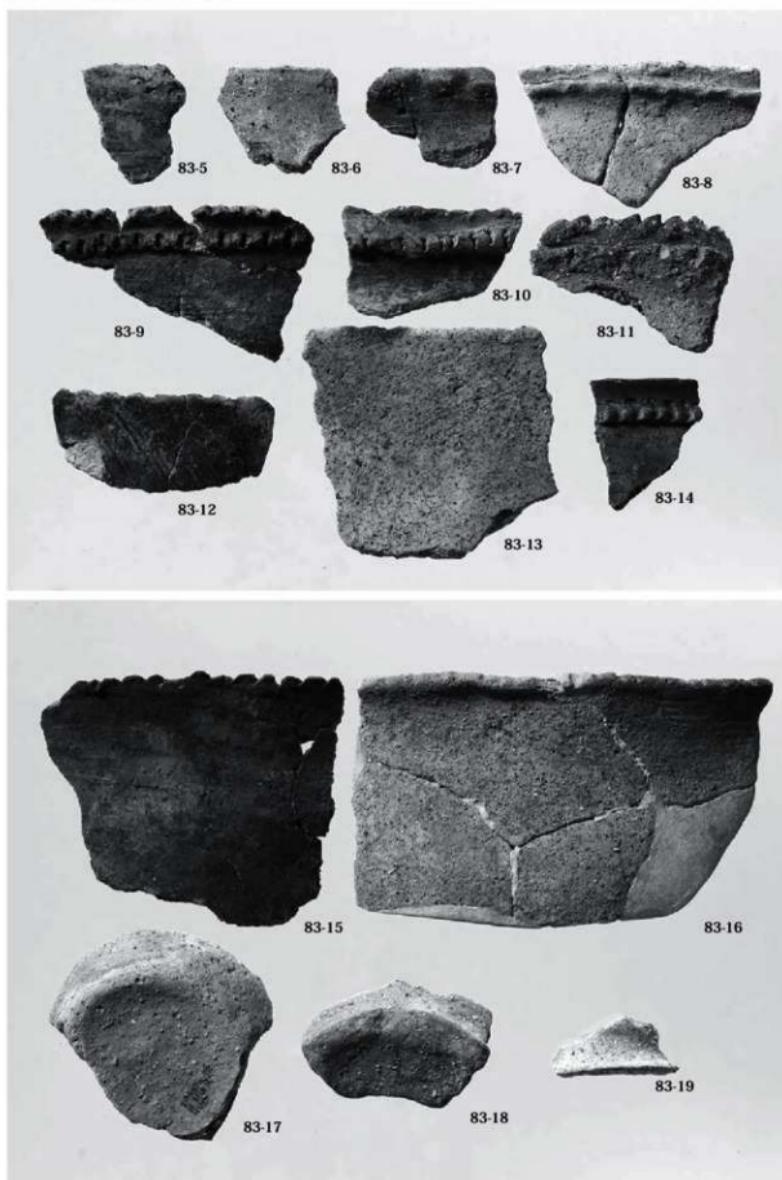


第 6 遺構面出土土器 (3)



第 6 遺構面出土土器 (4)

図版 90 古屋敷遺跡 (D 区)



第 6 遺構面出土土器 (5)



SK13 土層堆積状況 (9 ラインベルト：西から)



SK15 土層堆積状況 (東から)

図版 92 古屋敷遺跡 (D 区)



SK17 土層堆積状況（北東から）



SX19 遺物出土状況（西から）



SX21 遺物出土状況（東から）



第 7 遺構面 F8 ~ G8 付近完掘状況（北東から）

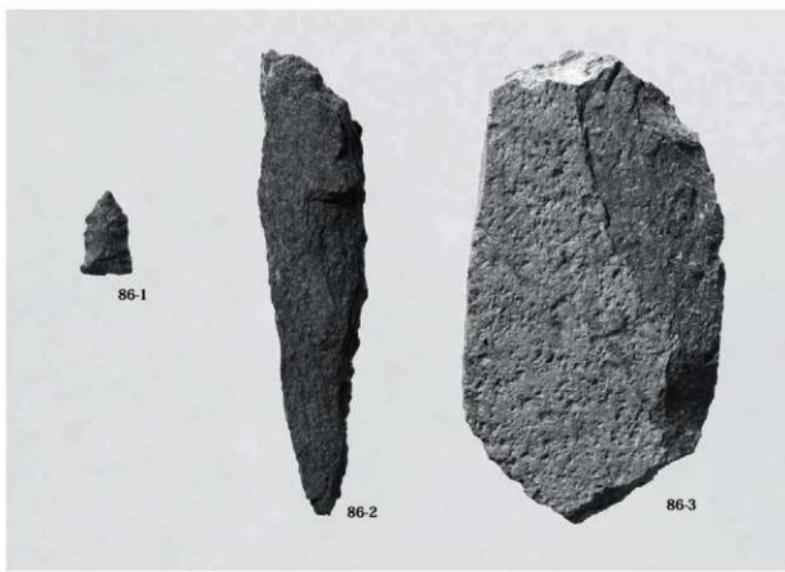


第 7 遺構面 I8 ~ H8 付近完掘状況（南東から）

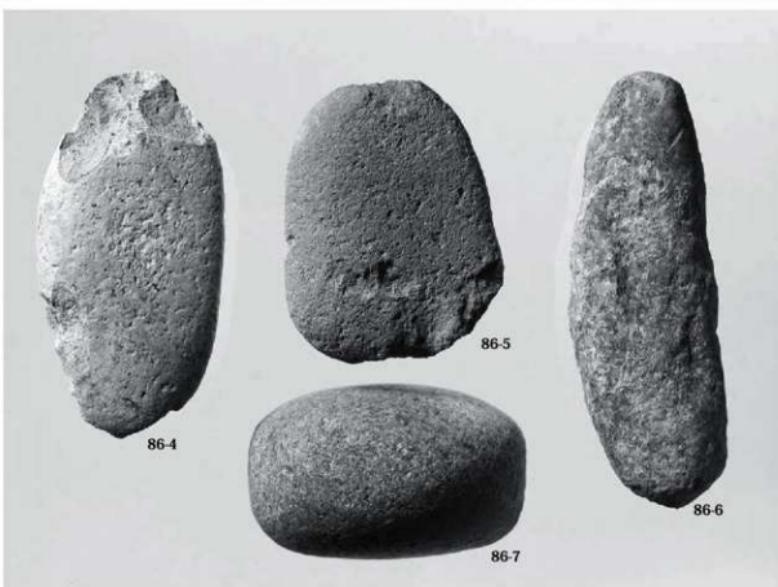
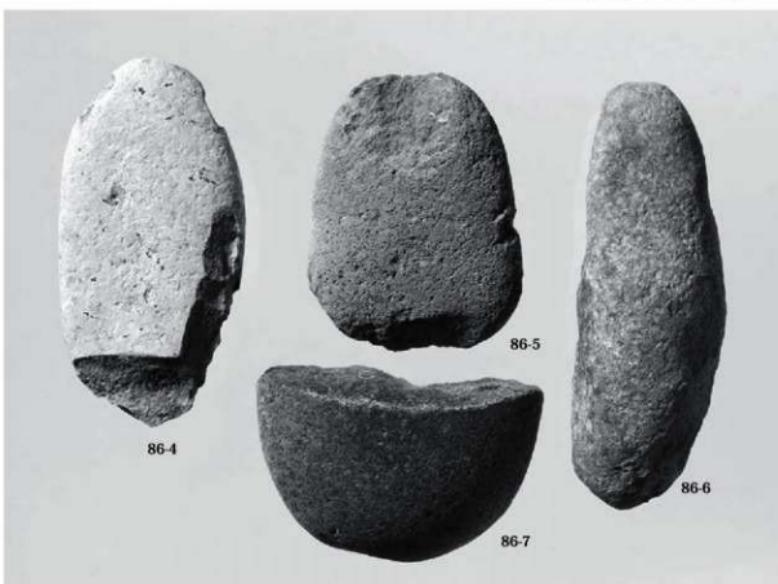
図版 94 古屋敷遺跡 (D 区)



第 7 遺構面 9 ライン以東完掘状況（南東から）

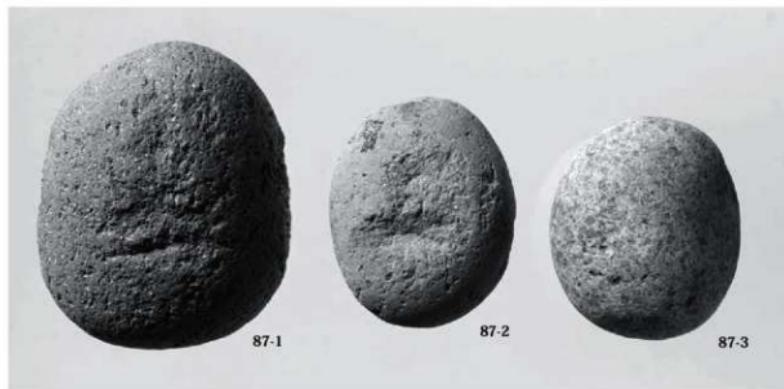


第 7 遺構面出土石器 (1)

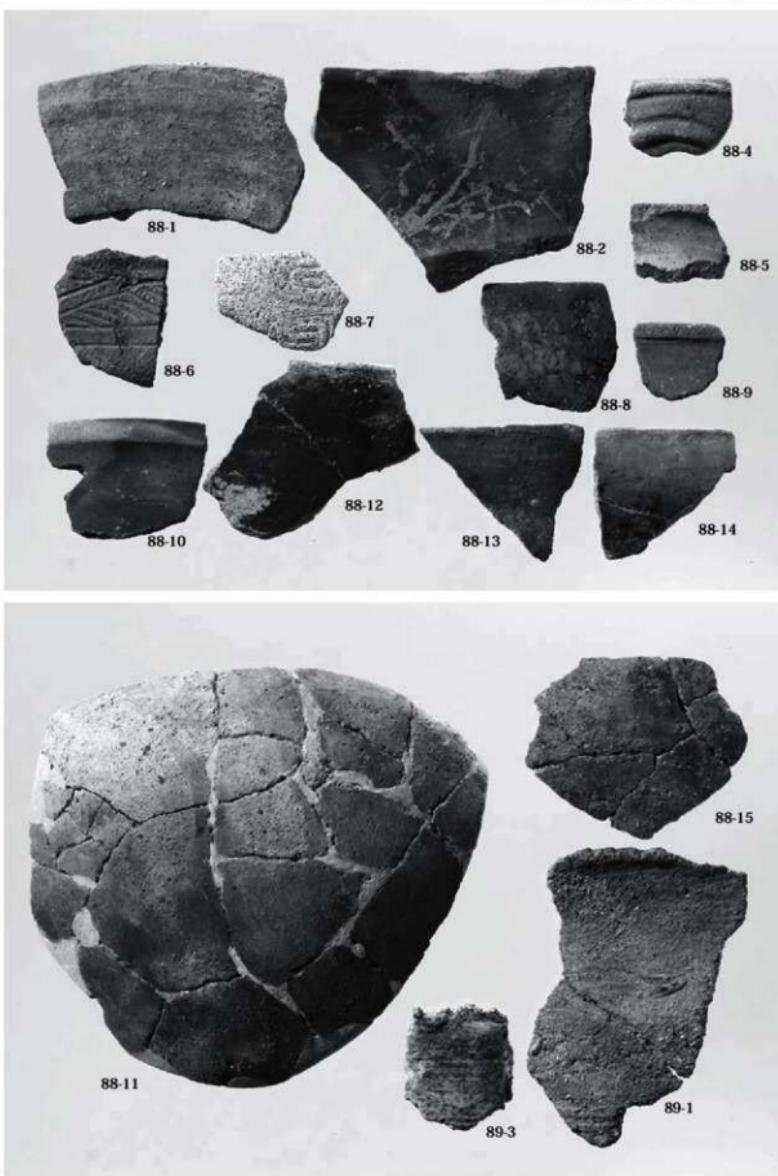


第7 遺構面出土石器 (2)

図版 96 古屋敷遺跡 (D 区)

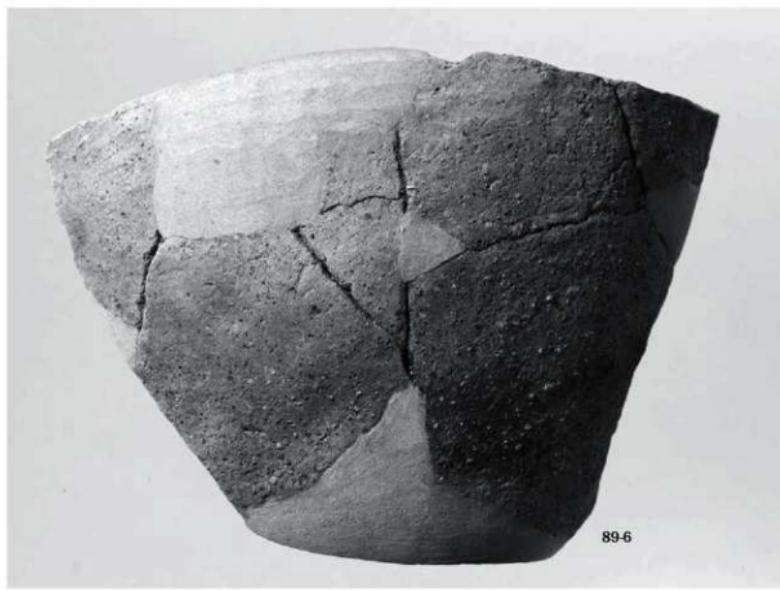
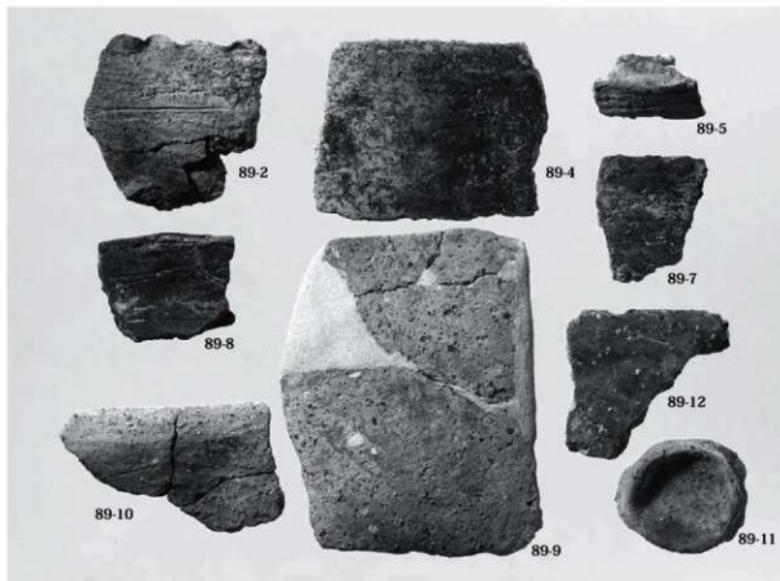


第 7 遺構面出土石器 (3)



第7 遺構面出土土器 (1)

図版 98 古屋敷遺跡 (D 区)



第 7 遺構面出土土器 (2)



柱根 1・2 検出状況（南から）



柱根 2(南から)



柱根 1 取り上げ状況（南から）

図版 100 古屋敷遺跡 (D 区)



第 8 遺構面 7 ライン以西完掘状況 (南西から)



第 8 遺構面 9 ライン以東完掘状況 (南東から)



93-1



93-2



94-1



94-4



94-2



94-3



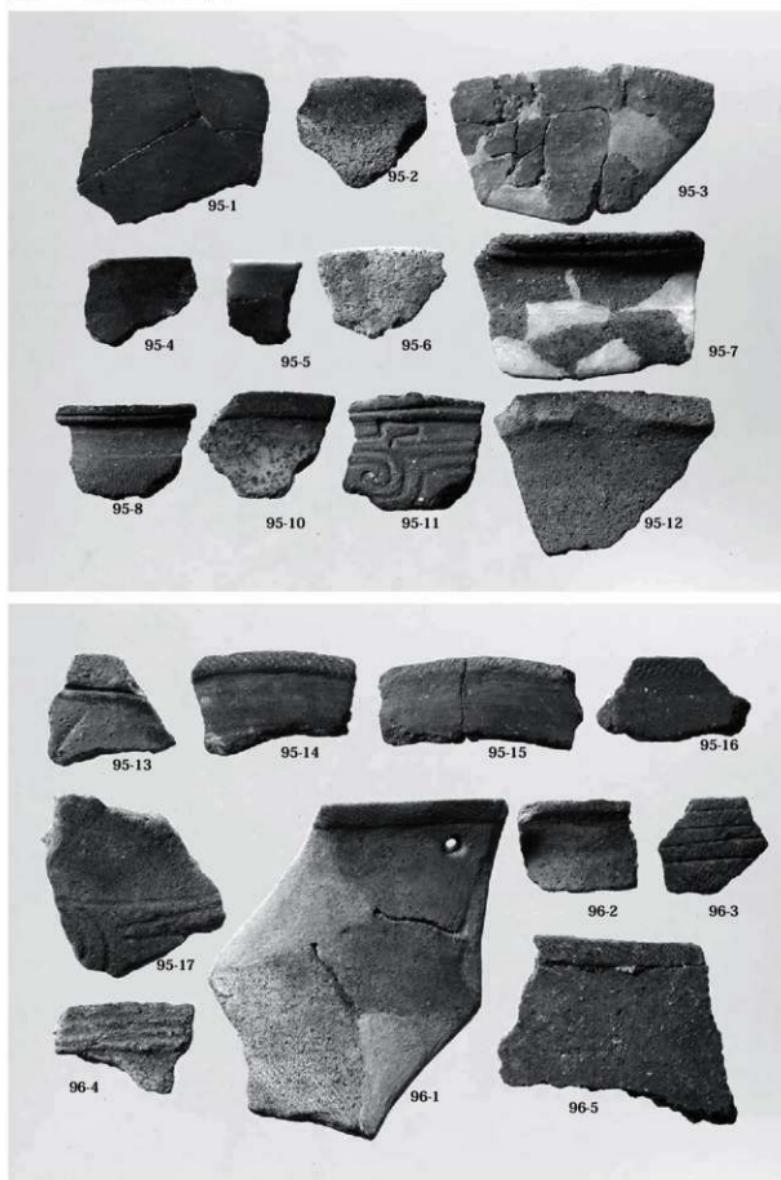
94-6



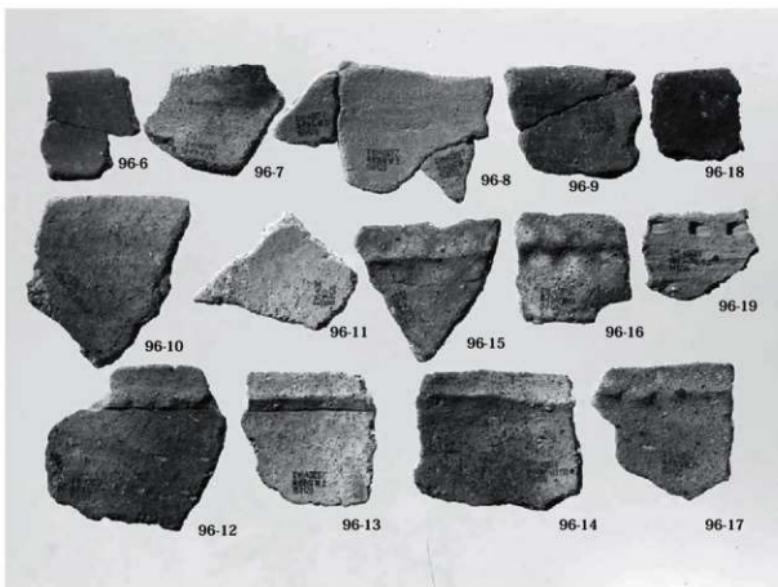
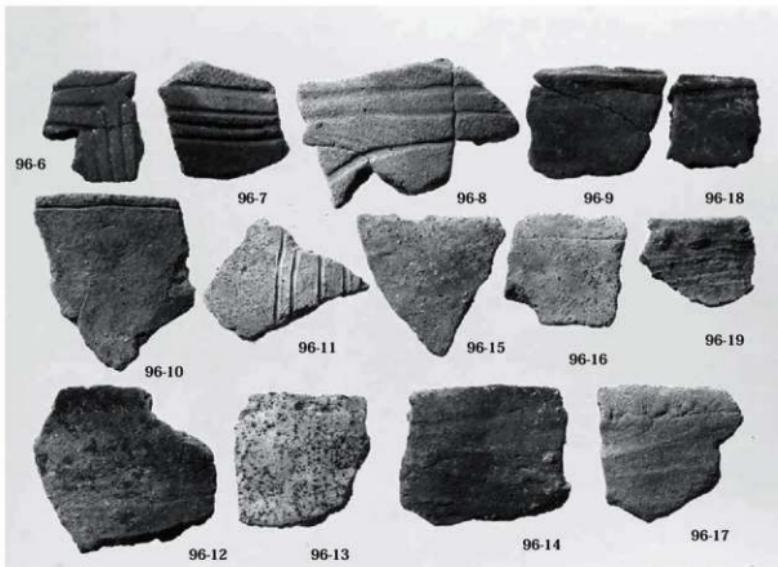
94-5

第 8 遺構面出土木製品・石器

図版 102 古屋敷遺跡 (D 区)

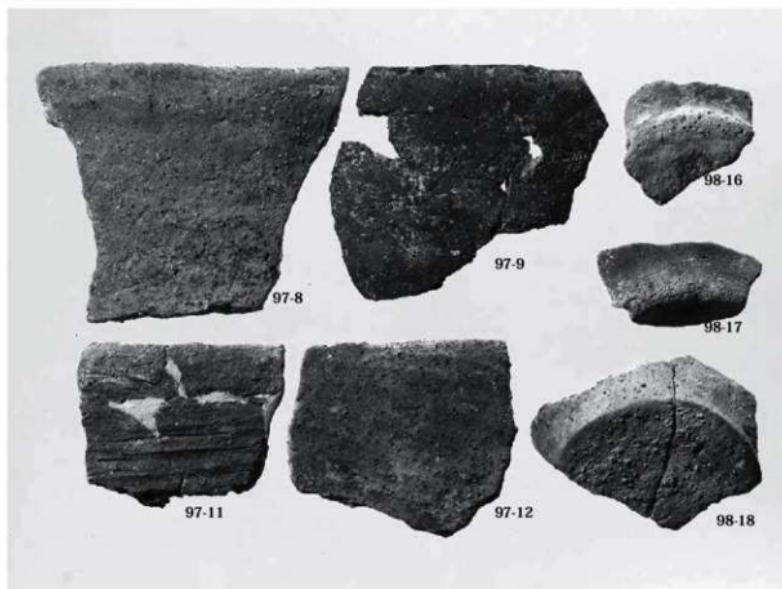
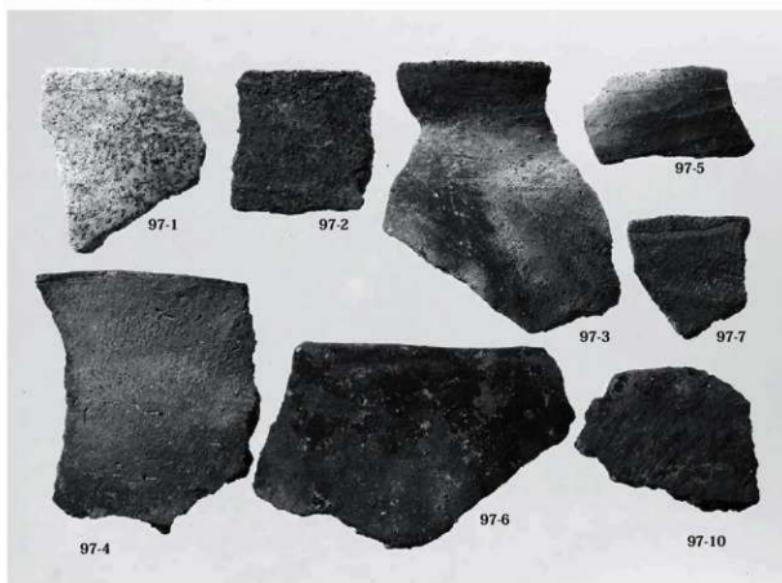


第 8 遺構面出土土器 (1)

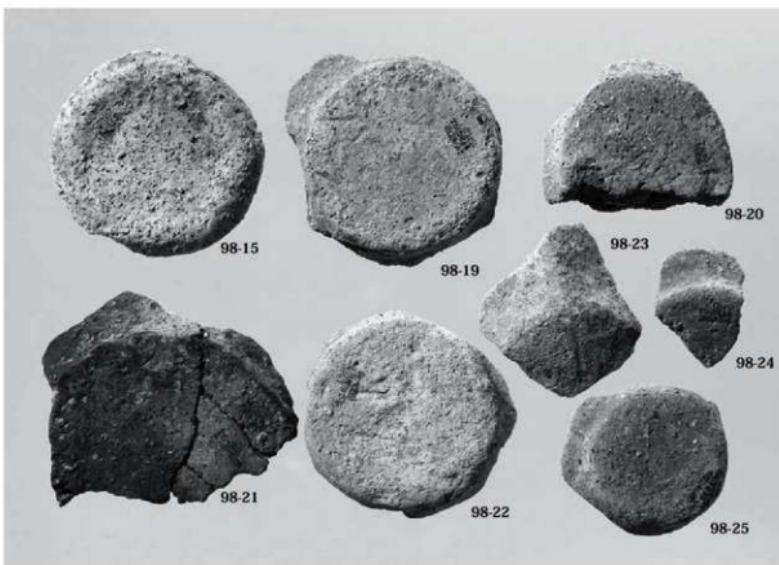
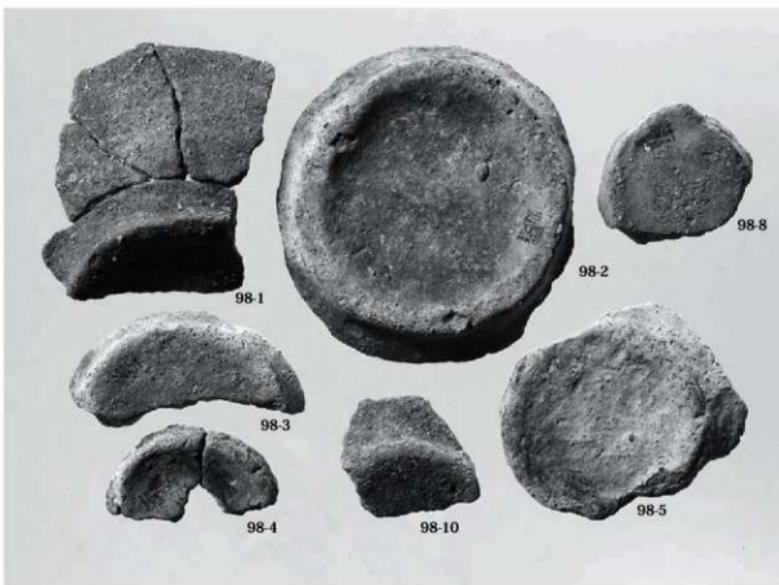


第8 遺構面出土土器 (2)

図版 104 古屋敷遺跡 (D 区)

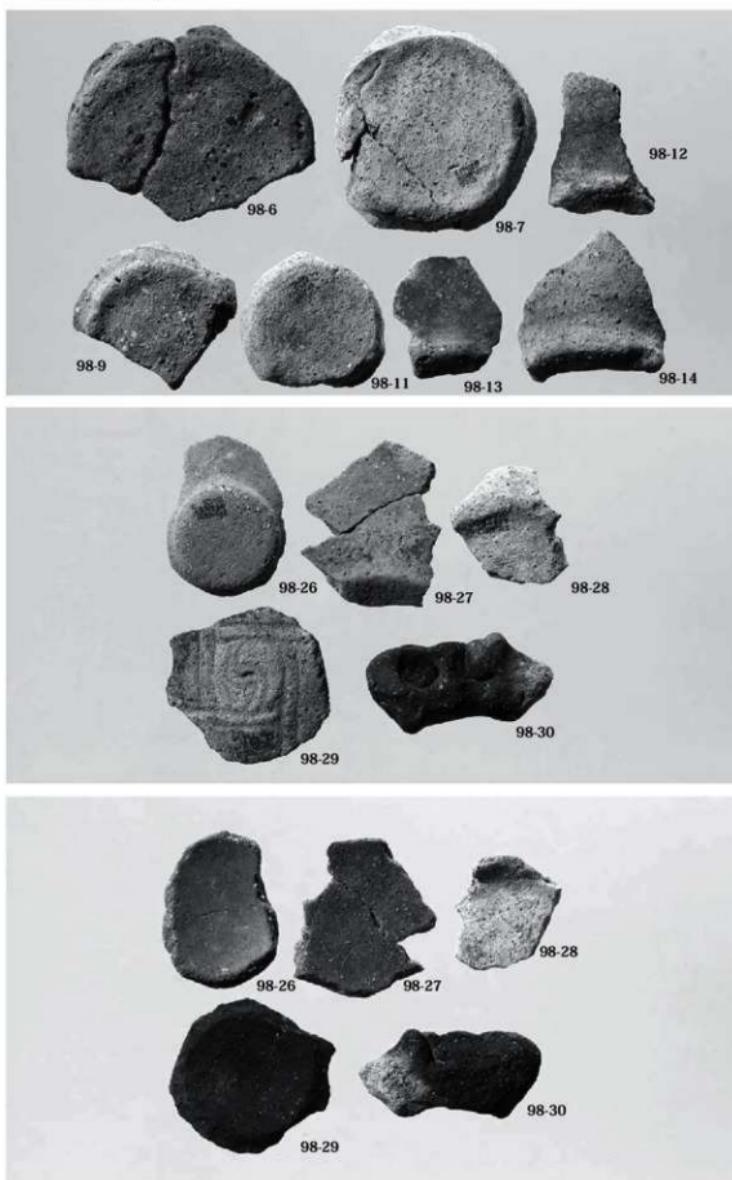


第 8 遺構面出土土器 (3)



第8 遺構面出土土器 (4)

図版 106 古屋敷遺跡 (D 区)



第 8 遺構面出土土器 (5)



第 8 遺構面出土土器 (6)



古屋敷遺跡（D 区）東壁土層堆積状況（南西から：最下面近くの黒い堆積が G10 土器だまり）

図版 108 古屋敷遺跡 (D 区)



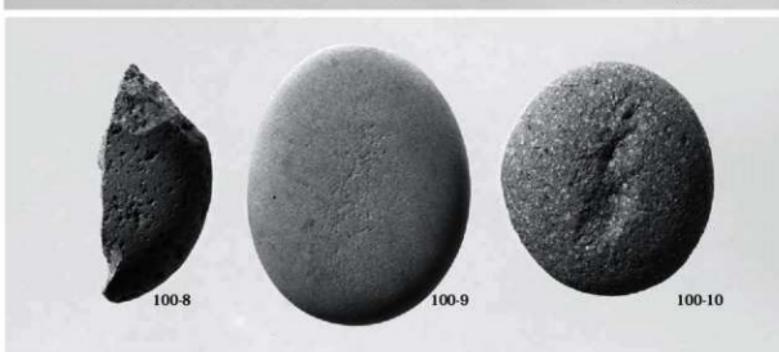
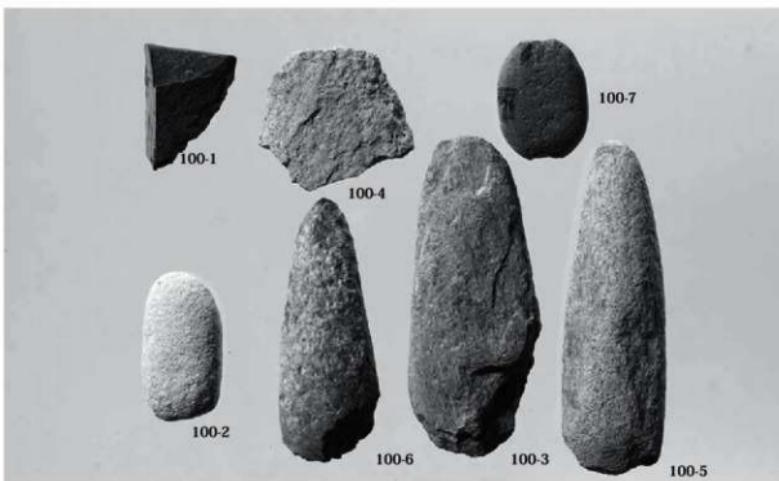
G10 土器だまり作業風景 (南から)



G10 土器だまり遺物 (102-13) 出土状況 (西から)

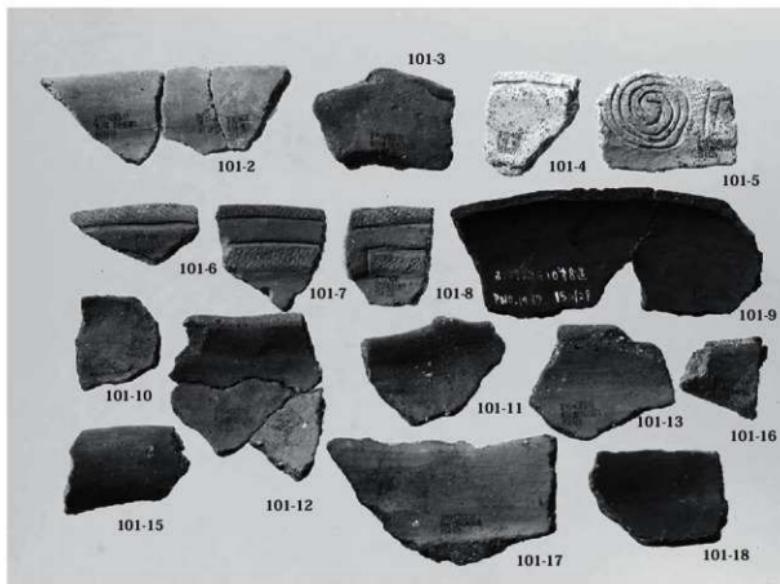
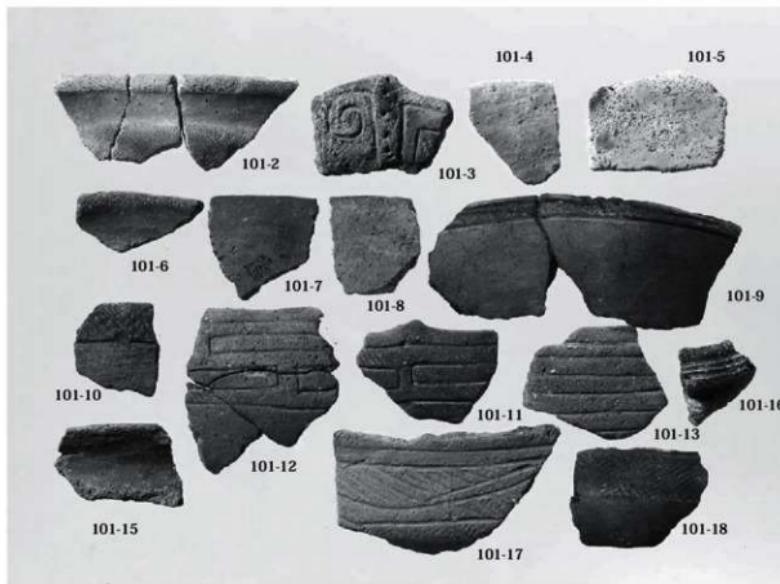


G10 土器だまり遺物出土状況 (北から)

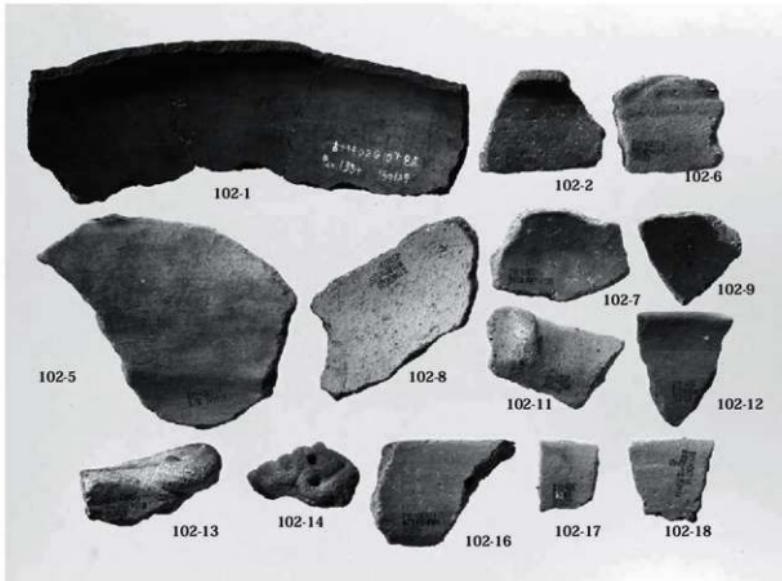
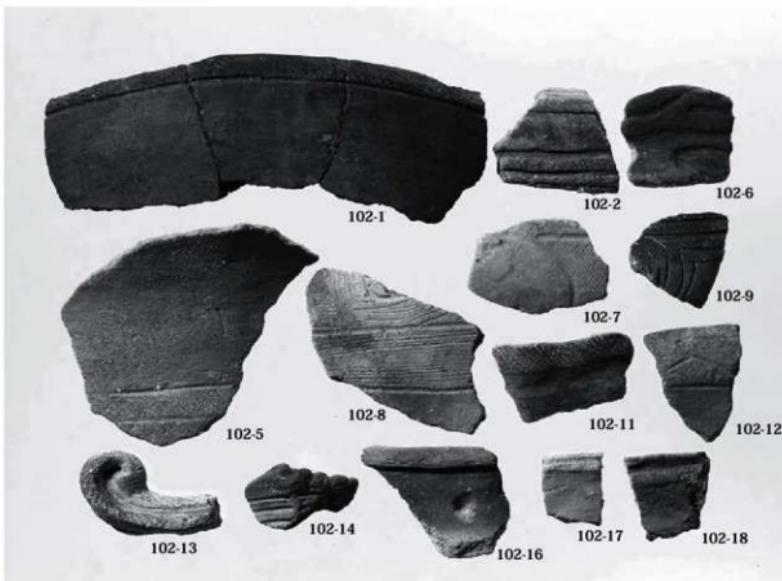


G10 土器だまり出土石器・土器

図版 110 古屋敷遺跡 (D 区)

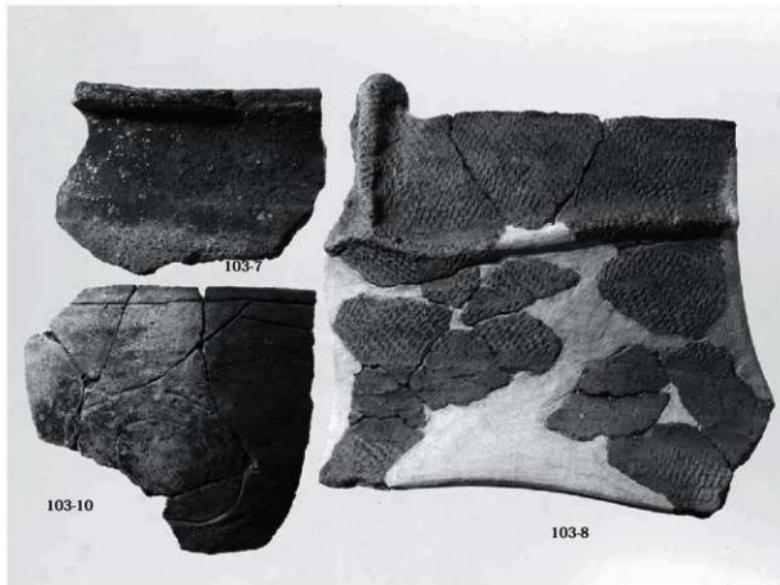
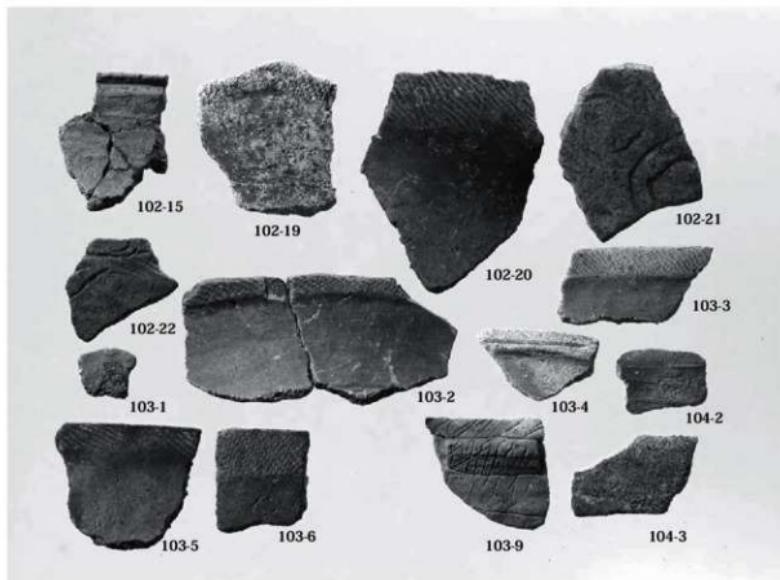


G10 土器だまり出土土器 (I)

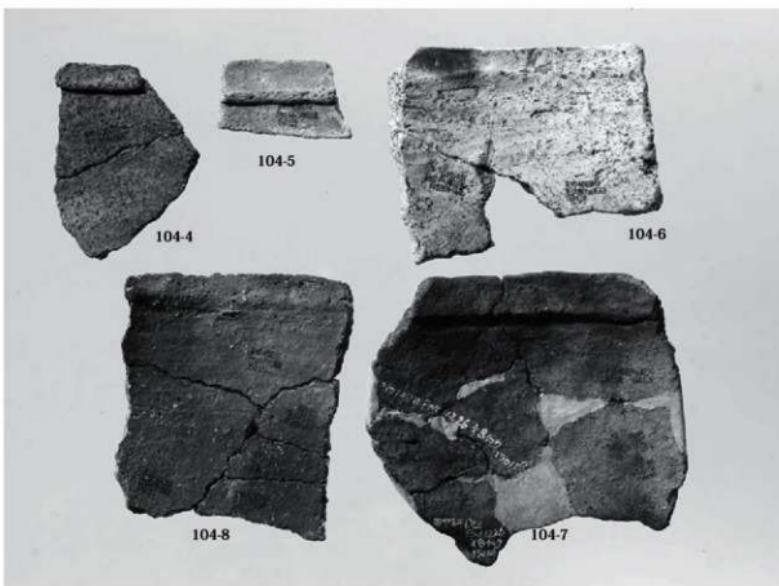
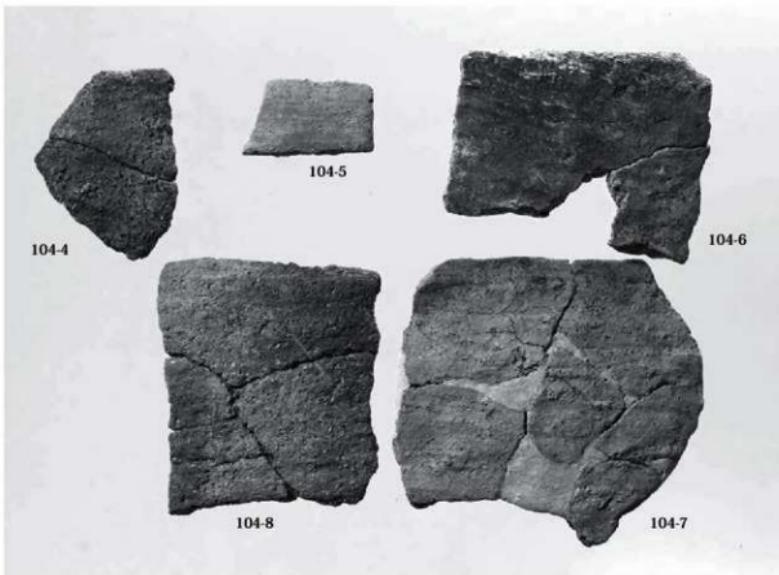


G10 土器だまり出土土器 (2)

図版 112 古屋敷遺跡 (D 区)

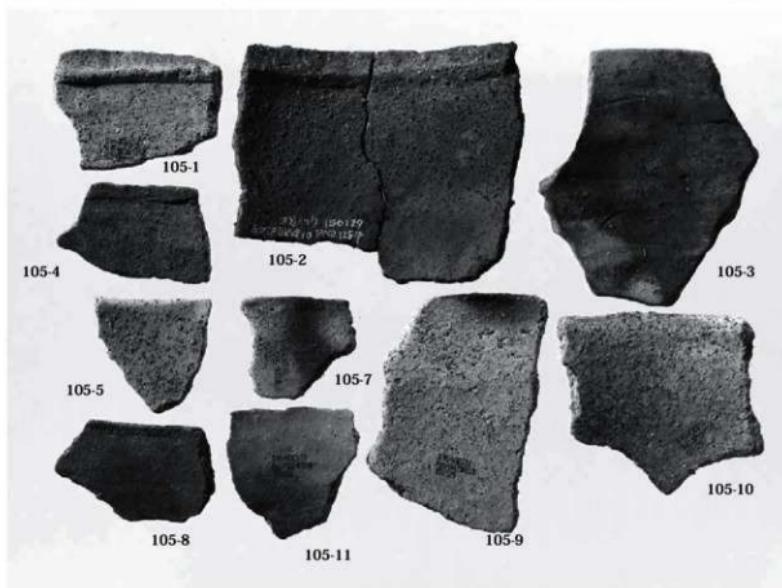
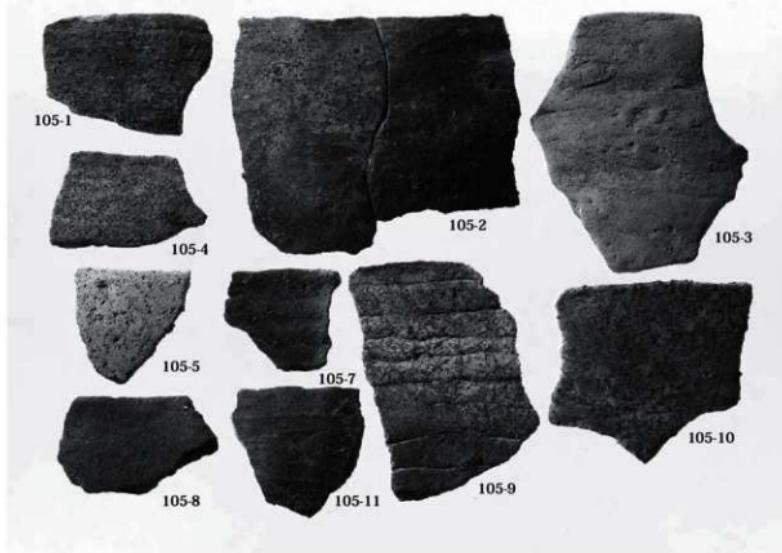


G10 土器だまり出土土器 (3)

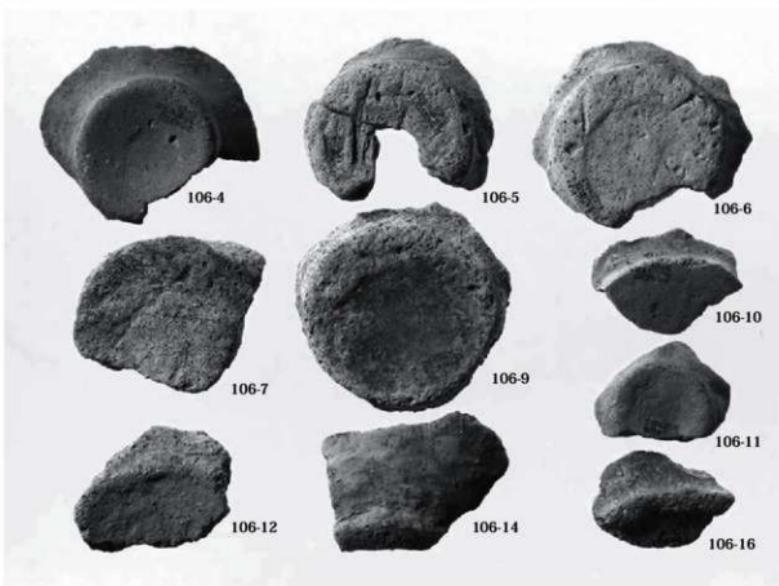
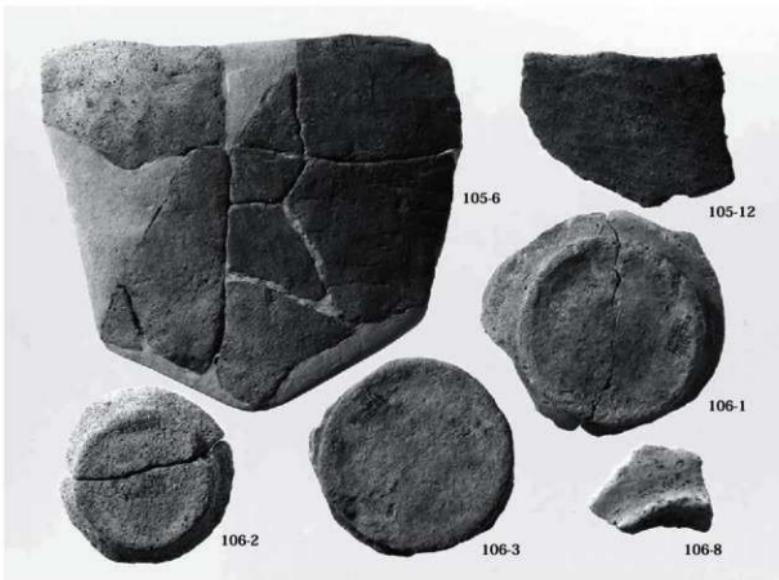


G10 土器だまり出土土器 (4)

図版 114 古屋敷遺跡 (D 区)

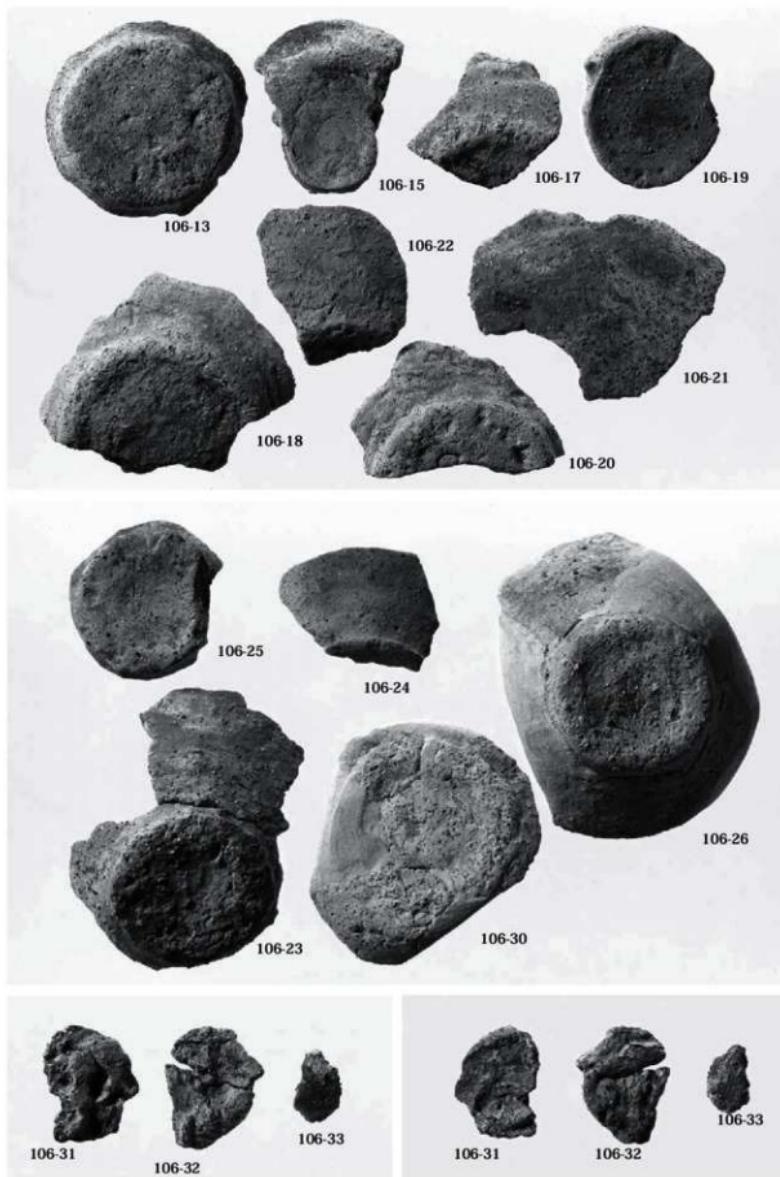


G10 土器だまり出土土器 (5)

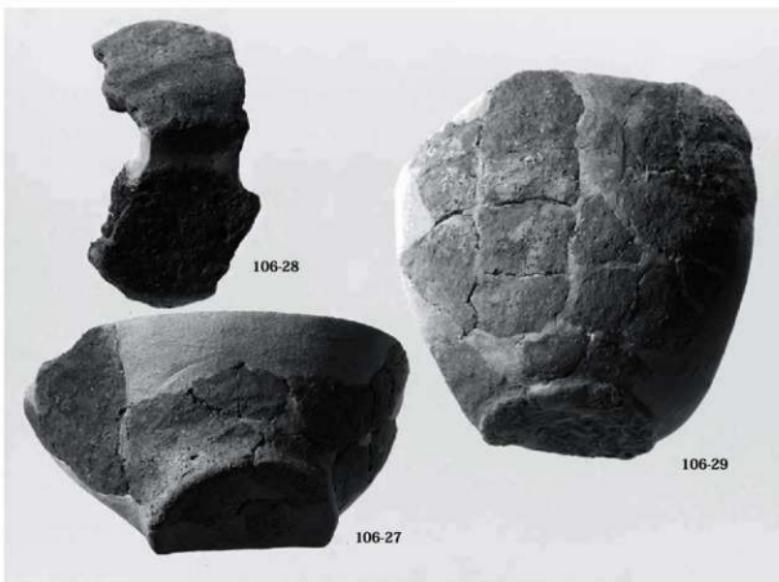


G10 土器だまり出土土器 (6)

図版 116 古屋敷遺跡 (D 区)



G10 土器だまり出土土器 (7)・土製品



G10 土器だまり出土土器 (8)

図版 118 古屋敷遺跡 (D 区)



9 ライントレンチ下層 (G ライン付近) の状況 (北西から)



9 ライントレンチ下層 (I ライン付近) の状況 (南西から)

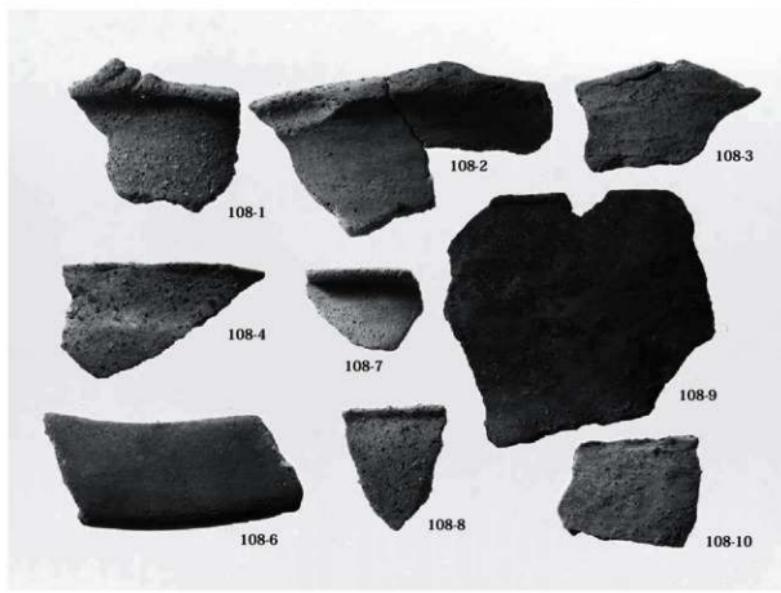
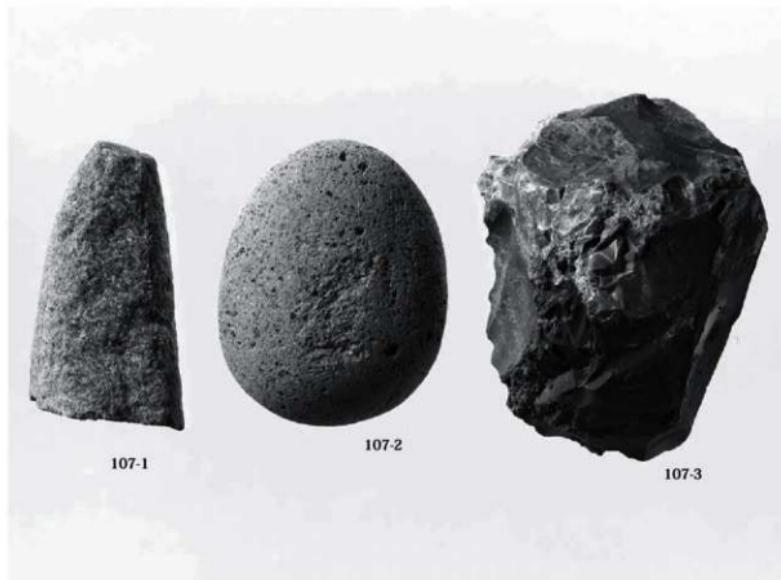


第 8 遺構面 9 ライン以東 G10 土器だまり完掘状況（北から）

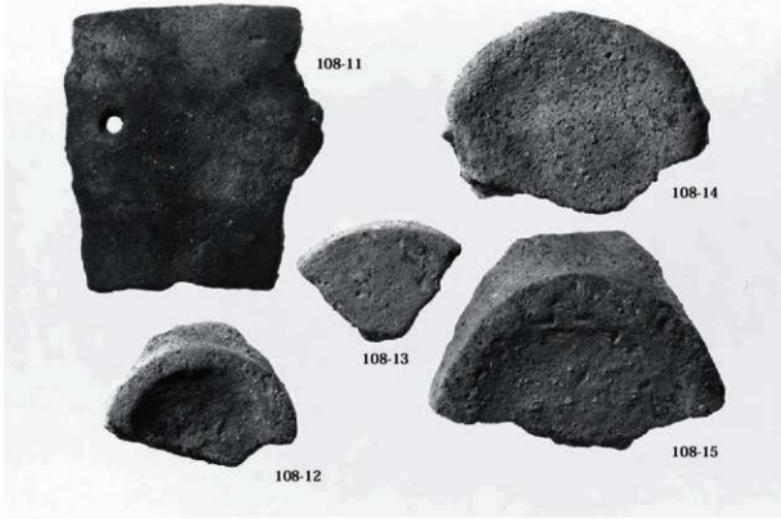


第 8 遺構面 G10 土器だまり完掘状況（北東から）

図版 120 古屋敷遺跡 (D 区)



9 ライン下層出土石器・土器



9 ライン下層出土土器

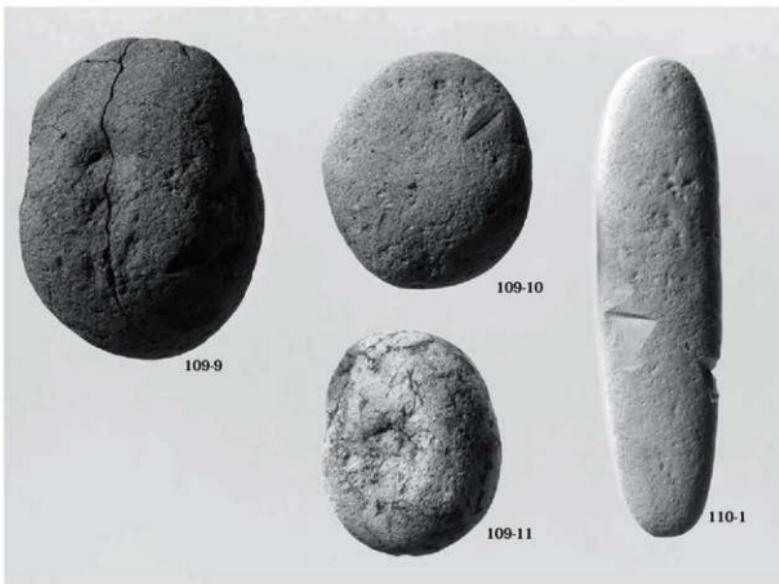
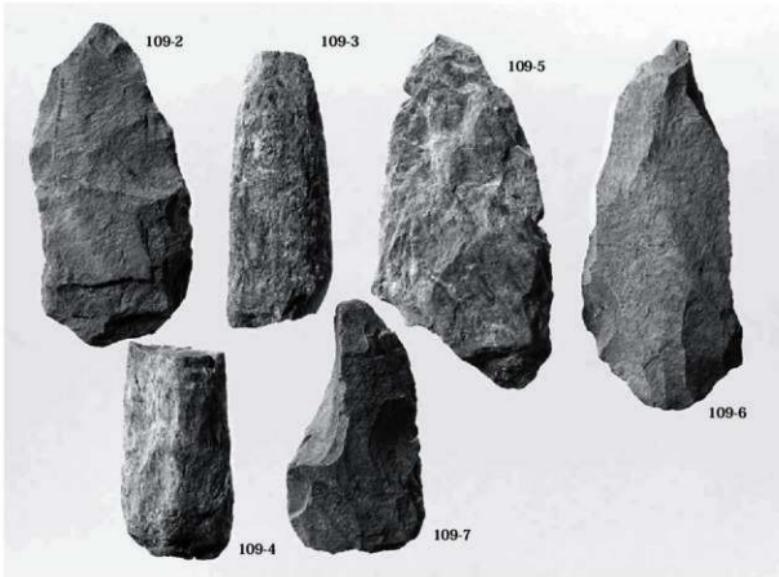
図版 122 古屋敷遺跡 (D 区)



古屋敷遺跡 (D 区) 調査後全景 (西から)

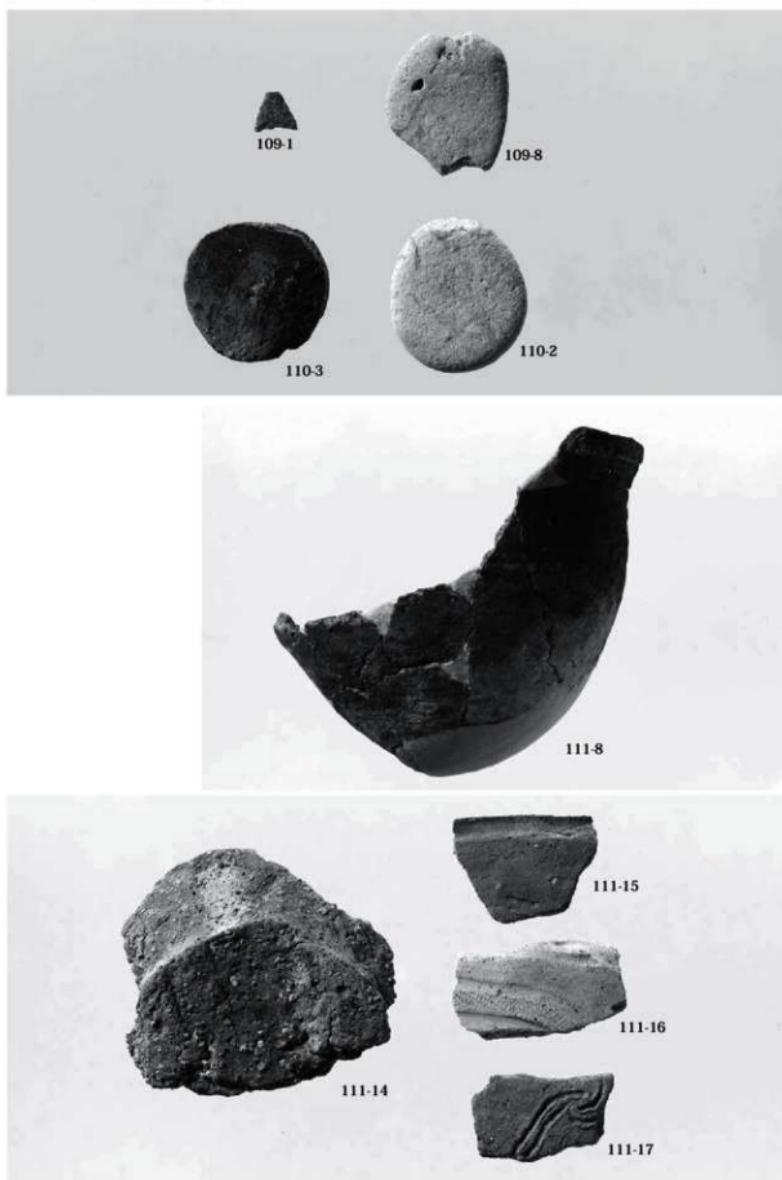


古屋敷遺跡 (D 区) 調査後全景 (北西から)

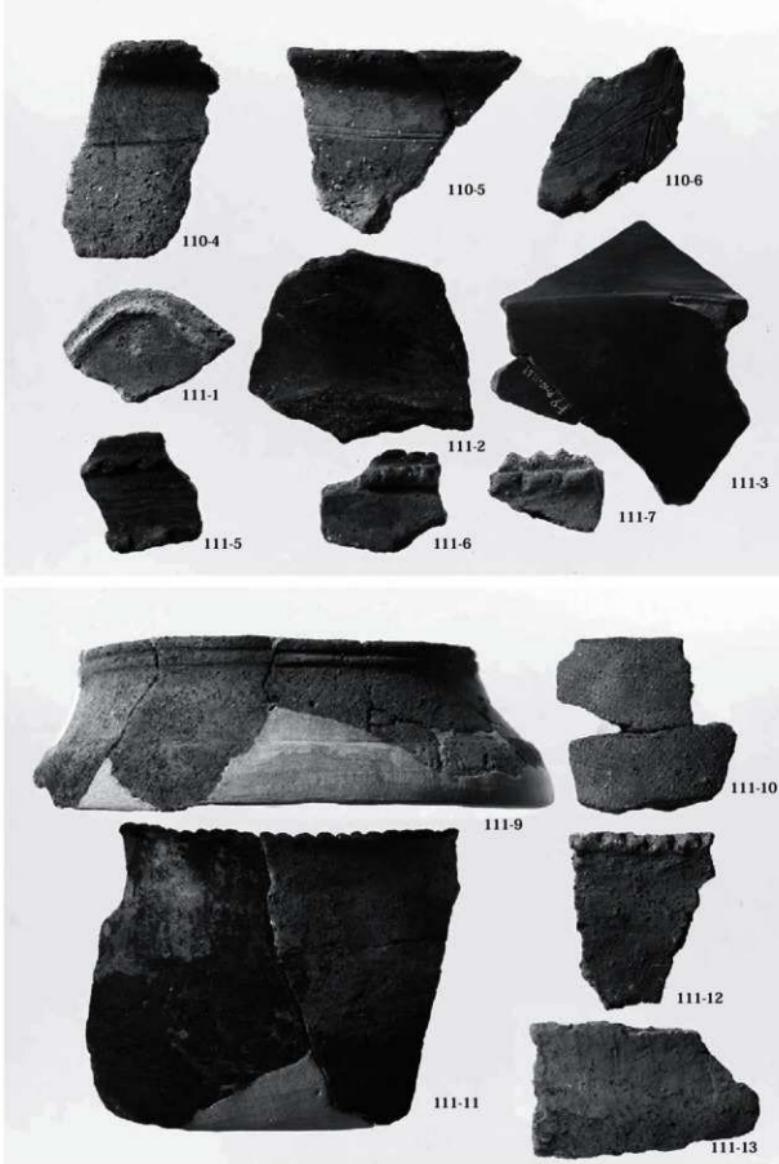


各遺構面以外からの出土石器

図版 124 古屋敷遺跡 (D 区)

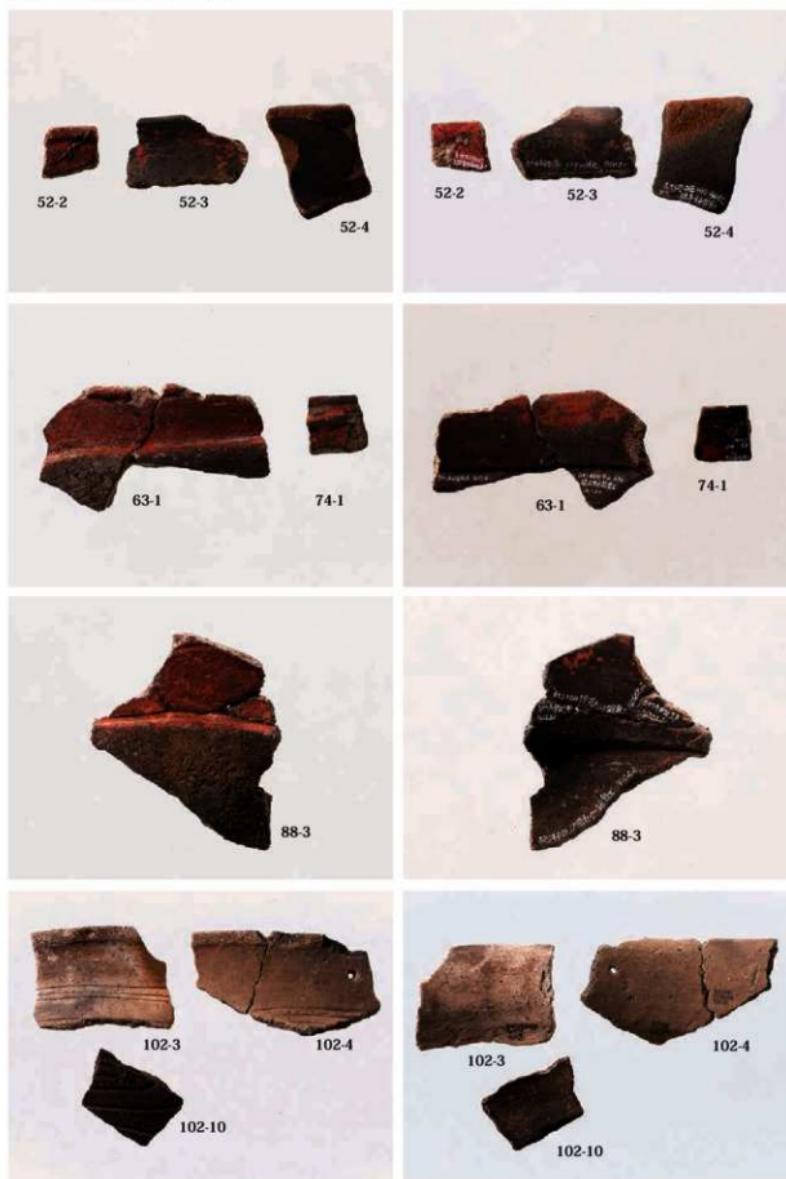


各遺構面以外からの出土石器・土器 (I)

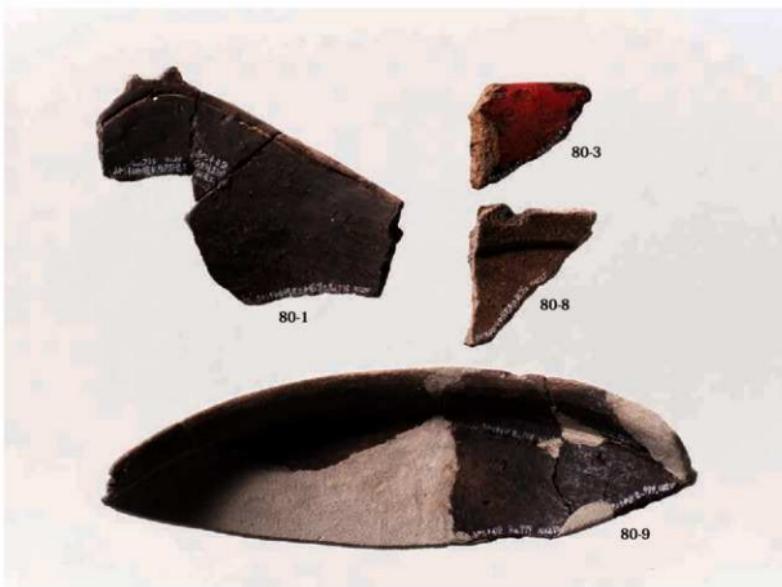


各遺構面以外からの出土土器 (2)

図版 126 古屋敷遺跡 (D 区)



古屋敷遺跡 (D 区) から出土した赤彩のある土器 (I)



古屋敷遺跡 (D 区) から出土した赤彩のある土器 (2)

図版 128 古屋敷遺跡 (D 区)



古屋敷遺跡 (D 区) から出土した赤彩のある土器 (3)

報告書抄録

ふりがな	ふるやしきいせき (D ク)						
書名	古屋敷遺跡 (D 区)						
シリーズ名	一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	2						
編著者名	林 健亮・渡辺正巳・上山晶子						
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター						
	http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/						
所在地	〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp						
発行年月日	2017(平成29)年3月16日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				調査原因
ふるやしきいせき 古屋敷遺跡	しまねけん おおだし 島根県 大田市 にまちょう おおぐに 仁摩町 大国	32205	B61	35° 08' 36"	132° 24' 56"	20140509 ~ 20150131	1,800m ² 道路建設
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
古屋敷遺跡	集落	縄文 弥生	木棺墓・配石遺構 水さらし場遺構 地床炉・袋状土坑 溝	弥生土器・縄文土器 石器・石製品 土製品 木棺部材	各部材が良好に残る縄文時代晚期の木棺墓、西日本ではめずらしい水さらし場遺構などを検出。 前年度調査に統いて、彩文土器が出土。		
要約	古屋敷遺跡は大田市仁摩町大国の沖積平野東端に位置する、縄文後期から弥生前期の遺跡。このうち、D区の調査では、弥生前期の人工的な水路・縄文晩期に遡る木棺墓、西日本では検出例の少ない水さらし場遺構、非常に多くの地床炉や柱穴とともに、土器・石器を始め、呪術具など様々な遺物が出土した。 縄文・弥生時代には遺跡近くまで海平面が入り込んでいたと考えられ、海を介し、多くの文化の交流があったと考えられ、縄文から弥生時代へ推移していく状況を考える上で、貴重な資料を得た。						

(緯度・経度は世界測地系による)

古屋敷遺跡（D 区）

一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

発行 2017(平成 29)年 3 月

発行者 国土交通省中国地方整備局松江国道事務所

島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地

電話 0852-36-8608

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

印刷 有限会社 松陽印刷所